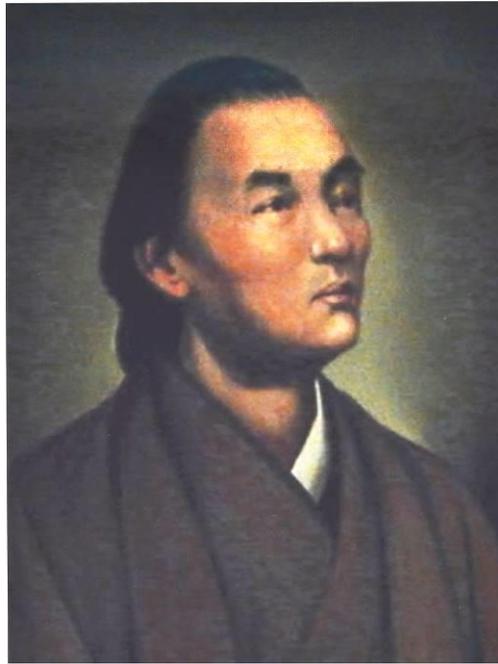


二〇二〇年(令和二年)二月

東京阿部家資料

文書編(10)

福山市教育委員会



(上) 寺地強平写真、(下) 藤井松林筆 寺地強平肖像画
(福山誠之館同窓会所蔵)



寺地強平之墓 (福山市木之庄仁伍谷)



「舟里寺地先生碑」 (ふくやま美術館北「先人の森」)



「福山医学黎明の地」石碑 (福山駅前三菱東京UFJ銀行前)

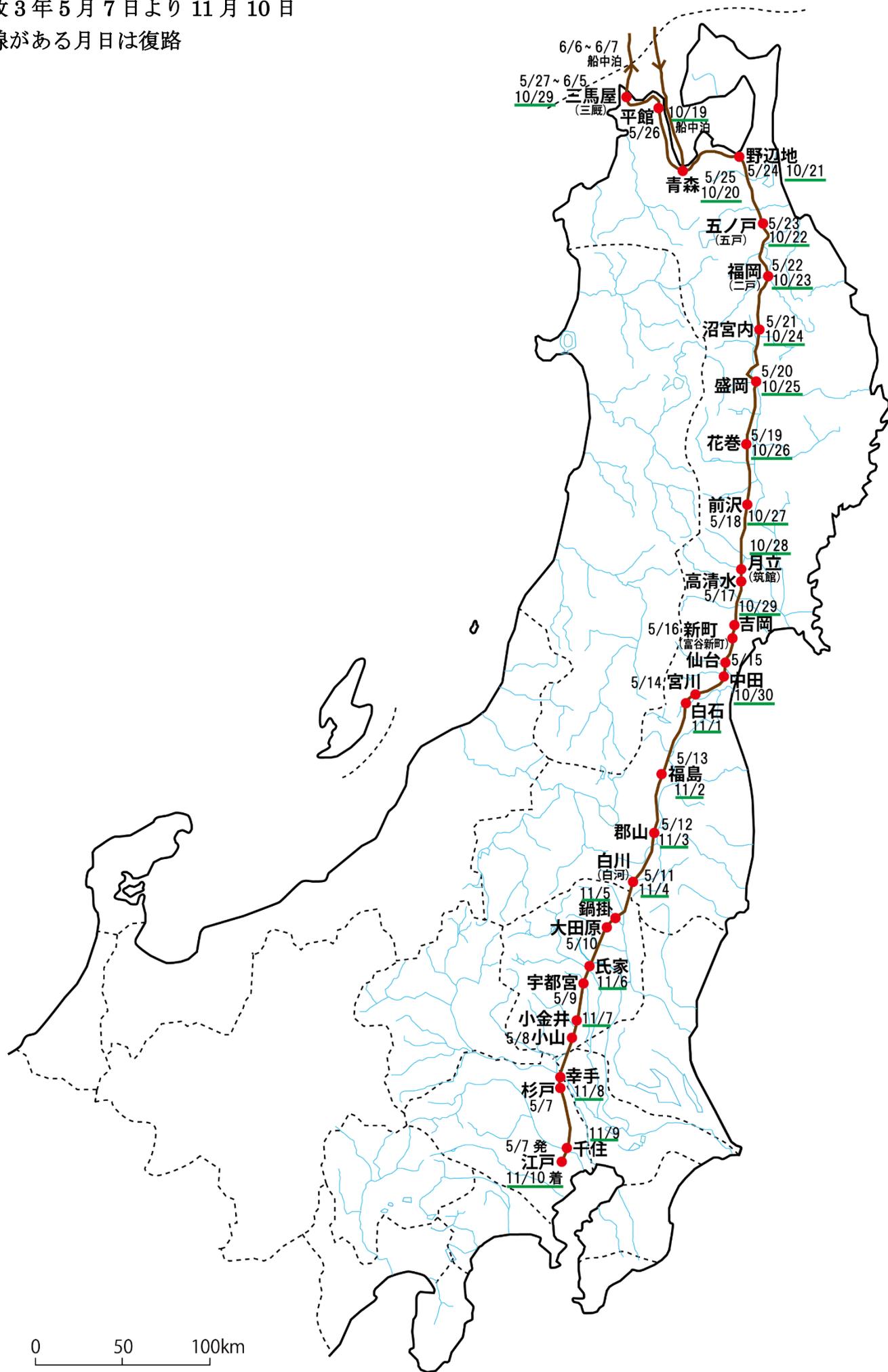
明治七年一月一日
 一月一日 春やあまを乃閑かやりに 舟里

明治七年一月一日
 年ばかり 戸鎖ぬ御代に あひぬらむ 春はなこそ
 関にやどりて 舟里
 (福山誠之館同窓会所蔵)

寺地強平著『蝦夷紀行』による東蝦夷地調査の足跡（奥州）

安政3年5月7日より11月10日

下線がある月日は復路



(三十一日)	六月八日	ひよろ出帆松前止宿	14	(四十八日)	六月廿五日	モロラン出立ホロベツ止宿	23
(三十二日)	六月九日	松前滞留	14	(四十九日)	六月廿六日	ホロベツ出立シラオイ止宿	24
(三十日)	六月十日	松前出立福島止宿	14	(五十日)	六月廿七日	シラオイ出立ユウブツ止宿	25
(三十四日)	六月十一日	福島出立知内止宿	16	(五十一日)	六月廿八日	ユウブツ出立サル止宿	26
(三十五日)	六月十二日	知内出立当別止宿	17	(五十二日)	六月廿九日	サル出立ニイカツプ止宿	27
(三十六日)	六月十三日	当别出立箱館止宿	17	(五十三日)	六月晦日	ニイカツプ出立三石止宿	27
(三十七日)	六月十四日	箱館滞留	19	(五十四日)	七月朔日	三石出立シヤマニ止宿	28
(三十八日)	六月十五日	箱館滞留	19	(五十五日)	七月二日	シヤマニ出立	
(三十九日)	六月十六日	箱館滞留	19			ホロイツミ止宿	30
(四十日)	六月十七日	箱館滞留	19	(五十六日)	七月三日	ホロイツミ出立サル止宿	32
(四十一日)	六月十八日	箱館滞留	19	(五十七日)	七月四日	サル出立ヒロウ止宿	33
(四十二日)	六月十九日	箱館滞留	19	(五十八日)	七月五日	ヒロウ出立トオファイ止宿	34
(四十三日)	六月廿日	箱館滞留	20	(五十九日)	七月六日	トオファイ出立	
(四十四日)	六月廿一日	箱館出立大野止宿	21			オホツナイ止宿	36
(四十五日)	六月廿二日	大野出立砂原止宿	21	(六十日)	七月七日	オホツナイ出立	
(四十六日)	六月廿三日	砂原滞留	22			シヤクベツ止宿	37
(四十七日)	六月廿四日	砂原出船モロラン止宿	23	(六十一日)	七月八日	シヤクベツ出立クスリ止宿	38

(八十五日目)	八月三日	タンネモイ出帆ルルイ舟泊……	59	(九十八日目)	八月十六日	シヤリ出帆アバシリ止宿……	70
(八十六日目)	八月四日	ルルイ滞留……	60	(九十九日目)	八月十七日	アバシリ発足シヤリ止宿……	71
(八十七日目)	八月五日	ルルイ出帆トマリ止宿……	61	(百日目)	八月十八日	シヤリ滞留……	72
(八十八日目)	八月六日	トマリ滞留……	62	(百一日目)	八月十九日	シヤリ発足	
(八十九日目)	八月七日	トマリ滞留……	63			カムイノミウシビラ止宿……	72
(九十日目)	八月八日	トマリ滞留……	64	(百二日目)	八月廿日	カムイノミウシビラ出立	
(九十一日目)	八月九日	トマリ滞留……	64			ワツカオイ止宿……	73
(九十二日目)	八月十日	トマリ出帆シベツ止宿……	64	(百三日目)	八月廿一日	ワツカオイ出立	
(九十三日目)	八月十一日	シベツ滞留……	65			チラエワタラ止宿……	74
(九十四日目)	八月十二日	シベツ発足		(百四日目)	八月廿二日	チラエワタラ出立	
		チラエワタラ止宿……	65			シベツ止宿……	75
(九十五日目)	八月十三日	チラエワタラ発足		(百五日目)	八月廿三日	シベツ発足ノツケ止宿……	76
		ワツカオイ止宿……	66	(百六日目)	八月廿四日	ノツケ出帆ネモロ止宿……	78
(九十六日目)	八月十四日	ワツカオイ発足		(百七日目)	八月廿五日	ネモロ発足オツチシ止宿……	79
		カムイノミウシビラ止宿……	67	(百八日目)	八月廿六日	オツチシ滞行……	80
(九十七日目)	八月十五日	カムイノミウシビラ発足		(百九日目)	八月廿七日	オツチシ上程	
		シヤリ止宿……	69			ノコヘリヘツ止宿……	81

(百十日目)	八月廿八日	ノコヘリヘツ滞行……………	83
(百十一日目)	八月廿九日	ノコヘリヘツ発足アツケシ…	84
(百十二日目)	八月晦日	アツケシ出立	
		センホウシ止宿……………	85
(百十三日目)	九月朔日	センホウシ出立	
		コンプムイ止宿……………	86
(百十四日目)	九月二日	コンプムイ出立クスリ止宿…	87
(百十五日目)	九月三日	クスリ滞留……………	90
(百十六日目)	九月四日	クスリ出立シラヌカ止宿…	92
(百十七日目)	九月五日	シラヌカ出立	
		シヤクベツ止宿……………	93
(百十八日目)	九月六日	シヤクベツ出立	
		オホツナイ止宿……………	95
(百十九日目)	九月七日	オホツナイ出立	
		トウファイ止宿……………	97
(百二十日目)	九月八日	トウファイ発足ヒロウ止宿…	98

『蝦夷紀行卷之下』

(百二十一日目)	九月九日	ヒロウ出立サルル止宿…………	101
(百二十二日目)	九月十日	記録なし(観国録には九月十日 サルル出立と記録あり)	
(百二十三日目)	九月十一日	サルル出立ホロイツミ止宿(観 国録には九月十一日の記録な し)……………	102
(百二十四日目)	九月十二日	ホロイツミ発足	
		シヤマニ止宿……………	104
(百二十五日目)	九月十三日	シヤマニ滞行……………	105
(百二十六日目)	九月十四日	シヤマニ出立三石止宿…	106
(百二十七日目)	九月十五日	三石滞行……………	107
(百二十八日目)	九月十六日	三石ニ滞行……………	109
(百二十九日目)	九月十七日	三石出立ニイカツプ止宿…	110
(百三十日目)	九月十八日	ニイカツプ発足サルル止宿…	112
(百三十一日目)	九月十九日	サルル発足ユウブツ止宿…	114
(百三十二日目)	九月廿日	ユウブツ発足シラオイ止宿…	116

(百三十三日目) 九月廿一日 シラオイ出立ホロボツ止宿： 117
(百三十四日目) 九月廿二日 ホロボツ出立モロラン止宿： 118
(百三十五日目) 九月廿三日 モロラン滞行： 119
(百三十六日目) 九月廿四日 モロラン滞行： 120
(百三十七日目) 九月廿五日 モロラン滞行： 120
(百三十八日目) 九月廿六日 モロラン滞行： 120
(百三十九日目) 九月廿七日 モロラン滞行： 121
(百四十日目) 九月廿八日 モロラン出帆砂原止宿： 121
(百四十一日目) 九月廿九日 砂原出立大野止宿： 122
(百四十二日目) 九月晦日 大野出立箱館止宿： 123
(百四十三日目) 十月朔日 箱館滞行： 124
(百四十四日目) 十月二日 箱館滞行： 124
(百四十五日目) 十月三日 箱館滞行： 124
(百四十六日目) 十月四日 箱館滞行： 125
(百四十七日目) 十月五日 箱館滞行： 127
(百四十八日目) 十月六日 箱館滞行： 129
(百四十九日目) 十月七日 箱館弁天岬繫泊： 129

(百五十日目) 十月八日 箱館弁天岬繫泊： 129
(百五十一日目) 十月九日 箱館滞行： 130
(百五十二日目) 十月十日 箱館滞行： 130
(百五十三日目) 十月十一日 箱館滞行： 130
(百五十四日目) 十月十二日 箱館滞行： 131
(百五十五日目) 十月十三日 箱館滞行： 131
(百五十六日目) 十月十四日 箱館滞行： 132
(百五十七日目) 十月十五日 箱館船中泊： 133
(百五十八日目) 十月十六日 箱館船中泊： 133
(百五十九日目) 十月十七日 箱館出帆知内沖船中泊： 133
(百六十日目) 十月十八日 知内沖出帆福島沖船中泊： 133
(百六十一日目) 十月十九日 福島沖出帆平館碇泊： 133
(百六十二日目) 十月廿日 平館出帆青森止宿： 134
(百六十三日目) 十月廿一日 青森発足野辺地止宿： 135
(百六十四日目) 十月廿二日 野辺地発足五ノ戸止宿： 136
(百六十五日目) 十月廿三日 五ノ戸出立福岡止宿： 137
(百六十六日目) 十月廿四日 福岡出立沼宮内止宿： 137

(百六十七日目)	十月廿五日	沼宮内出立盛岡止宿	138
(百六十八日目)	十月廿六日	盛岡出立花巻止宿	139
(百六十九日目)	十月廿七日	花巻出立前沢止宿	139
(百七十日目)	十月廿八日	前沢出立月館止宿	140
(百七十一日目)	十月廿九日	月館出立吉岡止宿	141
(百七十二日目)	十月晦日	吉岡出立中田止宿	141
(百七十三日目)	十一月朔日	中田出立白石止宿	142
(百七十四日目)	十一月二日	白石出立福島止宿	143
(百七十五日目)	十一月三日	福島出立郡山止宿	144
(百七十六日目)	十一月四日	郡山出立白川止宿	144
(百七十七日目)	十一月五日	白川出立鍋掛止宿	145
(百七十八日目)	十一月六日	鍋掛出立氏家止宿	146
(百七十九日目)	十一月七日	氏家出立小金井止宿	146
(百八十日目)	十一月八日	小金井出立幸手止宿	147
(百八十一日目)	十一月九日	幸手出立千住止宿	148
(百八十二日目)	十一月十日	千住出立江戸上屋敷着	149
惣家数・惣人数	150

跋
.....

凡例

- 一 本書は、「東京阿部家資料」文書編（10）として、旧福山藩主阿部家（東京阿部家）から福山市に寄贈いただいた資料の内、寺地強平著『蝦夷紀行 上』『蝦夷紀行 中』『蝦夷紀行 下』の全文を収録した。
- 一 文書の収録については、原則として原文の形に添うように努めたが、内容に正確を期し、読者の便を図るため、次のように編集した。
 - 1 漢字の字体については、原則として新字体を用いた。異字・あて字等はつとめて通行の表記に統一した。
 - 2 旧仮名遣いは、原文のまま記した。ただし、変体仮名および合字は通常の仮名に改めた。
 - 3 繰返し記号の「ヽ」「々」は通常の文字に改めた。
 - 4 誤字や当て字は原則原文のまま記し、行間に（ ）で適切な文字を記した。脱字と思われる場合には（○脱）また、不要な文字や意味の通らない文字、空白については行間に（ママ）と記した。
 - 5 文章を読みやすくするため、読点（、）あるいは並列点（・）を付けた。
 - 6 地名や動植物名、その他の固有名詞等のカタカナ表記については「」で囲み、漢字で書ける現在の地名は行間に（ ）で記した。
 - 7 欠損している文字は■、判読不能の文字は□とし、疑念が残る文字は行間に（カ）と記した。
 - 8 当時の誤った情報も原文を尊重し、そのまま記した。
- 一 本書は、資料集という性格上、現代の人権感覚からすれば不適切な用語や表現もそのまま収録した。
- 一 本書の編集は、福山市経済環境局 文化観光振興部 文化振興課 まなびの館ローズコム 歴史資料室の 鐘尾光世・柏 紀雄・桑田直美があたった。

『蝦夷紀行』について



『蝦夷紀行』は安政三年（一八五六年）に福山藩士の寺地強平（当時四八歳）が筆記したものであり、本資料は明治十一年、その門人が書き写した文書の複写である。

安政元年、日本は米・英・露と和親条約を結び、箱館（函館）の開港を約すなど、この時期、諸外国との外交関係は緊迫し、北方の詳細な地理の把握と海防は急務となっていた。幕府は蝦夷地を直轄とし、箱館奉行を置いて蝦夷

地探索を命じていたが、さらに老中阿部正弘（福山藩阿部家七代藩主）は幕閣に諮ってそれぞれの家臣を派遣しての蝦夷地探検を推進した。福山藩の中からその任を拜命したのが当時正弘の君側御用掛であった関藤藤陰である。

関藤藤陰は、安政三年・四年の両度、東蝦夷（国後島・択捉島を含む）・西蝦夷・北蝦夷を探索している。安政三年には、医師であり広く蘭学に通じていた寺地強平（舟里）と武芸に優れた山本橋次郎が同行している。関藤藤陰は復命書『観国録』で蝦夷地探索の様子と蝦夷地を経営するための指針を簡潔に述べている。しかし、往路の東蝦夷の記録は現存していない。寺地強平の『蝦夷紀行』は幕府への報告義務のない私的な日記であり、出来事や思いを自由に綴っているため、道中の様子がよくわかる。また、江戸を出発し江戸に帰るまでの羽前・羽後・東蝦夷の記録が記載されており、『観国録』を補う貴重な資料といえる。

寺地強平は文化六年（一八〇九年）、藩士寺地幸助の二男として生まれた。長崎で蘭学を学び、大阪の坪井信道の門に入った。同門の親友に緒方洪庵がいる。寺地は多くの反対を排して種痘術を福山地方で初めて実施したと伝えられている。安政二年、福山誠之館開校後は、洋学寮教授、明治二年（一八六九年）福山藩によって設立された医学学校兼病院（同仁館）では院長兼教授として診療と医学生への教育にあたった。明治五年の廃藩で同仁館は解散した。明治八年没。木庄村二五穀神道墓地に埋葬された。

蝦夷紀行

上

蝦夷紀行

上

印(維新史料編纂会図書之印)

蝦夷紀行卷之上

起五月七日至七月十四日

西備 福山 寺地強平著

印(維新史料編纂会図書之印)

安政三丙辰年五月七日、辰上刻上程、同行者石川和介・山

本橋^(次)二郎、御裏御門迄送者鈴木秉之介・北条新助・齊藤退

蔵・岡本友之介、送テ千住駅ニ到ル者渡辺総兵衛・森戸鑑

介・武田小藤太其外十数輩不違記、拳杯鑑介・総兵衛・小

藤太出其費、余命輿総兵衛・小藤太・杉純道送テ草加駅ニ

至ル、又傾一杯告別、江戸^{二里} 千住^{二里十五丁} 草加^{一里卅丁}

越谷^{二里卅二丁} 粕壁^{(春日部) 一里半} (杉戸 脱)

八日雨 杉戸^{一里半} 幸手^{二里} 六丁 栗橋^{武蔵) 二里} 此間御関所アリ、

武器改アリ、鉄砲所持其築口ヲ改ム、房川^{ボウ) ノ渡ヲ過ル、中田}

駅ナリ、光了寺アリ、静ノ舞衣ヲ蔵ス、其外種々ノ宝物アリ、

悉皆真ニ非ス、且ツ其所謂甚々愚ナリ、然レトモ其舞衣ハ

至テ古シ、黒地ニ日月星辰ノ繡モノアリ 下総中田 古河

野木 間之田^(間々田) 野・総境小山

九日晴、払曉出蓐上程、路程甚近午後宇都宮ニ到リ宇都宮

明神祠謁ス、未下刻浴湯、行李ヲ治メ行装ヲ改メ晚テ後桐

油ヲ買ヒ蓐ニ入りヌ

十日、夜明ル後目覚ム、昨夜風雨アリケレハ輿ニノリ卯半

刻頃宿ヲ出ツ、宿主ハ米屋某ト云フ、奥州街道ト日光街道

トノ別レ路ノ行当リナリケリ、宿主甚懇ニテ江戸ヲ発シテ

ヨリノヨキ宿ナリ、殊ニ昨日ハ未ノ下刻頃宿リヌレハ今朝

ハ勞レモ少シハ忘レ、雨モ休ミヨレハ旅ノウサモ甚シカラ
ス、昨日アタリヨリ言語モ少シ奥州ナマリニナリケレハ、
キキトリ難キコト多クナリケリ、白沢駅ヲ過ギ、「キヌ」川^(鬼怒川)
舟渡シアリ、氏江宿ヲ過ギ、江戸ヲ出テテヨリ初テ山アリ、
矢頃坂ト云フ、^(弥五郎坂)「アラ」川橋アリ、是ヨリ喜連川ニ至ル、
凡テ山斗ナリ、サレトモ平和ニシテ嶮ナラス、^(佐久山)作山宿ヲ過
キ駅ヲ離ルレハ曠原ニテ左右並松アリ、那須野原ト云フ、
渺々タル郊原ナリ、殺生石ヲ尋ネケレハ遙カ左ノ方ニ那須
山アリ、此処ヨリ九里斗ノ麓ニ殺生石アリト云、今ハ矢来
モナク土人モ近ツケドモ更ニ害アルコトナシト云フ、作山
宿ハ福原内匠ノ陣所那須衆ノ一人ナリ、太田原宿市川屋ニ
宿ス、太田原モ那須野ノ原中ナレハ是モ那須衆ノ一人ナラ
ン、今日ハ雨モナク晴モセス珍シク山ヲ越へ曠原ヲ過キヌ、
太田原近クナレハ桐木杯モ植テアリ水ノ手モアレハ惜シ
キ曠野トソ思フナリケル

十一日、昨夜雨降今朝ハ微雨ニテ暁太田原ヲ立出ツ、山中

ノ事故乗輿寒氣ニ堪へ兼ルナリ、山行山里錫掛ニ至リ是ヨ
リ歩行葦野ニ到ル、葦野宿ノ二里前ニイササ川アリ、茶店^(余笹川カ)
ニテ鮎モトキツケ焼ニテ飯ヲ喫ス、葦野ヨリ又乘輿シケレ
トモ、今日ハ山深クナリシ故、今朝ヨリ寒サ強ク堪カタク、
行先蝦夷ノコト思ヒヤラレケリ、駕籠ニ雨覆モナク細雨霧
ノ如ク降りケレハイトト旅中ノ心ウクナリケリ、葦野ヨリ
三里斗下野・陸奥ノ国境アリ、^(境)堺明神ノ両社アリ、一社ハ
下野・一社ハ陸奥ナリ、仙台侯此地ニ来レハ餅数俵ヲ搗キ
テ児童ニ投スト云リ、是ヨリ八丁経テ白坂ニ到リ輿ナシ、
白川駅ニ宿ス、若狭屋ト云フ、氏江宿ヨリ白川駅ニ到ル迄^(白河)
嶺二十三アリト云、此駅ニ到リ初テ山駅ヲ出ルココチス

十二日、卯中刻雨歇ミテ出ヌ、昨宵ハ例ノ如ク大雨ニテ明
朝如何ト思ノ外ニ、駕籠ニ打乗リ白川ノ関ヲ踰エ、阿武隈
川ノ板橋ヲ過ヌ、昨日ト事カハリ路モ平坦ニシテ輿中モ甚
タ易ク、殊ニ白川ヨリ白石駅ニ返ス輿アリトテ借リテ乘リ
タレハ、輿中モ広ク頭ヲ打ツコトモナカリシカハ、左右ヲ

詠メナドシテ行ケレハ旅ノ鬱モ少シハ忘ルルココチス、サ
 レト寒サ甚シク冬ノ支度ニテモ殆ント堪カタクオモウ、辰
 刻過ル頃二里斗(小田川)小田河駅ニ到ル、輿丁ヲ易へ又乘輿ニテ出
 又、行里許路傍ノ麦尚青ク未タ刈取時節ニ至ラス、中国辺
 ノ時氣ニ異ナルコト知ルヘシ、矧ヤ蝦夷地オヤ、喜連川ア
 タリヨリ駅馬多クハ牝馬ニテ一女五六馬ヲ牽テ行ク、途中
 ブト多シ、土人ハブヨト云、故ニ婦人モ悉ク股引ヲスルナ
 リ、太田河駅(太田川)ヲ過キ大和久駅ニ到リ飯ヲ喫ス、是ヨリ輿ヲ
 山本ニ譲リ「フマセ」(踏瀬)駅・大和久駅杯之ヲ過ク、此アタリ久
 木子ト云処ニ石川清水トイフ茶店泥鰯ノ名物アリ、新田駅(中新田)・
 ヤフサ駅(矢吹)・久来石駅・笠石駅杯アリ、悉ク継立ヲスルニ非
 ス、一月二上・中・下、十日宛ニテ継立ヲ異ニストイヘリ、
(須賀川)須賀川宿ニ到リ、滑川ト云処ニ憩ヒ、笹川駅ヲ過(ママ)
(白出)日出山・小原田宿杯イフ小駅ヲ経、郡山駅和久屋ニ宿リ
 又、未タ日モ高ケレハ今日ハ髪ヲ結フ、今夜ノ宿ハ婦人モ
 多ク総テ昨夜ヨリハ悪シクオモホユルナリ、土地ハ昨日ヨ
 リハ余程開ケ麦作杯仕付空地少ク、須賀川迄ハ白川領、其

ヨリ長沼領・二本松領トナル、風景ハ略中国ノ如シ、只々
 寒サ強キノミヲ異ナリトス、左ニ会津ヲ見、右ニ岩城ノ諸
 山ヲ見ル、滑山(滑川)ヨリ一里東ニ守山水戸ノ御分家アリ

十三日、払曉江戸ヲ発シテヨリ初テ雨ナリ、宿ヲ出又駅端
 ニ一川アリ、土橋ナリ、此アタリ蚕ヲ養フテ多ク桑ノ樹ヲ
 植フ、其間ニ麦杯ヲ植ウ、人家モ多シ、然レトモ多クハ貧
 家ニシテ家並モ至テ質素ナリ、白川アタリヨリハヨロシカ
 ルヘシ、右ノ土橋ヲ過ル時右ノ方ニ田中一町斗隔リテ伊東
 肥前ノ古墳アル由、人足知ラサル故得ミサル也、可惜、其
 ヨリ福原駅ニ到リ人足ヲ継立日和田ニ憩フ、右ノ方ニ浅香
 山アリ、山上ニ一大松アリ、仙台侯手植ノ松ト云、枝ノ周
 圍六十余間アリト云、左ノ方ヲ浅香沼ト云、今ハ多ク畑ト
 ナリケルトカヤ、養老二年ニ浅香左衛門常則ト云人アリ、
 家老ニ浅香玄蕃ト云アリケルカ常則ノ娘ニ恋慕シテ其恋
 叶ハス、玄蕃終ニ叛逆シケレハ、其娘浅香沼ニ溺レ死シ終
 二大蛇ト成シ、所ノ者ノタタリヲナセントカヤ、土人ノ話

ナレトモ疑多シ、信シ難シ、須田越藁阿堂ヨリ安達太郎山アタタラ見ユル、山上ニ尚雪アリ、峰ニ安達太郎明神(長)ノ社アリト云、其ヨリ二本松近クナリテ右ニ一文字石アリ、左ニ七重桜アリ、藤原実方朝臣奥州下向ノ時短冊ヲ掛ラレシ事アリシトナン云ヒ伝ヘ得ル由、今ハ已ニ枯ヌレハ外樹ヲ以テ継シムルト云フ、今日ハ郡山ヨリ乗輿シ本宮ヨリ下乗シ、又二本松ヨリ乗輿シ八丁目駅ヲ過ルマテ行キ、石川先生トカワルナリ、其ヨリ猫町駅(根子町)ヲ過キ福島駅小布袋屋ニ宿ス、此地絹屋多ク両家ノ丁稚色々ノ絹ヲ持参リ互ニ美悪ヲ争ヒ売ンコトヲ競ウ、旅中ノ一興ナリケリ、又八丁目ト猫町ノ間左侧ニ弁慶ノ七尋石アリ、猫町駅ヲ過キ福島ニ近キ伏拝阪アリ、向フニ忍山(信夫山)アリ、伏拝山ハ弘法大師湯殿山ヲ伏拝スル処トイフナリ、一川アリ、洲川ト云大川ナリ、橋モ仮橋故大雨ナレハ川留メアルヘシ(須川)

十四日、晏起卯半刻上程、天陰冷甚無所見辰半刻輿ニテ(瀬ノ上)瀬上駅ニ到ル、木下石見守ノ所領ナリ、其ヨリ摺上川渡リ

桑折駅ニ着ス、荒井治兵衛支配所ナリ、桑折駅ヲ出、万性寺(万正寺)村ニ左ノ方ニ高建ト云山アリ、伊達政宗ノ古城跡アリ、土人云、此内ニ蛇アリ、昔正宗一目ヲ眇スル故今ニ到リ其蛇悉ク一目ナリト云、怪ムヘキナリ、星田宿ニテ継立、又候(藤田)海田駅ニテ継、此駅ノ半途ヨリ仙台侯ノ領分トナリ道ニ弁慶ノ硯石・義経ノ松アリ、所謂伊達ノ大木戸ニ重堀ノ跡アリ、越河ニ到リ又輿ニ乘リ長阪ヲ越ヘ坂ノ中ヨリ輿ヲ下リ、虎石・「アフミ石」・田村將軍ノ廟ニ謁シ、齋川(齊川)ヲ渡リ齋川駅ニ到ル、此齋川ヨリ孫太郎トカイフ百足ニ似タル虫アリ、小兒ノ癩疾ニ奇功アルヨシ、関東ヘ多ク出ルト云、齋川ヨリ白石マテ到リ輿ヲ下リ山本ニカワリ、是ヨリ徒行シ白石城下ヲ過キ橋上ヨリ白石城堞ヲ見ル、此川ヲ広瀬川ト云、又暫シテ一川アリ、越手川ト云、里余ニシテ宮川駅湯屋ニ宿ス、廃駅ニシテ宿モアシク何事モ不自由ラシク見ユルナリ(児捨川)

十五日、夜明テ後宿ヲ出ヌ、発駅スレハ直ニ増川ナリ、大(松川)

川ナリ、川中二田地アリ、今ハ宮川原ト云、荒蕪ノ地ナリ、土人云、廿年前洪水ニテ如此ナリシト、凡一万石程アリシ由、戸倉ノ所領ナリ、金ヶ瀬駅ニ至リ赤小豆阪ヲ過キ、大河原駅ニ到ル途中右ノ方ニ建山アリ、原田甲斐ノ居所ナリト云、今柴田外記其旧宅ヲ拝領スト云、左方ニ大石アリ、此処輝井某阿陪貞任ノ家来ナリ、血戦ノ地ト云、舟迫駅ニ着ス、輿ヲ下リ石川ト聯行取経右側ニ白石川見ツツ行也、
(梶木カ) 搗母々駅ニ到ル、岩沼宿ヲ過キ「マシダ」(増田)・中田兩駅ノ径、長町ノ継立ヨリ仙台城下国分町吉ツノ屋甚右衛門ニ宿リヌ、ケフ中田駅ト長町ノ間ニ名取川アリ、橋ハ八九十軒アリシ由、聞キシニ今八十軒斗ノ橋ニツニナリタリ、川ハ大川ナリケリ、舟迫駅ト搗母々駅トノ間ニ白石川ト阿武隈川ト行合ノ処アリテ大川トナルナリ

十六日、夜明テ蓐ヲ出ツ、昨宵久振ニ海魚ノ美味ヲ喰ヒ酒ヲ吞ミ徹宵熟眠、氣力モ宜シケレトモ雨甚シクシテ難如何、髮結ヲ呼ニ遣ハシ朝飯杯食シ、政宗・忠宗公杯ノ廟ヲ拝シ

城郭ヲ一見セント約シ、昨日ヨリ駕籠ニ困シミ幸仙台ノ大都城ニ来ケレハ、何トソシテ求ハヤト種々尋ネケレ共更ニ有事ナシ、向ノ駕籠屋一ツノ打垂ヲ持来ケレハ之ヲ求メ待リヌ、其ヨリ午飯ヲ喫シ青葉城ヲ拝見シ政宗公・忠宗公・綱宗公ノ廟ヲ瑞鳳寺ニテ拝謁シ、又宿屋ニ帰り駕籠ニ打ノリ国分町ヲ出、些子ノ山道経(七北田)七北駅ニテ継立、直ニ又山路ヲ過キ新町宿福田屋トイフ旅亭ニ宿リヌ、此アタリ駅亭甚タ丁寧ニシテ、宿役人袴羽織ニテ案内シ、折節下坐杯致サセケル社オカシケレ

十七日、日出後駅ヲ出ツ、左右麦作ナドアリテ青キノミ、万事ノ様子中国ニ異ナルコト見エス、吉岡へ着、是マテ石川乗輿ナリ、三本木マテ予乗輿ナリ、此間山路高低、然レトモ晴天故少シモ勞ナシ、三本木ヨリ古川へ山本乗輿ナリ、此間山路高低、然レ脱トモ晴天故少シモ勞ナシ、方ニ七ツ山アリ、又荒谷迄山本乗輿、是又平田四十万石余アリト云、右ニ遥ニ白石岳見ユ、半腹以上雪白シ、高清水ニ着、此間石

川乗輿ナリ、高清水本陣二宿ス

十八日、高清水駅ヲ発ス、已二日出ナリ、月会宿ヲ過キ宮

野ニ到リ繼ク、此間平和ノ山路ナリ、異ナルコトナシ、宮

野駅ヨリ沢辺宿ヲ過キ金成駅ニテ繼ク、是ヨリ下輿ス、此

間平野ニシテ山無シ、金成ヨリ有壁駅ニ到リ繼ク、此間山

路蜿蜒トシテ嶮ナラサレトモ平地ナシ、一里半許ニシテ十

万坂アリ、至テ急ナリ、江戸以来ノ阪ト云、サレトモ纒二

一町半許ノ坂ニシテ絶テ名ヲ云フヘキ程ノ阪ニ非ス、昨日

アタリヨ追々^(り)辺鄙ニシテ飲食乏シ、路傍ノ茶店煙草ノ火モ

乞サレハ出サヌ程ノ所ナリ、総テ仙台ヨリコナタハ節モ大

二異ニシテ漸此節ヨリ田植始ムルナリ、「^(有壁)アリ壁」駅ヨリ

一ノ関ニテ繼、田村左京太夫ノ都城ナリ、サレ共辺鄙故

家々ノ坐杯モ至テ低ク大抵五六寸ナリ、半程二丁ハカリモ

焼ケシト見ユル処アリテ新タニ家造セシ所見ユル、其分ハ

床ノ高サ一尺位アリシモマアルナリ、何ニシテモ事ノ開

ケサルトヤイハン、家根ハ仙台以来ハ多クハ瓦ヲ用□ス、

皆削キ葺ニシテ小石ヲ多ク置ケナリ、是ハ釘ノ儉約ト云、

一ノ関駅ヨリ山ノ目ヲ過キ前沢ヘ到、此間桜井判官館・中

尊寺此寺弁慶ノ遺物ヲ蔵ムト云、日暮ニナリ路急キヌレハ

得見サルナリ、十丁斗過クレハ岩井川、^(磐井川)衣川アリ、皆土橋

アリ、北上川ヘ落ルト云、前沢駅ニテ松前本陣ト云家二宿

ス、今日ハ路遠ケレハ日暮テ着ス、凡ソ小道ニシテ九十六

里ハカリト云、小道トハ六丁壺里ノ事ナリ、一ノ関ヨリ山

ノ目ハ橋一ツヲ隔ツルノミ、山ノ目ヨリ前沢ヘモ山路ニシ

テ過半坂路ナリ、路程ヨロシカラス

十九日、朝早ク起キ火ヲ点シテ食シ夜明ル後宿ヲ出ツ、今

日ハ輿ニテ有ケレトモ、路平和ニシテ少シモ山ナク多分家

続キニテ昨日ノ如キニアラス、路モ昨日ヨリハ近シ、十一

里半ト云、然シ南部領ハ四十二町ヲ一里トスト云、折井ニ

休ミヌ、水沢駅ニ到リ繼キ輿ヲ下リヌ、此駅大駅ニテ宿屋

モ多ク前沢ヨリモヨロシキ程ノ所ナリ、里程ハ遠キ方ナリ、

此間松樹路ヲ夾ミ平野多シ、是ヨリ金力崎^(金ヶ崎)ニ到ル途中里半

許ニシテ、胆沢郡八幡村ニ鎮守府八幡宮アリ、路ノ左方ナリ、古キ社ニテ田村磨ノ献立ト云、延暦年中ノ事ノ由、別当ノ中ニ田村磨將軍ノ劍ヲ藏ス、其形全ク唐土ノ製ノ如シ、柄ハ真鍮ニテ造レリ、至テ古キ物ト見ユル、サレトモ身ハ少シ新シキ方ニモ見ルナリ、上サシ矢ノ根二本有、是モ田村磨將軍所持ノ品ト云、至テ古キ物ナリ、弓ノ折壺ソアリ、是ハ八幡公義家ノト云、厚サ一寸五歩有余ニシテ長サ二尺許アルナリ、此アタリ八丁四方ヲ鎮守府ト云、義家公ノ陣所ナル由、外ニ近世堀田撰津守サマヨリ大ナル矢根・采幣・白鞘杯種々ノ品ヲ奉ル、是ハ文化酉年箱館へ魯西亜来リシ折下ラレシ人ニテ、此八幡社へ祈願致シ種々ノ品ヲ献セント云、八幡社前安国寺ハ東叡山ノ末寺ナリ、文化酉年以来箱館行ノ御簾本衆悉当社へ祈願アリ、其故石川ト申合セ小生杯五十匹奉納イタシ宝物拜見、御守并ニ演義モラヒタリ、此八幡ヨリ胆沢川舟渡シ、其ヨリ金ヶ崎ニテ継又輿ニ乗り、此駅大野因幡ノ知行所ニテ三百石ヲ領スト云、イフカシ、鬼柳駅ニ到ル、此処仙台・南部ノ境ナリ、両所ノ

番所アリ、甚々嚴重ナリ、南部領ニ入り(和賀)和我郡ナリ、和賀川アリ、舟渡ノ大川ナリ、黒沢ニ休ム、南部領ハ殊ニ取扱丁寧ナリ、宿役人数人ヲ出シ昼支度マテ宿ヲ申付一通リナラサル仕打、此上如何アルヘキヤ知ラス、(豊沢)戸井沢川ノ橋ヲ渡リ花巻駅長和屋利兵衛ニ宿ス

二十日、夢覚鶏啼燈火已ニ消ス、宿主ヲシテ火ヲ点セシム、身支度ハ出来ヌレト田舎故ヤラ朝飯ヲ出サス、夜明テ後漸ク飯ヲ出ス、駅門ヲ出レハ已ニ日出ナリ、今日モ四十二町一里ニシテ十里ナレハ中々路程遠カルヘシ、心急ケトモ輿丁ハ却テ急カス、行里許已ニ辰ノ上刻ナリ、宮ノ前ニ休フ、路程平坦ニシテ異ナルコトナシ、又半里許路傍ニ休フ、今曉早起路次眠多ク知ラヌコトノミ多カリシ、駅ヲ離レ遠カラス川アリ、瀬川ト云、板橋ナリ、(石鳥谷)「石トヤ」駅ニテ継、是ヨリ歩行シ郡山駅ニテ昼支度シ、又輿ニ乗り二里許行キ立場ニテ山本トカハリ、歩行ニテ盛岡駅不知屋八右衛門ニ宿ス、南部美濃守城下家中若干、町家二十四町、家数四千

軒アリト云、市中ニ北上川アリ、船橋ニテ舟數二十五艘アリ、大川ナリ、市中半ニテハ未タ城堞ヲ見ス、樹間ニ矢倉ノ頭ヲ見ル、大藩ナレトモ辺鄙故格別大都會トハ云フヘカラス、土地ハ多分平坦ニテ兩作トモ出来ヌル趣ナリ、多分南部ノ於納戸所ナルヘシ、左方ニ南部富士ヲ見ル、サレトモ曇大雲多ク絶頂ヲ見サルコト恨ムヘシ、今日ハ路モ遠カラス、殊ニ馬・駕籠ヲ用ヒシ故近日ニ早ク宿ニ着ス

念一、卯半刻立出ヌ、盛岡城下頗ル盛ンナリ、仙台ニ讓ラサルモノノ如シ、少シ短カカルヘシ、サレトモ城ハ平城ニテ小ナリ、仙台城ノ如キニアラス、郭外ニ川アリ、中津川ト云、其ヨリ山路崎嶇頗ル險シ、此山路中風景佳ナル処アリ、岩手川断崖下ヲ廻リ向ニ平山アリ、此処座頭コロシト云、又長坂アリ、是ヨリ下坂ナリ、途中ヨリ輿ニ乗ルナリ、尚山路高低平地ナク大半広漠ノ草原多シ、人家モ甚々少シ、泷民駅ニ到、医家ニテ午飯ヲ喫ス、是ヨリ下輿、山本乘輿ニテ行、尚山路險ナラスト雖、木曾山中ノ溪声ヲ聞サル者

ノ如シ、行二里許又乘輿里許、雪浦ニテ休ミ名ヲイフ垂松ヲ見ル、甚々老松ニシテ周圍三囲モアルヘシ、枝垂テ地ニツカヘントス、松ニハメツラシ、幹ハ赤ク葉モ軟ニシテ女松ノ如シ、総テ此アタリノ松ハ枝ノ垂レテ幹ノ赤ク見ユル処一種ノモノト見ユ、其ヨリ北上川ノ土橋ヲ渡リ尚又山路ヲ經テ沼宮内馱徳助ナル者ノ内ニ宿ス、食時酒ヲ出シ巖(岩手山)驚山ノ雪ヲ出シヌ、即チ南部富士ナリ、五月念一、雪ヲ喫スルコト生来初テノコト故記シ置ヌ、奥州ニ来リテハ春花悉開ヲ見テ夏ヲ知ラス、遙山皆雪アレトモ眼前喫スルコトノ初テナルコトハ珍シケリ

念二雨、沼宮内ヲ発ス、己ニ辰前トオモハル、山本ト予ト乘輿二里許弥堂村ニ休ム、北上山新通法寺アリ、寺畔ニ觀音堂アリ、其傍ニ弭ノ清水出ツ、八幡公陣營水ニ尽クルトキ、弭ニテ掘リ給ヒシトキ急テ水湧出ツトイヘリ、之ヲ北上川ノ水源ト云、外ニ釜ノ堂アリ、徑リ三尺余、高サ二尺程、縁五寸位、八幡公用ユル所ト云、鐘樓堂アリ、古鐘ナ

リ、是亦八幡公所持龍宮ノ品ト云、両品共古色可愛ナリ、又獅子ノ頭アリ、又古祠アリ、権現ト云、山上大杉アリ、大サ八圍余、上頂四大杉トナル、文政年中大久保彦左衛門松前ノ奉行ニ被行シトキ、日本第一ノ杉ト名ツクヘシトイハレキト土人云、其ヨリ兩度程休ム、中山ト云ヒ「小ツナギ」ト云、一ノ戸(一戸)駅ニ到ル、此間八里八町駅ナシ、長途ナリ、始終山路高低、一ノ戸駅ヨリ歩行里許波打嶺(波打嶺)ヲ過ク、所謂末ノ松山波コサジトハイヒシ所ナル由ナリ、此アタリ山間波際アリ、岩間二種々貝殻ヲ交フ、奇ト云ヘシ、薄暮福岡ニ宿ス、本名九ノ戸(九戸)ト云トナン、土人云フ

念三晴、曉天駅ヲ発シ金田市(金田)ヲ過キ、日金坂(養ヶ坂)ノ嶺頂嶺ニ休フ、此所此行第一ノ光景ト云、馬別川(馬淵川)東南ヨリ流れ来リ、山下ヲ廻り中間ニ一島ヲナシ、又東北ニ流れ出ルナリ、此中間ノ一島ヲ「シタサキ」ト云、蓋舌崎ノ意乎、川ノ右ヲ釜沢村ト云、左方ヲ三木田村ト云、山中ノ絶景ナリ、三ノ戸(三戸)駅ニ到リ歩行ス、行半里許松樹夾路又山路トナル、

行里許絶頂ニ休ム、右方ニ八ノ戸(八戸)ノ海ヲ望ミ、又三四丁経レハ左ニ北海ヲ漂渺雲煙中ニ望ム、江都ヲ発スル後曾テ見サル事ナリ、珍シト云ヘシ、正面遙ニ「ソレ」山(恐山)ヲ見ル、少シ後面ニ津軽ノ山ヲ見ル、明日ナム彼ノ方ニ行ヘキ、今日ハ終日東北ニ向ヒ行、此高山ノ頂ヲ過キ五ノ戸(五戸)駅ニ到ル間ニ俄ニ西北ニ向フナリ、明日ハ多分西ニ向フナルヘシ、宿ヲ五ノ戸駅ニ投ス、下毛山分ヨリハ多ク桑ヲ植ウ、奥州ハ格別甚シク蚕ヲ養フ、仙台近クナレハ紅花ヲ植ウ、羽州山形産ヨリハ其品上品ト云、盛岡近辺迄多ク此ノ如シ、盛岡ヲ過クレハ桑少ク漆ノ木ヲ植エオルナリ、其実ノ皮ヨリ蠟ヲ取り其中ノ核ヲハ馬ノ食トナスト云ヘリ、且盛岡以來婦人眉ヲ掃フコトナシ、其上頭ニ風呂敷ノ如キ者ヲカムル、其故ヲ聞ケハ辺鄙故五節句・正月・盆ノ外ハ余リ髪ヲ梳ルコトナキ故、止ムコトヲ得ス内ニテモ手拭ヲカムルトイヘリ、予廿五年前長崎ヘ行キシニ、老人タリトモ眉ヲ払ハヌヲ見テアキレタリ、去年夏再遊スレハ悉ク眉ヲ払ハヌモノナカリケリ、其転変ノ早キ恐ルヘシ、此地ハ中々十年ヤ十

五年二開クルトハオモハレヌナリ、サレトモ崎陽ノコト思
へハ行衛如何アランカ、薄暮湯ニ浴シヌ

念四、辰前駅ヲ発ス、雲霧四方ニ罹リ惟山路ヲ行ノミ、二
里許伝方寺駅ニ到、荒駅故稍ク人馬ヲ繼ノミ、此処ヨリ乘
輿、曠原平野ノミ、田畑・人家甚々稀ナリ、南部ノ地開ケ
サルコト悲ムヘキニ似タリ、中国ノコトヲ考レハ百万石ヤ
二百万石ハ直ニ出来ルヘシ、人民足ラサルコト恨ムヘキナ
リ、疲労強ク多ク睡眠中ニ過ル故考案アルコトナシ、後日
ヲ俟ツナリ、六ノ戸川(奥入瀬川 七)アリ、舟渡シ伝方寺駅北ニアリ、午
時七ノ戸駅(七戸)ニ到ル、此処人家モ多ク頗ル繁華ノ地ナリ、伝
方寺駅ト異ナリ、此間三里殆ント腰ヲ掛ル程ノ立場モナキ
様ニ覺ユルナリ、昨日アタリヨリ多ク牝馬ヲ牽ク、一人シ
テ五六馬ヲ兼ル故ニ、其子ヲ持ツモノハ七八馬ニモ及フナ
リ、牛ハ牝牛ヲ牽ク、然レトモ大牝牛五六疋モ一人シテ牽
ク、牝牻セサルコト妙ト云ヘシ、其他異ナルコトアルヲ見
ス、人語ハイヨイヨ解シ難シ、然レトモ駅長ハ可成ニ分明

ニ語ルナリ、且ハ我カ如キ中国人故殊ニ不分明ナル乎、是
又知ルヘカラス、七ノ戸駅ヨリ乘輿、又山路高低荒蕪ノ地
ノミナリ、長田村ヲ過キ曠原トナル、堅(堅)五十町ハカリ横五
里許ト云、郊原ヲ過キ壺川橋(坪川)アリ、壺村(坪村)ニ到ル、昔時田
村將軍日本中央ノ四大字ヲ書シ碑ヲ立ツトイヘリ、所謂壺
ノ石文是ナリトソ、今ハ其碑失セタリ、故ニ時人多賀城ノ
碑ヲ是ニ当ルハ誤ナリトソ、サモアルヘシ、此処ヨリ輿ヲ
石川ニ譲リ歩行ス、山路ノ曠野ヲ行クコト半里許、山頭ニ
テ初テ北海ヲ見ル、正面ニ畏山(恐山)ヲ見ル、其ヨリ野辺地ニ宿
ル、今日ハ北陸ニ来ルナリ

日本ノ最中ト書シイニシヘヲ思ヒ合スル壺ノ石文

念五、遅ク駅ヲ出ツ、里許馬門村ト云所ニ南部ノ番所アリ、
十丁斗行ク、南部・津軽ノ境木アリ、野辺地ヲ出テ此辺マ
テ海滨、多分玫瑰樹アリ、今盛ニ開ク、是ヲ取りナスコト
ヲ知ラス、多ク佗樹ナシ、「カリバザハ」(狩場沢)村ト云処ニ休フ、
津軽ノ番所アリ、南部人ヲ改ムルト云、此アタリ白奈井郡

ナリ、又一里許静郷村ニ休フ、此津軽領ニ入りテハ玫瑰花甚タ少シ、サレトモ人家ハオリオリアリテ南部山分ヨリハ開ケタル者ノ如シ、小湊ヲ経歩行山路ヲ行キ路ヲ誤ル、一里許ニシテ海滨ニ出ツ、又番所アリ、路傍ニ玫瑰花甚多シ、又行里許番所アリ、野内駅ニ到ル前里許ヨリ又輿ニ乗り終ニ青森駅岡問屋ニ宿ス、今日ハ北海ヲ始終右ニ見ルナリ、イト珍シケレト路程ノ遠キニ困シミヌルナリ○野辺村ト馬門ノ間ニ砲台ニケ所ヲ設ク、各一門宛ナリ

念六、辰刻青森駅ヲ発ス、駅ノ右方ニ台場ヲ設ク、砲四門ヲ見タリ、駅ヲ離レ一小村アリ、小渠中ニ菅ヲ植ウ、尚路傍玫瑰多シ、里許^(油川カ)油川駅ニ到繼、輿中精詳ナルコト能ハス、青森駅ニ善知寺ヤスカタノ祠アリ、古歌ニ

陸奥ノ外力浜ナル呼子トリ鳴ナル声ハウトフヤスカタ

左方ニ岩木山ヲ見ル、所謂津軽^(富士)不二ナリ、絶テ不二ニ似サルナリ、今朝ヨリ海滨ノ平地ニシテ沙漠ナリ、サレトモ半里許ニ人家アリ、折々ハ田モアリ、「^(野辺地)ノへ地」アタリヨリ

此辺ハ袂ノアル衣類ヲ着ルモノナシ、皆筒袂ニシテ膝切ノ麻又ハ糸クスノ如キモノニテ織タルモノニテ男女共見分ケ難シ、唯々齒ヲ染ムルヲ異ナリトスルノミ、帯ハナシ、頭ニ手拭ヲカムルナリ、先蝦夷ニ到ラヌ先ニ夷人トヨリ外ニハ形状スヘカラス、青森ヨリ此アタリ^(三厩)三馬屋辺ヲ所謂津軽合甫外力浜ト云、津川駅ヨリ^(後島)後方村ニテ繼、青森以来ハ駅ナシ、皆村落故庄屋宅ニテ繼立ヲス、言語ハ弥々分ラス、後方村ヨリ蟹田村ニ到リ繼、此間三里、只々海滨ノミ、蟹田村ヨリ平館マテ三里、是ニ海滨ニテ異ナル景色モナク濤声・帆影ヲ見ルノミ、土人云、後方村ヨリ蟹田村ノ間ニ小坂アリ、之ヲ合甫力坂ト云ヨシ、之ヨリ以西ヲ津軽合甫外力浜ト云、サレ共其理ハ知ラストナンイヒケル、蟹田村ヲ出テ蟹田川アリ、板橋十軒許^(間)モアリ、今日ハ少々宛ノ谷川、小板橋多シ、記スルニ堪ヘス、其名モ知ラサレハモラシヌ

念七、平館駅北山吉次郎宅ヲ出已ニ辰牌ナリ、海滨ヲツタヒ行里許余沙「シラス」村ニ休ム、此アタリ昨日トカハリ

石斗ユヘカク云ナラン、其ヨリ赤根沢峠行半里許高ノ坂ヲ過キ小村ニテ午飯ヲ喫ス、其ヨリ四五町ニシテ「七カクレ」坂アリ、此坂長ク頗急ナレトモ些子ノ間ナリ、又海浜ニ出テ砂漠ヲ過キ、大石門ヲ経テ今別村ニ行繼ク、今日ハ沖南部ハ離レ蝦夷ノ山ハ霧多クテ見ヘス、只水雲漠タルヲ見ルノミ、今別村ヨリ猶海浜ヲ步行ス、津輕ノ辰飛(龍飛)ノ渡リヲ見ル、向フニ松前ノ白神山ヲ見ル、其外ハ雲霧ニテ山ヲ見サルナリ、七隱坂ヲ過テ海浜ニ珍石多シ、予輿中ニテ拾ハサルコト遺憾ト云ヘシ、八ツ時頃三馬屋駅「山ニ」ト云宿ニ着ヌ、箱館ノ渡海船ヲ雇ヒ所謂三馬屋ナル石門ヲ見ル、駅ノ北岸ニアリ、高サ數丈、石門三ツトナル、昔時源義経廐ニナセシ所ナリト云、故二三馬屋ノ名アリ

念八雨、渡海スルコト能ハス、終日徒然ナリ、扱此渡海舟甚々価貴シ、箱館渡リ金七兩二歩ト云、之レ百石船ノ積リ也、如何シテ此ノ如ク高キヤ、謂レナキコトナリ、諸藩皆此ノ如キ事ナレハセン方知ラス、此度ハ雇ヒヌ、此度ノ道

中宇都宮マテハ東海道ニ相替ルコトナシ、其ヨリ野州北ニ入りテ、那須ノ野辺ハ至極山中ニテ高山モナケレトモ郊原平野ニテ実ニ荒蕪ノ地ナリ、其ヨリ奥州ニ到、白川辺ヨリ稍開ケ、仙台領白石辺ハ余程万事ニ闕ルコトナク見ユルナリ、先仙台ヲ限トス、平野モ少ナシ、又其ヨリ追々南部領ニ入り日々山路斗ニシテ荒蕪ノ地多シ、人物モ大ニ異ナリ、婦人杯眉ヲ払フコトナシ、家作杯モ大ニ異ニシテ屋根ニハ多分小石ヲ並ヘ瓦ヲ用ユルコト絶テナシ、併シ盛岡迄ハ左モナケレトモ、城下ヲ離レ半日程モ行ケハ殆ント男女モ分リ兼ル位ナリ、家作モ壁ト云コト更ニナシ、板垣ナリ、野辺地迄南部領、此辺ヨリ北海ヲ受ケルニヤ、舟モ泊シケルニヤ、少シ人物モ開ケタル心地ス、家作・人物等多ク異ナラス、此辺ノ人男女共筒袖ニシテ膝切ノ麻ノ經ニ古木綿ヲ細ク切り麻ト一度替ニ緯ヲシタルモノヲ着ルナリ、又半ハ所謂蝦夷ノ「アツシ」(アツシ)ヲ着タルモノアリ、イト珍ラシ、南部地ニ入テヨリハ山中路傍ニ午房(午)ノ自然生多シ、是モイト珍ラシ、馬ハ終始多シ、南部領ハ少シ小ナル方、津輕ハ別

テ大ナル方、人ハ男女共ニ大ナリ、犬ハ南部領至テ大ナリ、津輕領ハ平体ナリ、言語ハ下毛アタリヨリ聞取カタク、仙台辺少シ分リヨク、南部領ヨリ津輕領ニ到リテハ更ニ分ラサルナリ、宿役人杯ノ外ハ何トモカトモ分別スヘカラス、故ニ地名又ハ其外ノ事聞得サルコト多シ

初二尚雨、殊ニ大雨ナリ

初三雨、老婆紅魚ヲ買來ル、一尺四五寸ノ大サノモノ二百七十文ニテ求ルナリ、廉ト云ヘシ

念九陰晴、不定トハイヘト風悪シクシテ舟出ス、龍尾岬(龍飛)一

初四雨、碁杯囲テ終日暮シツ

見セントテ午飯後立出ヌ、箱館行ノ船頭案内ス、三厩石ヲ見物シ中浜浦ヲ過キ、半里斗行テ六条間村人家十四五軒、

初五雨

又海畔ニ釜石アリ、藤島村人家二十軒斗アリ、又断岸少シ廻リ四板橋トイヘル棧道アリ、其ヨリ元宇鉄村人家五六軒、是ヨリ上宇鉄村ニ到リ蝦夷人ノ血脈ノ者ヲ見シ、常人ニ異ナルコトナシ、其家色々ノ宝物ヲ持チシ由ナレトモ近來見セサリシ趣、其故強テモ乞ハス、日モ已ニ暮ントスレハ龍尾ノ岬ハ止メニシテ帰リヌ、途中怪巖奇石多シ

初六、尚雨休マス、止ヲ得スシテ松前へ渡海ノ積ニテ終ニ出帆ス、サレトモ風モ宜シカラス、午後雨晴テ後上宇鉄ノ沖ニ舟泊リス、宿処ヲ尋ネケレトモナシ、漸蒲団三枚借り來リ其夜ヲ明セシ

六月朔、雨甚タシク渡ルヘカラス

初七、午前開帆シ未刻頃(振擲)ひよろト云処ニ滞船ス、此所ヨリ龍飛岬マテ半里斗トイヒシ故見物ニト出掛タリ、道悪シク

シテ行コト難ケレハ、凝菜取ノ小船ヲ雇ヒテ龍飛ノ岬ニ到リ、弁留ヘ謁シ松前諸地・北海ヲ望ミタリ、又船ニテ帰り此夜ハ蒲団モナクフシタリ、夜ハ寒シ、蚊ハ多ク終宵困ミタリ、前ニ書落シタリ、江戸ヲ発シテ以来此行蚊帳ヲ用ヒシコト粕壁・小山・青森ノ宿ナリ、蚊ハアツキ所ニ斗アリトオモヒシニ、青森ノ如キ寒キ地ニ蚊ノアルモ案ノ外ト思ヘリ

初八、早朝舟ヲ艤シ出帆ス、今日ハ風モ順ニシテ至極穩ナル天氣ナリ、世ニ云フ龍飛潮・中ノ潮・白神潮ナル三嶮難モ平和ニ過キ、白神岬ヲ過キテ風収リ雨降り出シ、舟子共端舟ヲオロシ親船ヲ引キ一里斗ニシテ松前ニ着ヌ、已ニ未ノ刻頃ナリ、暫ク舟宿ニ休ヒ役人ヨリ宿ヲ言付ク、宿亭案内ニ来リ、申ノ刻頃瓦町田川屋ニ宿リヌ

九日、江原様ノ添書アリケレハ大松前町峰村屋久兵衛ヲ呼ニ遣ハシケレハ、早速ニ来リテ懇ニ配慮スルナリ、序テニ

今井八九郎ニ逢ヒタキコトヲ申出セハ幸ニ知リ人ノ趣ニテ引合セントノコトニテ帰りヌ、午後右ノ今井来リテ酒ヲ出シ、蝦夷ノ様子色々尋ネ訪ヒ大ニ益ヲ得タリ、此人ハ間宮ノ門人ニテ測量家ノ由、去々寅年モ堀織部様御巡見ノ折モ御手引被命、「カラフト」島「バンゲ」迄海岸測量致セシ由、是迄「バンゲ」迄行キシ人ハ絶テナキコトナリ、其外蝦夷島何レモ測量致セシ由、中々稀ナル人ナリ、年モ六十七歳ニテ老人ナレトモ壯歳ノ人ニ劣ラヌナルヘシ、此人弱冠ノ頃北蝦夷ノ勤番セシトキ大豆ヲ植ヘシニ、高サ一尺斗ニシテ実ノ形出来ヌレトモ実ハ熟セヌ由、其後廿年斗ニシテ七月ニ「ササゲ」ヲ喰ヒシ由語りヌ、サスレハ北蝦夷モ以前ヨリハ追々開ケテ人家多クナレハ暖カニモナルヘシトノ説ヲ云ヘリ、サモアルヘシ、松前ニテモ心アル人ノナキニハ非レトモ、執政ノ人ノ心ナキヨリシテ等閑ニナルモノナラン

六月十日、巳刻松前ヲ発ス、雨中輿ニテ出ル故風土モ分明

ナラス、輿夫二聞ケトモ万事甚々疎シ、其事ヲ知ラサルナリ○聞、松前ハ去年蝦夷地御揚地ニナリシヨリ町人大不景氣ト云ヘリ、サモアルヘシ、從來土風甚々悪シク賞罰不正・賄賂・公行博奕ナド勝手次第ニテ、人氣大ニ悪シト云ヘリ○土地ハ大ニ開ケ市中ノ人品殆ント都下ニ讓ラス、南部津軽ト違ヒ婦人モ眉ヲ払フナリ、帯オモ用ヒ風俗大ニ宜シ、内地ニ恥チズ、家ハソキ葺ニテ石ノ重リト其大半枝壁(板方)ニテ津軽領ト異ナルコトナシ、惟々美ナルノミ、土蔵杯ハ瓦ヲ用ヒ土モ沢山ニ用ヒルナリ、素ヨリ請負人杯大家多シ、サレトモ請負人ハ多クハ他国人ニシテ松前住人ハ稀ナリト云、今松前ニ住スル者十二三家ト云、東蝦夷請負人ハ公領ニナリシ故ニ四五軒箱館引越ニナルト云、総テ右ノ始末故明年ニナレハ大不景氣ナラント歎息セシナリ、去年迄ノ繁花頓ニ衰弊スルコト憐ムヘキナリ、松前ヲ出直ニ及部村・根森村各人家ニ三十軒宛アリ、多分漁家ナリ、風俗甚々鄙シ、家屋モ蝦夷人ノ居宅ノ如キモノ多シ、根森村入口ニ番所アリ、敢テ旅人ヲ取調フルニモ非ルナリ○及部村出口及部川

アリ、大川ナリ、水涸ルル時故二十間斗ノ流レ仮橋アリ○大沢村人家四十軒、大沢川仮橋アリ、荒谷人家百軒斗、大半漁家ナリ、此処ヲ少シ行キ山澗溪流ニ添フテ入ル、山ハ皆平山ノ如ク見ユレトモ断シテ喬木ナシ、草花尤多シ、寒地故春花開クナルヘシ、奇花異草モ多カルヘケレトモ物産ニ暗キ故其奇種タルヲ知ラサルナリ、可惜也、石質豊積シテ堅硬ナラス、満山皆石ナルヘシ、故ニ大木生スル能ハサルナルヘシ、且ツ溪間流出ノ石多ク灰黒色或ハ緑青ノ如ク至テモロキ品多シ、是レ山底悉ク石炭ナラン、故ニ樹ヲ生セサルナラン、吉岡嶺九折阪アリ、頗嶮下リモ亦然リ、上下半里許ニシテ海浜ニ出ツ、此山水ノ便利モ宜シキニ田畝絶テナシ、漁家ノ墻内ニ茄子・豆ノ類ヲ一坪二坪斗リ植ルヲ見ルノミ、可惜コトナラスヤ○海濱行クコト里斗吉岡ニ到リ休ス、聞ク、近来甚々不獵生産繼カスト、故ニ男子大半西蝦夷ニ到リ持ヲ以テ生産ヲ為スト云、家数百六七十軒、居家甚々美ナリ、商戸(商)多シ○何故ニ田地ヲ作ササルヤト問ヒシニ、田地ハ迂遠、漁獵ハ利ヲ得ルコト多シ、故ニ

田畝ヲ為ス者ナシト云、吉岡嶺ヲ下リ礼髭村漁家二十軒斗アリ、此辺多ク虎杖莖ヲ以テ墻トス、又貧者ハ虎杖基ヲ壁ニ代ル者往々之レアリ、真ニ蝦夷人ノ小屋ト云テ可ナリ、吉岡ヲ出テ海濱宮沢村四十軒斗、白符村二十軒、風俗・人家大差ナシ、傍山ニ灌木アリ、石質吉岡嶺ト同シカラサル者ノ如シ、然レトモ大木ヲ見サルナリ、山中路傍過半虎杖多シ、高サ五六尺ナルアリ、福島ニ宿ス、松前ヨリ五里半ト云、路程近ケレトモ明日ノ嶮山殊ニ此先七里行サレハ宿所ナシ、故ニ宿スルナリ、凡テ松前辺山野共ニ虎杖多シ、荒山幽陲ニ生スル者乎、其他路傍草ハ中国辺ニ生セサル者多シ、怪ムヘシ

十一日、福島人家百二三十軒、漁者・小商人多ク、菰カムリト云媚婦アリ、又松前ヨリ娥ト云婦モ来リ居ルヨシ、先是迄ハ海濱舟泊リノ処ナリ、村ヲ出テ北ニ入ル二三町福島川徒渡リ、之ヨリ漸ク山溪ニ添フテ行ク、大小川渡知内峠(町脛)迄三十六ト云、行クコト半里許左右平原アリ、往々畑ヲ開

ク、芋・大豆・麻・蜀黍・稗・粟ノ類ナリ、田モ四五枚アリト云、米モ熟スル由、左右ノ山楂・櫟・槐ノ類ト見ユ、路傍行李柳多シ、例ノ虎杖・款冬素ヨリ多シ、殊ニ大ナリ、峠ヲ越エテ後ハ一丈有余ノ者アリ、艾七尺位、蘚モ亦然リ、峠ニ登ラントスルニ農家一アリ、多ク桃ヲ植ウ、福島ヨリ一里半ト云、左右尚平原アリ、惟ニ雜草多ク款冬・葦菜・熊笹・茅ノ類殆ント人身ヲ没セントスルナリ、峠ヘ登ルコト曲折數回、六七町甚々嶮ナリ、然レトモ彼是ノ紀行ニ論スルモノノ如キニアラス、知内峠ト云フ休所アリ、之ヨリ纔ニ下リ行クコト半里許一ノ渡ニ着、憩店一軒アリ、此家国守ヨリ設ケラレシヨシ、午飯弁当ヲ用ヒ輿ニ乗シ下ルコト四五丁、川アリ、徒行ス、大川ナリ、仮り橋アリ、是ヨリ山路蜿蜒下ルコト五六町、川アリ、此辺ヨリ平原曠野、往々漆ノ如キ大木アリ、左右広キコト廿町余、頻ニ小川アリ、草種前ノ如シ、此ノ如クシテ知内ニ到ル、凡一ノ渡ヲ出テ一ツノ原野ヲ過キ一軒ノ人家アリ、二三段斗小畑アリ、麦ヲ植ウ、未タ熟セス、高サ五六寸位、小麦ヲ植ウ、高サ

一尺四五寸位、其外黍・稗・大豆・豌豆ノ類ヲ植ウ、其他ハ平野ノミ、殊ニ大樹モナク虎杖・蘚・艾尤多シ、行クコト三里許ニシテ左方ニ雷神社アリ、右方ノ山麓ニ到ル、又大ナル原野アリ、二三万石モ田畑トナルヘシ、川モ大川アリ、可惜也、知内ノ入口ニ小祠アリ、槐樹甚々多シ、知内モ一村落ナリ、今日過クル地悉皆山路ニシテ曾テ海濱ヲ見サルナリ、此行中ノ深山ナルヘシ、未刻宿リヌ、今日ノ山勢ハ北ヨリ南ニ流ルルナリ、溪間葡萄多シ、知内村到テ淳朴ラシク見ユレトモ、凡テ人情ハ悪シク、飲食甚々粗悪食スヘカラス、恐クハ此行中ノ粗ト云ハン乎、知内ノ嶮ハ恐レス、宿亭ノ儉ハ恐ルヘシ、再ヒ宿スヘカラス、不可忘也

十二日、知内^{三十斗}ヲ発ス、辰刻ヲ過ルナリ、海濱陸行草花ヲ採ル、行半里許雨甚シ、是ヨリ輿ニ乗ル、海濱ニ海葱ト覺シキ物ヲ見ル、輿中取ル能ハス、遺憾トス、此間三里平原曠野殆ント二十万石モアルヘシ、仙台領四十万石ノ曠地ニ劣ルヘカラス見ユルナリ、可惜、水利モナシトハ云ヘカ

ララス、^(アヤ)玫瑰樹甚々多シ、人家六七軒モ見掛タリ、木古内ニ到ル、元ヨリ山麓ニシテ曠野ナク海濱ナリ、札蒨人家三十斗、前路ニ異ナラス、泉沢五十軒斗、帆立貝多シ、魚油ヲ取ル、^(釜谷)釜石五十軒斗、三ツ石繼立ニ非ラス十軒斗、当別ニ宿ス、今日ノ風俗・形勢前ニ異状ナシ、木古内マテノ地田畠ニ開キ水利モ宜カルヘシ、木古内ヨリ当別マテハ土地狭ク海濱故、漁獵ノ外別ニ手段ナカルヘシ、牛少シニ馬ハ多キ方、皆田野ニ放チ置、用アルトキ牽キ歸リ、使ヒ終レハ又田野ニ放チ置ナリ、此辺男子ハ多ク蝦夷地ニ出稼スル故人足ニ婦人ヲ交ユ、泉沢ヨリ^(釜谷)釜屋ニ到ル迄一里ノ処婦人ノ昇者ナリ、男子ニ異ナラス、婦人モ力ナシト云ヘカラス、風習ニ在ルモノナリ、平生薄弱多病、婦人ニ劣ルコト可歎ノ甚シキナリ、此村前ハ東海万里ノ波濤ヲ受ケ、後ハ百丈ノ懸崖岬々トシテ海嘯・地震両ナカラ避クヘカラサルノ地、一宵ト雖トモ安眠スヘカラス、恐ルヘキノ甚シキ者トス

十三日、当別^{四五斗}ヲ発シ箱館ニ到、当別二十町斗茂辺地村、

一里近矢不来村台場アリ、富川村一里半、三ツ谷村五町、戸切地村半里、有川村^{二里}、^繼龜田^{一里}、箱館、当別ヨリ直ニ山路ニ出ツ、海浜ヲ去ルコト一二丁位ニシテ、左ハ丸山^{丸山}力岳ノ山脈ニシテ漠々タル原野、然レトモ草斗生テ昨日ノ如ク大ナル草ナク、艾・款冬モ大ニ減シ薇・蕨尤多ク、其他雜草モ内地ト異ナルコトナシ、坂ヲ下レハ即チ茂辺地村ナリ、人家三四十斗、直ニ茂辺地川アリ、徒渡リ甚深シ、幸ニ村ノ嚮導人負テ渡スナリ、又山ニ登ル、此間天神社アリ、風景甚佳、赤松・楸・樅ノ類アリ、一面ノ原野ニシテ富川^{富川}ニ到ル、人家百斗、多クハ漁家、此辺鰯魚甚タ多キ由、尚亦曠原山麓ニシテ大樹ナク草モ異艸ヲ見サルナリ、戸切地ニ休ス、此地有川ト混シ一橋ヲ隔テ名ヲ異ニスルノミ、是ヨリ沙漠ニシテ左方ニ山ヲ見ルコト二里或ハ三里ト云、山麓ニ村落アリテ農民アル由、米モ熟シ其他雜穀悉皆成熟スト云、然レトモ山麓迄ハ平原ニシテ浅茅ノ沙漠ニシテ、殊ニ水利宜シカラサル者ノ如シ、玫瑰樹海浜ノ方ニ多シ、鰯網殊ニ盛ンナリ、異船一隻英吉利ノ由、十一日来泊スト云、

今日又一隻遙海ニ見ヘタレトモ、終ニ我輩二里ノ路ヲ来ル間ニ来船ス、戸切地ヨリ箱館迄牛馬甚タ多シ、鳥・雲雀・鶴鴿ノ如ク頭・脊黒毛ニシテ兩翼端白毛ノ小鳥アリ、其名ヲ知ラス、箱館ヘ入口ニ小川アリ、夷人^{イギリス}四五人衣類杯洗濯スルヲ見ル、藪ノ笠ヲ帽ムル、皇国^總ノ文藪笠ノ如シ、川下ニ小洲アリ、「バッテリー」上ケ帆ヲ掩ヒ雜作スルヲ見ル、夷船一隻ハ火輪船、一隻ハ軍船ラシクオモハル、箱館人家凡三千軒ト云フ、盛ンナリ、春以来松前ヨリ移住ノ者四百四十軒ト云、就中請負人三軒ト云、七重浜ヨリ龜田村ニ多ク、之ヨリ一里ノ間一方ハ大東海、一方ハ灣海ナリ、此処新ニ軒分リ付ノ杭^{リ脱}ア、追々人家造築ノ積ナリ、追日盛ンナルコト知ヘシ、聞ク、五月二日英夷五六十人上陸、漫リニ人家ヘ押シ入り酒ヲ奪ヒ大酔、其ヨリ酒狂乱暴、戸・障子杯破リ七重浜辺迄到ルト云、夕方漸ク官ヨリ役人出、二人ヲ捕ヘ本船ヘ返シ、其ニテ事治マルト云、此度渡来ノ船右ノ船ナリト云フ、大ニ恐ルル気色アリ、悪ムヘキノ甚シキナリ

十四日天気清和、朝暮ハ余程寒ク綿入杯着用セサレハ温暖ナラス、日中ニハ単物襦袢位ニテ適度ナリ、四月中旬頃ノ氣候ナリ、豌豆杯莢共ニ客ニ出スナリ

十五日晴、朝暮同断、昼前蝦夷行支度買物ニ市中徘徊ス、未刻頃帰来、其頃イギリス船又一隻入津

十六日晴、昨夜風甚シ、英船又一隻入港、碇ヲ卸ス、都合四艘、十一日入津ノ者火輪船其他三艘ハ軍艦ナリ、其名ヲ知ラス、十三日入港ノ船ニ「コモドル」官名乗込ミ居ル由、

「コモドル」(ママ)ハ余程ノ大将ナリ、俗説ニ「ヲロシヤ」ト戦争中亜細亞諸州ヲ遊観シテ、何トナク援兵ニ来リ居ル船ナリト、当春英夷・魯夷和睦セシ故、是ヨリ日本ト交易ヲ為ニ来ルト云由風説スルナリ、何様当春ヨリ三度来ルト云、英夷・魯夷和睦ハ我皇国ノ大不幸ト云ヘキ乎

十七日晴、終日綿衣ニテ適度ナリ、英夷対応アルトノ説アリシ故、午時綿衣ヲ着シ笠モナク見物ニ行キシニ、曾テ熱サヲ覺ユルコトナシ、中国ノ四月上旬頃ノ氣候ト齊シ、已ニ明日ハ土用ノ入り、珍敷夏ヲ過ルナリ、且ツ夷船今朝迄四艘居タリシガ已ニ二艘ハ帰帆セシ、余程待居タリシニ上陸スルコトナク、只々三四人旅行ノ夷人ヲ見ルノミ、夕七ツ時頃火輪船一隻来ル

十八日晴、朝冷氣甚シ、曾テ土用ノ気色ナシ、午飯迄綿入ヲ着ス、朝石川御奉行ヘ蝦夷行催促ニ行、午前昨日ノ火輪船出帆ス、午後火薬ヲ刻ミ略行李ヲ齊フ、明日目名ノ沢菴(斎)原(斎)函(斎)齊開墾一見致スヘシト御奉行ヨリ命セラルル由、石川帰リ告ク

十九日、早朝目名野沢開墾一見ニ発ス、箱館ヲ出テ地藏堂ヨリ右折シ、上湯川村ヘ一里、下湯川村ニ到リ憩ス、人家凡四十軒、農漁ヲ兼スト云、路傍ニ温泉アリ、湧出ス、然

レトモ甚々温ナラス、冬日ハ可ナリト云、一川ヲ渡リ銭亀村ヲ経、三里許ニシテ目名野沢ニ至ル、此間山路蜿蜒一望平山ニシテ樹木甚々稀ナリ、目名野沢ハ西・北・東総テ山ニシテ、南面ハ太陽ノ煦温ヲ受ケ、平野平キ処二十丁有余、溪間長サ五里余ト云フ、菴原菡齋去卯四月此地ニ来リ、始テ田畑開墾スト云フ、去年開クコト二町、今年開クコト二町、其中畑ハ従来少シツツ民人新開スル者アリ、田ニ至リテハ菡齋ナル者ヲ開山トス、去年種試ミシニ雑穀・五穀・草木・瓜菓ノ類、樹芸セサルハナシ、殊ニ勢気モ箱館トハ大ニ異ナリ、別ニ本人ノ記録アレハ爰ニ贅セス、此菡齋ナル人ハ御家人ノ隠居ニシテ、年六十有余ニ見ヘシカ、自ラ鋤鋤ヲ執リ江戸并ニ途中ニテ抱エシ農夫十四人ヲ連れ来リ、今日迄一銭モ公辺ノ御厄介ニナラスシテ三町余ノ田畑ヲ新発シ、一茅舎ヲ建テ破袴ヲ着シ白衣ヲ着ケ、医モノナキ箱館在三里ヲ隔テ熊羆ト同居セラレシモ、有識ト云フヘキカ隠逸ト云フヘキ乎、実ニ近世ノ一人ト云フヘキナリ、此人素ト天保年間迄御普請改役迄勤メシ人ナルガ、十万石以

上ノ大名ナラテハ出入ハナサストノ見識ニテ、浜松ノ大風ニ吹倒サレタリト自ラノ話ナリ、サモアルヘキ人物ナリ、薄暮帰宿

廿日晴冷、卯半刻箱館奉行ニ謁シ、蝦夷ノ白馬乗込ヲ見物シ、組頭河津三郎太郎殿ニ逢ヒ、午前帰り安馬力石等組頭ヘ礼ニ行キ、是ヨリ北岡健三郎調役下役ヘ行キ、帰り午飯ヲ喫ス、午後行李ヲ装ス、夕飯後郷信ヲ認ム○今日織部様ノ御話色々アリシ中ニ、菡齋ノ褒メ口上ニ彼レハ骨髓樹芸数奇ナリト、可憐コトナリ、彼菡齋老人ハ実ニ国家ノ主護神トモ云フ可キ人ト思ハルナリ、帰路愚詠一首

天地ノヒラケシ始メ思ヒ出テ君カココロノアリカタキ
カナ

「オクリカンキリ」夷名「サリカニ」、箱館近所十町斗ノ所谷地頭村ノ清流ニアリト云、其外蝦夷地所々アリト云○今日英船二艘出帆シ帰ルト云フ

廿一日、箱館ヲ発ス、朝陰、行李遅滞、四ツ時頃宿ヲ出ツ、
 亀田村七重浜ニ到リ午飯ヲ喫ス、其ヨリ漸次ニ海浜ヲ遠サ
 カリ、有川ヲ左ニ見テ原野一里斗ニシテ有川ノ上流ノ橋ヲ
 過キ一本木ニ到ル、人家十四五軒、各家田畑ヲ開ク、之ヨ
 リ一里許大野ニ到ル、人家百二三十軒ト云フ、各家田畑ヲ
 開クコト行程中ノ最大一ナルヘシ、村落ヲ去ルコト十町斗、
 去寅年以來開墾スル田殆ント四町ト云フ、去々年新墾ノ田
 ハ稲モ甚タ見事ナリ、昨年ノ分ハ之二次ク、当年ノ分ハ殆
 ント萎スル者ノ如シ、其他苗地ノ分ハ内地ニ異ナラサルヲ
 見タリ、其蕎麥・稗・畑物内地ニ異ナラス、只々麦作ハ為
 サスト云、尚熟度モ箱館トハ大ニ相違セリ、此間西・東・
 北ニ山アリ、南方開豁ナリ、広キ処ハ西東一里ニ足ラス、
 南北ハ「(茅部)カヤ部」峠迄三里有余ト云フ、右ノ新田開墾ハ箱
 館五十嵐某・金沢某兩人ノ由、追々開墾ノ下拵モアリ水利
 モ極便利ナリ、恐ラクハ開墾最第一ノ地ナルヘシ、殊ニ村
 人モ已ニ田畑ニ利アルコトヲ解スル者ノ如シ、何様面白キ
 風土ト云フテ可ナリ、後日成不成ヲ待テ論スヘシ、且ツ旧

田ノ分ハ一段ニテ一石二三斗モ得ルコトアル由、遠カラス
 内地ニ比スヘキナリ

二十二日、大野村ヲ発シ山間ニ入り本郷村ニ到ル、人家五
 十軒斗、田ハ見当ラサレトモ畠ハ彼是見受ケタリ、一里許
 ニシテ一(市渡)ノ渡村人家二三十軒、多分畠作ヲナス、漁獵ハ春
 ノミ稼ニ出ルヨシ、一里半許猶山路往々畠地アリ、甘蔗・(マメ)
 黍・麻等ヲ植ウ、峠下近クナリテ田二町斗開墾アリ、当年
 初テ開クト云フ、之ヨリ大峠ヲ踰ユル途中箱館海ヲ望ム、
 眺望甚佳ナリ、峠下人家ハ九十、農商ヲ業トス、峠ヲ越エ
 半里許大沼アリ、周廻二里魚ヲ産ス、之ヨリ路傍両辺茂林
 密樹、接骨木・榿・桜・山漆・黄蘆其外雜樹多シ、虎杖・
 虎ノ尾尤モ多シ、之ヨリ木沼峠ヲ越エ、一里許ニシテ右方
 二小沼ヲ見ル、周廻十四五町ナルヘシ、之ヨリ追分ニ出ル、
 本道鷺木ト云アリ、余佐原(砂原)海道ニ出ツ、之レ当年痘瘡流
 行シテ「アイノ」(テイヌ)恐レ山林ヘ逃ケ隠レ、人馬繼立テ出来サ
 ル故已ムヲ得ス佐原ヨリ「エトモ」(絵鞆)ヘ渡海ノ積ニナルナリ、

追分ヨリ山路ヲ行クコト半里許、此間路傍檜・桑・桜其外
 雑樹蔭森トシテ蚊・虻甚々多シ、左方ニ海面ヲ見ル、是レ
 「サワラ」ヨリ「エトモ」ノ間ノ入灣也、其広キコト八十
 里、横ニシテ長サ二十里許ナルヘシ、尚又山路ヲ行クコト
 半里許ニシテ「オシラナイ」ニ出ツ、之ヨリ海浜ニシ東南
 二行ク、右方ニ山ヲ見ル、(砂原岳)佐原岳ト云、内浦又「カヤ辺」
 ノ山ト云、元来此辺ヲ「カヤヘ」ト云コトハ、(本茅部)「ホンカヤヘ」
 ト云処驚ノ木辺ニアル由、其故大峠ヲ越エ来ル程ノ諸村ヲ
 「カヤヘ」ト云ナルヘシ、今「カヤヘ」ト云ハ佐原・鷺木・
 野田追・沼尻・由井等ノ諸村ナリ、又箱館近郷ヲ三十二ヶ
 村ト云ヒ、其ヨリ蝦夷地ニ入ル境迄ヲ六ヶ場処ト云フ、小
 安・白尻・鹿部・砂原・鷺木・野田追又「落シヘ」トモ、
 此外ノ小村ハ皆之ニ附属ス、故ニ一々枚挙セサルナリ、今
 日途中別ニ異事ナシ、大峠迄ハ田畑処々ニ見受ケタリ、其
 ヨリ砂原迄ハ只々人家ノ近傍ニ少シ宛野菜ヲ種ルノミ、漁
 獵ヲ主トスル故ナリ、且又沙浜ニシテ土質モ悪シク佐原岳
 アリト雖トモ、流水ナク水利宜シカラスト思ハル、「オ

(白内)シロナイ」ヨリ一里許「カカリマ」村、人家三十軒斗ノ漁
 村ナリ○牛馬大野村迄ハ甚々多シ、峠下辺モ少シトセス、
 大峠以来ハ漁村故牛ハ絶テナシ、馬モ甚々少シ、砂原杯ハ
 九十軒ニシテ五十疋許ト云、全体内地ト違ヒ松前ヨリ箱館
 ノ間杯ハ、一軒ニ牛馬十疋余モ飼フナリ、是雪解ノ後ハ山
 野ニ放チ置キ、入用ノトキ連歸リ用キルナリ、其故飼料ハ
 夏ノ中草ヲ蒞リ込置キ、雪中飼フ斗ナリ、故ニ其多キコト
 内地ノ比ニ非サルナリ○昨年以來、箱館近海漁獵甚々多ク、
 松前領總テ漁獵少シト云、且ツ大野辺ノ田畑モ昨年ハ上作
 ト云フ、古田ノ宜キ分ハ段ニ一石五六斗モアリシト云○寺
 社ハ諸村皆之アリ、宮尤モ多シ、且ツ峠下迄ハ一箇ノ娼婦
 アリ、革袋ト号スル由、之レ山野ヲ厭ハス遊行スル故ノ名
 ナラン、其外松前以來村落ナレハ悉ク娼婦アリ、「娥ノ字」
 「コモカムリ」「ハマナス」杯ノ名目枚挙ニ遑アラス
 二十三日晴、順風ナレトモ此地船ナシ、公儀御同心中村貞
 二郎ト云人、三ツ石辺引越ノ先触来リ、何レ今夜着故何卒

明日同船致シ呉度旨、村役人頼ミニ付止ムコトヲ得ス逗留ス、此モ只々六十石積ノ南部ノ雇切ノ舟ヲ借り出ス故ニ、我輩ヲ今日出帆サスレハ明日雇フヘキ船ナキ故ナリ、此地熊多ク当年モ馬三十疋斗トラレシト、可憐コトナリ、是モ山獵スルモノナク魚獵者ノミ故ニ、鉄砲ヲ執ルモノナキ故ナリ、何卒シテ鉄砲ヲ教ヘタキコトナリ、晩飯後（砂崎力）洲崎迄緩歩ス、玫瑰花ノミ、他ノ樹ヲ見サルナリ

二十四日朝陰、飯後役人ヲ呼出シ出船ノ可否ヲ尋ネシニ、中村ハ御用無之事ナレハ下サレ金モナキ故、陸ニテ驚ノ木へ跡歸ノ積リニナリシ由、サスレハ吾輩ノ一日遅滞ハ全ク無益ニナリタリ、之レ又止ムヲ得サルナリ、已上刻頃ヨリ艤シ船ニ乗ル、天漸晴、然レトモ少シモ風ナク実ニ静和ニ過タリ、午後西風少シ来リ、薄暮漸ク「モロラン」（室蘭）港ニ達ス、海上「ウスト」名クル水鳥ヲ見ル、大サ鳶ト齊シク羽毛モ殆ント似タリ、鴨モ数千群スルヲ見ル、晡時鯨鯢出没シテ海潮ヲ吹クヲ見タリ、実ニ生来始テノコト、其呼吸ノ

響十町モ隔テ螺鳴ニ異ナラス、実ニ壯觀ナリ、砂原ト「エトモ」ノ入港一大海ナリ、極目スヘカラス、三薇（榎）諸州ノ海ヨリモ広シ

二十五日晴、辰牌半会所「モロラン」ヲ発ス、「モロラン」夷家四百軒五百余人、調役一人下役一人、前田昌三郎ト云、此人御屋敷丸山詰塩瀬八重蔵兄ノ由、素ヨリ書状モ預リ来ル故直ニ逢ニ来ル、種々蝦夷ノ心得方ヲ聞ク、予酒ニ酔ヒ過キテ坐睡、要務ヲ聞カス、今朝又来ル、我輩逢ハス、然レトモ昨宵ノ礼ニ伊賀袴ニナリ出掛ニ尋ヌ、其ヨリ夷小屋ニ到リ夷人ノ熊ヲ養フヲ見ル、夷人ハ頭髮・髭ヲ剃ルコトナク只々口蝦夷ノコト故カ、頭髮ノ後ロヲ剃リ或ハ髭ヲ剃リタルモ往々見タルナリ、其ヨリ番人ト云フ者兩人羽織着用ス、夷人乙名見送り出迎、支配人出迎ヒ見送ル、夷人ニテ小遣ヒト云フ者一人、是夷人ノ役人ナリ、外ニ「セカチ」小童夷一人各馬ニ乗り送り来ル、番人一人嚮導ス、直ニ阪路ニ入ル、頗ル嶮難ナリ、一里斗海浜ニ出ツ、南部陣屋ヲ

建ツ、又数阪ヲ越シ「ワクイシ」ニ小憩ス、是レ「モロラ
ン」ヨリ夷一人ヲ出シ茶ヲ煮ルナリ、山ニ大木アルコトナ
シ、アレハ大半櫛ノ木ナリ、或ハ桑ノ木モ多シ、又一里許
「チリヘツ」^(知利別)ニ到ル、皆山路ナリ、此処又「ホロベツ」^(幌別)ノ
出店ナリ、之ヨリ半里許「エトモ」岬ノ山中ヲ越シ海浜ニ
出ツ、「ワシベツ」^(鶯別)川アリ、頗ル大川、「ザツコ」^{魚、鮎ノ如キ魚}多
シ、海浜芦・荻・玫瑰花ノ類尤多シ、山麓ヨリ海浜ニ到、
曠野漠々タルコト殆ント二里許広サ五六町、然レトモ水利
便ナラサル者ノ如シ、此間「オカヌカルベ」ト云処アリ、
家ナシ、又半里許「トンケシ」^(富岸)、之レ「ホロベツ」ヨリ夷
人出来リ行人ノ為ニ茶ヲ嚮ク、又半里ニシテ「ホロヘツ」
川ヲ渡リ「ホロヘツ」会所ニ止宿、「ホロヘツ」ハ大川ノ
義ト云、「モロラン」ヨリ此方会所・通行屋ノ外ハ皆夷人
ナリ○今日路傍牝鹿ノ飛フヲ見ル、鶯声ヲ聞ク、樹木・雜
艸殆ント内地ノ如シ、只松樹ナシ、且ツ一昨日以来暑氣甚
タシク、今日ノ如キハ炎熱甚シク不可堪ナリ○「モロラン」
ヨリ「ワシベツ」ニ到ルニハ「エトモ」岬ヲ廻ラサル故ニ、

遙ニ海浜ヲ右ニ見テ山中ヲ行ク、「ワシベツ」ヨリハ海浜
ニシテ平地砂路ナリ、故ニ風アリテ熱氣少ク堪ヘ安キナリ、
元来「モロラン」ハ東・西・北ニ山アリテ独南方海面ナリ、
故ニ蝦夷地第一ノ温暖地ト聞ク、サモアルヘシ、故ニ水利
便ナレハ田畑ハ定メテ内地ト異ナラサルヘシ、何分人少ク
且ツ夷人耕作ニ意ナシ、故ニ聞ケサルナルヘシ、惜ムヘキ
ニアラズ乎、從テ上下共ニ心ナク、所謂手ノ足ヲヌヨリ墾
田ナキト知ルヘシ○「モロラン」夷家四十三軒五百余人・
馬七十二疋アリト云、然レトモ近来通行多ク謠役^(徭)ニ窮スト
云、宜ナルヘシ、元来夷地ハ甚タ丁寧ニ過タリ、故ニ入用
モ莫大ナリ、不入案内者ヲ出シ夷人ヲ漫ニ使役ス、是入用
ニタヘサルノ基ナルヘシ

廿六日、「ホロベツ」ヲ出テ海浜ヲ行ク、山麓次第ニ遠サ
カリ広キ処ニ到リテハ溪間十五六町モアルヘシ、平夷ニシ
テ泥沢ノ如シ、其儘田地トナスヘキ者ノ如シ、行一里許「ワ
カシヘツ」有、又半里許一山ヲ越、嶺甚峻、登四五町絶頂

ニ至リ小憩所アリ、夷人出張ス、「ランホケ」(蘭法花)ト云フ、之ヨリ山路半里許、然レトモ甚タ平夷ナリ、而シテ遂ニ平原ニ出ツ、東・西・北ニ山アリ、只南面海ヲ受山ナシ、東・西風ヲ遮リ朝旭ヲ受甚タ温暖ナルヘシ、地面凡十四五町四方モアルヘシ、川アリ、「フシロヘツ」ト云、水田尤妙ナルヘシ、絶テ人歩ヲ費ヤサスシテ成功アルヘシト思フ、又山ニ上リ行十丁許「アイロ」又ヨトモノ通行屋ニ休ス、此処夷小屋四五十軒モアリ、中ニ川アリ、之ヨリ尚才海浜左方山麓ニテ平原三四丁許「ヒンナイブ」ニ到リ、尚才前路ノ如ク一里許「ホロナイ」(幌内)ト云、山麓ニ大沼アリト云、官道ヲ隔ツルコト二三丁ナルカ故ニ見ルコト克ハス、「ホロナイ」ヨリ又里許左折山麓ノ樹陰中ニ入り、清涼ノ氣ヲ受ケ初テ蘇生ノ心地セリ、二三丁ニシテ「シギウ」(敷生)ニ憩ス、偶路傍ニ牝鹿ノ臥スヲ見ル、又海浜ニ出ツ、山麓迄十五丁許アリ、一里許「トンケシ」ト云境塚アリ、又里許「ブウベツ」アリ、十丁斗ニシテ川渡リ舟渡ナリ、「シラオイ」(白老)会所ニ宿ス○「ホロベツ」夷人(家方)四五軒ト云、「シラオイ」モ四五

十軒ト云フ

廿七日、辰上刻「シラオイ」ヲ発ス、夷家八十軒許ト云、会所甚タ盛ンナリ、「モロラン」ノ部内ト云、故ニ「モロラン」ニ調役居リ、其ヨリ「ホロベツ」「シラオイ」皆下役・同心ノミナリ、行半里許「ヌマシリ」ト云、漁小屋アリ、海浜路次昨日ノ如シ、然レトモ川甚タ少シ、又十丁「オモツナイ」ニ到ル、鱒小屋アリ、此間二八取ト云テ請負人エ相談合ニテ二分八分ニ分ル由ナリ、「ユウブツ」(勇払)近ク迄此ノ如シ、浅川ヲ渡ル、川幅二三十間、「シヤタイ」(社台)ニ到リ小憩ス、夷小屋アリ、此間海浜萱草甚タ多ク今花盛ナリ、其外鋸切草毛薄紅白花一面ニ発ス、之レヨリ行クコト二里余「ユイトム」(小糸魚力)ノ通行屋ニ到リ休ス、一里行キ「トマコマイ」(苦小牧)ニ到リ又里許「マコマイ」ニ到リ小休処ニ憩ス、之レヨリ「ユウブツ」迄行程二里、今日ノ行程「シラオイ」ヲ発シテヨリ次第第二原野広ク、左方山麓迄八二十丁或三十町又ハ或ハ五十町位ノ平原ニシテ、「マコマイ」

ニ到リ西蝦夷「オタルナイ」ノ山ヲ背後ニ見テ終ニ北方ニ於テハ極目ス可カラス、真ニ江府ヨリ総房ノ諸州ヲ望ムニ異ナラス、此間川甚タ少ナリ(下脱)雖有小川、砂川ニシテ早魃多カル可シ、殊ニ土地砂土ニシテ水ヲ儲ヘス、恐クハ開墾難カル可シ、若シ之レヲ開キ得レハ幾十萬石ヲ知ラサル可シ、内地ニ此ノ如キ曠原、江府ノ外曾テ見サルナリ、舟泊ハ「ユウブツ」ニ到リテ始メテ泊ス可キ、サレ共良港トハ見ユサルナリ、「ユウブツ」ヨリ以東尚ホ遙山ノミ、平原知ル可カラス

○廿八日晴、辰中刻「ユウブツ」発足、大川アリ、板橋ヲ架ス、川幅凡ソ四五十軒(間)、甚深シ、行クコト一里、「トユウブツ」ニ到ル、此処ニ到リ左方ノ山少シク近キヲ覺フ、而後程ナク又広シ、然レトモコレモ小キ平山ナリ、之レヨリ一里(厚真)「アツマ」川舟渡シ、二三十間ノ川幅ナリ、水浅シ、直ニ「アツマ」(厚真)ト云小憩所ナリ、夷家四軒斗見受タリ、之レヨリ「イルシカベツ」ヘ一里、又「ユノロ」ヘ一里、此

間只々渺々タル平原ニシテ雜草モ少ナク、小茅ニ藺草多ク砂地ニシテ丈ケ甚タ短カク繁茂シ難キモノノ如シ、「ユノロ」ヨリ十一里斗(鶴川)、「ムカハ」ニ休ス、夷家十軒斗モアリ、然レトモ「アツマ」ヨリ以東「ムカハ」迄辺ニ到リテハ蒹葭・艾・款冬甚タ大ナリ、土モ砂地ニ非ス、且海浜ヲ去ルコト少シ遠シ、「ムカハ」川アリ、川渡シ大川ナリ、幅四五十間、是ヨリ十一里斗(マ)榑ノ平林ニ入り蒹葭・雜草甚タシク繁茂シ、「トンニイカ」ヘ一里、之レヨリ高阜甚タ多ク高低上下、サレトモ榑林尚前ノ如ク老樹數十困ノモノ多シ、「フエハフ」ヘ一里、「サルプト」ニ憩ス、是迄榑林ニシテ左方ハ幾里ナルヲ知ラサルナリ、「サルプト」「プト」ハ下ノ義ノ由、川アリ、大川ナリ、一丁余ノ川幅甚タ深シ、之レヨリ「トンニカ」ヘ一里、此間蘆荈甚タ大ニシテ馬上ノ人ヲ没スルニ到ル、此間ヲ行コト一里、川ヲ渡ル、舟渡シ(沙流)、「サル」ノ会所ニ止、今日ノ路程昨日ノ如ク原野ニシテ、渺々タルコト天ニ接スルナリ、且ツ昨日ヨリハ水多シ、サレトモ川低シ、便利如何アラン乎、且土モ黒砂ニシテ灰

ノ如キモノ多シ、考フ可キナリ○「サル」部落ニ夷家百九十軒斗アリト云フ

○廿九日、「サル」ヲ出直ニ左方小山ニ傍ヒ、右ハ海浜「ハキ」甚タ近ク纒ニ三四十間斗ナリ、「ハキ」マテ一里、「チヤラセナイ」小休処マデ半里、山腹岩石間ヨリ一面ニ清水流出ス、此山麓ハ到ツテ狭ケレトモ、田地ニハ為シ易カル可シ、其ヨリ一里半「フクモミ」ニ休ス、廿八丁「アツベツ」(厚別)川、大川舟渡シ、「アツヘツ」ニ小憩、之レヨリ「ニイカツ」(新冠)領、川畔ニ夷小屋一軒アリ、「ヌツト」ヘ一里、「ホロセツフ」川・「ホンセツフ」川是迄一里、「ヌツカ」川・「ヲコマサラ」川ヲ渡リ「ニイカツ」会所ニ止宿、午後「アツベツ」ヨリ海浜砂地ヲ行クコト一里余、又午前ノ如ク草間ヲ行クナリ、今日ノ路次兼葭生茂リタル中ヲ行キ、左右馬上ノ人ヲ埋没スル位ノ処多シ、午後ハ左方ノ山少シク遠方リ、「ニイカツ」近クナリテハ又平原甚タ広シ、今日ハ「サル」「ニイカツ」詰ノ大西榮之助ト云フ調役下役「ニ

イカツ」エ行クトテ始終前後シ、終「ニイカツ」会所ニテ会シ共ニ酒杯酌ミ止宿ス、「ニイカツ」詰ノ同心黒沢伝之丞モ来リ飲ス、一昨廿八日夜、「ユウブツ」ニテハ(白賀田)新御番目野田帶刀様ト同宿、抛ナク逢ヒタリ、此人ハ蝦夷図分間ノ新作製造御用ト見エタリ、又松平右京太夫様御家来市川十郎一学ノ子 兵学家ト云フ人ニ逢タリ、之レモ新図(作力)新名ノコトニ来ルト見エタリ、其外同行三四名モ有リト云、逢ハサリシ

晦、辰刻「ニイカツ」ヲ出、川アリ、舟渡シナリ、「シヌツ」迄一里、之レ「ニイカツ」「ウロキイ」ノ境、此間山脈多ク東方ニ流レ、海岸ニ於テ両山ノ間平原トナル処多シ故、北方ノ寒氣ヲ掩ヒ南陽ヲ受ケ、山腹ヨリ清水流出溪流ヲ為シ、田ヲ為スニ内地ニ異ナラサル可シ、且ツ雑草モ「ユウブツ」辺ノ平原ヨリハ繁茂長大セリ、土質モ頗ル宜シカル可ク見ユ、行クコト半里「シヒチヤリ」ニ小憩ス、夷小屋アリ、川アリ、舟渡シ、此間モ前路ノ如シ、此

ヨリ海岸一里半「ウセナイ」ニ午歇ス、番屋アリ、此間海岸ニシテ南北ノ平山故内地ノ模様知レ難シ、然レトモ多分溪間ノ平野ハ多カル可シ、之レヨリ「モンベツ」へ一里、川ヲ渡ル、舟渡也、此間又溪間田ト為ス可キ地多シ、南陽ヲ受甚タ妙、殊ニ往々自然ニ畦ノ如クナリテ、開墾人力ヲ勞セスシテ可ナル処アルヲ見ル、又「シツナイ」^(静内)へ一里、番屋アリ、小休処此間モ溪間平地甚タ多シ、流水モ亦多シ、山高カラス北方ヲ掩ヒ、南方ニ少シ高キ堤ノ如キ平山アリ、海風ヲ遮リ極メテ良田トナル可シ、雜草モ大ニナリ生茂セリ、人別モ六百人斗アリト云フ、調役下役兼鑑次郎ノ話ナリ、又同人ノ話ニ「ユウブツ」ヨリ「ネモロ」^(根室)へ牛四疋送ルヨシ、是レ山路ノ峻ク越スニ便ナルカ故ニ、追々蕃息セシメンカ為ナリト、「ウセナイ」ヨリ以東「シツナイ」^(久寿里||釧路)辺ハ海岸ノ面巨石多ク之レニ昆布ヲ生ス、之レヲ六月土用ヨリ取り干スト云、此節専ラ盛ナリ、海岸砂原悉ク昆布ヲ干ス、故ニ処々昆布小屋多シ、此辺ヨリ「クスリ」迄出ス処ノ昆布ヲ三ツ石昆布ト云、天下ノ名産ノ由、「シツ

ナイ」ヨリ「ブツシ」^(布辻)迄一里、此間海岸甚タ狭ク左ハ絶壁、風波ノ節ハ通行ナラスト云、且ツ昆布モ少ナキヤ、小屋モナク昆布取りモ見サルナリ、「ブツシ」「シツナイ」ト三石トノ境此辺又昆布多シ、「ブツシ」川ヲ渡ル、歩行渡リ「カシユシラリ」一里塚、之レヨリ三石会所ニ着、此間田ト為ス可キ地ヲ見サルナリ、着後当所詰同心古川綱藏来訪、請負人箱館小林屋十吉、支配人長藏ト云

七月朔、辰牌三石ヲ発シ海浜ヲ行クコト五六丁、三石川アリ、幅三四十間、川源深キカ深カラスト雖トモ頗ル急流也、此処溪間ノ平原ニシテ幅六七丁モアルベシ、大川ナル故佳地ト云フ可シ、此ヨリ又山ヲ左ニシ崖下ヲ行ク、波濤山ノ如ク往々馬足ヲ湿スコトアリ、慣レサルコト故最初ノ程ハ甚々恐ルレトモ、終ニ四五丁モ行ク中追々馴レ、却而好ヲ余^(テカ)波上ヲ行ク、実ニ万里東海他所ニテ不可見也、予崎陽ニ到リ山陽・五畿・東海・北陸ヲ通行スルト雖トモ、未タ曾テ此ノ如キ地ヲ踏マサルナリ、実ニ意外ノ事ナリ、之レヨリ

「ヲラク」エ一里東西ノ浜間アリ、東南ニ面ヲ開ク、此溪間東方ニ殆ント行キ詰ル処アリ、「マフ」エ一里ノ標柱アリ、此処ニ小憩、之レヨリ東南ニ山ナシ、「ケレマフ」(舞)川アリ、水浅シ、歩行渡り幅四五十間アリ、此地雜草甚タ高ク生茂ス、恐ラクハ開拓ニ佳ナラン、溪間ノ深淺ハ測ル可カラス、「ケリマフ」ヨリ十丁斗「ヲニウシ」海岸砂路些少ノ溪間アリ、本「ウラカワ」(元浦河)ニ休ス、之レ又山麓ノ海岸ニシテ十丁斗絶壁下ヲ過ク、其後平山ノ海岸ヲ行キ一里ニシテ「トヤイ」(井寒台)ニ到ル、「イカンタイ」ヲ徑一里ニシテ(向別)「モコベチ」ニ到ル、此間開墾佳地ト思フ処少ナシ、内地ハ知ラサルナリ、「モコベチ」ヨリ五六丁ニシテ「ウラカハ」(浦河)会所ニ午休ス、凡テ本「ウラカワ」ヨリ「ウラカハ」ノ間、左ハ山右ハ大海、經過スル処ノ路甚タ狭シ、秋日大風ノ節ハ過半通行難カル可シ、「ウラカハ」ヨリ「ホロシユマ」エ一里、此間平山ナレトモ山路ニシテ左右共狭シ、溪間モ開拓ス可キ余地ナキヲ覺フ、且ツ山モ低キ故溪水乏シク水利宜シカサル者ノ如シ、「ホロシユマ」ヨリ広袤凡二十丁

四方モアル可キ平原アリ、雜草繁茂シ折々小沼アリ、東極ニ「ホロベツ」(幌別)川アリ、南陽ヲ受ク、此地今日中最第一ノ開拓場ト覺フ、川源モ定メテ深カル可シ、「ホロベツ」ニ小休シ四望スルニ、大抵水利モ足り又可シト覺フ、内部ノ広狭ハ論セス、回顧スルニ千石ヤ二千石ノ田ハ出来又可シト思ハルルナリ、之レヨリ又海岸絶壁下ヲ過キ、始終馬足ヲ波浪ニ侵シ行クコト半里余ニシテ左折シ、山路ヲ經頗ル嶮ナリ、九折ヲ過キテ山路七八丁ニシテ、又海岸ニ出テテ「ソヲヒラ」ト云フ一里塚ニ到ル、之レヨリ五六丁ニシテ海湾ヲ廻リ「シヤマニ」(嶮)ニ到リ会所ニ宿ス、此処山路ノ嶮岨ヲ經スシテ「シヤマニ」ニ出ル海岸アリ、此ヲ「シヤマニ」岬ト云、此岬満潮ノ時ハ海岸通セス故ニ山道ノ嶮ヲ過ルナリ、遠望スルニ実ニ怪岳奇石ノ絶壁ニシテ尤モ恐ル可キノ地勢ナリ、今日ノ嶮ハ却而天幸ナランカ、「シヤマニ」ハ一港湾ニシテ可成ニ小船ヲ泊ス可シ、其地形小箱館トモ云フ可シ、南方開テ居ル故雪モ少ナク暖ナリト云、然レトモ東大海ノ波濤ノ程能ク遮ルコト能ハサルカ故ニ、濤声ハ

尚「ニイカツプ」其他ノ地ニ異ナラス○「ホロシヌマ」ト
 「ホロベツ」ノ間、「ウラカハ」ト「シヤマニ」ノ境目ノ
 柱アリ、今日ノ草木、猶・楓・葡萄・山黄櫨等多、草ハ虎
 杖・艾・款冬・蒺藜殊ニ多シ、山野共鹿多シ、又海中ニ大
 石アリ昆布茂生ス、故ニ海浜昆布小屋夷人多シ、「ニイカ
 ツプ」夷人二百余、「ウラカハ」夷人六百余、「シヤマニ」
 夷人六百余人ト云、「ユウブツ」辺ヨリ昨日マデノ処、海
 岸巨木漂着スル者夥シ、今日ノ海浜甚々稀ナリ、何ノ故タ
 ルヲ知ラサルナリ、海上雁ヨリ余程大ナル水鳥ヲ見タリ、
 其名ヲ知ラス、羽毛ハ鳶ノ如クニモアラン乎、遠見其詳ヲ
 知ラサルナリ

初二、「シヤマニ」会所ヨリ直ニ左折シ、山ニ登ルコトニ
 三丁九折峻嶮ナリ、下阪モ亦然リ、而シテ一溪原ニ出ツ、
 此処茶ノ如キ灌木一面ニ叢生ス、長サ二三丁位、深淺ハ知
 ラサルナリ、「モンベツ」^(門別)ト云小川アリ、一里標ナリ、「シ
 ヤマニ」会所ヨリ是迄廿五丁余ト云フ、之レヨリ海浜石路

甚々悪シ、些子ノ溪原許多アリ、其狭キ処ニ到ツテ纔ニ五
 六間位ノ広サニ到ル、皆川アリ、「フユニ」ニ到ル、是又
 一里標、之レヨリ海岸絶壁下ニシ右方ノ大瀟甚々近ク、且
 石路ニシテ石ノ大サ人頭或ハ山路ノ如キ大石ニシテ、馬足
 モ立チ難キ処凡十丁余尚ホ海岸ヲ行ク、左山多少ノ遠近ハ
 アレトモ原上ナク、此ヨリ嶮山ニ上リ高低十余丁ニシテ
 「コトニ」ト云処ニ休ス、此迄ノ山ハ海浜ナレトモ樹木多
 キ方、殊ニ「コトニ」ノ前山ニハ椴・楓其外樺杯大木ヲ見
 ル、又一嶺ヲ越ス、頗ル嶮ナリ、今日「シヤマニ」ヲ出テ
 凡十丁斗ニシテ急雨盆ヲ傾ク、折々間斷アレトモ此嶺ニ上
 ル頃ヨリ尤甚シク馬上甚々危シ、依テ徒行ス、番人云フ、
 海岸ヲ過クレハ一里ノ捷徑アリト、即チ嚮導ニ從ツテ右折
 斜ニ樵路ヲ下リ海浜ニ出ツ、「エハオイ」浜ト云、幸ニ退
 潮ノ折ニ逢ヒ左ハ千仞ノ絶壁巨岳崎峙、足底ノ巨石或ハ犬
 牙或刀刃ノ如キ石上ヲ過キ、或ハ昆布海生茂リ滑ニシテ足
 ノ止ムル可キ地ナキヲ過クルコト十四五丁、「ツバトイ」
 ト云岬ニ出シ処、折節風荒ク波濤石間ニ来ルコト如奔馬、

纒二二三間ノ処行ク可カラス、已ムコトヲ得ス一丁斗退行シ、念仏坂ト云フ処ヲ越ユ、路ハ更ニナク岩角ヲ攀チ草根ヲ取り、四ツ這ニシテ辛クシテ上ルコト一里半許、実ニ万死ヲ免ルル斗リナリ、又阪ヲ下ル、草高クシテ行歩スルコト難、然レトモ山陰故折ニハ樹木アリテ之レヲ執リ又小笹杯ヲ握リ終ニ懸崖ヲ下リ、辛クシテ「ホロマンベツ」川ヲ渡リ、「ホロマンベツ」ニ午休ス、此川頗ル大河ナリ、実ニ此行中ノ大難ニシテ満身皆湿レ衣ヲ改ント欲スレハ更衣モ亦湿ル、実ニ旅中ノ辛苦今日始テ知ルト云フテ可ナリ、「ホロマンベツ」ヲ出テ急雨尚ホ滂沱、海浜ヲ行キ「ニカンベツ」ト云フ、此間ニ一里標アリ、其名ヲ失ス、此左方ニ曠原ニ処アリ、川アリ、頗ル広シ、サレトモ雲煙濛々寸尺ヲ分タス、殊ニ午前ノ疲労其状ヲ詳ニセス、帰路ニ記ス可シ、「ニカンベツ」、「シヤマニ」(峴泉)「ホロイツミ」ノ境ナリ、又「ホンウエンコタン」一里標、小流アリ、是モ原上ナリ、又「エルモ」一里標、是又原上川アリ、其形状ヲ詳ニセス、其ヨリ六丁「ホロイツミ」会所ニ宿ス、今日經過ノ地、雨

中精細ナルコト能ハス、多分開墾妙トハ言カタカル可シ、何トナレハ平原高ク水流低キカ故ナリ、海浜ハ凡テ昆布甚々多シ、陸ニハ鹿尤多シ、野馬モ亦然リ、「シヤマニ」ハ一湾港ニシテ形状殆ント箱館ノ如シ、只其小ナルヲ異トシ、且ツ南方ノ山尤モ小ニシテ一大岳石ノ如シ、惜ム可シ、サレトモ是迄經過スル港ニ比スレハ箱館以来ノ港ト見ユ、西風ニハ堪フ可カラサルモノノ如シ、海中ニ五六本杭ヲ打立、之レニ船ヲ繋ゲリ、且数十艘ノ船并ニ大船ヲ繋ク可カラサル者ノ如シ、人口六百人斗ト聞ク、「ホロイツミ」一小湾ニシテ東西ニ山ナシ、然レトモ十数艘モ繋ゲリ、佳港トハ見エサレトモ是又海中ニ杭ヲ打テ之レニ繋ク、海中深キヤ頗ル大船ヲ繋ケリ、四五百石ノ船ト見ユ、「エハライ」浜ニ於テ石間ニ鯨骨ノアルヲ見タリ、長サ九尺余、大サ六七尺、大樹ヲ打割タル物ノ如シ、下齶骨ニモアラン乎、其外弓状ノ肋骨尤モ多シ、周圍五六寸・長サ六尺位、甚々珍希思フユヘ記シ置ク、其他岬石中鯛ノ疵ツキ死スル者數フルニ違アラス、大魚ノ為ニ死スル乎、鷗ノ故力事実ハ知ラサ

ルナリ、今夜濤声稍静穩ナルヲ覺フ、四五日以来ナシ事ナリ、佳港故力又波濤穩ナルカ且ツ我輩ノ疲労甚シキカ知ル可カラス

初三、辰牌「ホロイツミ」出立、十丁斗「ユルフル」ト云フ処ヨリ小高キ岡ニ登ル、十丁斗ニシテ大樹ナラサル(ヤマ)柏の木生茂シ夷小屋二十軒モアリ、「ケレフシ」ニ小休ス、之ヨリ一里斗ニシテ山上ノ平岡ニ到ル、右左ノ樹木大木多クシテ広狭見ル可カラサル処多シ、之レヨリ十丁余(歌別)「オタバツ」川ヲ過キ一山嶺ニ上リ、山頂ヲ行クコト一里許此間左右溪間密鬱林、正北ニ「アフチ」山ヲ望ムノ外、更ニ他物ヲ見ルコト能ハサルナリ、已ニシテ一溪間ニ下ル、又一山ニ上ル、「アフチ」ノ一里塚アリ、其ヨリシテ三四嶺ヲ越エ「アフチ」ニ午休ス、是迄開墾モナスヘキ地ハ「コルフル」ヲ上ル処ニ一溪アリ、然レトモ甚々小ナリ、右越ユル処ノ山ハ皆「アフチ」ノ支山也、「アフチ」ノ休処ヨリ(襟裳)「エリモ」岬ヲ正南眼下ニ見ル、其光景画筆モ及ハサル

可シ、「アフチ」ヨリ樹木漸少シ、一両山ヲ越エ一大溪間ニ出ツ、茂林陰森殊ニ大木多ク天日モ掩フ有様ナリ、之レヨリ「シトマンベツ」ニ出ツ、尚ホ山嶺ヲ越ユルコト数次、(猿留)「サルル」峠ヲ下リ(豊似)「トヨニ」ニ到ル里標也、「サルル」峠ヨリ左ハ池沼ヲ眼下ニ見ル、方五十間位、其深サ知ル可カラス、水色紺碧可恐勢ナリ、土人云、此沼神靈アリテ昔ハ旅人ヲ馬上ヨリ卸スト云フ、近来公儀御役人ハ憚リナク御通行ト云フ、只不思議(議)ハ秋葉四辺ヨリ落ルト雖トモ一葉ノ水面ニ在ルヲ見スト、奇ト云フ可シ、右ニ東海ヲ見、背後ニ「アフチ」山ヲ仰ク、前後ノ支山波濤ノ如ク実ニ一壯觀ト云フ可シ、「サルル」峠ヨリ二三丁ニシテ「トヨニ」、之レヨリ十丁斗ニシテ沼池ヲ背ニシ、一小山ノ右側ニ出テテ下ルコト二十丁、終ニ溪間ニ到リ溪流ニ随ツテ「サルル」川休処ニ休シ、同川ヲ越エ密林平岡ヲ過クルコト十丁斗、小川三ツ四ツヲ渡リ山腹ヲ上下スルコト五六丁、平林密樹殆ント日光ヲ仰カサルノ地ヲ離レ、直ニ「サルル」ノ里標ヲ過キ番屋ニ宿ス、此地馬ナシ、夷人ナシ、只往来ノ為ニ

設クル也、故ニ不自由也、酒モナキナリ、今日ノ山越東蝦夷中ノ絶嶮ト云フ、山路峻嶮甚々多シ、且ツ終日山ノミ、今夜海岸近シト雖モ更ニ濤声ヲ聞カサルナリ、昨日雨後ノ為カ今日ハ甚々寒シ、単物・襦袢・袴・合羽ニテハ不可忍、蝦夷地ノ寒冷始テ知ルナリ、明朝如何、四更後寢ス

初四、「サルル」ノ番屋ヲ發ス、此処会所ナシ、只ニ旅人通行ノ為ニ設ケタル一軒家ナリ、之レヲ番屋ト云フ、只ニ一人一僕位ニテ住居スル由、此所ハ尚ホ「ホロイツミ」ノ持場ナリ、故ニ漁獵其外産物ハナキ処ナリ、然レトモ海浜ナリ、定而産物ナキ所ナル可シ、海岸ニ從ツテ東南(北)ニ行ク、左ハ山右ハ波際砂石道ナリ、折々昆布小屋アリ、一里半斗「ビタタスンケ」ト云フ小休所ナリ、之レヨリ左折シ山路ニ入凡十余丁斗ニシテ「ビナイ」ト云フ里標アリ、「サルル」(十勝)「トカチ」ノ境ナリ、一溪間ニシテ溪水ヲ渡ルコト十余度斗、蜜樹幽林白昼モ尚暗シト云フ斗リノ山陰ヲ高低上下シ、漸次ニ登リ棧道ヲ渡ル、故ニ馬ヨリ下リ雲梯屈曲九

折シテ「オクチシ」ニ到ル、此処絶頂ナリ、「ビタタスンケ」ヨリ一里、直ニ下リ屈曲九折羊腸ハ前路ノ如ク、只ニ溪水ヲ渡ラサルヲ異トスルノミ、然レトモ峻嶮ナルコトハ前路ヨリ甚シ、半里斗ニシテ「オシラベツ」(音調津)ニ午歇ス、今朝ヨリ是迄ノ山脈ハ皆「アブチ」山ノ支山カト思フナリ、樹木ハ楓・槐・柏・榛尤多シ、路傍ノ草花少ナク小竹ノミ多シ、昨日ヨリハ草木皆大ナル方トス、就中虎杖ノ大ナルヲ見ル、然レトモ路道広ク「アブチ」峠ノ如ク峻嶮ナラス、且ツ海浜却テ寒ク、山間ニ入りテハ風ナク暖ナルヲ覺フ、然レトモ綿衣ニ非サレハ佳ナラス、時氣茲ニ於テ大ニ異アルヲ覺フ、午後「オシラベツ」ヲ出テ溪間ノ平原ヲ下ルコト六七丁、此間密樹陰森初ノ如シ、其ヨリ高低上下溪水ヲ越ユルコト十数度ニシテ「ヨリコマナイ」ニ出ツ、一里標ナリ、此処海岸ニシテ出岬アリ、左方溪間ノ平原ニシテ広サ二丁斗、長サ三四丁ニシテ兩岐ス、右溪間ノ山麓ニ從ツテ入ル、十丁斗モ草原ヲ見ル、川モアリ、土質モ粘土ヲシク、今日徑過ノ路途開墾第一タル可シ、左方ノ原ハ知ラス、

何ニシテモ大原ニハ非サルナリ、只東方開ケ太陽ヲ受ケ、温暖ナル可キト思フ斗ナリ、樹木ハ榛ノミ多ク他ノ樹ヲ見サルナリ、草ハ甚々繁茂セリ、右ノ山麓ヲ上ルニ從ツテ漸次ニ草原尽キニ三嶺ヲ越ユ、頗ル嶮ナリ、然レトモ大山ニ非ス、是海岸嶺石通ス可カラサルカ故ナリ、之レヨリ「ホシヲノウベツ」ト云川ヲ渡リ一里標ニ出、此処海浜ナリ、又海浜ノ山頂ヲ高低上下スルコト数次ニシテ「ボピヤ」ト云里標ノ処ニ出ツ、其十丁斗尚ホ山路ノ海岸ヲ經、遂ニ原上ニ出テ頗ル大川ヲ渡リ、又平岡上ヲ過キ「トカチ」(十勝) 一名「ビロウ」(広尾)会所ニ着ス、今日午後雲煙濛々咫尺ヲ分タス、故ニ山上ヨリ只ニ濤声如雷ヲ聞クノミニシテ更ニ海面ヲ見サルナリ、故ニ原野ノ如キモ亦然リ、其形勢ヲ知ラサル者アル可シ、帰路ヲ期シテ探索ス可シ、午後行歩セス、馬上故カ山間モ亦冷、綿衣一枚ニテハ堪フ可カラサル者ノ如シ、宿主杯炉ニ武火ヲ起シ室ヲ温メテアリ、時氣兩三日以前ト大ニ異ナリ、此地ヨリ熱度大ニ異ナリト云フコトヲ聞ク、定メテ然ル乎、此後如何アラン、今日鶯声ヲ聞、鹿ヲ

見ル、蛇ニ疋ヲ見タリ、然レトモ昨日鹿ヲ見ルコト百疋ニモ到ル、今日ハ至ツテ少シ

初五、辰半刻頃「ビロフ」(ウ)ヲ発ス、「ヒロウ」会所ハ東南ニ面ス、然レトモ平岡上故ニ濤声モ甚々シカラス、且ツ高キ故波際迄ハ甚々遠シ、一丁余モアル可シ、一湾曲ヲナシテ船モ繫杭ニテ止ル由ナリ、昨日以来雲煙甚シク、実ニ糲糊トシテ咫尺ヲ弁セスト云フテ可ナリ、故ニ其形勢ヲ詳ニスルコトヲ得ス、帰路ノ晴日ヲ期スルナリ、番屋ヲ出テ直ニ右折シ、平岡上ヲ行クコト四五丁ニシテ「ラツコベツ」(樂古川)ヲ渡ル、川幅二十間斗又平岡ニ上リ十丁斗一小湊アリ、尚ホ平岡上ヲ行クコト十余丁ニシテ「ノツカ」(野塚)川ニ出ツ、川幅四十間斗モアリテ川中ニ洲アリ、林ヲ為ス、此迄ノ二平岡左ハ密樹陰森、右方ニハ濤声脚底ニ轟キ、四望スルニ雲霧糲糊方十間位ノ外ハ絶シテ一物ヲ見ルコト能ハス、右方海岸迄二三十間位ノ茅原ニシテ、其曲直長短同シカラスト雖モ、殆ント其形勢ヲ異ニスルヲ見ス、「ノツカ」小休処

アリ、其ヨリ原上ニ上リ行クコト二三丁ニシテ、終ニ蜜林
 深樹中ヲ過クルコト五六丁濤声漸ク遠ク、又初ノ如ク海岸
 岡上ニ出テ林樹無キ処ニ出ルコト前路ノ如ク、平岡ヲ行ク
 コト半里余（シマウシ）「シマウチ」ノ小川渡リ、又原上ヲ行クコト小
 半里ニシテ（豊似）「トヨキ」川ヲ渡ル、川幅二丁斗モアル可シ、
 中洲ニ茂林アリ、数支ノ細流トナル、又自ラ池沼ヲ為ス処
 モ見エタリ、又平岡ニ上リ「アイホンマム」ニ午休ス、此
 処東南ニ面シ平岡上ニシテ甚タ高シ、少シ左海岸ニ於テ漁
 小屋一軒ヲ設リ、午前過クル処ノ路傍ノ草木ハ柏ノ木・
 榛・楓・樺・柳・茅・艾・薇・小笹等ナリ、就中柏ノ木十
 ノ八九ニ居ル、路右海岸ニ近キ処ニ於テハ玫瑰花甚多シ、
 「アイホンマム」ヲ出テテ平岡漸次ニ低クナリ三四丁ニシ
 テ細流アリ、之レヨリ大ニ低下シ殊ニ午後ハ雲霧消散シ、
 四顧始テ明カニ遙ニ遠山ヲ望ムコトヲ得、近キモ一里余、
 遠キハ二三里モ隔ツルナル可シ、東北ノ方ハ目ヲ極ム可カ
 ラサル程ノ原上ナリ、「ユウブツ」（勇私）以來ノ大原ト云フ可シ、
 「モンベツ」（紋別）川アリ、密樹深林中ヲ過キ（心）「ペロツナイ」川

ヲ渡ル、此川蝦夷中三大川ノ一ト云フ、川幅モ五丁余、中
 ニ鬱林深樹ノ島多シ、故ニ別レテ五流トナル、就中二流ハ
 水勢頗ル急ナリ、今日ノ如キハ水枯レテ馬腹ヲ湿ササルニ
 馬下流ニ流ルル勢アリ、夏時大雨又ハ雪解ノ時又ハ平常東
 風暴ナルトキハ怒浪河中ニ侵入シ往来ヲ止ムルト云フ、之
 レヨリ樹木モナキ茅原ヲ行キ、「アエホマ」ニ到リ小休ス、
 尚ホ平原ヲ一里斗行キ「テセキ」ヲ過キ（当縁）「トオファイ」ノ番
 屋ニ宿ス、午後（歴舟）「ペロツナイ」川ヨリ以東、真ノ平原ニシ
 テ茅・笹多シ、雜艸モ少シ、土質ハ粘土ニシテ砂地ニ非サ
 レトモ、原野高ク水氣少ナキカ又ハ海風暴ニシテ草木生茂
 セサルカ、其因ヲ知ラサルナリ、今日経過スルノ地大半平
 原ニシテ大川多ケレトモ、原ハ甚タ高ク水ハ低ク甚タ開墾
 難キ地ト覺フ、其上山ハ遠ク海浜モ産物少ナキ由、行程七
 里八丁ノ中、夷小屋一軒ヲ見サル也、之レ生産難キカ故ナ
 リ、「ピロウ」領ニハ夷人七八百人アルヨシ、「トオファイ」
 ハ会所ナク番所（屋）ノミニシテ、畢竟旅人通行ノ為斗ナリ、之
 レ生産ナキカ為ナリ、「トウファイ」ハ東南ニ面シタル処ノ

ミニシテ、「トカチ」^(ヒロフ)ヨリハ尚ホ北方ニ入込ノ地ナリ、サ
レトモ南方ニ面スル故力、今夜ハ昨夕ヨリハ暖ナルヲ覺フ、
午後晴天ノ故力、明日ニ到リテ知ルベシ〇「オシラベツ」^(音調津)
ノ岬ヲ西南ニ出テテ遙ニ見ユルナリ、今夜初テ鶴鳴ヲ聞ク、
番屋庭前鶴鶴ノ如キ鳥ニシテ稍大ナル者ヲ見タリ、路傍ニ
蘭草自然ニ生セリ、「ペロツナイ」川ノアタリニ大款冬葉
アリ

初六、「トウブイ」此地昨日ノ続キニシテ平岡ナリ、東南
ニ海ヲ受ケル、「ベルベツ」西南ニ突出スト雖遠クシテ船
ヲ錠泊スヘキ港湾ニ非サルナリ、辰半時番屋ヲ出テ直ニ左
折シ「トウブイ」^(ママ)の沼ニ下ル、沼の左右ニ平原アリ、海
浜を過クルコト五六丁、高阜下ニ出テ行クコト二三丁
^(ホロカヤントー沼)
「ホルカヤニ」湖ニ出、此湖幅一丁半斗ニシテ長サ十丁斗
ト見ユ、北辺漸次ニ狭シ、又高阜下ノ茅原上ヲ行ク、此原
波際ヲ去ルコト二十間又ハ三十間位ニシテ、玫瑰・覆盆
子・防風ノ外他草ヲ見サルナリ、此間三十丁斗ニシテ「オ

ンネナイ」ヲ過キ、尚ホ高阜下ヲ行クコト五六丁ニシテ高
阜ヲ離レ海浜砂原ニ出ツ、之レ「オイカマナイ」^(生花苗沼)湖ノ東畔
ニシテ左ハ湖水、右ハ海潮、纔二十間斗ノ砂原ナリ、此湖
周廻二十丁位ノ湖ニシテ川魚甚タ多キ由、此原ヲ行クコト
半里余ニシテ一山ノ断崖下ニ出ツ、爰「ソココキ」ト云、
尚ホ山麓下海浜ヲ行クコト七八丁ニシテ「ユウト」^(ユウトウ)ニ到
ル、「ユウト」^(湧洞沼)湖南北ニ長ク一里余、其幅三四十間或ハ五
六十間、北辺ヲ湖頭トス、尤闊シ、^(三)三又ニシテ山間ニ入ル、
広狭深淺一ナラス、北頭ノ者尤モ深ク五六丁位、中央ノ者
一丁半位、南辺ノ者到テ淺シ、其広サモ亦之レニ順ス、西
南ノ湖中ニ出ル岬ニ漁屋一軒ヲ設ク、此湖畔ノ砂原ヲ行キ、
左ハ湖右ハ東海、大雨ノ時ハ此砂原ニ溢流シ海水ニ注ク由、
故ニ此湖中海魚夥シト云フ、此湖周囲三里余モアランカ、
湖畔ノ砂原ヲ行クコト十丁斗ニシテ草原トナリ、漸次ニ湖
水ニ遠サカリ、纔ニ山麓ノ海岸ニ出ツ、之レヨリ蘆葦・虎
杖甚タ高ク、殆ント路モナキカ処ノ中ヲ過キ又溪間ニ出ツ、
「チカホシヤニ」ト云、其ヨリ山麓初ノ如ク又「チフラフ

シトウ」「クリカヤニ」等ノ溪間ヲ過キ、「(長節)チヨウフシ」湖
 二出ツ、此湖今日ノ第二ト云フ可シ、「ユウト」ヲ第一ト
(ホロカヤニ)
 シ「ホルヤニ」ヲ第三トス可シ、「チヨウフシ」湖南北十
 丁斗、三四十間岐シテ溪間ニ入ル、北ノ方尤モ深ク五六丁
 モ入ル、南ノ方ハ一丁斗モアル可シ、此ノ湖ノ東岸ヲ過ク、
 即チ海浜ノ砂路ニシテ雜草繁茂セリ、湖畔ヲ行詰リ又山麓
 海浜ヲ行クコト五六丁ニシテ「トンケシ」ノ原ニ出ツ、此
 原東西一里半、南北三四里斗モアル可キト思ハルル広原ナ
 リ、(ママ)原往ニ小沼ヲ見受タリ、此原川涯ノ処(大津)「ヲホツナイ」
 番屋ニ宿ス、今日経過スル処平原低ク、殊ニ湖水ノ周圍悉
 ク良田トナル可シ、且ツ「トンケシ」ノ原ハ茫茫タル広原
 ニシテ水沢モ多ク、東方打開ケ田地トナサハ十万石位ハ容
 易ナル可シト思ハル、近日此ノ如キ地ヲ見サルナリ、今日
 過クル処ハ樹木ハ遠クシテ分明ナラス、草ハ花菖蒲・覆盆
 子・防風・女郎花・蘆葦等ハ多シ、漂木并ニ鯨ノ脊骨漂着
 スルヲ見タリ、鷗・鹿ヲ多ク見受タリ

初七日、「オホツナイ」番屋ニシテ「トカチ」持ナリ、海
 岸平原中ニシテ魚獵ハアル由ナレトモ好港ニ非ス、船ヲ泊
 ス可キ地ニ非サルナリ、辰刻番屋元ヨリ直ニ川ヲ渡ル、川
 幅凡一丁位、水深ク船渡シナリ、夷女三人船ヲ使フ、其欸
 乃曰、「ヤサホンケ」ト一人云フ、声ニ応シテ衆人同声ニ
 「ヤサシユラエ」ト呼フ、其間揺櫓甚々穩ナリ、將ニ河涯
 ニ近ツカントスルトキ櫓ヲ速シテ、「サオラーヘ」ト同声
 ニクリ返シクリ返シ急ニ唱フルナリ、而シテ船ヲ海浜ノ砂
 原ニ達ス、此ヨリ「オホツナイ」川ノ一支流ヲ左ニシ、海
 浜ヲ行クコト凡二十丁斗ニシテ、支流尽ル処ヨリ草原ニ上
 ル、此原東西半里余南北二三里モアラン乎、蓋シ昨日通行
 ノ「トンケシ」原ト「オホツナイ」川ヲ隔ツルノミニシテ
 一広原ナラント思ハル、此原ノ中程ニ墩木アリ、「トイト
(十勝)
 コ」ト云、此処ヨリ原中沼池甚々多シ、原野行詰ル処即チ
 「トカチ」川、蝦夷第二ノ川ト云由、西蝦夷石狩川ヲ父ト
 シ、此ノ川ヲ母トスト云、川幅百間斗、中ニ洲アリ、船渡
 シ、水甚々深シ、北岸ニ夷小屋四五軒有、憩処ヲ設ク、之

レヨリ小山ヲ越ユ、上リ二丁斗頗急ナリ、直ニ山上ノ平林中ヲ行クコト二三丁斗、之レヨリ右辺ニ下リ山麓ノ海岸ニ出ツ、此山古昔短人住居スト云フ、故ニ山中処々小穴居ノ痕アリト云フ、此山「トカチ」山ト名ク、之レヨリ海岸ヲ行クコト半里余、左右皆款冬ナリ、大サ五六尺、「クマノユビラ」ト云フ塚木アリ、一溪原ヲ見ル、小ナリ、尚高山麓ヲ行コト一里「チカホヤニ」ト名ク、此処ヨリ十丁斗ニシテ小川ヲ渡リ「ヲコツベツ」ニ午休ス、「ヲコツベツ」ヲ出テテ直ニ山路ニ入ル可キニ、海浜捷徑(巻)ヲ經一岬端危嶺怪石、馬足モ立難キ処ヲ過キ、海浜砂原ヲ行クコト初ノ如シ、塚木アリ、「オニオフ」ト名ク、尚高原上ヲ行キ塚木アリ、「オトンベ」ト名ク、又「ココキ」ト名クル塚木ヲ見ル、此ノ「オニオフ」ヨリ「ココキ」ノ間、往々溪間ノ平原大小高低同カラス、且ツ水利ノ有無モアルナリ、之レヲ約スルニ大ナル原一二丁ニ過ル者ナシ、且ツ此辺開墾セハ「トイトコ」原ヲ以テ足レリトス、且ツ午後ハ馬足駿疾、其詳ヲ知ルコト能ハス、「ココキ」ヨリ半里斗(直別)「チユクベツ」

ト云小川アリ、之レ「トカチ」ト(久寿里川別路)ノ境ナリ、之レヨリ海浜廿余丁斗ニシテ「シヤクベツ」(尺別)番屋ニ着ス、今日過クル処草木・鳥獸異ナル者ヲ見ス、土質ハ海浜ハ砂原ナレトモ草原ハ薄赤土ニシテ雜草能ク生茂セリ、「トカチ」川ノ川源ハ四五十里モアル由、此川源ニ夷人多ク住ス、所謂会所・番屋杯ノ指揮ニ応セサル夷人アリト云フ、然レトモ平人熊羆ノ害アル故ニ尋ヌルコト能ハスト云フ、可惜事ニ非スヤ、昨日松前家中工藤九郎左衛門ニ逢フ、此人ハ昨年来「エトロフ」(択捉)詰ノ処、此節御引渡相濟歸路ノ由、其話ニ「エトロフ」杯先年御公領ノ節ハ千人余人別、此度ハ終ニ四百八十六人ト云フ、「クナシリ」(国後)杯七八百人ノ人別ノ処、今ハ九十人余人ニナルト云フ、歎息セサル可ニ哉、何トカ蕃息セシムルノ術アル可キカ、有志輩考フ可キ事ナリ初八、「シヤクベツ」番屋元ヨリ直チニ「シヤクベツ」川ヲ渡リ船渡シナリ、川ヲ左ニシ海ヲ右ニシテ、纔ニ四五十間ノ砂原ヲ行クコト一二丁ニシテ「オンベツ」(音別)ヲ渡ル、之

レモ二三十間斗ナレトモ川至而深ク船渡シナリ、此処モ亦纔ノ砂原ニシテ波濤砂原ヲ打越スコト数々ナリ、之レヨリ二三丁斗ニシテ漸ク茅原ニ出ツ、此原広サ方二丁斗、之レヨリ山麓ニ沿ヒテ此間左ニ遙ニ男(雄 阿寒岳)「アカノボリ」・女(雌 阿寒岳)「アカンノボリ」ヲ見ル、此ノ山麓右方海岸迄ハ二十間或ハ三十間位ノ原野アリ、一塚木アリ、「チノミ」ト名ツク、之レヨリ行クコト半里許、左方ノ山間断スル処アリ、望見スルニ密樹陰森トシテ内形知ル可ラス、之レヨリ山麓ノ茅原ヲ行クコト半里許ニシテ長短断補方十丁斗ノ茅原アリ、東頭ニ中央ヨリ流ルル川アリ、原尽クル処ニ塚木アリ、「ハスクロ」ト云憩所ナリ、此ノ山麓モ亦初ノ如ク凡方一二丁位ノ原ニツアリ、各細流アリ、其ヨリ「オシヨロコツ」ト名クル塚木アリ、此山上ニ源判官ノ曾テ憩スルト云旧跡アリト云、又山麓ヲ行キテ半里斗終ニ平原ニ出ツ、此原方二三丁位、一小山下ヲ経ルコト一丁斗ニシテ又平原ニ出ツ、「バツテペツ」川ヲ渡リ程ナク「チャアロ」川ヲ船渡リス、之レヨリ三四丁ノ間平原ナリ、原野尽クル処ノ小阜下即チ

「シラヌカ」(白糠)ナリ、此処ニ午休ス、今朝過クル処ノ山麓ハ路右海波ヲ去ルコト二十間或ハ三十間位ノ草原中ヲ行ク也、「オシヨロコツ」ヨリハ海浜ノ波際ニシテ、余波馬蹄ニ及フコト多シ、且ツ細流モ亦多シ、悉ク記セサル也、草莽中故力諸虫殊ニ蝶多シ、午後「シラヌカ」ヲ発シ直ニ山麓海浜ヲ行クコト半里余、此間夷屋多シ、其ヨリ平林中ニ入ルコト一丁余(庶路)「ソロロ」川橋アリ、尚ホ楊柳林中ヲ過クルコト一丁斗平原ニ出ツ、十丁斗ニシテ「コエトイ」(コイトイ)ニ憩フ、塚木アリ、之レ左山二三丁斗遠サカリ、此山樹木陰森トシテ恰モ屏風ヲ立タル者ノ如キ二里、又海浜ヲ去ルコト一丁余、此ノ如キ草莽中ヲ過キテ異状ナキナリ、塚木アリ、「タンネニー」ト名ク、此間左方ニ池沼アリ、「タンネニー」ヨリ十丁斗、憩所「オタノシケ」(オタノシケ)ト名ク、草ハ蘆葦・女郎花・防風、蜻蜓多シ、又草深中ニ鶴ヲ見タリ、鶉ノ鳴ヲ聞ク、行クコト廿余丁ニシテ「オタノシケマフ」ト云フ塚木アリ、「オタノシケ」(大楽毛)ヨリ少シ原勢異ニシテ、榛・楊柳ノ林一丁斗ヲ過キ「オタノシケ」河ヲ渡ル橋アリ、此処

ヨリ左方ノ山次第ニ遠クナリ、原上モ少々宛ノ凹凸アリ、男「アカンノポリ」・女「アカンノホリ」ヲ左ノ方西辺ニ見ル、行クコト里許、右方ニ一沼ヲ見ル、周圍三四丁斗水草多ク、爰ニ至リテハ左方終ニ山ヲ見サルナリ、茫茫タル曠原其幾十里タルヲ知ラサルナリ、塚木アリ、「ベトマイ」ト名ク、五六丁ニシテ憩所アリ、之レヨリ曠原ヲ行クコト里許塚木アリ、「ホンベトマイ」ト云フ、又原上行クコト半里余、其ヨリ海浜砂原トナリ「クスリ」^(鉏路)ノ湾曲ヲ廻リ「クスリ」川渡船ス、此川百間斗、濁水ナリ、之レヨリ五六丁ニシテ「クスリ」会所ニ止宿ス○「クスリ」此地西南ヲ受タル一湾港ニシテ、南東ニ一平山アリテ殆ント箱館ノ山ヲ切断スル者ノ如シ、地形モ稍彷彿トシテ、小ニシテ且ツ湾曲浅キ箱館ト云テ可ナラン乎、故ニ船ヲ錠スルニハ便ナラス、且ツ砂地ニシテ錠止ラスト云フ、今日モ泊舟四艘アレトモ皆港外ニ泊ス、佳港ニ非サルコト知ル可シ○今日ノ徑過スル処ノ曠原悉ク良田タル可シ、然レトモ人種不足不可如何也、昨今ノ平原皆田ト為ストキハ少ナキモ五六十万石

ハ出来ヌ可シト思ハル、可惜事也、今宵夷人ノ草茎菅ヲ為ス者ヲ取り笛声ヲ為スヲ聞、「ヒチリキ」ノ声ニ髣髴タリ、此地木葉石ヲ出スヲ聞、婦路携ヘ婦ランコトヲ約シ置ヌ○「クスリ」川、「アカンノホリ」ヨリ其源ヲ資ル故ニ水色甚タ悪シト云フ○此地夷屋甚タ多シ、会所元ニ住スル夷屋殆ント五十□ト云、且ツ「ホロイツミ」^(幌泉)辺ヨリ夷種異ナル者ノ如ク見ユ、眉ノ一文字ニ毛ノアル者往々見受ル也、且其夷眼中衆夷ニ異アルヲ覺フ、是ヨリ以東如何アランカ可試事也

○初九、「クスリ」会所元ヨリ「オシヨフ」ト云フ所ヲ越ス、此処夷屋甚タ多シ、蓋「クスリ」ヨリノ出岬岳石多キカ又ハ迂遠ナルカ故ニ此ノ如ク通行スルナラン、此ノ平山二三丁ニシテ海浜ニ出テ「ハルトロ」^(春採)ノ原ニ入、「ハルトロ」池ノ周辺ニ少シノ平原アリ、池周圍二三丁斗、之レヲ左ニ見テ二三丁、平岡ニシテ山地ニ入ル、此山路蜜樹多ク草甚タ高ク、行クコト半里余塚木アリ、「シツホシシウシ」ト

名ク、之レヨリ平山ヲ行クコト十丁斗「オホツナイ」ト云
 小溪出、直二又一小溪二入り是ヨリ平山ニシテ樹木ナシ、
 行クコト十丁余平岡トナル、「オンネブイマイ」ト名ク、
 此処東海ヲ望ミテ風景佳ナル処ナリ、「オヲツナイ」ト云
 フ溪二出ツ、此溪少シノ平地アリ、此溪ノ尽ル処溪流ヲ
 渡リ、今朝ノ山路ハ海岸岬石多ク、通行ス可カラサルカ為
 ナリ○「カツラコイ」ヨリ山路ニ上ル二三丁ニシテ、深林
 中ヲ過クルコト一里「マタトキ」ト名クル瘠木アリ、之
 レヨリ二三丁ニシテ海浜ニ出ツ、夷屋一軒アリ、又海浜ヲ
 行クコト八丁許「チャラシベツ」ト名ク昆布小屋・夷屋ア
 リ、十四五丁斗シテ「シクトクウスナイ」「アツチヨロベツ」
 「コンフムイ」一名「ユト」ニ午休ス○「コンフムイ」ヨリ一
 丁斗ノ原アリ、東西五丁斗モアル可シ、此原尽キテ「アト
 スカ」山越ニ掛リ、頗ル屹ニシテ漸ク平坦トナリ、鬱林中
 ヲ行キ粘滑ノ泥土ニシテ馬足甚タ悪シ、「フウトロ」ト云
 瘠木ニ出ツ、之レヨリ半里斗ニシテ海浜ニ出ツ、「トマツノ」
 浜ト云フ、海浜赭色・黒色ノ砂石混シテ甚タ美麗ナリ、出

岬ニケ所危岬絶壁殆ント通行シ難キ処アリ、四五丁ニシテ
 又山ニ上ル、数溪ヲ越エ此山樹木ナク下坂ニ瘠木アリ、
 「ホントマリ」ト云、之レヨリ海浜ニ出テテ五六丁ニシテ
 憩所アリ、「アトイカ」ト云、之レヨリ海浜砂際ヲ行コト
 一里「フヨマフイ」ト名クル瘠木アリ、二三丁ニシテ
 「シヤンテキ」ト云溪間ヨリ又山林中ニ入ル、高低上下終
 ニ数峰ヲ越エテ「ニオケマイ」ト云瘠木ニ出ツ、又前ノ如
 ク尚高低出沒シテ瘠木アリ、「シニウシト」ト云憩処出ツ、
 之レヨリ下坂甘丁嶮坂ヲ下リテ「センホウシ」ニ着ス、今
 日ノ路程、蚊・蠅・虻・蠶甚タ多ク堪ユ可カラサル者ノ如
 シ
 ○十日、「センホウシ」ヲ出船シ午前「アツケシ」ニ着ス、
 此灣西ハ「センホウシ」ノ岬、「アツケシ」ヨリ二三里
 モ南方ニ突出シ、東西相距ルコト三里斗中ニ大黒島ト云一
 島アリ、遙ニ望ムニ周廻二三里モアル可シ、其側ニ一小島
 アリ、故ニ海口三叉トナル、「センホウシ」岬ト大黒島ノ

間尤モ広シト覺フ、海ハ南ヨリ北ニ入り深サ五六里モアル可シ、東西ハ三里斗、「センホウシ」ト「アツケシ」ノ渡リ二里半ト云、「センホウシ」ハ「クスリ」領ニシテ西北ニ向ヒテ一湾曲ヲ為スト雖トモ、船ヲ泊ス可キ好畧ニハ非サル可シ、「アツケシ」ハ海ヲ東南ヨリ受ケ、前ニ「バラサン」岬アリ、其ヨリ半里斗モ北方ニ湾曲シテ、一大湾曲中ノ一湾港トモ云フ可シ、故ニ佳港ト云フ可シ、且ツ湾曲窮処開口漸く距離一丁斗トナリ、忽チ又一湾ヲ為スコト恰モ瓢形ヲ為ス者ノ如シ、此上頭湾ニ牡蠣島アリ、蠣殻ヲ以テ島トス、此島十余島アリト云、大ナル者周廻三四丁位弁天島ト云弁天祠ヲ安置ス、小ナル者周圍半丁斗ト云フ、此島実ニ蠣殻ノミ、怪ム可キ者トス、海上ニ出ルコト一三三尺、全島自然ノ蠣殻ニシテ其殻皆直立ス、殆ント歩ス可カラサル処アリ、其上ニ玫瑰雜艸生茂レリ、此港周圍五里余ト云、海底皆牡蠣也、潮退クトキハ船蠣上ニ懸リ行ク可カラスト云、真ニ奇事ト云可シ、午後弁天島ニ到リ徘徊、帰化夷三人蠣ヲ取り来リ之レヲ焼ク、大ナルコト一只有余ノ者多シ、

其味極メテ妙ナリ、又牡蠣間ニ往々アサリ貝アリト云、是又貝ノミ、砂石更ニナシト云フ、実ニ天下希有ノ地ト云フテ可ナリ、当所詰調下役吉岡新太郎云、当所夷人二百余人アリ、就中仕給ス可キ者纔ニ九十一人ト云、其中実意ニ公辺ノ大慈ヲ悦得シテ、終ニ帰化元服スル夷廿七人ト云フ、今日迄右ノ如ク帰化スル者ヲ見サルナリ、此地教化立所ト開ク可シ、出役ノ規模ト云フ可シ、只恨、人品甚タ少ナク教化ノ地ニ波及シ難キヲ、又イロハ杯教ヘヨリケル由、実ニ所置大ニ届ク者ト云フ可シ○此ノ「センホウシ」ヨリ「アツケシ」ノ大湾ハ砂原ヨリ「エトモ」(絵柄)ノ大湾ニ次ク者トス、東蝦夷地第二ノ湾ト云フ可キナラン乎○「アツケシ」会所ニ止宿、会所ハ西ニ向ヒ湾口ニアリ、漁獵近来不景氣ノ由ナレトモ甚タ大屋ナリ、左右側ニ夷屋多シ、且調役並之二居ル、之レ好畧故異国船入津ノ愁アレハナリト云フ、台場アリ、「ハルサン」ニニケ所、五百目筒ニ挺ヲ備フト云フ、「バルサン」ノ海岸多シ、此石崩潰落下スルアリ、云フ、十四年前卯年大地震後海嘯アリ、此ノ如クナルト云、

且ツ人別モ七八百人ノ処、此時溺死多ク其後雜痘流行シ、
 終ニ今ノ人別トナルト云フ、歎ス可カラサラン乎○此湾中
 水豹・「トト」多シ、船行中頭ヲ水面ニ浮ヘ游泳スルヲ見
 タリ、然レトモ終ニ全形ヲ見ス、恨ム可キナリ、頭ノ大サ
 駒ノ頭ヨリモ大ナリト見ユ○此地蚊甚々多シ、白昼モ蚊帳
 中ニ万事取行フ由、幸ニ兩三日東風吹来蚊甚々減スト云、
 然レトモ渡島以来初而蚊帳ヲ用フ、是又一珍事ト云フ可シ

○十一日、辰時会所元ヨリ舟ニ乗ル、此湾昨夜記スル如ク
 大湾ノ処瓢ノ下腹ノ如ク、会所元ヨリ半里斗ニシテ大湾北
 ノ方ヘ当リテ狭小トナリ兩岸纔ニ一二丁ニ過キス、此辺蠟
 海底ニ満チ船膠シテ行キ難キコト再三ナリ、之レヨリ又闊
 大ノ湾トナル、此ノ狭小ノ処ヲ瓢ノ中央トシ、闊大ヲ為ス
 ヲ瓢ノ上腹トモ云フ可シ、此上腹ノ処ヲ沼ト名ク、此中ニ
 蠟島十余島アリ、此蠟島ノ間ヲ右往左往シテ終ニ左ハ山ニ
 近ツキ、右ハ遠カルコト一里斗トモ見ユ、之レヨリ凡十丁
 斗ニシテ兩岸間三四丁ノ川ニ入ル、此辺ヨリ水深ク蠟ハ尽

キテ水藻・昆布類生茂ス、蠟島ノアタリ左右ノ海岸ニ夷屋
 并ニ野馬多シ、且ツ此大小湾ノ四圍高山ヲ見ス、皆平山ノ
 如シ、然レトモ樹木陰鬱トシテ草岡ニ非サルナリ、故ニ熊
 罷亦多シト云、又湾中一夷半髪ニシテ髭ハ尚ホ剃ラスシテ
 鯨ヲ撞クヲ見タリ、十二八九ヲ誤ラス、妙ヲ得ルト云可シ、
 此蠟島間ノ浅処ヲ過キ殆ント一里斗ニシ右ノ兩岸狭キ川
 内トナリ、両辺芦・荻・蒲杯ノ中ヲ行クコト十丁斗ニシ又
 楊柳岸トナル、纔シテ右辺又闊大之草源トナリ終ニ又五六
 間ノ川トナリ、之レヨリ「(別寒辺牛)ヘカンヘウシ」ノ山ニナリ、暫
 クシテ番屋ニ午休ス、此番屋ハ平山上ニ南面ニシテ「ベカ
 ンヘウシ」ノ川ニ対スルナリ、此レヨリ稍上リ山道ニ入り
 林樹間ヲ行クコト四里十八丁ト云フ、「チベハキ」ト云嶽
 木アリ、之レヨリ二十丁ニシテ「ヲラウンベツ」ト云憩所
 アリ、夷屋壺軒ヲ見ル、又十丁斗ニシテ「ヲラウシヘツ」
 ノ嶽木アリ、又一里ニシテ「コムニウシ」ノ嶽木ヲ過キ、
 十丁斗ニシテ「(ホシヘシユモツベツ)ホンベンシユモツベ」ト名ル憩所アリ、ソ
 レヨリ廿余丁ニシテ「ベンシユモツヘ」ト云嶽木アリ、之

レヨリ十八丁ニシテ「(野古辺)ノコヘリヘツ」番屋ニ宿ス、右ノ「ベカンヘウシ」ヨリ「ノコヘリヘツ」迄ノ山道ハ、大抵平道ニシテ格別高低上下スルコトナク、樹木モ多少蜜疎高低ナキニ非サレトモ、十二八九ハ鬱林中ニシテ草モ高ク絶而開墾杯ス可キ地ニ非ス、故ニ其詳細ヲ記セサルナリ、草木ハ楓・柏ノ□・榛尤モ多ク、熊笹・「草霜ツケ」・秋ノ「キリンソウ」甚タ多シ、殊ニ虻・蠶多シ、悪ム可キ地トス

○十二日、「ノコヘリベツ」番屋ヲ出一丁斗ニシテ「ノコヘリヘツ」ヲ渡ル、長サ十間斗リノ丸木ヲ並べタル橋ナリ、之レヨリ蜜樹中ヲ行クコト一里塚木アリ、「カルムバニ」ト云フ、又暫ク行キテ「タンシナ」川ヲ渡リ、半里余ニシテ「(イトイチセンヘイ)イトエチンヘ」ニ憩ス、之レヨリ「イトエチンヘ」川ヲ左ニ見テ暫ク行ク中ニ終ニ大樹少ナキ平岡ニ出ツ、平岡上ヲ行クコト十丁斗ニシテ塚木アリ、「ヒテシ」ト云フ、之レヲ過キ廿八九丁モ行キテ「(ヲエナウシフト)ヲエナウシト」名クル地アリ、「アツケシ」領・「(根室)ネモロ」領ノ境也、之レヨリ八九丁

ヲ経テ「オエナウシト」名クル塚木アリ、此処纒ニ過キテ方四五丁斗ノ原アリ、此原四辺皆山ニシテ恰モ播盆底ノ如シ、之レヨリ「コタンコアンベツ」迄ノ間、平山ニシテ高低上下スル間、往々溪間ノ平沢ヲ見ル、「コタンコアンベツ」ノ番屋ハ「ネモロ」領ニシテ、山中ノ平岡平常無人ノ地ナリ、通行ノ為ニ「ネモロ」ヨリ出張シテ昼支度等ヲ調フルナリ、爰ニ午休ス、之レヨリ十丁斗シテ丁字状ノ平沢アリ、方十丁四方位、東西ヲ丁ノ上頭トシテ、南北ヲ丁ノ縦画トス、此ノ丁ノ上頭ヲ左ニシ、縦画ノ中央ヲ横ニ通行シ又山岡ニ上ル、此辺樹木少ク多分草原ナリ、暫クシテ又一ツノ平沢ニ出ツ、方四五丁モアル可シ、尚ホ行クコト暫クシテ塚木アリ、「(安福別ニ姉別)アンネベツ」ト云フ、又平山上ヲ行キ又方四五丁モアルベキ平沢アリ、之レヨリ半里許林樾間ヲ過キ終ニ「ライベツ」ノ原ニ出ツ、此原方十四五丁モアル可シ、左方ニ「ネモロ」ノ「メナシ」(目梨)岳ヲ遙ニ見ル、近日此ノ如キ高山ヲ見サルナリ、原中女郎花盛ニ咲キテ梨子地盆中ヲ行クカ如シ、此原尽ル処一憩所ヲ設ク、之レヨリ行

クコト半里バカリニシテ「イマベツ」ノ墩木ヲ建ツ、之レヨリ平山深樹幽木中ヲ行クコト半里余ニシテ稍開豁ノ地ニ出ツ、之レヲ「ヘユニクロ」ト云憩所ヲ設ク、之レヨリ十丁余ニシテ「カモイチセンヘ」(カムイチセンヘ)ト云墩木アリ、猶山上蜿蜒幽林中ヲ出沒シテ東方ニ海面ヲ望ム、此ノ所即チ「アツウシベツ」(厚別)番屋ナリ、今日過クル処平原多ケレトモ元来山分ニシテ、海浜迄ハ三四里モ隔ツル由、故ニ開墾杯議ス可キ地トモ思ハサルナリ、且ツ又四辺ノ山低クシテ水利便ナラサル者ノ如シ、詳ニ地形精詳要セサルナリ○林樾○中虻・蠶甚タ多シ、然レトモ三兩日東風ニシテ大ニ減スト云○「アツウシベツ」蚊甚タ多シ、白昼モ蚊帳ナクシテハ居ル可カラス、然レトモ近日大ニ減シタリト云フ、食モ素ヨリ蚊帳中ニテ喰フナリ

○十三日、「アツウシベツ」番屋ハ「フウレン」(風蓮湖)沼ニ望ム、「フウレン」ハ元来川ノ名ニシテ、番屋ヨリ八丁斗左方ニアリト云フ、此川沼ヨリ川源八丁斗迄ハ幅七八十間モアリ

ト云フ、然レトモ急流ニハ非サル由ナリ、此川ノ下流沼トナルナリ、沼ハ広サ一里斗、長サハ二里トス、辰牌番屋ヨリ右方山麓ニ沿ヒテ盪スルコト一里許、右方近クナリテ「トウフイ」(トオフト)ト云フ平地ノ一小岬ナリ、漁舎両三家アリ、此ノ岬ヲ打越シテ遙ニ「シレトコ」(知床)ノ山岳ヲ望ム、右方ニハ遙ニ「ネモロ」ノ出岬「ノツシヤフ」(納沙布)岬ヲ見ル、此間ヲ行クコト一里ニシテ「トウフイ」ノ岬ヲ離レ、大東海ノ一端ニ出ツ、爰ニ到ツテ「ネモロ」ハ右方、「ニシヘツ」(西別)ハ左方トス、「トウフト」(遠太)岬ハ中央ノ小岬ナリ、之レヨリ左方ノ海岸沿ヒテ行クコト五里ニシテ「ノツケ」(野付)ト云フ、今日ハ此地止宿ノ先触ナレトモ旬季後レ、「エトロフ」(択捉)行ヲ急キテ是ヨリ海上五里ノ程ヲ過キテ、終ニ薄暮「クナシリ」(国後)「トマリ」(泊)会所ニ着ス○「クナシリ」島ハ大島ニシテ西南地ハ一灣曲ニシテ船繫キ到ツテヨキ地ト見ユルナリ、何トナレハ東南ノ一岬ト西南ノ一岬ト互ニ突出シテ一大灣ヲ為ス、其距り一里半モアル可シ、故ニ海岸ト雖モ絶テ風波

ノ患ヒナキ者ノ如シ、只々東南ノ一岬「トマリ」ヨリ三里
余ノ平地ニシテ、東風暴ナルトキハ少シク危ク見ユルナリ、
サレトモ「トマリ」ハ又其ノ中ノ一小港故絶テ患ヒナキナ
ラン、兎ニ角ニ今日ノ如キ平穩ノ日ニ於テハ絶エテ波声ヲ
聞カサル也○「クナシリ」島西南ノ隅ハ、右ヲ「ノテト」
岬トス、此処岡陵ナリ、左ヲ「ケレモイ」岬ト云フ、此処
平地砂原ナリ、「トマリ」ヨリ右ハ一里半斗、左ハ三里斗、
且ツ「ケレモイ」岬ハ平地ニシテ、漁屋・樹木等遠見スル
ニ波上ニ浮フモノノ如シ、「ノテト」南面ニ「センヘコタ
ン」ト名クル地、漁屋アリ

○十四日、水夫少ナキ故ニ朗晴ナレトモ止宿ス、聞、「ク
ナシリ」島中住夷凡テ九十七人、其中老人・小児用ニ給セ
サル者殆ント六十人ト云フ、故ニ使役スヘキ者只ニ三十七
人アリ、其中近来癩毒流行、之レニ侵ササル者十人ト云フ、
患フ可キノ甚シキト云フ可シ、一昨年来疫病流行廿余人ヲ
失フト云フ、平素勞力シ加之ニ肉食ヲ常トス、故ニ身体健

康ヲ極ム、之レニ熱ヲ加フル故ニ多分腐敗熱ニテ死スル者
ノ如シ、恨ム、西洋諸医ヲシテ之レヲ療セシムレハ十二八
九ハ死ヲ免レン、官人不解、(夷力) 医人ヲ非命ニ陥ラシムルコト
ヲ、之レニ由テ考フルニ島中ニ大医事ヲ解スル者三人斗ヲ
(テ脱) シ事ヲ同トリ、流行病アルトキハ速ニ其地ニ到リ、場所場
所ノ医人ノ治方ヲ見テ時宜ニ適スルヤ否ヲ鑑定シ、処治ヲ
施サシムルトキハ十二二三モ救フ可シ、今ノ如キ法ニ於テ
ハ迎モ人種蕃息ス可カラサル者ト覺フナリ、国家ノ政道爰
ニ意ナク徒ニ人民蕃息ヲ希望スルハ、恰モ良田ナキニ米・
麦ヲ望ムニ齊シカル可シ、痛ム可キニ非スヤ、嗚呼○午後調
役下役宮崎三左衛門来、蝦夷小屋ヲ見廻リ致ス故望アラハ
見ヌカトノコトニ付直ニ同行、之レヨリ病人小屋ヲ一見シ
終ニ在住ノ蝦夷小屋ヲ見ル、小屋ノ仕形ハ旧来凶スル物ニ
異ナラサレハ記サス、其中ノ形状ハ蒲ヲ打、莖ヲ敷ツメ、
寢処ハ一ノ涼台ノ如キ者ヲ作為シ其上ニ蒲筵ヲ敷ク、甚々
雅ナリ、古ハ錐・鑿ヲ用キルコトナシト雖トモ、今ハ繩細
工ノミニハ非サルナリ、衣服モ毛衣ハサナク、多ク内地ノ

木綿ヲ用キ上ニ「アツシ」一枚ヲ着ス、且ツ宝物ト称シ行
 器・食籠・文庫ノ類ヲ貯フ、一家十余桶ニ到ル中ニ、中国
 ノ貧家ニ勝ル者多シ、婦人ノ動作男子ニ劣ラス、筋骨モ又
 然リ、只々自ラ婦人容色アルノミ、其ヨリ弁天祠・金毘羅
 稻荷社ヘ謁シ、終ニ仙台警衛ノ土板橋七之介・寺坂祐之助
 ヲ訪ヒ、宮野三左衛門ヲ訪ヒ、会所ニ帰ル○「トマリ」ハ
 西南ニ海面ヲ受ケ、「ノテト」岬ヨリ灣入スルコト一里半
 斗、左方ニ瑣細ノ断崖出ツ、之レヨリ平地トナリ「ケレモ
 イ」岬突出スルコト三里許ト云、故ニ風波ノ難ハ多分之
 (子脱)
 レシトナン

蝦夷紀行

中

蝦夷紀行

中

印(維新史料編纂会図書之印)

蝦夷紀行卷之中

七月十五日至九月八日

西備 福山 寺地強平著

印(維新史料編纂会図書之印)

○十五日、辰牌晴天会所元出船、水師夷人十二人女夷モア
 リ、又髭ヲ剃リタル夷モアリ、小林重太郎船迄送り来ル、
 程ナク帆ヲ揚ケ半時斗ニ「センヘコタン」ニ来ル、「セン
 ヘコタン」ハ「トマリ」ト「ノテト」ノ間ナリ、今日西岸
 へ行ク故ニ此ノ如ク漕キ出ルナリ、船ハ二百石積位ノ御用
 船ナリ○「クナシリ」ニ三山アリ、西南ノ山ヲ「タツニウ
 (泊山、

(別名油山)
 シノホリ」ト云、中央ノ山ヲ「ラウシ」岳ト云ヒ、東北端
(王父岳 〓 爺々岳)
 ノ山ヲ「チャチャノホリ」ト云フ、此ノ「チャチャノホリ」
 最高トシ、「ラウシ」之レニ次キ、「タツニウシノホリ」最
(火打山下混同カ)
 下トス、此ノ「タツニウシ」ノ南麓下一里斗ノ平原中ヲ「ト
 マリ」ト云フ、之レニ会所アルナリ、此会所ヨリ「ノテト」
 岬迄一里九丁、此間申ニ向テ漕ク、之レヨリ「フフウシ」
(云フ脱)
 「フンサラウシ」ト地アリ、「ワンカラウル」「サルカマ
 フ」ニ番屋ニ軒斗、漁小屋見ユ、此ノ「フフウシ」アタリ
(知床)
 ヨリ正面ニ「シレトコ」続キノ東「メナシ」ノ老「チャチ
 ヤノホリ」ヲ見ル、山上半腹ニハ残雪甚タ多シ、「タツニ
 ウシノホリ」ヲ右方ニ見ル、船ハ正北ニ艇ルナリ、左方ニ
 ハ「シヤマニ」諸山ノ「メナシ」ノ「チャチャノホリ」ニ
 連接スル者ノ如シ、「ノツケ」岬・「ネモロ」アタリヲ殆ン
(ユ)
 ト正午後方ニ見ニ、「イトリリ」岬ヲ過キ、会所元ヨリ「フ
 ンカラウシ」迄ハ樹木ナシ、「タツニウシノホリ」ニモ半
 腹以上ニハ木ナシ、「イトリリ」岬アタリニハ樹木多シト
 覺フ、故ニ会所元杯薪少ナキ由、三里斗行サレハナシト云

(米戸賀)
 フ、「ベトカ」ヨリ「イトリリ」岬迄凡一里斗ト見ユ△行キ
 テ「ベトカ」ト云フ処ニ番屋アリ、漁場ナリ、此処迄「ト
 マリ」会所ヨリ三里ト云フ、之レヨリ断崖下ヲ経テ終ニ△〇〇「イ
 トリリ」岬ヨリハ正丑ニ艇リ正面ニ「エハオイ」岬ヲ見ル、
(シヨシベツ)
 此中間ニ「ソウシベツ」川アリ、番屋アリ、「タツニウシ
(泊山カ)
 ノホリ」即チ火打山中央ニ少シク見ユ、此火打山下ニ周廻
 一里余ノ湖アリト云フ、船中ニテハ見エサルナリ〇「エハ
 オイ」岬ヲ廻リテヨリ海岸山麓処々煙ヲ出ス、硫黄臭甚シ、
 然レトモ草木ハ青々タリ、只々燃ル処ノミニ三間赤土トナ
 ルノミ、海浜ハ岩石多シ、悉ク硫黄附着ス、半里斗ニシテ
 「セセキ」ト云フ温泉アリト云、海浜ヨリ少シ上ルナリ、
 之レヨリ又「ウインシリ」ト云処ヲ経テ「オタトム」ニ到
(チフカルベツ)
 ル、此処漁屋アリ、之レヨリ「チフカルベツ」番屋ニ宿ス、
 「エハオイ」ヨリ海岸岩石多ク青砥ノ如キ質ニ見ユ、「セ
(秩 荊 別)
 セキ」ヨリ「チフカルベツ」ニ到ル海上三里ト云フ、「ト
 マリ」ヨリ「チフカルベツ」ニ到ル海上十一里ト云フ〇今
 朝ヨリ晴天ニシテ風甚タ穏ニシテ絶テ大濤ノ恐レナシ、午

後少シク風アリト雖順風故サシテ恐ル可キニ非サルコト
 天幸ト云可シ○「チフカルベツ」番屋ハ北向ニシテ背ニ山
 ヲ負ヒ少シノ小湾ナリ、素ヨリ好譽トハ言難シ、西風ノ時、
 如何トモス可カラサル者ノ如シ、本蝦夷ノ「シレトコ」岬
 爰地ニ対峙ス、爰ヲ出帆スレハ所謂「サカーレン」(オホーツク)海中ニ
 シテ左方ニハ山ヲ見ス、一箇ノ大海ト云フ可シ、今日ハ波
 静ニシテ幸ニ濤声ヲ聞カサルナリ○今日ハ海岸山ノミニ
 シテ絶テ平地ヲ見サルナリ、只々「ノテト」ト「センヘコ
 タン」ノ間ニ些ノ平地ヲ見ル、サレトモ元ヨリ舟行故、地
 勢ノ可否ハ知ル可カラサルナリ

○十六日、辰牌「チフカルベツ」(チフカルベツ)番屋出船、番屋ハ前ニ小
 川アリ、北方ニシテ湾ノ南岸隅ニ建ツ、右方前ノ海岸ニ些
 ノ平地アリ、方ニ丁斗モアル可シ、其山麓ニ夷屋ニ軒アリ、
 昨日通行ノ「イハオイ」岬ト「クサルウシ」岬ト二里斗ノ
(クチャルチ)
 大穹隆ヲ為シ、其中ニ「チフカルベツ」番屋後ノ山ト
(フヲニ)
 「ブヨニ」岬ト纒五六丁ノ小湾ヲ為ス、「フヨニ」ハ些ノ

出岬ニシテ一巨岩別ニ海中ニ独立ス、其状夷ノ蔵ニ似タリ、
 故ニ「ブヨニ」ト云フ由、「ブヨ」蔵ノ夷言ト云フ、之レ
 ヨリ「クサルウシ」岬、是迄番屋ヨリ一里余ト云フ、此処
 山岸皆岩ニシテ其状六角・八角ノ柱ヲ束ヌル者ノ如シ、又
 海中ニ一丁斗出岬ノ岩アリ、柱ヲ束ヌ之レヲ中断スル者ノ
 如シ、実ニ奇ト云フ可シ、此ノ如キコト凡五六丁間、石質
 ハ到テ緻密ニシテ灰白或薄(マ)色ニシテ、遠見スレハ砥石ノ
 如ク思ハル、大サハ方七八寸位、大ナル者ハ二三人ノ力ヲ
 要スト云ヘリ○昨日「トマリ」ニテ小鳥ヲ見タリ、胸腹羽
 毛真紅ニシテ美ト云フベシ、脊羽ハ鼠色ニ白羽交セレリ、
 大サハ雀ヨリ小ナリ、其外ニ鶴鶴ノ如キ小鳥ヲ見タリ、是
 レモ青・黄・白ノ三色ニシテ美ナル鳥ナリ、西岸ノ山ニ枯
 木多シ、聞ク、冬日風劇シクシテ生茂シ難シ、故ニ枯ルル
 ト云フ○「フヨニ」(フヲニ)アタリニテハ「ラウシ」(クナシリノ羅白山)ヲ右辺ニ
 見ル、左方ニ尚ホ「シレトコ」岬ヲ見ル、「クサルウシ」
 二来リテ雲煙糲糊トシテ海岸ヲ見ルノミ、「チフカルベツ」
 ヨリ「ニキシヨロ」ニ到ル行程三里ト云フ、「ニキシヨロ」

ニ到リ煙霧少シク晴ル、海岸平地ノ如ク見ユ、奥ニ沼アリト云フ、漁小屋モアル者ノ如シ、然レトモ濛々トシテ分明ナラス、之レヨリ「イカハノチ」ヲ経ル、此アタリハ惣テ北方ニ出張ル者ノ如シ、其中ニ多少ノ屈曲出沒アリノミ、^(マ)海浜ハ多分岩石ニシテ砂浜少キ方ト思ハル、之レヨリ「ポンベツテシカ」ト云出岬アリ、一山皆岩ニシテ土石皆焼クル者ノ如シ、海浜ノ岩石上ニ白キ粉末ヲ敷ク、蓋シ硫黄ノ極末自然ニ附着スル者ナラン、之レヨリ五六丁斗ニシテ「ポンベツ」ニ到ル、此地些シノ湾ニシテ漁獵番屋アリ

○「シレトコ」岬此地ト対峙スト云フ、之レヨリ「サカーレン」^(オホーツク)海中ニ入ルナリ○午後風悪シクシテ巳ムコトヲ得ス「ポンヘツ」ニ錠泊ス、^(錠)釣杯垂レテ「ウゴイ」・油子・「ウミカジカ」・黒「メバル」「ナメマス」「チルシノツ」杯云フ魚数十頭ヲ得タリ

○十七日、昨夜ハ船ニ寝テ、夜明ヨリ蚊多クシテ早く目覚メタリ、四辺煙霧ハアレ共雨トモ思ハレス、多分出船モス

可キト思ヒ少々ノ心仕度モシタリシニ、今日ハ風逆ナル故ニ出帆セスト云フ、五ツ過頃ニナリテ船主言ケルハ、雨モアル可ク風モ強カル可シ、不自由ナレ共明番屋へ来ルベシト云フ、船主ナレハトテ其意ニ任セ番屋エ来リシニ、忽チ大風雨劇シクナリ、昼迄ハ雨モ甚タシカリキ、午後ハ雨ハ正ミタレ共、^(正)丑寅大風甚タシク明番屋ニ終日終夜ヲ過ス、憐ナリケル有様ナリケリ、残暑炎熱ノ時ナレ共今日ハ到ツテ寒ク、綿入ト胴衣ニ皆巻ヲ衣テ、足袋ナトニテハ未タ寒シ、水師等ハ終日漂着木ヲ焚キテ炉辺ニアリシ、昨夜モ夷人ハ海浜砂原ニ漂木ヲ集メ焼キテ徹宵明シタリ、実ニ寒地ト云フ可シ、此ノ如キ大風ニテハ内地杯如何アラン乎、綿・米杯ニ損シアルベキ、内地ニ大風雨及ハサルコトヲ希フナリ

○十八日晴、然レ共風悪シク出帆セス、終日番屋中ヲ起臥スルノミナリ

○十九日、順風ヲ告ケ早天ニ艤シ、日出ニ「ホンヘツ」ヲ出帆ス、「フレイト」ト云赤壁ノ出岬、山上ハ千仞ノ一巨岩ノ絶壁下ヲ過ク、此岬ト「ホンヘツ」ノ山ト一小灣ヲ為ス也、之レヨリ「ヤンベツ」^(ヤモンベツカ)、此ノ処少シノ平面ナリ、隈ナリ、之レヨリ地勢惣体ニ出張リ、「トシヨロ」迄ハ自然ト出没ナキ者ノ如シ、此間山上樹木多シ、楸ト一種ノ楸ノ如クシテ四方ニ葉ノ生ル者、番人杯ハ「エソ」松ト云フ、然レ共落葉松ニハ非サルナリ、此アタリヨリハ「ルルイ」ノ山ヲ正子ニ見ル、之レヨリ一灣アリテ「イビカルウシ」^(チビカルウシ)ニ致ル、之レハ又余程ノ出岬ニシテ海岸危岩怪石多シ、之レヨリ「オンネトウ」、「トシヨロ」ヨリ三里「ホンベツ」ヨリ六里、番屋アレトモ近来人少ナク漁獵手足ラヌ故大破ノ由、爰ニ大沼アル由、此アタリ金・銀・銅山アリト云フ、舟行疾迅審ニスルコト得サルナリ、之レヨリ平沢三ツ斗リヲ過キ「ホントウヘツ」ト云小沼アル由、之レヨリ中沢・瀧沢・大沢アリテ「シベトロ」ナリ、「オンネトウ」ヨリ三里、番屋アリ、平地ナリ、此辺樹木少ナシ、之レヨリ「ワ

タラウシ」ト云、是又余程ノ出岬ナリ、是又岩石岬ナリ、之レヲ廻リテ「チャシコシ」、「サシコシ」トモ聞ユ、番屋ニ着ス、此処ハ少シノ灣ナレトモ左右ヨリ岩石海中ニ出テ、甚タ低クケレトモ自然ト一己ノ波戸ヲ為ス、真ニ造物者奇功ト云フ可シ、故ニ此地ニ於テ「アトモイヤ」^(アトイヤ)元ノ風待ノ場所ト云フ、之レヨリ「アトイヤ」^(安渡移屋)迄殆ント二十里間碇泊ス可キ地ナシト云フ、「シベトロ」ヨリ「チャシユシ」^(コ)迄三里、今日舟行十二里、午前ト達ス、早シト云フ可シ、「ワタラウシ」ヨリ「チャシコシ」辺ニハ草木多シ○「オンネトウ」ニ砥石出ル由、然レ共石質硬シト云○「イビカルウシ」ニハ金色ヲ帶タル石アリ、西洋人モ金・銀鉞ナル可シト云フ由、船中故得見サルナリ○「チャシコシ」ニモ海浜崖岩ニ金・銀色ヲ帶フル石アリ、貫ヒ得テ之レヲ見ルニ恐ラクハ金・銀ニ非ス、錫・鉛・安質ノ類ナラン、之レヲ焼クニ甚タ硫臭多シ、然レトモ金色ハ変セサルナリ○「ポンベツ」^(豹)虎脚蚊甚タ多シ、「チャシコシ」モ亦蚊・蠅多シ○今日暑氣甚タシク単衣身ニ適スルヲ覺フ、一兩日前ニ異

ナリ

○廿日、風悪シク終日碇泊、聞ク、「ボンベツ」当地ハ雨甚タ稀ナリト、「オンネトウ」ハ纔六里ヲ隔タリトモ終年雨多シト、奇ト云フ可シ、今日モ南北夕立雲多ク余滴ハ洩レ来レ共、「チヤシコシ」ノミ晴天ヲ見ルコト多シ、怪ム可キナリ、蓋シ金・銀鋳アル地ハ雨少シキ乎、今夕「アイノ」ノ踊ヲ見ル、是又奇妙奇妙

○廿一日、尚風悪シク出帆ス可カラス、聞ク、「クナシリ」近來漁獵少ナク、請負人五千兩出シ松前へ相断リ度願タレトモ免サレス、終二年々三千五兩宛下ケラレシ由、年々損銀七八千兩ト云フ、案スルニ此島夷人百人ニ足ラス、且ツ支配人・番人其外此地ニアル人五十有余人ト云、此人数年々只食ニシ、且ツ官人頗ニ通行入用多シト雖トモ、年々百人ニハ足ラサルベシ、一人十日宛トシテモ千人ノ賄ナリ、サスレハ二三貫ノ損銀ナリ、三千五百兩ノ損銀松前ヨリ出

シタル算用如何ニモ分ラヌコトト云フ可シ、後日考フ可キナリ○「クナシリ」「チヤシコシ」ハ亥子ニ北海ヲ受ケ、天然ニ岩石ヲ以テ波戸ヲ為ス、奇ト云フ可シ、サレトモ波戸中狭クシテ深カラス、大船ヲ繫ク可カラス、番屋アリ、漁獵場ナリ、止宿所ニ非ス、已ムヲ得スシテ爰ニ泊スルナリ

○廿二日、辰時順風ニハ非サレトモ風波穩静トテ出帆ス、時ニ寅卯ノ風ニテ、八合帆ニテ直ニ^(レハウシ)「レバウシ」岬ニ到ル、此間里許、岸上山樹木茂生シ過半赤石山ナリ、「レハウシ」ヲ過キ、余程ニシテ小瀑布アリ、岩上ヲ迸ルナリ、之レヨリ十丁斗モ過キテ硫黄山アリ、処々焚煙ヲ吐出ス、海浜ニ大石多ク焼ケタルアリ、山腹ヨリ落ル者ノ如シ、之レヨリ暫シテ「ヒヒキ」岬ナリ、此間山高クシ楸・樅鬱鬱繁茂、人跡ノ及フ可キニ非サル者ノ如シ、温泉モアリト云、「ヒヒキ」ノ岬ハ巖石山ニシテ樹木少ナク、石皆代赭色ニシテ焼山ノ如シ、処々自然潰崩スル処アリ、之レヲ見ルニ代赭

石ニ異ナラス、手近ク取ル可キ程ナレトモ、船行故捨(捨)フコト能ハス、恨ム可キトス、蓋シ上品ノ分ハ血石ト云フ可キ乎、凡ソ五六丁間モ石質此ノ如キナリ、之レヨリ半里斗小石浜トナリ、山ハ岩石ニシテ漸次ニ低クナリ、「ルルイ」ノ山ヲ右ニ見、終ニ「ルルイ」ノ岬トナル、此処奇岩・怪石ノ絶壁ニシテ石質緻密、青赭色ノ砥ノ如ク見ユ、或ハ薄片ヲ重疊スル者ノ如ク見ユ、且ツ十有余ノ岩穴アリ、大ナル者ハ一丈四方モアル可シ、深淺ハ知ル可カラサルナリ、一奇觀ト云フ可シ、此ノ岬ヲ過キテ少シ斗行キテ「ルルイ」ノ澗アリ、サレ共甚ダ小澗ニシテ只ニ小船ヲ泊ス可キノミ、故ニ番屋モナシト云フ、之レヨリ「オツチシ」ト云フ出岬辰ニ当ル、「チャシコシ」ヨリ「ルルイ」迄行程六里、針路寅ニ向フナリ、「ルルイ」ヨリ辰巳ヲ指スナリ、之レ「ルルイ」ハ「クナシリ」中ノ東北ノ隅ニシテ之レヨリ寅卯ノ方ニ流ルレハナリ、此ノ「ルルイ」ノ岬ヨリ遙ニ卯辰ノ間ニ当ツテ「ワツカオイ」ノ岬ニ到リテ大穹隆ヲ出ス、「ルルイ」ト「ワツカオイ」ノ間距離八九里ナル可シ、此穹灣

深キ処「ルルイ」ト「ワツカオイ」トヲ直線トシテ二十斗モアル可シト思ハル、「オツチシ」ハ此ノ中ノ小出岬ニシテ此辺山モ又高クナル、樹木蒼鬱タリ、土色モ遠望スルニ青砥ノ如シ、此辺元來砥石出ルト云フ、「ルルイ」ハ夷言砥ノ義ノ由、之レヨリ「ソコホヘ」(底保倍)ト云処アリ、此ノ岬ヲ廻リテ二三斗ニシテ一瀑布アリ、幅二十間、長サ三十間ト云フ、高サモ殆ント同シカル可シ、「クナシリ」第一ノ瀑布ト云、岩石上ヲ逆流スル故ニ奇景トモ言ヒ難シ、此滝「エトロツブ」(エトロフ)ヨリ見ユト云フ、之レヲ一奇ト云可シ、之レヨリ王父山ノ麓ニシテ海浜多クハ平岡ナリ、林樾モ蒼鬱タリ、王父山ハ山麓ニ木多ク、三四合以上ハ草木ナク赭山ナリ、顛頂ハ微雨雲煙ニ掩ハレ、更ニ見ル可カラス、只ニ彷彿其大概ヲ見ルノミ、晴日ヲ待テ記ス可シ、蓋シ「クナシリ」第一ノ高山ニシテ、凡テ此島ノ山脈ハ「チャチャ」(王父山別名爺爺山)「ラウシ」(羅白)「タツニウシ」(火打山)三山ノ支山ナル可シ、右「ソコホヘ」ヨリ凡十四五丁ニシテ王父山ノ正北麓ニ当リテ、海岸二三斗モ漆黒色ノ岩石並立絶岸ヲ為セリ、実ニ珍奇ト

云フ可シ、実ニ「クナシリ」ハ天下ノ奇石アリト云フ可シ、蓋シ此地石炭多カル可ク思フナリ、之レヨリ王父山ノ東北ノ面トナリ、山漸ク低ク平面ノ地トナル、「ワツカオイ」辺ニ到リテハ一箇ノ曠原トナル、此大穹隆中多少ノ屈曲出沒ハアレトモ精詳ニ其名ヲ知ラス、故ニ概略スルナリ、之ヲ要スルニ蜿蜒タル山麓下ヲ過クルニ他ナラサルナリ、此ノ「ワツカオイ」ノ岬ヨリ又平山ナリ、樹木アルコトナシ、一里許ニシテ「ビロク」^(美祿)ノ岬アリ、此ノ処平原ニシテ方一里斗^(美祿沼)ノ湖アリト云フ、且ツ之レヨリ東海ヲ望ム可キト云、今日ハ風悪シクシテ「ルルイ」ヨリ帆ヲ掛ルコトナク始終盪シタリケルガ、「ワツカオイ」ヨリ引舟ニテ行ク、海浜針線ヲ見ルニ多分卯辰ノ間ニアリ、「ルルイ」ヨリ「ワツカオイ」ノ間モ多分辰巳ノ間ニアリ、是迄ノ図皆ナ真ヲ得サルト思フナリ、故ニ記シ置クナリ○「ワツカオイ」ヨリ曳舟一里斗ニシテ「ヒロク」ニ到リ、日モ已ニ晡時ト思ヒケル頃ヨリ少シク西南ノ風吹来リケレハ、帆ノ仕度ヲ為シ皆々舟ニ登ル、之レヨリ海浜ヲ離ルルコト漸ク遠ク、日

モ追ツテ暗クナリ雲煙濛々トシテ更ニ山ヲ見ルコトナシ、風モ追々強クナリ丑ヲ指シテ余程帆リ、其ヨリ梶ヲ転シ午ヲ指シテ帆リ、千変万状シテ漸ク「クナシリ」ノ山ニ近ツキ、之レヨリ針路ヲ寅卯ニ取り、帆ヲ卸シ盪シ行クコト凡一少時ニシテ、戌ノ上刻頃「アトエヤ」^(アトイヤ)番屋ニ着ス、「ワツカオイ」ヨリ「ヒロク」ノ間ハ山勢モ大ニ異ナリ、樹木更ニナク、草浅芽ノミノ如ク見ユ、海浜赭色ノ細砂ニシテ石更ニナク、一小山アレハ其両間ハ平原ニシテ、追々原野広クナル者ノ如シ、之レヨリ東岸ノ方次第ニ開ケ平原トナルナラン、且ツ東北「アトエヤ」^(阿吐江也)ノ方モ追々平地トナル由、「アトエヤ」ニ小一山アリ、其迄里許平地トナル由、尤モ此辺南北幅甚々狭ク、実ニ小帯ノ如シト云フ、之レ「クナシリ」東北ノ下端ナリ

○廿三日、風悪シク止宿、天気晴和、結髪シ折節調役並関谷順之介・同下役金谷清三郎^(金井)ニ邂逅シ、其ヨリ日和山工登ル、日和山ハ番屋背後ノ平山ニシテ、番屋ノ右側ヨリ登ル

コト山路蜿蜒凡ソ一丁半斗、四方眺望甚々妙ナリ、東ハ万里東海、西ハ「サカーレン」ヲ望ミ針盤ヲ証ス、申方「チヤチヤノボリ」、(扱 扱)「エトロツフ」ノ「アツサノボリ」、寅方「エトロツフ」ノ「タンネモイ」、酉戌方「クナシリ」「ルルイ」岬、日和山ノ出岬「コンシリ」丑ノ方、「ルルイ」岳西ノ方、東浦之レヨリ半里余ノ目下ノ出岬未ノ方ニ当ル、「エトロツフ」惣島卯ヨリ丑マテノ間ニ当ル、元来「ルルイ」ノ岬ト日和山ノ「コンシリ」岬ト、酉戌ト卯辰ノ大灣ヲ為ス、其距離十里余、其中心灣曲底ニ到ルノ距離モ殆ント二里許モアル可シ、世二行ハルル蝦夷ノ大図能ク其形勢ヲ画ケル者ノ如シ○番屋ハ日和山ノ下ニシテ亥ヲ正面トス、此処船ノ碇泊ス可キ港トハ云ヒ難キ処ナリ、只官人通行ノ為、春八十八夜後番人夷人十人ヲ連レ来リ、二百十日迄居住スル由、勿論漁獵モナキ処ト云、只々「エトロツフ」ヘ通行ノ為ニ設クルト云、正面ニ遙ニ「ルルイ」ノ岬ヲ見ル、左方ハ「クナシリ」尽頭ノ蜿蜒タル山アリ、此山十分ノ一斗リ凡ソ三里程ノ出岬アリ、是ノ尽ル処ニ日

和山アリ、是即チ番屋ノ処ナリ、此辺樹木少ナク流木ヲ集メ薪トス、水モ宜シカラスト云フ、全体金鉱多ク流水赤濁スル者多シ、且ツ能ク水腫ヲ発スト、之レ蓋シ水ニ礬石ヲ含ムナラン、礬石ヲ用ユ可シト思ヘリ、土人大根大功アリト云フ、未タ実否ヲシラサルナリ、試ム可キコトナリ○聞ク、午中刻小地震アリ、長シト、内地如何アラン乎、海浜ニ石ヲ拾フ故ニ知ラサル也○今日ハ暮マテ煙霧鎖サス、此ノ如キ日ハ月二両三日ノ外ハナシト云フ○申時頃海岸ヲ沿ヒテ「コンシリ」岬ニ到リ、「シコタン」(色丹)「エトロツフ」ヲ望ム、「シコタン」ハ余程遠ク二十里斗ニシテ五六島見ユ、辰ノ始線ヨリ巳ノ終線ニアリ、「エトロツフ」ハ近ク手ニ取ル如ク見ユ、近キ処ハ四五里ニ過キサル可シ、丑ノ始線ヨリ卯ノ終線ニ到ル、此ノ終線ニ当ル処ヲ「ルチャラ」蝦夷圖境輿地全
図ノ名ニ因ルト云フ、此ノ「ルチャラ」岬ト「クナシリ」ノ「ルルイ」岬ト卯酉ニ当ル、且ツ「エトロツフ」ハ「クナシリ」ノ東北ヨリ起リ、漸次ニ東ニ傾ク図多シ、思フニ「フウレベツ」(振 別)ヨリ「クナシリ」ノ「ソコホヘ」(底 保倍)ノ瀑布ヲ

見ルト云フ、サスレハ島尾ハ知ラス、島頭ハ諸図ヨリ余程西ニ寄ラザレハ見ル可カラサル者ノ如シ、尚ホ渡島ノ後記ス可シ

○念四、風悪煙霧濛々咫尺ヲ分タス、舟ヲ艤ス可カラス、今日モ止泊ナラン○午後海浜へ出テ奇石ヲ捨フ、砂浜ニシテ石稀ナリ、昨日「スランカステイン」ヲ捨フノミ、今日モ終日徒然、薄暮飲酒シ宿ス

念五、四ツ頃風順ヨシトテ「アトイヤ」番屋出帆シ、針路ヲ良ニ取ルナリ、之レヨリ三四里舳り回顧スレハ、「ラウシ」岳クナシリノ山也島ヲ左方ニ離島ノ如ク見、右方西浦ノ「ルルイ」岬ヲ見ル、「アトイヤ」ハ中央ニ見ユルナリ、前面ニハ「ベロタルヘ」岳（ベルタルベ山）エトロツフ上頭ノ山ヲ右方ニ見、「モエケシユン」岬ヲ左方ニ見ル、中央平谿ニ開クル所、即チ「タンネモイ」ナリ、「ベロタルベ」岳ヲ右辺ニ見、行クコト三里斗ニシテ、未ノ時頃「タンネモイ」ニ碇泊シ番屋ニ宿ス○番屋ハ

西向ニシテ左方「ベロタルベ」岳、右方「モエケシユン」ナリ、上陸後田村丸ノ廟ニ拝シ（番屋右側ノ平山ナリ）左右海浜ニ徘徊シ、草木・砂石ヲ探鑿スルニ曾テ奇ナル者ヲ見ス、木樅・夷松ノミ、草ハ茅・防風・其他当帰ノ如キモノ多シ、落葉松モ之レヨリ廿三四里ヲ経サレハナシト云フ、日暮湯ニ浴シ初更頃寝ス○「アフク」ト云フ小鳥ヲ見ル、脊羽羊甘色、腹羽灰白色、足ハ黄ニシテ水カキアル由、喙長ク黒色ニシテ鴨類ノ喙ニ似タリト云フ、薄暮遠見故不分明、聞儘記シ置、大サハ雀ヨリ少シ大ナリト覺ユ

○念六、今日ハ上リ風ナレハ帰帆、下リ風ナレハ「ナイホ」迄下リ、若シ又両方共風悪ケレハ「ルウチャロ」ト云東岸へ行カントノ約ナリシガ、終ニ上下共ニ難ク「ルウチャロ」行ニ定マル、石川・山本兩人行タリ、予ハ弱足ニテ午後ヨリ往返七里ト聞ク故ニ止マルナリ、跡ニテ聞ケハ往返四里ニハ足ラズト、能ク正ササリシヲ恨トス、故ニ未ノ下刻頃ヨリ漁舟ニテ「コトトイ」ト云フ海浜ニ到ル、番屋ヨリ一

里斗丑ノ方ニ当ル、岩石浜ニテ一川アリ、川ハ流レ木集リテ流水ヲ見ス、水声ハ石底ニアリテ流レサルニハ非サルナリ、山ハ平山ニシテ樹木ナク雑草多ク、熊ノ通行路トテ幅二尺斗モ偃レタルヲ見ル、コノ処日暮又ハ海霧暗キ日ハ、昼間ト雖トモ熊出ルト云、已ニ日晡モ過キケレハ、早々帰ル可シト云ヒシユヘ前行セサルナリ、此地ハ「クナシリ」ト違ヒ石質甚タ粗悪ニシテ、見ル可キ者絶テナシ、樹モ亦楸ノミシテ、落葉松ハ「フウレベツ」(振別)辺ニ到リ初テ見ルト云フ、只々海中「アシカ」ノ游泳出没スルヲ見ル、恨ム、馬頭ノ如キヲ見ルノミ、絶テ全形ヲ見サルコトヲ、薄暮歸ル、石川・山本モ既ニ歸ル、「ロチヤロ」(ルウチヤロ)ノ行程ヲ聞キ流涎シテ寝ニ着ク○「タンネ」長ノ夷「モイ」義「番屋ハ」ヘロタ「ルベ」申酉ニアリ、「モエケシ」(萌消)「チヤカシケ」(チヤヤケウシカ)丑寅ニ出テ両翼ノ如クシテ、午未ニ当リテ遙ニ東浦ノ「ロクコウノボリ」ヲ見ル、番屋ヨリ一丁斗東行シテ「シヘツ」アリ、之レヨリ東浦「ルチヤロ」(ルウチヤロ)ノ出路路アリ、此間一平原ノ由、夷小屋モ番屋左右三軒アリテ人口十七人ト云フ、然レトモ

十月ヨリ後ハ「ナイボ」ヘ引払フ由、■ヲ先ツ此地ノ住夷トス、番屋モ漁獵ノ為メニ設ルニ非ス、故ニ九月頃ニハ打払フ由、只々官人通行ノ為ノミ、之レ二百十日後ハ来四月下旬迄ハ、氷海風波甚タシク渡海ナラサル為ナリ、水モ此地ハ流水ヲ用フ、頗ル清潔ト思ハル、濁水ニ非サルナリ、其他鉄気多シト云フ○植物ハ番殖セスト云フ、「インゲン」豆・豌豆・大根・水菜類生茂スト云フ、只々其実熟セスト云フ、「インケン」豆ヲ種ウルニ、五月中旬ニ到リ先ツ熱湯ヲ注キ、其豆皮皴ヲ生スルトキ熱湯ヲ灌除シ、之レヲ種ウルトキハ四五日間ニ萌出シ実ルコト早シト云フ、南部地方寒地ニハ皆此方ヲ用フト云、珍事故記シ置

○廿七日、申酉ノ風烈シク渡海ス可カラス○「ベロタルベ」岳モ頗ル大山ニシテ、就中高聳ノ処ハ番屋ノ申ノ方ニ当リ、此処ハ焼山ニテ草木更ニナク、只々半腹以上ハ赭山ナリ、出岬海岸ヨリ番屋迄三里斗ハ樹木モ多ク、海岸ハ絶壁危岩多シ、番屋ヨリ一里斗ハ海岸砂礫ニシテ通行ス可キナリ、

番屋ノ所初テ平原トナル○「モエケシ」「チヤカシケ」ハ
 大山ニ非サルナリ、故ニ樹木茂生セリ、海岸ハ絶壁危岩異
 アルコトナシ、只々此ノ辺ハ「クナシリ」西浦諸山ノ如ク
 枯木甚タ少シ○「エトロツフ」島ハ文化年間公義(儀)ヨリ御開
 キノ地ニテ、夷人半髪ニテ髭ヲ剃リ割羽織ヲ着シ、何介・
 何兵衛・何平抔ト云、已ニ此地ニ居ル夷人代蔵・快平ト云
 フ由、然レ共平日ハ矢張「アツシ」着用ス、且ツ村方称シ
 テ「アイノ」トハ言ハス、女子ハ尚ホ外蝦夷ノ如シ、然レ
 共耳環ナシ、全体「クナシリ」以來ハ男子ニ耳環ヲ見ス、
 且ツ前頭半分ヲ剃ル者多シ、女子ハ多分後頭ヲ半分ヲ剃ル
 ナリ、此地ノ小児ハ耳「ハンコウ」ニテ内地ノ児ニ異ナラ
 ス、頗ル夷風少シ、風俗ハ中頃尤モ悪シ、女夷ノ口吻ノ入
 墨・手(腕)腕ノ入墨、男子ノ耳環、頭髮・髭鬚・眉毛ニ到ルマ
 テ少シモ剃ルコトナク、其風俗見ル可カラサル者ノ如シ、
 此地ハ却テ然ラス○此地「アツシ」ナシ、内地ノ古着或ハ
 「クナシリ」其他本蝦夷ノ夷人製シタル「アツシ」交易シ
 テ着用スル由、古「ムリ」ト云フ艸ヲ以テ衣トナスト云フ

ハ宜ナルコトナリ、今ハ会所アリテ裸体及ヒ艸衣ヲ着用ス
 ルモノナシ、先ツ難有時節ナリ、之レモ先年公儀ヨリ御開
 キアル故ナリ○葎ト概言ス可キ中ニ「ヒラツキキナ」ト
 云フ者アリ、之レハ高サ三尺斗ニシテ葉広ク長シ、茎ニ節
 ナシ、根ハ葎根ノ如シ、葉軟ナリ、夷人之レヲ敷物トス、
 敷者モ亦「キナ」ト名ク、又「ムリ」ト云フ者アリ、「ビ
 ラツキキナ」ヨリハ小ニシテ高サ一尺五六寸ニ過キス、形
 容凡テ「ビラツキキナ」ニ異ナラス、サレトモ其根ニ到リ
 テハ節ナク直系根ヲ異トスルカ、且ツ葉モ到ツテ軟ナリ、
 両品共ニ其香ハ内地ノ「カモシクサ」ノ如ク青臭シ、コノ
 「ムイ」(マ)ヲ「テンキ」艸ト「シヤモ」地ニ唱フル由、両品
 共ニ九月下旬十月ニ到リ刈り取り、雨雪ニ曝シ干シ置キ白
 色ニナリタルヲ用キル由、又一種「チセネモン」ト云艸ア
 リ、之レハ全ク葎ノ如ク茎ニ節アリ、節ヨリ葉ヲ出シテ其
 蕙麥ノ蕙ニ類ス、乾ストキハ甚タ軟ニシテ稻藁ノ如シト云
 フ、故ニ夷人屋根葎ニ用キル由ナリ、右ノ「テンキ」ニテ
 製シタル「フコ」ノ大ナル物ヲ「トシヨフ」ト云ヒ、小ナ

ル物ヲ「ケムトモシベ」ト云フトナリ、五葉松内地ノ姫地
松ノ如シ、夷言「ヘネツケル」ト云フ

○念八、順風ナレトモ風力弱シトテ出帆セス

○念九、順風トテ艤シカケ又逆風ニテ止メニケリ、昨夜・
今夜兩夜共雨數度降ル、然レトモ時雨ニテ大雨ニハ非サル
ナリ

○八月朔、夜明テ後暴雨暫ニシテ止ム、後チ西風ニナリ快
晴トハナラス、尚ホ雲霧濛々トシテ四望佳ナラス、昨夜未
明腹痛甚タシク微利、一行牛胆ヲ腹シテ直ニ愈ユ、今朝心
神爽ナラス、健(ママ)ヲ腹シ粥・梅干ヲ食ス、午後快霽、我
輩ノ爰ニ止宿スルヲ知リテ「フウレベツ」ヨリ菓子・酒其
外万物ヲ仕込テ、支配人・手伝人迎ヒトシテ来レリ、八ツ
過クル頃着船ス、其故夜食ニハ飲食シ臥シタリ

○初二、早朝ヨリ晴天順風ナレ共、今日所謂二百十日トテ
出帆セサルナリ○早朝「アトイヤ」ヨリ御用状ヲ持テ一艘
来ル、昨日出帆シテ潮ニ流サレ昨宵徹宵「エトロツフ」ノ
西南岬外ニ流出シ、(艦方)艦モ一本折リタリト、其故今日ハ止宿
シ夷人モ寝サセ、我輩ト一同ニ出帆スル由、今朝夷人十人
斗弁当ヲ持チ山ニ行キ、昨宵ノ艦ノ替リヲ拵ニ行クナリ、
実ニ可恐波濤ト云可シ、帰路ノ平和ノミ禱ルナリケリ

○初三快晴、帰路○辰牌順風ニテ「タンネモイ」出帆、凡
ソ半時計「ヘレタルベ」岬ニ到ル、風少ナク之レヨリ盪シ
行ク、此「ベレタルベ」岬ト「モエケシ」「チヤシケシ」
ノ岬トノ直線相距ルコト殆ント二里斗ト思ハル、此ノ直線
ヨリ「タンネモイ」ヘノ灣入一里斗ト思ハル、且ツ「ヘレ
タルベ」ト「モエケシ」ノ中間開豁ノ処ヲ「タンネモイ」
ト云、此ノ「ベレタルベ」ヲ離ルル時ノ潮甚々早シト云フ、
「ヘレタルベ」岬ヲ出ル頃ヨリ南風吹来、少シ開キタル帆
ニテ波濤モ甚タシカラス、午前二中ノ潮ヲ乗り過、程ナク

「クナシリ」ノ「コンシリ」^(コンシリ)岬ノ瀬戸ヲ過キ、順風且ツ日和モ十分故「アトイヤ」^(安渡移屋)ヲ看過シ、直ニ「ヒロロ」^(美祿)「ワツカオイ」^(ワツカライ)「ソコボヘ」^(ソコホヘ)等ヲ過キ、「ルロイ」^(ルルイ)ノ澗ニ泊ス、此処番屋モナク只々些ノ岩澗ニテ、漸ク小舟ヲ泊ス可キ処ナリ、海底悉ク岩石ニテ、絶テ岸下エ着ス可カラス
○「コンシリ」ノ潮ノ早キコトハ中々形容ス可カラス、念五渡リノトキハ風頗ル急ニシテ、波濤ノ為ニ一同酔ヘルト思ヒシニ、今日ハ風モ至極穩ニシテ、能々見レハ実ニ驚クニ堪ヘタリ、二百十日後ハ古ヨリ渡海ナラサル例ノ処ヲ初テ渡海シ、如此ク平穩ニ渡ルコト実ニ希代ノ天幸ト云可シ、此ノ「コンシリ」ノ十丁斗ノ先ニ巨岩五六モ波上三四尺斗出ツ、折節海馬ノ大ナルコト牛ノ如キ者四匹遊フヲ見タリ、之レ一奇ナリ、又海上ニ一鳥ヲ見ル、「スカベ」ト云フ、羽色鳶ノ如ク大サ鴻ヨリモ大ニシテ嘴ハ白キ水鳥ナリ○「タンネモイ」ニテ一種異魚ヲ見ル、其形チ鰕魚ニ似テ鱗ナク、頭ノ形状・色共ニ鱒ノ如ク、身ノ色鰻^(鰻)ノ如ク大サ一尺余、長サ三尺五六寸位、異人^(夷)モ其名ヲ知ラスト云フ、蟹ノ異種

アリ、全甲^(マ)噉足共ニ刺甚タシク、甲ハ津蟹ノ如ク大ナルハ一尺有余ノ者アリト云フ、惜哉、乾枯ノ物ヲ得ス、味ハ美ナリト云フ○「タンネモイ」寒シト雖、虎脚蚊多シ、夜モ亦来ル、然レ共蚊帳ヲ用フルニ到ラス、今夜「ルロイ」ニ帰り、又蚊虻多シ、樟木ヲ焼キテ漸ク寐ルコトヲ得タリ○里程「タンネモイ」ヨリ「アトイヤ」ヘ七里、「アトイヤ」ヨリ「ルロイ」迄九里ト云フ、「ルロイ」ハ北ニ海面ヲ受ケ、纔三四丁程ノ岩石澗ナリ、「カカリ」^(掛)澗ト云フ可キ地ニ非ス、已ムヲ得スシテカカル処ナリ、海浜ニ溪流アリ、頗ル急流ナリ、濁流ニハ非サルナリ、石質ハ堅硬粗礫ニシテ脆キ物ノ如ク見ユ、然レトモ脆カラス、又輕カラス、青色光沢ナキ石多シ、魚ハ鮭多シ、今日モ羅シテ得ル処皆之レナリ

○初四、逆風ニテ出帆セス、後如何アランカ、午後天陰リ東風強クナリ、薄暮ヨリ追々暴ニナリ、夜ニ至リテハ時吹添来、大東風大時化トナリ、泊舟モ覺東ナク覺ユ、幸ニ東

ノ巨岩下ニツナキ岩陰ニアル故ニ大濤劇風ノ愁ヲ免ルルナリ、丑ノ時頃ヨリ雨トナリ風大二減ス、夜明テ後天全霽、故ニ徹宵安眠スルコト能ス

○初五、「ルルイ」

中央ニ溪流ニケ所アリ、東ヲ大ナリトス

ノ湾出帆、「ルルイ」ノ

湾ハ「ルルイ」ノ岬ノ東辺ノ一小湾ニシテ、北面ニ海ヲ受ク、幅三四丁モアルヘク、岬端(端)ヨリ東ニ送り出ル岩石凡ソ一丁斗、又湾ノ東辺ニ長サ五六丈斗ノ大巨岩些シ斗海面ニ望ミテ聳ユ、之レヨリ迸出スル奇岩西方三丁半、中間半丁斗リノ距離アリテ、恰モ自然ノ海門ヲ為ス、海浜ハ砂礫或ハ大石叢ル、然レトモ海水ノ満干ニ由テ出没、高低ハ常ナラサルナリ、且ツ海底悉ク岩石ニシテ折々些ノ溝渠ノ如キ処アリ、此レニ從ツテ小舟ヲ進メ、暗礁ニ抵触セサル様ニ漸次ニ巨岩下ニ繋クナリ、故ニ碇泊ス可キ地ニ非ス、已ムコトヲ得サルトキハ錠(錠)ヲ両辺ニ投シ、船尾ノ二繩ヲ左右ノ大岩ニ固定シ、尚ホ棹ヲ舷ニ結ヒ付、暗礁高キ処ニテ船底(底)損害ナキ様ニ十分ニ心ヲ用ヒテ風波ノ難ヲ逃ルルナ

リ、此ノ如キ地故ニ番屋杯モ絶テアルコトナシ○「ルルイ」ノ岬ハ前路ニ記スル如ク、全島中ノ北方ニ突出スル最第一トス、遙ニ「アトイヤ」岬ト対峙ス、此岬二三丁斗ノ間、奇岩怪石画筆モ及ハサルノ光景ナリ、其ヨリ纔ニ行キテ一條ノ細瀑布アリ、之レヨリ出没高低ノ砂礫浜トナル、山上ニハ椴・夷松ノ類ト見ユル多シ、楓イタヤ・榛ハ・柳アリ、之レヨリ硫黄山多シ、「ヒヒキ」又「エハオイ」ト云フ、「ヒヒキ」ハ熱キコト温泉ノコト也、「エハオイ」ハ燃ルコト也、故ニ凡ソ二里間ノ名トナル、「ルルイ」ヨリ「エハオイ」ノ岬迄凡ソ三里、之レヨリ五六丁東ニ小滝有、又一丁斗東ニ些ノ平原アリ、方一丁斗苻此ノ平原上ニ叢生ス、全島中他ノ所ニ更ニナシト云フ、移シ植ルニ更ニ生盛セスト云、「エハオイ」ヨリ又一里許ニシテ小滝アリ、之レヨリ凡ソ十丁斗「レバウシ」ト云一溪間ニシテ些ノ平原ナリ、之レヨリ「チャシコシ」ヘ一里斗ト思ハル○「ルルイ」アタリヨリ山勢嶮峻ニシテ樹木多ク、土質ハ多ク燃土ニシテ赤色ナル者多シ、海浜ノ大石モ多ク、焼石ノ如ク見ユル者

多シ、「チヤシコシ」ヨリ二里斗ニシテ「イチウシ」ト云フ所アリ、千仞ノ赤壁断岸ニシテ半里斗ノ間、他ノ山容ニ異ナリ、此ノ山ノ尽頭ノ溪流間ノ処ヲ「シベトロ」ト云、「チヤシコシ」ヨリ三里、「ホントウ」「オンネトウ」「シベトロ」ヨリ三里、之レヨリ一里斗ニシテ「イヒカルベツ」、「ホンベツ」「オンネトウ」ヨリ六里、「チフカルベツ」「ホ
ンヘツ」ヨリ六里、「ソウシヘツ」「ベトカ」(秩 荊 別)「チフカルベツ」ヨリ九里、「トマリ」(泊)会所「ヘトカ」ヨリ三里、今日午後ハ海霧深鎖シテ、四望濛々トシテ分明ナラス、尚且舟行甚々疾ク遙ノ沖合ヲ艇ル故ニ、只々彷彿煙霧中低山ノ蜿蜒タルヲ見ルノミ、故ニ出没屈曲ヲ詳審ニ記スルコト得ス、因テ前記ニ讓ツテ敢テ漫ニ録セス○「オンネトウ」ノ沖合ニテ大鯨ノ波間ニ跳ルヲ見ル

初六、朝詰合衆中ヲ訪ヒ宿ニ帰ル、已ニ午飯ナリ、午後馬ヲ借り「ケレモイ」(計羅武威)湖畔ノ五葉松ヲ見ントス、会所元ヨリ弁天社前東方ニ出テ原上ヲ行クコト十一丁斗、其ヨリ海浜

ニ出テ又行クコト十丁斗、小川アリ、水色茶ノ如ク水深シ、其ヨリ海浜泥土トナリ砂地ニ非ス、水原根ヨリ無数ニ流出ス、此ノ処即チ「ケレモイトウ」ノ水門ナリ、此湖畔ノ北岸ニ沿フテ原上ヲ行キ暫クシテ小川アリ、之レ「ケレモイトウ」ノ上流ナリ、此ノ川ヲ渡リ玫瑰・高茅ノ中ヲ通行シ、凡十丁斗ニシテ東岸ニ出ツ、所謂大東洋ノ波濤ナリ、此岸頭ヲ行クコト十丁斗、之レヨリ左折シ茅原ニ入ル、十丁斗ニシテ少シノ樹木アルノ地ニ出ツ、之レヨリ右折シ水沢ニ入り、馬足立チ難キ処ヲ一丁斗行キ、之レヨリ又雑木中ニ入ル、此処即チ五葉松アリ、松ハ高サ三四尺、長サ五六間、幅三四間、蟠垣偃伏シテ内地ノ如キ松樹ニ非ス、実ニ奇樹ト云フ可シ、全島中只一樹ト云フ、松ハナキ也、行程三里ト云フ○「ケレモイトウ」長サ十丁斗、幅三四丁斗、到ツテ浅ク潮満ルトキハ海水入り来リ深クナル由、故ニ上頭ノ小川ニ鱒上ルトテ此頃夷人一人鱒番致シ居ルナリ、外ニ見物処モナケラネハ直ニ帰路ニ趣キ、申時頃弁天ノ処ニ帰り「ササリンドウ」ノ一種大ナル品ヲ掘り取り、又落葉松ノ

実ヲ採ル、之レハ「エトロフ」ヨリ取り帰り植ルノ由、外ニハ絶テ無キナリ○此地ハ帆立貝ノ名物ナリ、又虎脚蚊^(豹)・虻虫甚タ多シ、原上最モ多シ○小袖着用シテ朝暮ハ尚寒キヲ覚フ○昼虎脚蚊多シ

○初七、朝「エトロフ」ノ黒百合并ニ「ゲンチアナ」ノ根ヲ船便ニテ箱館送ノ荷造シ、運上屋裏ノ山ニ登リ大根畑ヲ見ル、大根・緑豆・葱ヲ植フ、大根ハ已ニ大ニナリ、花茎ヲ^(抽)抽ンテントスル者アリ、又路傍ニ自然生ノ蕎麦已ニ開花スル見ル、午後夷人ノ「オムシヤ」ヲ見ルノ約アリ○午後「オムシヤ」アリトテ運上屋元ニ到ル、^(役脱)調並関谷順ノ介公儀ヨリノ条々申渡、其後通辞コレヲ通弁ス、其後役下金井清三郎、夷人半髪ニ変セシ者ニ別段手拭・櫛・鬢附杯被下物ヲ談ス、通辞其事ヲ又通弁ス、其次ニ宮崎三左衛門「オムシヤ」ニ付、酒・煙草等常例被下物之談シヲ為ス、又通辞其祈由ヲ通弁ス、夷人ハ惣乙名留主ニ付、脇乙名名代亀藏、惣小遣イ並ニ小遣イ・土産取ト十人斗陣羽織ニテ安坐

ス、服ハ紫・緋・其外色々ノ役者古手ノ錦類ヲ着用ス、平蝦夷ハ木綿其外アツシ勝手次第ノ由、御思召ニ付今日半髪ニナルモノ五人、即チ名モ「シヤモ」同様ニ相改メ、且ツ履物・雨傘御免ノ談シ有之候、之レヨリ天目台ノ如キ物ニ椀ヲ載セ、凡ソ三合斗モ入ル可キ者也、之レニ湯桶ヲ添エ調並ノ所ニ出ス、足輕ノ酌ニテ酒ヲ吞初メ、之レヲ脇乙名ニ遣ス、其ヨリ下役相初メ又右ノ如ク其々へ遣ハスナリ、而シテ終ニ同心・足輕ニ到ル、同心ハ坐ヲ立チ役蝦夷ノ所ニ到リテ一々献酬アルナリ、其後支配人・通辞・番人迄銘々ニ役蝦夷人献酬終リテ、終ニ平迄各盞ニ酒ヲ吞ムナリ、其ヨリ大酔シテ躍リトナル、女ノ子ハ鶴ノ舞トテ一同円環ヲ為シ、「ヨイヤ」「ヨイヤ」ト云フテ手ヲ拍チ頻リニ左ニ廻ルナリ、男夷ハ歌ノ如キモノアリテ「ヨイヤ」「ヨイヤ」ト囃シ廻ル、其様女夷ト同シ、今日ハ詰合一同ヘモ酒ヲ出ス由ニテ我輩迄モ酒ヲ出シタリ、其ヨリ終ニ夕飯モ喫シテ通行屋へ帰ル、已ニ薄暮ナリ、夷ニ希代ノ珍事ト云フ可シ、女ノ子ハ濁酒ノミニテ酔フト云フ、夷人半髪トナリ名ヲ改

ムル者以前五人、此度共十一人ト云フ、「セカチ」ハ三五人、和児ノ如クナリシ者アリ、是モ一ノ改容ノ中ナル乎、切実ニ聞サルナリ

○八日、逆風トテ止宿、詰合中エ暇乞ニ到ル、詰合中ヨリ贈物アリ、関谷ヨリ菓子一重・帆立貝五枚^(枚)、金井清三郎ヨリ炙り麦・柿餅・干魚・艾・梅干一壺、宮崎ヨリ水団子・干菓子等ナリ、此方ヨリ関谷ヘ酒三升、金井・宮崎ヘ二升宛、宮崎ハ画ヲ能クスル人ニテ蝦夷人ノ図ヲ贈ル、尚又箱館逗留中ニハ「クナシリ」ノ図ヲ送ルノ約束アリ○午前運上屋裏ノ平山ニ登リ徘徊シ、終ニ又海浜ニ出ツ、昨日ノ「オムシヤ」ノ残り酒ヲ夷人打寄り呑ミテ、伊勢オントヲ歌ヒ躍ルヲ見ル、又一夷顔面ニ墨ヲ塗り、頭ニ注連ノ如キ物ヲ張り、尻ニ尾ヲ為シ何力獸状ヲ為ス戯ヲ見ル、午後又脊後山ニ登リ「ケンチアナ」ヲ掘ル

九日雨、已ムヲ得ス止宿スルナリ、午後宮崎氏ヲ訪フ、雨

弥甚シク夜ニ入り大風雨トナリ、曉ニナリ穩ニナリ早朝ヨリ快晴ス

○十日、辰巳風順風トテ辰牌頃「トマリ」出帆、「ノツケ」^(野付)近ヅク頃ニ支配人伴七同船故、風宜シ直ニ「シベツ」^(標津)ニ着船セント云フ、其意ニ任セ海上七里、平穩ニ八ツ頃ニ着岸○「シベツ」ハ本蝦夷東海岸ニシテ、番屋ヨリ右ニ「ホニコイ」^(ホニライ)「チャシコシ」^(茶志骨)「コイトイ」^(コエトイ)ト云フ三ツノ漁獵場アリ、「コイトイ」迄一里余ト云フ、之レヨリ「ノツケ」ノ岬迄二里斗東南ニ斗出スルナリ、左ニ「シヘツ」^(標津)ト云川アリ、広サ三十間、海浜ノ処頗ル急流ニテ船ヲ入ルル時甚タシク噪擾スルナリ、陸ヨリ川流ニ入り綱ヲ船中ニ投シ、二十人斗毛牽ク、舟人ハ棹ヲ指シテ湾曲ニ添フテ障碍ナキヲ要ス、其状甚タ危フキ者ノ如シ、纔半丁斗ニシテ番屋前ニ達ス、其ヨリ蜿蜒海浜ニ沿フテ三本木・「エチャニ」^(伊茶仁)ト云獵場アリ、之レヨリ北辺「シレトコ」^(知床)岬迄殆ント三十余里ト云フ、中央ニ遙ニ「クナシリ」島ヲ見ル、「ネモロ」^(根室)

ノ岬ハ見エサルナリ、番屋ヨリ北方ハ悉ク山々蜿蜒トシテ
 「シレトコ」ノ岬ナリ、番屋ヨリ西南ハ山ナク只々平原ノ
 如ク見ユルナリ○番屋ハ東ニ向ツテ建ツ、前ニ「シヘツ」
 ノ一支流アリテ、之レヲ困擁スルアリテ些ノ砂原岸ヲナシ
 テ海波ヲ隔ツルナリ

○十一日、晴天ナレトモ目賀田・榊原・市川十郎杯「ネモ
 ロ」ヨリ「ノツケ」渡リ、同ク「シヤリ」(斜里)行キトテ山中番
 屋ノ休伯差(通)聞キ、已ムヲ得ス一日滞留スナリ、聞ク、
 堀田ノ家臣モ先触来リ、途中出会ナラント思ハル、目賀田
 諸人出立後海浜徘徊方位等ヲ見ル、「クナシリ」「トマリ」
 ハ寅卯ニ当ル、「シレトコ」岬ハ正北ニ当ル、「ネモロ」ハ
 見エサレ共西南ト思ハル、草木異種ヲ見ス、土質ハ砂地、
 石ハ粗質ノ者アリ、牛馬ハナシ、昨晚方鶴ノ飛フヲ見ル、
 夷人半髪ニ変スルモノ往々コレアリ、此地番屋ナレトモ土
 蔵・建物甚タ多ク、頗ル繁昌ノ地ト見ユ、夷小屋モ常住三
 十軒斗モアル可シ、漁獵番屋モ三四里以内数ヶ所アリ、

中々「クナシリ」杯ノ同日ノ論ニ非サルナリ、「クナシリ」
 ハ素ヨリ「エトロウ」(マヤ)モ近来不獵、請負人断リヲ言フ由、
 サモアル可シト思ハル○番屋近所一里余モアル可キ平原
 ニシテ、多く沼地・川モアリ、墾開可ナル可シト見ユ、素
 ヨリ寒氣ノ処ハ知ラス、今日等胡瓜・五月綠豆・葱・大根
 ノ類ハ余程見事ナリ、其他ハ田圃ヲ見サルナリ

○十二日、辰半刻発足、番屋ヨリ凡一丁半斗南方ニ向ヒ、
 海濱ヲ行キ右折シ直ニ山道ニ入ル、一里斗ノ間ハ小木多ク
 漸次ニ大木トナル、二里十二丁ニシテ「トエヒラ」ト云フ
 小憩所アリ、前ニ「シヘツ」川流ル、幅十間斗水深シ、「ト
 エヒラ」ヲ出テヨリ十丁斗ノ間木賊满地ニ生茂ス、「オニ
 セツプ」ト云小川アリ、之レヨリ一里余ニシテ「ツナナ」
 ト云午休所アリ、今朝ヨリ樹木ハ檜・「ガンヒ」・楓・「セン」
 類多シ、「トエヒラ」ヨリハ檜ノ大木多シ、又川岸ニハ楊
 柳多シ、草ハ雜草モアリト雖熊笹・茅尤多シ、「ツナナ」
 ヨリ「タヲリマフ」(中標津)小憩所迄凡一里十一丁ノ間樹木少シ、

多クハ茅原ナリ、今日は迄漸次ニ高山頂ニ至レトモ、終ニ平原上ヲ行クト思フ、「タヲリマフ」ヨリ一里斗林樾中ヲ来リ忽チ一溪上ニ出ツ、溪底深サ数十丈、老樹蔭森、之レヲ望ムニ身神畏縮冷汗ヲ出サントス、之レヨリ老樹鬱葱中ヲ高低出没シテ一里七丁、「チラエワタラ」ノ番屋ニ止宿ス、行程凡七里十七丁ト云フ、路遠ク覺ユ○「チラエワタラ」番屋ハ尚ホ「ネモロ」領ニシテ、「シベツ」ノ川源右辺ニ流ル、北差東ヲ正面トス、素ヨリ官人通行ノ為ニ設ク者ニシテ常住ノ地ニ非ス、故ニ通行アルトキハ「シヘツ」番屋ヨリ万事持出シ支度ス、其勞云フ可カラス○此地樞ノ大樹多シ、前ニ「シベツ」ノ原流アリ、頗ル深シ、大木ヲ截リ出シ船材ニ杯ニ用ヰルニ最モ妙ナラン、樹木モ尚山中種々ノ用材モアル可シ、只々路傍ニ見当ラス、惜ム可シ、「タヲリマフ」ヨリ以来ハ竜胆・烏頭(ママ)ノ如キ草花モアリ、其外雜草多シ、又此アタリニテ牝鹿(ママ)ヲ飛走スルヲ見ル、「キツツキ」外ニ無名ノ小鳥ヲ見ル、「チラエワタラ」番屋アタリニハ鴉甚タ多シ、凡テ小憩所ノ屋根ハ樺皮ヲ用フ、又

番屋ニ樺皮ヲ入ル蔵ヲ見ル、此山中「カンヒ」ト云フ木ノ皮ナリ、内地ノ樺トハ異ナリ○「シベツ」ヨリ終日戌亥位(未申カ)ニ来ルト思フ○「チラエワタラ」止宿処ハ北差西東ニ向フ、前ニ「シベツ」ノ原流アリ、頗ル大河ナリ、且ツ四望林越中ノ平原ニシテ近ク山ヲ見ス、人煙多キ地ナレハ随分墾田モナル可キ地ト思ハル、今日ノ如キ暑サアレハ可成ニ稻モ生茂ス可ク思ハル、然シ霜ノ降ルコト早キヤラ、草葉已枯萎スル物ヲ見ル、寒暖ヲ知ラサル故ニ何共言ヒ難シ、後日議ス可キナリ

○十三日、「チラエワタラ」辰牌前発足、止宿辺ト同シ平原ニシテ笹・茅多ク樹木ハ少ナシ、十丁斗ニシテ小川ヲ渡ル、又十丁斗ニシテ左右ノ平山近ク迫リ、就中左山尤モ近クナル、行コト五六丁ニシテ右山又遠サカリ、西北茫茫タル茅原トナル処、蜜林鬱樹眼目ヲ遮ルトモ只々平林ニシテ山岡ニハ非サルナリ、一里廿六丁ニシテ「ケネカ」(ケネカフトカ)「ネモロ」境ニ憩ス、此憩所ノ脊後ニ「シヘツ」ノ原流アリ「クスリ」

ト云フ、爰ヲ出テテ細流ヲ渡ル、些シ宛ノ高低上下アリテ
 又平原トナル、折々老樹ノ林ヲ過ク、「チヤナンナイ」ニ
 到ル、「ケネカ(ケネカフトカ)」ヨリ一里ト云、之レヨリ又茅原開豁ノ地
 ヲ行キテ塚木アリ、「ウコウトル(ウコウトロ)」ト云、此ヨリ半里斗ニ
 シテ西南ニ当リテ「ネモロ」領「ニシヘツ(西別)」ノ山ヲ見ル、
 又其背後右側ニ男(雄)「アカン(阿寒)」岳ヲ見ル、之レヨリ蜜樹中ヲ
 過キ、忽チ茅原開豁ノ地ニ出ルコト其数ヲ知ラスシテ、「カ
 ンチウシフト」ノ塚木ニ到ル、之レヨリ又茅原ニシテ多少
 ノ高低屈曲、樹木大小疎密同シカラスシテ惣テ平原トハ云
 ヒ難シ、半里許ニシテ漸ク右山ニ近ツク、蓋之レ「メナシ」
東ノ諸山ノ根拠ナラン、此ノ山麓トモ云フ可キ処ヲ行クコ
義ト半里許ニシテ「カンチウシ」ト云午休所有、之レヲ出テ
 テ一溪間ニ下リ、又茅原上ニ登リ「アカン」岳ヲ殆ント正
 面ニ見テ、「シベツ」ノ上流ヲ左ニシテ遡リテ終ニ「ホン
 ケネタイ」ノ塚木ニ到ル、之レヨリ茅原或樹林中ヲ過キテ
 「ケネカワツカオイ」ニ憩ス、此ノ処「クスリ」(細路)「シヤリ」(斜里)
 領ノ境ナリ、此ノ処ヨリ忽チ左右甚々狭キ平山間ニ入ル、

此平山高サ丈余位、恰モ池塘ノ如ク見ユ、又其塘底ノ広サ
 五間位ヨリ十五六間位ト思ハル、真ニ城湟中ヲ行ク者ノ如
 シ、此ノ如キコト二十丁斗ニシテ右ノ平山ニ登リ、五六丁
 ニシテ「ヲタウニハナケ」(ヲタウニ)ノ塚木ヲ見ル、之レヨリ忽チ一
 溪間中ニ入り、纔ニ馬足ヲ容ル可キノ細経トナリ、初メテ
 蝦夷松ノ小樹処々ニ叢生スルヲ見ル、入ルニ從ツテ夷松漸
 次ニ大木ト、路ハ次第第二細ク、兩岸次第第二高ク、樹々相
(ヤ)テ日光モ漏ササル勢アリ、此ノ如ク蜿蜒屈曲シテ
(ルチシ)「ルウチシ」ノ塚木アリ、此処ノ山上ヲ以テ東蝦夷「ネモ
 ロ」・西蝦夷「シヤリ」ノ境ト云フ、尚右ノ如キ蜜林熊笹
 中ヲ行キ、溪間稍広キ処即チ「ワツカオイ」(湧生)ノ止宿所ナリ
 ○「オタウニバナケ」ニ到リ蝦夷松アリ、之レヨリ楸モア
 リ、「シベツ」以来初テナリ、頗ル「クナシリ」ノ形勢ア
 リト覺フ○鹿五六頭ヲ見タリ○竜腦、「ツバフキ」(心)ノ花ニ
 似テ葉ハ全ク

○中秋前一日、「ワツカオイ」通行屋発足、通行屋ハ官人

通行ノ為ニ用ユル斗ノ者ニシテ、其間ハ絶テ常住ノ人ナキ
 処ヲ云フ、通行屋ハ戌ヲ正面トス、之レヨリ尚ホ老樹陰々
 タル溪間ヲ行キ、泥土深キコト尺余且ツ昨夜ヨリ雨降、実
 ニ行路難ト云フ可キ処ナリ、行ク半里斗溪間漸次豁大トナ
 リ、不覺終ニ平岡上ニ来ル、山坂數回出沒シテ「トイサツ
 ル」ト云フ川ヲ渡ル、尚ホ鬱林中ヲ行キテ「ウヌンコイ」
 ト云墩木アリト云フ、知ラスシテ過クルナリ、之レヨリ一
 里斗ニシテ「シヤリルイランニ」ト云フ処ニテ午休ス、之
 レヨリ又蜜樹中ノ過クルコト元ノ如クニシテ、「ヘツウト
 ルクスナイ」ノ墩木アリト云フ、之レモ知ラサルナリ、此
 墩木ヨリ十丁斗ニシテ「サツル」ノ憩所アリ、此ノ憩所ノ
 前一川アリ、「シヤリ」川ノ上流ト云、已ニ大川ナリ、之
 レヨリ川流ニ從ツテ高低上下シテ墩木アリ、「オファイタワ
 コフ」ト云、此ノアタリヨリ蝦夷松・榎ノ老樹多シ、且ツ
 木賊甚タ多シ、「ワツカオイ」通行屋ノアタリ少シノ中ハ
 蝦夷松・榎アリト雖トモ、其以來ハ絶ツテ此ニ到リテ十丁
 斗ノ間頗ル多シ、「オファイタワコフ」ヨリ俄ニ暴雨降り来

リ、馬ヲ走ラシテ「カムイノミウシヒラ」ノ通行屋ニ止宿
 ス、故ニ其間ヲ精詳ニセサルナリ、概スルニ「シヤリ」川
 ノ流レニ沿フテ西北ニ来ルナリ○通行屋ハ東南ニ面シ、左
 側ニ「シヤリ」川ノ上流屈曲シテ流ル、潺湲ト湍声絶ヘス、
 山家形勢実ニ可愛前日ノ東海ノ波濤ニ異ナリ、只々子虫
 「ブト」ト云フ如キモノ多ク可憎ナリ、夕景雨暗、今夜ノ
 月明如何ト思フナリ○今日過クル地艸木ハ「ナナカマドカ」
 山栴(榎)ニ似テ稍大ナル者実モ亦然リ、「カツラ」「イテウ」
 二似テ葉林檎ノ葉ノ如クシテ、ヤハリ「イテウ」ノ如キ灰
 白色ノ者遠ク望メハ全ク「イテウ」ノ如シ、「フウレツフ」
 灌木ニシテ赤キ実アリ、葉ハ接骨木ノ如シ、「ブニ」梨子
 ノ小葉ノ如(ママ)ノ如シ、「カツラ」大木尤モ多シ、其他雜木・
 雜艸枚挙ニ違アラサルナリ○「ワツカオイ」ヨリ行程五里
 三丁○「カムイノミウシヒラ」通行屋ハ「シヤリ」川ノ河
 岸ニシテ四面柏・楓ノ大樹林中ナリ、其外雜木ハナシト云
 フテ可ナリ

○中秋晴、「カムイノミウシヒラ」ヲ辰牌後發足シテ、尚
 ホ昨日ノ如キ柏・槐・楓樹ノ大樹中ヲ行キ、「シヤリ」川
 ノ上流ヲ右ニシ「タンネビラ」ノ墩木アリ、之レヨリ漸ク
 「シヤリ」川ヲ遠カリ、「ツフランケウシ」ト云処ニ午休
 ス、墩木アリ、此辺椴・「オンコ」・楓ノ大樹尤多ク、樹間
 過半木賊甚タ多シ、熊笹モ少シ、「フツフルウシ」ノ墩木
 アリ、半里斗ヨリシテ路悪クシテ馬足甚タ難シ、之レヨ
 リ半里斗ニシテ「ニケウルカ」ト云処ニ憩ス、之レヨリ又
 大樹中ニシテ「シヤリ」川ヲ左ニシ漸次ニ遠カリ、路最モ
 悪シク行キ難キコト一里斗、左方ニ川アリ、「ウエンベツ」
 ト名ク、板橋アリ、幅七八間斗、緩流ナリ、之レヲ渡リ間
 モナク一平山下ニ到リ、蜿蜒トシテ些シ斗登レハ北海即
 「サカーレン」海渺茫トシテ、右ニ「シレトコ」岬突出シ、
 左方ニ「ノトロ」岬斗出シテ、其間殆ント二十里モアル可
 キ一大灣ヲ為ス、之レヨリ四五丁ニシテ海浜砂原ニ出ツ、
 即チ北海岸ナリ、右方ニ標柱アリ、山道入口字「ニナルサ
 ン」ト書ス、蓋シ「シヤリ」ヨリノ目的也、之レヨリ海浜

十余丁南行シテ「エカル」ト云フ墩木アリ、終ニ「シヤリ」
 川ヲ船渡シテ運上屋ニ着ス○今日ノ方位ハ北差東ニ出ル
 モノノ如シ、且ツ柏ノ木・椴・楓・槐ノ老樹鬱葱トシテ終
 年天日ヲ仰カサルノ地多シ、故ニ四顧スルニ山上・平野タ
 ルコトヲ知ル能ハス、纔ニ海岸ニ出テ初テ其平原タルヲ知
 ル、樹陰ノ為ニ路モ泥粘ニシテ終年乾カサル者ノ如シ、且
 ツ樹々三四囲或ハ七八囲ニ到ル可シ、高サモ十間又ハ廿間
 位モ直立ス、運輸モ「シヤリ」川ノ上流アル故便ヲ極メタ
 ルニ、惜ム可キハ夷人少ナク、出ス程ノ生業ヲスル者ナク、
 大樹ハ多ク立チ枯トナリ或ハ暴風ニテ吹折數千本重々摧
 殘シ往来ノ害トナリ、官人通行ノ為ニ截斷シテ纔ニ路ヲ通
 スル処多シ、如何トモス可カラズ、所謂勞而功ナキノミナ
 ラス却而其害ヲ受ルニ到ル、憐ム可キノ甚タシキニ非ス乎
 ○土ハ黒粘土ニシテ石稀ナリ○「シヤリ」運上屋ハ北ヲ正
 面トシテ、西側ニ「シヤリ」川アリ、幅三十間斗、然レト
 モ漫流ニシテ海浜ニ到リ、運上屋ノ前面ヲ廻リ半丁斗ニシ
 テ海ニ入ル、且ツ諸建物甚タ多ク、左右一二丁ノ間ハ建テ

続ケタリ、夷小屋モ二十軒斗アリト云フ、馬ハ纒二三頭ニシテ以前ヨリハ大二滅シ生息セスト云フ、水ハ清冽ニ見ユレ共宜シカラス○昨夜「カムイノミウシビラ」「カムイ」ハハ供酒ナリ、「ビ」之レ夷人「シヤリ」上流ニテ、神「ミウシ」ラハ水涯ナリト云テ供酒シテ祭ルト云フ故ニ名ツクル由、十四夜尤モ晴光山涯ノ水辺ニテ見ル、極メテ妙ナリ、今夜望、「シヤリ」海浜万里ノ波濤中ニ月ヲ看ル、奇ト云フ可シ、惜ムラクハ前夜ノ如ク晴光ナラス、明夜如何、郷里江戸ノ諸友今夜我輩ヲ思フヤ否ヤ、(騷)覇旅ノ歎今夜最モ甚タシ

○十六日、「シヤリ」運上屋元ヨリ船ニ乗リ二三丁ノ間川流ヲ盪シ、終ニ海ニ出テテ西ノ方エ艇ル、東北ノ岬ヲ「シレトコ」岬ト云、之レ本蝦夷ノ東北ノ尽頭ニシテ忽北岸ヨリ斗出スルコト十有余里、(宗谷)西岸曾宇屋ト対峙スト云フ、然レトモ其間殆ント百里ニシテ秋天朗晴ト雖トモ見ル可カラサナリ、東北岬ノ尽頭ヲ「シレトコ」岬ト云ヒ、第二ヲ(ル脱)王父岳ト云ヒ、第三峰ヲ(遼音別カ)「イハオイベツ」ト云ヒ、第四

峰ヲ(海別)「ウナヘツ」、些ノ距離アリテ運上屋背後ニ在ル山ヲ第五「シヤリ」嶺トス、(斜里岳)以上山名、番人所言ヲ記ス、諸人ノ記ト合セ、(トバ)西辺斗出シテ目撃スル山ヲ「イトロ」岬トス、其中大湾中ノ中央「シヤリ」川ノ凹処即チ運上屋ナリ、此地遠浅ニシテ船舶ノ泊ス可キ地ニ非スト云、然レトモ頗ル巨屋ニシテ、所領ノ地二十有余里ニシテ北海岸最第一ノ利益処ト云フ、之レヨリ二里ニシテ「トコタン」ト云フ憩所アリ、又二里(止別)「ヤンヘツ」ト云漁獵場ナリ、此後部ニ遙ニ「ヤンヘツ」岳見ユ、又一里ニシテ「フレトイ」ト云、此処官人通行ノ時午休所ナリト云フ、又二里「トウブツ」(瀧沸)魚獵場アリ、「シヤリ」ヨリ此アタリ迄ハ平地ニシテ惣テ茅原ノ如ク見ユ、「トウフツ」ヨリ些ノ高阜トナリ、樹木往々生茂シテ茅原ノ如ク見エス、又一里ニシテ「ニクリバツケ」ト云、又十丁斗ニシテ「オシヨツプ」ト名クル魚獵場アリ、又一里斗ニシテ四五丁相隔リ数所ノ漁獵場アリ、悉ク其名ヲ録セス、終ニ「ポンモイ」ト云フ魚獵場アリ、此ノ処一小岬ヲ為シ頗ル凹処ヲ為シ、西方ノ「ノトロ」岬ト幅三四丁ノ小湾ヲ(能取)

為ス、此灣ノ到底即チ「アバシリ」番屋ナリ○(網走)舟行九里五丁余、今夜月朦朧ナリ

○十七日、「アバシリ」番屋ハ「ホンモイ」(ホンモイ)些ノ岬トナリ、

「ノトロ」ノ岬ト相對シ小灣ヲナス、尤モ「ノトロ」ノ山

麓出入ノ到所「アバシリ」川ナリ、此ノ川口殊ニ船泊ノ処

トナル、番屋ハ川ノ南畔ナリ、夷屋三十軒・人口百七十人

斗ト云、川幅十四五間、此川ノ奥二里斗「トウ」湖アリト

云、之レヨリノ下流ニシテ緩流ナリ、番屋前ハ一丁余ノ砂

浜ニシテ「ホツキ」(北寄)ノ殻夥シ、秋来ノ漁業ヲ第一トス、番

屋ヲ出テ南行一丁斗忽チ山路ニ入ル、羊腸數回纒一丁半ニ

シテ平山頂トナル、之レヨリ平路ニシテ夷屋數家アリ、番

屋ノ畑アリ、凡ソ二段斗粟・「バンバラ」・蕎麥、今年命ニ

依リ初テ試ニ種ユト云、粟・「バンバラ」已ニ実ノル、蕎

麥ハ未タ花多シ、南瓜花盛、大根・瓜・綠豆ハ能ク熟スト

云フ、山中往々胡桃樹多シ、之レヨリ「ホウロ」岬ノ南側

へ出ツ、「ホンモイ」ヨリハ少シノ南ナリ、「ボウロ」岬ハ

断崖ニシテ石性甚タ奇ニシテ、人作ヲ以テ組立タル石垣ノ

如ク、石質ハ粗ナルカ如クシテ堅硬ナリ、青灰色ニシテ會

テ他石ナシ、此ノ「ボウロ」ヨリシテ海濱ヲ行クコト三丁

斗「ホロワタラ」墩木アリト云フ、見サルナリ、又行クコ

ト二三丁ニシテ「フンベヨマイ」漁獵場ナリ、之レヨリ乘

船ス、「アジリコタン」漁獵場アリ、此処ニテ雨ニ逢ヒ「ト

リランキムイ」漁獵場、「ノツエト」漁獵場、「オシヨツプ」

漁獵場、「ニクリハケ」墩木夷屋七軒、「モコト」(藻琴)漁獵場夷

家五家、「トウ」(藻琴湖)湖アリ、周廻一里余ト云、川アリ、

「トウフツ」墩木_{「トウ」ハ沼、}之レヨリ「フレトイ」マテ

凡ソ二里間ノ湖水アリト云、横広キ処一里、漁獵多シト云、

「マクンベツシヤロ」墩木、「アオシマイ」夷家四軒、「フ

レトイ」墩木官人午休所、此処昨年風波ニテ家屋迄流出、

当春十間斗海濱ヲ去リ建ルト云フ、(止別)「ヤンベツ」漁屋夷家

六軒、墩木アリ、「リンクリ」墩木、「トコタン」小憩所墩

木、「フツプナイ」墩木、之レゾ大暴雨トナリタレトモ幸

ニ順風故雨中艇リ、「エカル」ヲ過キ未ノ上刻「シヤリ」

運上屋着ス、今日ノ行程昨日記スル処ノ如シ、其大概ヲ記

ス○今宵雨晴ルト雖トモ風悪シク月色朦朧昨夜ノ如シ、明日山路ノ晴天ヲ祈ル

○十八日、雨風猛烈ニシテ山道ノ枯木倒ルルノ恐アリトテ止ムコトヲ得ス止宿ス、午後海浜ニ出シニ大濤如雷、砂粒面ヲ搏テ寸歩スルコト難シ、二三丁斗歩シテ帰館ス、之レヨリ只々旅愁中大波浪ヲ聞テ遙ニ西南ヲ望ミ、又東方ニ向ヒ月ヲ看テ終ニ初更後寐ヌ

○十九日晴天、辰牌発足、番所元ヲ左ニ出テテ「シヤリ」川ヲ渡リ海浜三四丁ニシテ「エカル」ノ墩木アリ、又十丁斗ニシテ「ニナサン」ト云所アリ、之レ左折シ山道ニ入ル、些シノ平岡ニ上リ自然ニ下ルコト一丁斗ニシテ左右少々宛ノ樹林トナル、之レヨリ四五丁斗モ川ニ沿ヒ行キテ板橋アリ、之レヲ「ウエンベツ」ト云フ、此ノ橋ヲ渡リ追々蜜林喬木トナル、行クコト十丁斗ニシテ細流ヲ渡ル、小板ニ三枚ヲ架シテ橋トス、「ライベツ」ト云、之レヨリ晴陰弁

シ難キ程ノ蜜林トナリ、仰ケバ緑樹重陰ノミ、俯シテハ木賊或ハ熊笹ヲ看ルノミニシテ、絶テ寸地ノ土色ヲ見サルナリ、行クコト半里斗ニシテ初テ「シヤリ」川ヲ左ニ見テ、之レニ沿ヒテ纔ニ行キ又遠カリテ「ニケウルカ」ノ小休所アリ、此処樹木些シク疎ナル処ナリ、此辺又大楓・「カツラ」^(桂)林トナリ、蜜葉ノ為ニ熊笹モ疎ナル位ノ処ヲ行キ過キテ、椴・「オムコ」・槐ノミノ蜜林中ヲ行キ「フツフルエカ」ニ墩木アリ、此ノ前後「シヤリ」川ニ沿ヒ又遠カルコト数回、之レヨリ尚ホ椴・楓ノ大サ三四抱モアル可キ中ヲ過キテ「ツプランケウシ」^(チプランケウシ)ト云、之レソ午休所トス、是迄林樹殊ニ蜜ニシテ緑陰中「シヤリ」川ノ湍声ヲ聞クノミ、此ノ「ツプランケウシ」ヨリ半里斗ノ間ハ熊笹大ニ生茂シ、多クハ「シヤリ」ノ上流ニ沿ヒテ行ク、之レヨリ又椴ノ大樹トナリ「タンネビラ」ノ墩木アリ、此ノ辺ヨリ楓・「カツラ」ノ大樹間ヲ行キテ一里ニシテ「カムエノミウシヒラヲケセ」ト云墩木アリ、此辺ヨリ檜ノ大木中トナリ、左ハ「シヤリ」川ノ断岸ニ沿ヒテ二三丁ニシテ同名ノ番屋ニ着ス

○栗鼠ノ枯木ニ上ルヲ見ル、其状「イタチ」ノ如クシテ尾尤大ナリ、毛ハ「イタチ」ヨリ黒色ナリ○「シヤリ」ニ馬纒二三四匹アリト云フ、従来四五十匹アリシニ追々死亡シテ今此ノ如シト、蕃息シ難キ地ナラン、其故ニ山道ヲ越ユル者ハ「ネモロ」^(根室)ノ馬ニテ百三四十里間ヲ行ク也、又「ソウヤ」^(宗谷)ヨリ山道ヲ越エ「ネモロ」ニ到ル者ハ、「ソウヤ」馬ニテ百三四十間^(里)ヲ行ク也、憐ム可キ者也、我輩モ已ニ「ネモロ」ノ馬ニテ「シベツ」^(標津)ヨリ山道ヲ越、馬ヲ休息セシムル為ニ兩日「アバシリ」ヘ行キ、又其馬ニテ山道ニ帰ルナリ、実ニ憐ム可キモノナリ、故ニ馬毎ニ背皮皆破レ、痛苦ニ堪ヘサル者ノ如シ、蕃息ノ良法ナキ乎、後考ニ備フ

○廿日、「カムイノミウシヒラオケセ」ノ止宿所ヨリ東南ニ出テ、昨日ノ如キ榎・楓ノ大樹中ヲ行キ、左ニ「シヤリ」川ノ上流ヲ見ル、林樹疎蜜ナキニ非サレトモ平途ノ如キ地ヲ行キ、一里ニシテ「オフイタツコフ」ノ墩木アリ、又半

里斗ニシテ一坂ヲ下ル、一丁斗右方ヨリ一溪水流レ来ル、之レヲ「ヲサウス」ト名ク、五六丁行キテ「サスル」^(サツル)ノ小憩所アリ、此ノ前面ニ「トウサスル」^(トウサツル)ノ小川アリ、「シヤリ」川ノ一水源ト云、且ツ「シヤリ」川ノ真ノ水源ハ「ムカハ」ト云ヒテ、「シヤリ」諸山ヨリ流出シテ此処ヨリ左方ノ溪間ヲ流ルト云、之レ半里鬱林ヲ過キ「ベツウトルクスナエイ」ノ墩木アリ、此辺「ナナカマ」・槐・「カツラ」^(クモ)「アツ」ノ木多シテ、且ツ枯木多ク過半朽木ト云ヒテ可也、又一溪流ヲ渡リ半里斗行キテ溪間トナリ、左右平山間ヲ行クコト五六丁、又平山上ヲ行キテ「シヤリルイランニ」ノ墩木アリ、之レヨリ左ニ一溪ヲ見ル、深サ二三丈蜜樹陰森タリ、纒ニシテ又溪間ノ如クニナリテ同名ノ午餉所ナリ、左方ニ「シヤリ」川ノ上流アリ、此ノ前後枯木尤モ多ク、一昨日ノ風ニテ倒木途ヲ遮ル者多シ、之レヨリ「アツ」^(オヒヤウ)・榎^(ヘシカ)・ヒン^(シヤモ)・楓ノ大樹林中ニシテ、「シヤリ」川ヲ左ニシ半里斗行キテ一坂ヲ下リ板橋ヲ渡ル、即チ「シヤリ」川ノ上流ナリ、又一坂ヲ上リ暫ク平山上ヲ行キ一坂ヲ

下り、「トウサツル」^(札幌)川ヲ右ニシ高低上下シテ「ウヌンコイ」ノ墩木アリ、又川ヲ渡リ出沒上下スルコト数回ニシテ、「トウサツル」川ヲ左ニシ又ハ右ニシテ「ワツカオイバナゲ」ノ墩木ナリ、終ニ又此上流ニ遡リテ「ワツカオイ」^(湧生)止宿所ニ着ス○今日過クル処蝦夷松・楸ノ木ハ「ウヌヌコイ」ヲ過キ暫クシテ溪間底ノ如キ辺ヨリ多クナリテ、止宿処ニ近ク処尤モ多シ、惣テ湿润地ニ植スルモノト覺フ、「ウヌンコイ」十丁斗ニシテ高低上下数回、終溪間湿润ノ地ニシテ行歩尤モ難キ地ナリ、故ニ楸類多シト覺フ、惣テ樹木ハ昨日ノ如ク蜜ナラサレトモ大木ハ多シ、然レトモ枯木多キハ如何ントモ知レ難シ

○念一、「ワツカオイ」ノ止宿所ヲ出立ス、前日記スル如ク山間ノ鬱樹中ニシテ溪底ノ如キ処ヲ行キ終ニ一縷ノ細径トナリ、此レヨリ北方ヨリ流レ来ル一山麓ヲ越ヘ「ルウチシ」^(ルチシ)ノ墩木ニ出テテ、路弥細ク蝦夷松益高ク左右ノ山ヨリ頭上ヲ掩ヒ、片雲ヲ見ル可カラサルノ形成トナリ、

半里斗行キテ溪山ヲ上下スルコト兩三回ニシテ、平山上ニ出「ヲタウニバナケ」ノ墩木ナリ、此レヨリ四五丁斗ノ間多少ノ上下アリテ終ニ溪間ニ下ル、此ノ溪底茅原ニシテ東西十余間位ニシテ南北へ凡十丁斗、五六丁モ行キテ少シク樹木アリ、楸・「カハ」「イタヤ」^{「シヤモ」語、紅葉セヌ楓ノコト、夷語「トヒネ」ト云フ、「ハナイタヤ」「シヤモ」語、紅葉スル楓ヲ云フ、「ユハトヒネ」夷名ナリ、「ユベヘ」ハ六ノコト、其葉六出ユヘ名ルト云ヘリ}多シ、楸ハ少シ、此ヨリ又平山ニ上リ茅原中ヲ行クコト半里斗ニシテ「ケネカワツカオイ」ノ憩所アリ、之レヨリ少シ行キテ「シヤリ」「クスリ」ノ境ナリ、些ノ溪澗ナリ、又平岡ニシテ「シベツ」^(標津)ノ水源ヲ右ニシ「シベツ」ノ山ヲ見ル、之レヨリ兩三度高低上下シテ「カンチウシ」ニ午餉ス、之レヨリ尚ホ茅・笹ノ平原ヲ行キテ左方ニ平山ヲ見ル、回顧スレハ

(西別)

「ニシベツ」ノ山ヲ見ル、前路「ニシベツ」ノ山ノ北辺ニ

(阿寒)

「アカン」岳ヲ見ルト書スルハ一番人ノ説ニシテ全ク誤リナリ、之レハ「ニシベツ」ノ一山ニシテ「アカン」ニ非サルコトハ此度諸人ノ説ニテ明ナリ、之レヨリ「カンチウシフト」ノ墩木アリ、此処ヨリ十丁斗行キテ「ニシベツ」ノ

山麓ノ西ニ遙ニ「アカン」ヲ見ル、男女共ニ見ユ、只々ニ三丁ノ間ノミ、而シテ左辺ニ「シベツ」ノ「チウルイ」(忠類)山ヲ見ル、又平岡ヲ行クコト暫ニシテ「ウコウトロ」(ヲコウトロ)ノ墩木ナリ、之レヲ過キテ五七丁斗ニシテ又「アカン」岳ヲ望ム、是又暫時ニシテ半里斗過キテ溪間ニ下ル、行クコト十丁斗ニシテ「シベツ」川ヲ左ニシ是又暫時ニシテ樹林中ニ入り、又平岡ニ出テテ「チヤナンナイ」ノ墩木アリ、之レヨリ又茅原ニシテ折節樹林アリ、半里斗行キテ又「シベツ」川ヲ左ニ見ルコト暫ニシテ、又茅原平岡トナリ「ケネカ」ニ憩ス、之レヨリ些シ斗以前ニ「クスリ」「ネモロ」ノ境ナリ、「ケネカ」ヨリ又茅原上ニシテ或ハ林間トナリ、終ニ高低上下溪流ニツヲ渡リテ疎林中半里斗ニシテ「チラエワタラ」止宿所ニ着ス、今日又栗鼠ヲ見ル、蝦夷松・櫟、「オシニコ」ハ「オタウンハナケ」ヲ限リトス、其後ハ「カバ」・山桜・楓・イタヤ・榎ヲ多シトス、艸毛異種ヲ見ス、「セシ」「オヒヤウ」「タモ」多シ、款冬・竜胆「ケネカワツカオイ」以来多シ

○念ニ、「チラエワタラ」出立「シベツ」止宿、行程七里十七丁、止宿処ヲ出テテ「シベツ」ノ上流ヲ左ニシ纔ニシテ無名溪ニ下リ、四五丁斗ノ小山ヲ越エ「オンネリウル」「オンネ」ハ大ノ夷言ノ由「ホソリウル」「ホソ」ハ夷言小ノ由溪ヲ渡リ、又十余丁斗ノ平山ヲ行キ「ヒトイウシ」ノ溪ヲ過キ、一里半斗ノ平山ヲ行キ又「シベツ」川ニ近ツキ又忽チ遠サカリ、一丁斗ニシテ「タオリマフ」(中標津)ニ憩ス、此処南向ナリ、之レヨリ平岡ヲ行キ一里バカリ、開豁ノ茅原ニシテ樹木少ナク左右一二丁ヲ隔隔ママテ蜜林アリ、左方林上ニ遙ニ「チウルイ」山及ヒ「シレトコ」(知床)諸山ヲ見ル、之レヨリ終ニ榎・「カバ」ノ林中ニ入ル、些シ下リテ一平地ノ自然ニ田圃ノ如クナリタル地ヲ行クコト十丁斗ニシテ又平岡ニ上ル、即チ「ツナナ」午餉所ナリ、又南向ト思ハル、之レ高低上下数回ニシテ「オニセツプ」「トホウ」等ノ溪流ヲ跋涉シ、「トエヒラ」ニ憩ス、此レ北向ニシテ楊柳・楓樹岸ヲ夾ミ、「シベツ」頗ル大ニシテ光景山道中ノ

第一トモ言フ可シ、尚又茅原岡上ヲ行キテ一里斗ニシテ終ニ鬱林中ニ入り、又一里斗ニシテ一平山ニ上リ「シベツ」ヲ左ニシ、又遠サカリ行クコト十丁斗ニシテ平山將ニ尽ル処左ニ「シレトコ」諸峰、右ニ「ノツケ」岬、正面ニ「クナシリ」島ヲ見テ、「ホニコイ」ノ漁場海浜ニ出テテ「シベツ」番屋ニ再ヒ止宿ス、今日「オニセツプ」溪流ニ鴨ノ浮施(遊)スルヲ見ル、「シベツ」海浜ニ薄荷ヲ見ル、然レトモ香氣ノミニテ辛味ナシ、蓼モ亦然リ○異聞、「オンネリウル」ノ辺以前ハ夷屋アリシ由、今ハナシ、十年前迄ハ一軒残りシガ、今ハ「シベツ」番屋元ニ移住スル由○昨日「オタウニバナケ」ノ処ニ五葉松二三株ヲ見ル、喬木ナラズシテ「クナシリ」ノ五葉松ノ如ク、灌木状ニ叢生シテ高サ三尺位ニ過キス、夷人曰、「シヤリ」諸山ニハ甚々多シト、路傍ニハ到ツテ稀ナリ、異聞、「ネモロ」領公領ノ節ハ夷人千何百人ノ処、昨年ノ人別ハ漸ク五百人位ト云フ、是近年疫病流行、此ノ如ク死亡スト聞ク、「ネモロ」領海浜殆ント五十里、然ルニ医師一人モナク「アツケシ」(厚岸)ニ一人詰

合ノミト、其故「アツケシ」ノ医者、春秋兩度「ネモロ」領番屋ヲ見廻リ、風薬・食滞薬位ヲ調査シ置キ帰ル由、其故ニ疫疾杯ニ罹リテモ医療モナク壯熱ニ死スル者甚々多シト、傷ム可ク悲ム可キノ甚シキニ非スヤ、人ニ生レ医療・撰養ヲ欠クハ、実ニ世界広シト雖トモ此ノ事ナキ国外ハ沢山ニハアル可カラス、有志ノ人早ク之レニ用心セサルハ何ソ乎

○念三、「シベツ」発足、(マ)ノ海浜ニ二丁ニシテ「ホニコイ」ノ漁場、十丁斗ニシテ「チャシコツ」(茶志骨)ノ漁場夷屋二十軒斗アル由、「シベツ」ヨリ此辺マテハ左ニ「クナシリ」ノ西浦ヨリ南辺ヲ見ル、左端ニ「ルルイ」ノ山ヲ見、其次ヲ「チャチャ」(王父山)、其次ヲ「ラウシ」(羅臼)、右端ヲ「タツニウシ」トス、之レヨリ海浜ヲ行クニ從ツテ歩々其孱顔ヲ改ム、「ラウシ」先隠レ、「コイトイ」(コイトイ)ニ近ツクニ從ツテ「チャチャ」(別名爺々岳)隠レ、終ニ「ルルイ」モ隠レ、「タツニウシ」ノミ独り突兀タリ、「コイトイ」ニ到リ着シテ「クナシリ」ノ南面ヲ

見テ、「ラウシ」又右端ニ踰ハル、又「チウルイ」^(虫類カ)諸山ヲ始トシテ「シレトコ」諸山皆背後ニアリ、而シテ右ハ茅原左ハ東海ナリ、「コイトイ」通行屋ヲ一里トス、此通行屋ハ東北ニ面ス、此ノ裏ヨリ乗船ス、之ヲ「チプル」川ト云フ、「シヤリ」山道ノ「トエヒラ」ヨリ流れ来ルト云フ、川幅五六間斗ニシテ水甚タ浅シ、故ニ「ノツケ」^(野付)「トウ」^(沼)湖ノコトニ潮水満ルトモ又此川ニ逆流ス、其期ニ乗シテ漸ク船ヲ出スナリ、兩岸茅原ニシテ之レヲ「ノツケ」岬ノ根拠トス、故ニ左方ハ海浜迄纒ニ八丁斗ト云フ、右辺ハ陸続ニシテ「アツウシ」^(厚別)ヘツ」ノ方ニ続クト云ヘリ、南方ニ艇ルコト十丁斗ニシテ即チ「ノツケ」ノ「トウ」ニ出ツ、此ノ「トウ」ハ海潮ニシテ「ノツケ」番屋元迄南北二里東西広キ処一里斗ト云フ、潮水モ浅クシテ近來魚獵甚タ少ナシト云、一里斗艇リテ「ホノウプシ」漁場、右ニ「トホロ」^(当幌)川漁場アリ、此処ヨリ右ニ見ユル出岬ヲ「オタイドウ」^(尾岱沼)、左ヲ「ニウシ」^(新所)ト云フ、「ニウシ」ハ纒ニ五六丁斗ノ島ト云フ、又暫ク艇リテ右ニ「イトシノチ」ト云出岬アリ、「ニ

ウシ」ト対ス、之レヨリ凹凸出沒数ヲ知ラスシテ、左ニ「オホアミ」嶼、右ニ「バラサン」岬ト対スル者ノ如シ、之レヲ出レハ又「バラサン」岬、「ノツケ」ノ岬ト相對ス、此ノ「トウ」中左右小嶼甚タ多ク其数ヲ知ラス、已ニ「ノツケ」ニ近ツクニ到リテハ別シテ多ク、一々枚挙ニ違アラス、且ツ「コイトイ」以來蚊甚タ多ク之レニ苦ム、故ニ只ニ概略シテ精詳ニスルコト能ハス○「ノツケ」番屋ハ西南ニ向フ、其地モ亦「シヘツ」ヨリ西南突出シタル地ニテ惣テ平地ナリ、「コイトイ」ノ処ヲ根拠トス、「チプル」川ヨリ北方海浜ニ到ル、幅纒八丁斗、「ノツケ」ニ到リテハ其幅四十丁斗ト云フ、凡テ平原ニシテ楊柳・「カバ」^(樺)ノ小樹アルノミ、此「ノツケ」ノ西南ノ向ヲ「トコタン」^(床丹)ト云、此処夷家ニ軒アリテ「ニシベツ」^(西別)ヨリノ御用狀繼立ヲナスヨシ也、「トコタン」ノ少シ南ニ「バラサン」岬アリ、之レヲ過クレハ即チ「ニシベツ」ナリ、「ノツケ」ヨリ「トコタン」ヘ三里、「ニシベツ」エ六里、「クナシリ」「トマリ」ヘ五里余、表四里ト云フ、是レハ「ノツケ」ノ裏北浜ニ非

常ノ時「クナシリ」「トマリ」ト相図ノ烽火台アリ、実ハ其里程ト云、「コイトイ」ヨリ「ノツケ」ハ陸行海浜五里半、湖中船路二里、「ネモロ」へ海岸巡行十二里、直行九里斗ト云フ

○念四、「ノツケ」番屋出帆、「トコタン」「バラサン」ヲ右二見、「シレトコ」諸峰ハ背後西方アリ、「クナシリ」ハ(東北)西北ノ背後ニ当ル、男「アカン」・女「アカン」岳西南ニ突兀トシテ、「ニシベツ」ノ方ハ只ニ波上ニ樹木ノ浮遊スルカ如キヲ見ル、「ニシベツ」ニ近ツク到ツテ「ネモロ」ノ諸地始テ池塘ノ如ク波際ニ見ユルナリ、回顧スレハ「ノツケ」ノ樹木波上ニ浮遊シ、「シレトコ」「クナシリ」「アカン」等遙ニ陸離トシテ見ユ、針路ハ西南ノ間ニ行ク、「ニシベツ」ヲ過キテ樹木隔絶スル処「アシリコタン」ナリ、又其次ニ隔絶スル処「オンネトウ」ナリ、(温根沼)此処実ハ隔絶スルニ非ス、平地ニシテ低キ故ニ此ノ如ク見ユルナリ、「アシリコタン」ノ奥即チ「フウレン」湖「アツウシベツ」番

屋ナリ、前日「クナシリ」ヘノ渡海セシ処ナリ、「オンネトウ」ヨリ「ホロモシリ」、之レヨリ「ホニオイ」「シヤム」出張(本名ヲ、シラス)「コイトイ」之レ「シベツ」ヨリ過キシ「コイトイ」ノ出張場ナリ、之レヨリ「ネモロ」会所ナリ○「ネモロ」会所元ハ西差北ニ向シ「ノツケ」ト相對ス、故ニ「ノツケ」ヨリ針路辰巳ノ正中ナリ、会所元ノ左右一曲湾ヲナシ、会所元ハ却テ少シ出岬ナリ、前ハ沙浜一丁斗ニシテ向フニ弁天島アリ(蝦夷日志ニ所謂、大黒島ナラン)、周廻二丁斗、此ノ島ノ北辺ニ岩石多シ、暗礁モ多カル可シ、南辺モ又然リ、而シテ此島ノ南北各海門トナリ頗ル大船通ス可ク見ユ、故ニ此地「ネモロ」領六十里間ノ高嶽トモ云フ可キ乎、「ネモロ」ヨリ「ノツシヤフ」岬エ八里ト云、「シレトコ」岬ヨリ「アツケシ」領マテ殆ント六十里ト云フ○「ノツケ」漁場十一ヶ所ノ番屋、納屋ノ如キモノ三十有余ト云、然レトモ十ヶ以来魚獺少ナク春秋皆空屋ト云フ○「ネモロ」ヨリ「クナシリ」ヲ東北ニ見ル、右辺ニ「チヤチヤ」其次ニ「ラウシ」(王父)兩岳島ノ如ク見ユ、其次ニ「タツニウシ」ナリ、之レニ陸

離トシテ「シレトコ」諸峰・「ニシベツ」山ナリ、又西ニ

当リテ男「アカン」岳、尚ホ左辺ニ女「アカン」ヲ見ル、

其外茫茫タル曠原ニシテ惣テ島嶼ノ如ク見ユルナリ、然レ

トモ「ネモロ」会所元モ高サ二丈斗ノ高阜ニシテ平地ニ非

サルナリ、之レニ由レハ平原ト見エシモ亦高阜ナルモ知ル

可カラス○水土、水ハ清冽ニシテ淡甘ト覺フ、且ツ堀井ニ

シテ溪流ニ非ス、土ハ黒色粘土ニシテ蕃殖可ナル可シ思ハ

ル○草木、奇花異艸ヲ見ス、会所ノ右辺ニ金毘羅アリ、落

葉松二三株ヲ植ウ、其後面ニ仙台ノ警衛アリ、衛士五十人

ト云フ、又其前面ニ公辺ノ役所アリ、詰合衆中之レニ居ル、

「ノツシヤブ」ニ出ルノ前、弁天島ノ向フニ御台場アリ、

又会所元左辺半里斗岡上ニ煩台(煩)アリ、煩一門ヲ置ク、大煩

ニ非サルナリ○会所元ヨリ西南ニ「アツケシエト」漁場・

「ホニオイ」番屋・「ホロモシリ」番屋、「オンネトウ」ノ

入口ヲ「ユタヲマヘ」ト云、「フウレン」ノ入口東岸ヲ「チ

カソロ」、西岸ヲ「トウブト」(遠太)、此ノ奥ニ「アツウシベツ」
ノ止宿所アリ、「アツウシベツ」ハ「ネモロ」ヨリ正西ニ

当ル

○念五、「ネモロ」会所元発足、裏ニ出テテ南行十斗斗ニ

シテ追分ノ杭アリ、右ハ「トモシリウシ」(左)、左ハ「ハナサキ」(友知)、

即チ此ノ路ヲ行クコト二里ニシテ「ハナサキ」番屋ナリ、

此間樹木大小・長短・開鬱・疎蜜同カラスト雖トモ、多ク

ハ榎・「カバ」(榎)・接骨木ナリ、「ハナサキ」午餉所ナリ、之

レヨリ海浜ヲ暫ク行キテ、「オツカイ」「ヘツ」ヲ渡リ直ニ

山路ニ上ル、纔ニシテ一溪間ニ出ツ、「チヨフシ」ト云フ、

此処「ネモロ」「アツケシ」ノ境ナリ、之レヨリ海浜十斗

斗ニシテ又平山ニ上ル、一溪間ニ下ル、即チ「コンフモエ」(昆布盛)

ニ憩ス、又此間「ユルク」島ノ正北面ナリ、陸ヲ距ルコト

七八斗、「シユムシユムシ」ト東西相對シテ恰モ一海門

ヲ為ス、之レヨリ又山ニ上ル一斗、嶮峻ナリ、山上ヲ行

コト半里斗、又下坂峻急ニシテ海浜ニ出ツ、此ノ処「シユ

ムシユムシ」(落石)「ヲツチシ」ノ兩岬小灣ヲ為シ、恰モ囊口ヲ
繋ル者ノ如シ、囊底広キ処三四斗位、囊口ノ処半斗斗モア

ル可シ、若シ此処繁花ノ地ニ有ラハ定テ好譽ト云フベシ、
 此囊底ノ処ヲ行クコト三四丁ニシテ終ニ「オツチシ」ノ根
 抛吳キ処ニ上リ、平沢ヲ行キ右ニ小池ヲ見テ又少シノ高阜
 ニ上リ、終ニ「オツチシ」ノ南海浜(岬) 出テテ番屋ニ止宿ス
 ○今日「オツカイベツ」以来ハ樹林間ヲ通行セス、只々右
 辺二三丁位ニミルノシ、(三) 蝦夷松十二八九トス○「ハナサ
 キ」ヨリ山上ニ上リ背後ニ「ノツシヤフ」岬ヲ見、其南方
 ニ「トモシリ」、又遙ニ「スイシヨ」島ヲ見ルト云フ、此
 島「ノツシヤフ」ヨリ二里ニシテ「シコタン」エ渡ル始ノ
 島ノ由

○念六、大風雨大時化ニ而滞行、午後雨歇風収只大波濤ノ
 音而已、未半刻頃ヨリ俄暗クナリ、又風雨ナラント思フニ
 満天黄色ニテ大火ノ如シ、而シテ細少ノ砂石降ル、之レヲ
 紙上ニ集ムルニ糖ノ如シ、指間ニ之レヲ擦スレハ頗ル硫黄
 末ノ如シ、火ニ投スルニ燃ヘス、薄暮頃迄ニ草木ノ葉抔薄
 雪ノ如シ、地上抔五六歩位(分)モ積リタル可シ、日暮テ後ハ真

黒トナリ絶テ見ル可カラス、明朝如何アラン乎、蓋シ大山
 ノ大焚焼ナル可シ、地震・海嘯ノ恐多シ、天幸ヲ祈ルノミ
 ○「オツチシ」番屋ハ「オツチシ」岬東方ニ突出シ、「ホ
 ロト」岬西南ニ延長シテ広サ十余丁モアル可キ灣ニシテ、
 「オツチシ」岬ノ北隅ノ処ニアリテ西南ニ面スルナリ、灣
 モ亦其向ヲ同クス、左右背後トモ皆平山ニシ絶テ樹木ナク、
 且ツ夏日ノ漁場ニシテ秋ハ住民ナシ、惟々官人通行アレハ
 止宿処トナル故ニ、「アツケシ」会処元ヨリ出張シ一夜ノ
 飲食夜衾ヲ設クト云フ、夷屋一軒アレトモ是又夏中住スル
 ノミノ由、納屋様ノ者茅屋ニ軒斗アルナリ、故ニ寂寥尤モ
 甚シ、一日ノ滞行如何ントモ為ス可ラサルナリ、其上ニ上
 ニ揭示スル天変旅中ノ愁苦忍フ可カラサルナリ○初更後
 戸ヲ開キ見レハ天色清朗星晨燦爛タリ、之レ灰ノ降り歇ム
 ト思ヒ只ニ波濤ノ雷ノ如キヲ聞クノミ、尊ニ入ル頃ニナリ
 テ海浜砂原ニ飛フ虫アリ、潮上ルコト高クシテ炉辺ニ上リ
 来リ、徹宵顔面ニ飛来リ、其上蚊又小虫来リ、終ニ眠ルコ
 ト能ハス、曉ニ到リ漸ク寢ス○東雲頃目覚、風荒ケレ共好

晴故出立セント云フ、即チ行装ス

○念七、辰牌頃上程、山麓ノ海浜ヲ行ク、昨夜潮来ルコト高ク山麓ノ雜草皆湿ル、初知昨夜ノ飛虫座上ニ上リ来ルヲ、之レ他ナシ、潮高ク来リ座下潮トナリ住ス可カラサル故ナリ、番人杯云フ者部辺郷ノ者、死生ヲ知ラヌ者等故平氣ニ寢食スルナリ、若シ海嘯トナリテモ中々前知スル程ノ心配ハ更ニ知ラヌ者ナリ、右様ノ者生死存亡ヲ托スルコト蝦夷地ノ恐ル可キ第一也、且又灰毛降り止ムト思ヒシ一途中ニテ見レハ、全身帽子等雪中ノ觀ヲ為ス、前人ハ後人ヲ笑ヒ後人ハ前人ヲ笑フ、帽ヲ覆ハサル夷人ハ忽チ白髮ノ老翁ト為ル、奇ト云フ可シ、驚怖中ノ一笑ナリ、一里ニシテ「フリスハ」ノ嶽木アリ此間恐ラクハ二里ナラ、然レトモ嶽木ヲ見ス、一小川アリ、之レヨリ二三丁ニシテ又一小川アリ、稍大ナリ、之レヲ渡リ長サ十丁斗ノ平原アリ、広サハ煙靄ニテ見ルコト能ハス、水ハ細流甚タ多シ、漸次ニ山近クナリ又之レニ上ル、纔ニシテ又一溪ニ下ル、些ノ原アリ、又海浜ヲ行ク、美石多シ、

馬上捨(捨)フコトヲ得ス、遺感(感)トス、又山ニ上ル、高低五六度一溪流ヲ渡ル、雨後急流ニシテ甚タ深シ、夷人ノ助アリテ漸ク渡ル、「ハツタウシ」(初田牛)ノ嶽木アリ、又海浜ヲ行クコト二三丁、一山ヲ越シ一溪間ニ下ル、小川ヲ渡リ「オハタラシ」ト云原上ニ蘆ヲ敷キ之レヲ午餉処トス、此処迄三里ト云、前ニ一嶽木アラサレハ里数合セサルナリ、此ノ処ヨリ直ニ山ニ上ル、頗ル高シ、此山上ヲ行クコト暫クシテ始メテ細小ノ樹木往々之レアルヲ見ル、之レヨリ数度高低シテ兩川ヲ渡リ終ニ平原ニ出ツ、真ニ一溪間ナリ、又山ニ上リ山麓ニ下リニ細流ヲ渡リ、又一小山ヲ上下シ一溪流ヲ渡リ、溪底稍豁大ナル処憩所ヲ設ク、無人ノ郷ニテ其背後ノ山ニ上ル、少シ斗リニシテ「モユリアトエ」ノ嶽木アリ、之レヨリ暫ク上リテ左方ニ海ヲ見、右ニ平岡ヲ見テ高低蜿蜒行クコト半里余ニシテ又一高处ニ上リ、漸ク下リテ殆ント溪底ニ到ラントスル処(マ)嶽木アリ、「ウラヤコタン」ト云フ此溪ニ下ル、溪間水沢ニシテ左辺ノ山麓ニ沿ヒ二三丁ニシテ海浜ニ出ル、右方ノ山麓ニ番屋アリテ、二十年前

魯^(西)亜^(西)人此ノ左方山隈ニ船ヲ繫キ、端船ニ乗り竊ニ山隈ヨリ左方ニ山ニ隠レ此番屋ヲ乱妨スト云フ、番屋ヨリハ船ヲ繫クヤ否〔厚岸〕「アツケシ」ノ会所エ通用ス、「アツケシ」ノ詰合松前臣徒士・足輕五六人來リ、番屋ノ裏ノ山即チ右方ノ山溪間ニ陣ヲ取り、左右二丁斗見ユル処ニテ我邦ノ五匁玉・十匁玉ハ向ノ陣エ達セス、向フノ小筒ハ皆我陣ニ達スト云フ、漸ク松前ノ徒士三十目玉ノ筒ヲ所持シ、此一挺ニテ凌ノキ居シ処、甚タ危ク見エケル故其中間筒ヲ以テ逃ケ去ル、已ムコト得スシテ徒士モ引去リ後終ニ勝利ヲ得ルト云フ、即チ此ノ処ノ由、今現ニ其時ノ炊キナセシ者「ネモロ」ノ番人ヲ勤ムト云フ、其時番屋ハ焼払ハレ今ニ其柱ニ三本アリ、今此番屋ヲ〔幌戸〕「ポロト」ニ移スト云、松前ノ徒士モ其名ヲ失スト云フ、此「ウラヤコタン」ノ海浜ヲ少シ行キテ平原ツツキ〔奔幌戸カ〕「ホンカボンフロト」ト云フ、昆布小屋ニ軒アリ、之レヨリ「ウラヤコタン」元番屋裏ノ山上ニ弁天ノ華表ノ下ヲ上リ山頗ル高シ、之レヨリ十丁斗ニシテ海潮ヲ見ス、樹林中ニ入り櫛〔櫛〕・「カハ」等ノ大樹ニシテ或疎或

蜜ニシ、今日中ノ幽林中ヲ行クコト暫ニシテ、又海浜平山上ニ出テ一溪間ニ出テ、暫ク海浜ヲ行キテ岩岬尤危フキ処波穩ニ引キ去ル処ヲ伺ヒ、万死ヲ免レテ〔幌戸〕「ホロト」ノ砂原トナル、「ホロト」ハ沼ノ名ニシテ沼長サ三丁斗云フ、其下流ヲ渡リ番屋ニ休ス、此番屋ハ北面ニシテ頗ル大ナリ、「アツケシ」領中最第一ト云フ、夷屋八九軒アリ、番屋元ヲ出テテ海浜ヲ行クコト一丁斗ニシテ漁舎アリ、其名「アチャロツフ」ト云フ、之レヨリ右折シ山道ニ入ル、凡十丁斗ニシテ追分アリ、左ヲ「アジリコタン」路トス、之レヨリ海浜迄廿八丁ト云フ、番屋七軒アリテ「アツケシ」領中漁獵第一ノ地ト云フ、此沖百間斗隔テテ〔霧多布〕「キイタツブ」島アリ、其間ヲ碇船澗トス、右ヲ〔ノ脱〕「コヘリヘツ」路トス、即チ此ノ路ヲ取ル、之レヨリ西北ニ入ルコト一里半、蜜林細経ニシテ熊羆恐ル可キノ地ヲ過キ〔エトイチンベカ〕「エトイチンベ」休処ニ出ツ、之レヲ平常ノ官道トス、之レヨリ一里十丁西南行シテ〔野古辺〕「ノコヘリヘツ」番屋ニ止宿ス、今日程行十里廿八丁ニシテ〔イトイチセンヘイ〕「エトイチンベ」ヨリ夕陽没シ、行ク十丁斗ニシテ

灯ヲ点シ路上闇黒、昨日ノ時化ニテ小橋^(橋)皆破損シ、路上水溜リ馬脚尤モ難シ、蝦夷行中最第一ノ危難トス、漸クシテ無恙初更頃着ス、故ニ「エトインベ」以来前日ノ記ヲ正録トス○聞、七月廿三日南部盛岡・八戸・三戸、大地震ニテ大抵焼失スト云フ、其外海浜ハ海嘯ニ取ラレ、死亡数ヲ知ラスト云、箱館杯モ外形海嘯ノ為ニ崩ルト云フ○昨夜「ノコヘリヘツ」近クナル熊出ルト夷人云フ、我輩見サルナリ○昨日八ツ半頃風雨休ミテ後西方ニ当リ大鳴動アリテ後忽チ天色変シ灰降来ル、「アツケシ」^(厚岸)辺ハ灰積ルコト一寸余ト云フ、蓋シ「アカン」岳焚焼スルナラント言ヒ来ル由、未タ其実否ヲ知ラス、今日八ツ前頃ヨリ灰降ルコト休ムナリ、然レトモ木葉路上悉皆薄雪霜朝ニ異ナラス、風吹キ来レハ喬木上ノ灰落チ来リテ眼ヲ開クコト能ハス、江戸ノ大火後ヨリモ甚タシ○昨夜ノ時化近来珍敷事ニテ、「ホンポロト」ニ五六年モ繫キテアリシ古船何ノ事モナカリシニ、忽チ昨夜一夜ニ破烈スト番人云フナリ、眼前破崩スル者ハ目撃スル処ナリ○「ネモロ」ハ元「アツケシ」ノ属部ニシ

テ一領分ニ非ラサリシニ、追々繁昌シテ番屋杯多クナリ終ニ独立ノ会処トナリ東蝦夷第一ノ地、運上金杯モ一年三千金ニシテ一年ノ仕込金二万兩ト云フ、実ニ大運上屋ナリ、其故ニ医者杯「アツケシ」詰ノ春秋見廻リシテ薬杯置ク由、当年ヨリ仙台詰五十人モ之レアリ、仙台医師来居スル故大ニ可ナリト云フ、且ツ三四十年前迄ハ冬日ハ居難ク「キイタツプ」島ニテ一同越年スル由、漸ク近年ニナリ頗ル暖氣ニナリ越年スル人多シト云フ、当年ヨリハ官人モ越年スル由ナリ

○念八、晴天ナレトモ「アツケシ」会処元ニ目賀田諸人止宿ノ由ニテ、已ムコトヲ得ス滞行スルナリ○番屋ハ平岡上ノ樹木少シク開豁ニシテ北向ニ建ツ、東側ニ「ノコヘリヘツ」流ル、此川ノ岸上トモ云フ可シ、川ハ「アツウシヘ」^(厚別)^(夕魁)ノ「フーレン」^(風蓮)湖ノ上流ト云、川幅十間斗ニシ深サ二三尺モアリテ頗ル急流ナリ、水色茶褐色ニシテ甚タ悪シ、此節鱒ノ上ル時節ニテ、岸上ヨリ見ル二十四五頭モ一尺有余鱒

躍ルヲ見ル、然レトモ誰アリテ之レヲ捕フル者ナシ、之レヨリ「ベカン(別寒辺牛)ヘウシ」迄四里十八丁、船路「アツケシ」迄二里、「ネモロ」境迄二里廿九丁ト認ムル杭アリ、西側路傍ニ建ツ〇給仕人云フ、「アツケシ」近年不獵、別而当年ハナシト云フ、土夷人モ式百人斗、用役ノ者百人斗ト云、(久寿里ニ劍路)「クスリ」ハ土人千五百人モアリト云フ、且ツ所謂山夷ナル者アリテ会所へ出ヌ夷モアリト云フ、何分人別ハ殊ニ多シト云フ可シ、領地モ「シヤリ」山道迄入り込テ余程広シ、故ニ人物モ多キナル可シ

〇念九、「ノコヘリヘツ」辰牌前発足、直ニ密林中ニ入り十丁斗ニシテ小川ヲ渡ル、尚ホ蜜林中ヲ行キテ喉木アリ、「ヘンシユモツヘ」ト云フ、又蜜林中ニ行キテ半里ニシテ「ホンヘンシユモツベ」ト云憩所アリ、又半里ニシテ「コムニウシ」ト云フ喉木也、高低上下楸・櫛ノ鬱林中ヲ行クコト一里ノ喉木アリ、「ヲラウンヘツ」ト云フ、之所又小憩所ナリ、幽林雜草深キ処ヲ通ルコト一里ニシテ「チベバ

キ」ノ喉木アリ、之レヨリ十八丁屈曲高低少シク峻ニシテ林樹最モ幽ナル中ヲ過キテ終山麓ニ出ル、「ベカンヘウシ」ノ午餉処ナリ〇此処ノ午餉処ハ申ニ面シテ山麓ノ平岡ナリ、甚タ狭小ノ地ナリ、半丁斗下リテ平原トナル、之レヨリ水沢ニシテ蘆葦繁茂ス、其中ニ大ナル角材ヲ三本宛敷キテ凡三丁斗ニシテ「ベカンヘウシ」川ニ出ル、此川広サ十間斗、北ヨリ南ニ流レテ「アツケシ」ノ「トウ」ニ落ツ、「ベカンヘウシ」ノ西岸西方ノ山麓迄広サ十丁モアル可シ、是又水沢ノヨシ、南北モ亦水沢多ク広狭一樣ナラス、此処ヨリ川船ニ乗り東西岸蘆葦ノ水沢ヲ行クコト一里、此間山麓ノ遠近モ亦齊シカラス、之レヨリ終ニ湖中ニ入り此湖ノ上流四川アリテ「ベカンヘウシ」ヲ最モ大ナリトス、此湖形状殆ント瓢ノ如シ、瓢ノ上腹ノ処嶮島十余島アリテ前日記スル者ノ如シ、此島ヲ盪シ下リテ半里斗ニシテ、瓢ノ中位狭小ノ処ノ如キ処トナル、之レヲ出テテ又入海ノ大灣トナル、之レヲ瓢ノ下底トス、「ベカンウシ」ヲ瓢蔓トモ言フ可シ、瓢ノ上腹ノ処広サ二里斗、中位狭小ノ処三四丁ニ

過キス、下腹ノ処広サ二三里、長サ四五里トモ言フ可シ、
 四辺ノ山皆「アツケシ」領ニシテ平山ナリ、其名ヲ知ラス、
 其東北岸少シ斗北方へ突出スル岬アリ、之レヲ「バラサン」
 ト云フ、其「バラサン」ノ西南隈西ニ向ツテ小湾ヲ為スノ
 処即チ「アツケシ」ノ会所元ナリ、之レニ宿ス○会所元ハ
 北差西ニ面シテ、南方ニ弁天社・国泰寺等アリ、勤番屋敷
 モアリ、東ノ方ニ当ツテ海岸ニ沿ヒテ夷屋余程アルナリ、
 向フノ対岸ニモ数多見ユ、然レトモ其数ヲ聞カス、人口ハ
 「アツケシ」領中二百六人、給用ノ夷九十余人ト云フ、
 「(仙鳳趾)センポウシ」ハ正南ニ当リ、「ベカンヘウシ」「アツウシ
 ベツ」「クナシリ」正北ニ当ル、「シレトコ」モ亦然リ、「バ
 ラサン」ハ会所元ノ後ヨリ廻リテ会所元ノ北辺ニ少シ斗延
 ヒ出テ少シノ湾ヲ為スナリ、畢竟瓢ノ下腹ヲ為スノ大形勢
 ハ、「センポウシ」続ノ出岬ト「アツケシ」続キノ出岬ト
 遠見シテ陸離タル者ノ如ク見ユル内ヲ言フナリ、之レ大東
 海ヨリ大黒島・小島等ヲ過キテ来ル処ノ入海ナリ、故ニ之
 レヲハ入海ト称シ上腹ノ処ヲ沼ト称スルナリ、且ツ上腹ノ

処ハ水モ浅ク川舟ノミ通行スルナリ

○晦日、「アツケシ」会所元ヲ出立、二丁斗ニシテ「ヘト
 エ」川有、細流ナリナリ、幅一間斗ナリ、之レヨリ二三丁
 斗ニシテ「ノテト」ト云小岬ナリ、之レヨリ渡シ船ニ乗り
 三四丁斗ニシテ西岸ニ着ス、之レヲ「タンタカ」ト云、此
 ノ所謂瓢ノ中央狭小ノ処ナリ、此ノ「タンタカ」ハ一平原
 ニシテ、北方ハ「ベカンベウシ」ノ西岸ニ続キテ長キ水沢
 ナリ、南北八十丁斗モアル可シ、此地「ツキノイ」ト云フ
 名族ノ子孫ノアリシ処ナルニ、近来ノ海嘯ニテ無クナリシ
 ト云、今ハ只七八軒ノ夷屋アルノミ、此海浜五六丁モ行キ
 テ出張ト云漁場アリ、又十丁斗ニシテ「ルウチシ」ノ原ア
 リ、之レヨリ「リルト」又「シンシニコロ」等ノ地ヲ過キ、
 「ホンアツケシ」ノ小原トナル、小沼・小山下ヲ廻ル原方
 三丁斗モアル可シ、其レヨリ「モイシユ」ノ原アリ、此原
 ニ続キテ「ホントマリ」ノ原アリ、各小沼之レヨリ「シユ
 ユヤ」「エオロト」「ヨブヒ」「ヲチシネ」等ノ名アリ、其

処ヲ知ラス、此ノ「ホントマリ」ノ原ヲ行キ尽ス処、即チ
 「ホントマリ」ノ出岬ヲ左ニ見テ其根拠ニ横ニ越ユルナリ、
 凡十余丁蜜林中ヲ過キ嶮坂ヲ下ル、海浜ニ沿フテ行クコト
 二三丁ニシテ「トロタロ」ノ墩木ニ到ル、爰ニ午餉ス、東
 「フフシ」迄一里、西「イソヤ」迄一里ト書ス、然レトモ
 「フフシ」ト書スル墩木ヲ見サルナリ、之レヨリ右山下ノ
 海浜昆布上ヲ行クコト十丁斗ニシテ「ヤアワンベツ」ヲ渡
 ル、又纔ニ行キテ「ヘツタンベツ」ノ細流ヲ渡リ「サリヤ」
 ト云処ヲ過キ、「ホロンタユ」ト云処ニ出ツ、之レヨリ山
 道ニ入ル、頗ル急坂ナリ、又蜜林中ヲ行クコト半里斗泥濘
 歩ス可カラス、山中ニ墩木アリ、「イソヤ」ト云、又右ノ
 如キ路ヲ行キ高低上下シテ十丁斗ニシテ、峻坂ヲ下リ海浜
 ニ出ル処ヲ「モセウシ」ト云フ、之レヨリ以東「アツケシ」
 領、以西ヲ「クスリ」領トス、「アツケシ」会所迄三里卅
 四丁ト書ス、之レ海浜纔ニシテ「チプランケウシ」ト云フ
 漁場アリ、又一丁斗ニシテ漁場一舎アリ、其名ヲ知ラス、
 又六丁斗行キテ「ベツフト」ト云漁場アリ、三舎ヲ設ケ板

蔵・長屋等アリ、此処ニ川アリ、即チ「ベツフト」ナリ、
 之レヨリ六七丁ニシテ「オウランケウシ」ノ細流ヲ超エ「オ
 ウランケウシ」ノ出岬ヲ左ニ見テ、又山道ニ登リ蜜林中ヲ
 過キテ三四丁斗ニシテ海浜ニ出テテ、転々砂浜ヲ行クコト
 十丁斗ニシテ「(仙鳳趾)センホウシ」番屋ニ宿ス○今日過ク処楸・
 蝦夷松多シ、「トロタロ」迄ハ樹木ナシ、其ヨリ以西海岸
 諸山皆蜜林ナリ、「ベツフト」ニ夷屋三四軒見ユレトモ、
 夏時漁獵ノ時ノミ来リ住スト云フ○番屋モ皆漁獵場ニシ
 テ通行ノ為ニ設クルニ非ス、故ニ常住ノ人ナシト云フ○熊・
 斑鳩・赤蛙ヲ見ル、余程内地ニ似タリト思フナリ○菅野狷
 介ニ邂逅シ、共ニ一酌旅愁ヲ話ス

○九月朔、「ゼンホウシ」番屋ハ北面ニシテ海岸上二三丈
 ノ上些ノ平地ニアリ、東側ノ山ニ弁天社アリ、左右山麓ニ
 夷屋二十軒モアル可シ、番屋ヲ出テテ一溪橋ヲ渡リ忽チ嶮
 峻ノ山路ニ登ル、羊腸曲直六七丁斗平山上トナル、楸・「イ
 タヤ」ノ大樹中ニシテ四望見エ難キ処多シ、折節開豁ノ地

二出レハ東海ノ波濤左辺ノ林梢ニ打寄スル勢アリ、左方ハ山々連続シテ是又煙霧中波濤ヲ望ムニ異ナラス、此ノ如クシテ「シニウシ」ト云、是迄廿丁ナリ、之レヨリ蜜林中又ハ平山上数峰ヲ経テ終ニ一溪間ニ出ツ、此処ヲ新道入口「シヨ^(初無敵)ンテキ」ト云フ、此レヨリ海浜ニ出ツ、岩石破碎スル如キ大ナル角隅アル転太石ニシテ、中々容易ニ通行ス可カラサルノ処ヲ行クコト二三丁、左方ハ大濤馬足ヲ浸シ、右方ハ危岳断崖ニシテ東風烈シキ時ハ尤モ危フキ地トス、之レヨリ漸次ニ砂浜トナリ又転太トナリ海浜屈曲一里斗ニシテ「ホ^(浦雲泊)ントマリ」ト云フ礫木ニ出ツ、之レヨリ又山林蜜樹中ニ入り、半里斗モ過キテ「トマツイ」ト云フ海浜ニ出ツ、此辺漁舎二軒アリ、海浜砂粒尤モ美ナリ、此間岳石ノ出岬アリ、又離レテ海中ニ陸ヨリ五六間隔テテ蠟燭状ノ岳突出ス、此岳ト右方ノ断崖トノ間ハ青色^(マ)ノ一枚石ニシ^(テ懸)其上ヲ通行スルナリ、満潮ノ節ハ絶テ通行ス可カラス、二三丁ニシテ又出岬アリ、大岳波際ニ出沒シテ波濤之レヲ打越スナリ、断崖下ニ到リテハ大サ五六圍或ハ七八圍ノ石

左右前後ニ布置ス、其間纒ニ潮ノアルトキ馬上ニテ通行ス、今日ハ風強キ故通行ノ時波馬腹ニ及フコト兩三度ナリ、之レヲ過キテ又山道ニ入り、尚ホ鬱林中ヲ過クルコト始ノ如クシテ「フウトロ」ノ礫木アリ、此処憩所ナリ、之レヨリ直ニ峻坂ニ上ルコト七八丁、之レヲ「アトイカ」ノ山越ト云、是又鬱林中ニシテ終ニ峻嶮ノ坂ヲ下ル、一溪流ヲ越シ海浜四五丁斗ニシ又細流ヲ渡リ「コン^(昆布森)フムイ」ノ番屋ニ止宿ス、今日行程五里廿丁トス○今日午前ヨリ風甚シク時吹甚シク、且又先月廿六日ノ山焼灰樹上ノ留マル者風ニ從ツテ降来ル、耳・目・口・鼻ニ入りテ少シモ行歩ス可ラス、故ニ午飯ヨリ直ニ「コンプムイ」ニ止ルナリ、今日モ大時化トナリ明朝如何、只喜、山焼灰ノ風雨ノ為ニ消失スルヲ、念六以來日々満身雪中ノ如ク大ニ困スルナリ

初二、「コンプムイ」ハ原野ノ名ニシテ番屋ノ東側ニ川アリ、「ユドノンベツ」ト云、之レヲ礫木トス、番屋ハ「コンプムイ」ノ番屋ト云フ可シ、番屋ハ南向ニシ大抵平常ハ

午餉処トス、爰ヲ出テテ海浜廿余丁、右方ハ昨日ノ続キ断
 岩屏立奇石目ヲ驚カスナリ、漁舎モ二軒斗見当ルナリ、其
 ヨリ山道ニ入ルコト十丁斗ニシテ「マタイトキ」ト云(又飯時)椽木
 アリ、之レヨリ暫クシテ海浜トナリ又四五丁ニシテ山道ニ
 入り半里斗ニシテ一溪ニ出ツ、「カフラコイ」ノ椽木ナリ、
 此処憩所夷屋七軒常住スル由、之レヨリ又山間ニ入ル、人
 字形ノ平原アリ、然レトモ土地狭小掲ク可キ程ノ地ニ非ス、
 此ノアタリヨリ北辺ノ山ニハ皆樹木アリ、然レトモ大樹・
 老木ハ見ス、又暫クシテ海浜ニ出テ又山道ニ入り数回ニシ
 テ「シツホシシウシ」ノ椽木アリ、之レ亦山中ナリ、此辺
 蜜林老樹中又ハ開豁ノ地トナリ、半里許ニシテ「ハルトロ」
 ノ海浜ニ出ツ、之レヨリ海浜ニ出テテ四五丁ニシテ「イカ
 リ」ト云フ夷屋ノ二三十軒モアル地ヲ過キテ「クスリ」ノ(久寿里ニ銜路)
 内湾ニ出ツ、此間二三丁斗ニシテ即チ会所元也○此ノ「イ
 カリ」ハ会所元ヨリ東西ニ当リタル一小岬ノ根脚ナリ、此
 岬ニヨリテ「クスリ」ノ湾ヲ為スナリ○今日行程四里八丁
 ○異聞、「クスリ」詰小田井蔵太ノ話ニ「クスリ」領住夷

千三百二人ト云フ、馬二百四十余匹ト云、且又今年諸種芸
 ヲ試ムルニ実ラサル者ナシト、只々米ノミハ実ラスト云フ、
 其他ハ皆能熟スト云フ、先年水野正太夫種芸ヲ初メシ田畑
 ノ痕モ今ニ残リアリ、且ツ天保七ノ凶歳ニモ色々ノ種子ヲ
 為セシ由、已ニ今年モ住夷公命ノ辱ニ感シ色々ノ種子ヲ自
 ラ為シテ生茂ノ後官人ニ見スト云フ、尚又山中ノ夷人モ呼
 出シテ和人貌ニ為ル可キ旨ヲ述シニ、忽チニ半髪ニナル者
 アリト、此節柴田弁一郎十日斗留主中ニ四十人モ改容スル
 者アル由、実ニ公命ヲ辱ク拜スル者多シ○又聞、此地運上
 金五百六十両、而シテ会所元ニ取ル処一万余千金ト云フ、
 表向キ勘定ニ立ツル物ナラシテ七千両ト云フ、一昨日「ア
 ツケシ」詰喜多野省吾ニ和介邂逅シテ、近来「アツケシ」
 到而悪シキ由如何ト尋ネシニ省吾曰、商家ノ常言断シテ善
 シトハ言ハザルナリ、素ヨリ善悪知ル可カラスト、真ニ其
 言ノ如シ、凡ソ万金ノ利ヲ得テ纔ニ五百六十金ノ運上ヲ出
 スコトナレハ何等ノ益ヲ得ル者乎、殆ント王侯ノ富ナリ、
 已ニ「ネモロ」杯三千両ノ運上金、一万金仕込物ヲ為スト

云フ、其得ル処定メテ二三十万石ノ侯伯ノ富也、如此キ地ヲ「又十」ト字スル栢屋喜兵衛ナル者六七ヶ所持ナリ、実ニ天下ノ膏腴ハ悉皆商家ノ有トナル、国家政事如何ソ立ン乎、「又十」ハ松前ノ住人表向ニテ実ハ江州人ノ由、松前・箱館ハ名目人ノ由、浪花商估ノ富ヲ致スコト多クハ此類ナリ○蝦夷地モ少シ活眼アリテ国家ノ事ヲ思フ人アレハ、幾百倍ノ利潤モ不日ニ成ル可シ、十中八九ハ漫朽壞シ天物ヲ傷フコト惜シム可キノ甚シキニ非スヤ、吾輩ノ目撃スル処ノ者ハ昆布・材木・雑魚獵・山産諸物ナリ、商估ハ只々夷人ヲ駆役シ懐手ニ数千金ヲ得ルコトノミヲ勉メトシテ、漫リニ天物ヲ傷フノ恐れアルヲ知ラス、己ノ逸樂サヘアレハ譬ヒ利アルトモ是ヲ為サス、又小利ヲ集メテ終ニ大利ヲ得ルノ益ヲ知ラス、曾テ国家ノ利害得失、万人ノ貧樂ヲ思ハサレハナリ、有志ノ徒厄腕切齒ニ堪エサルナリ、凡天下ノ大經濟ハ蝦夷ノ一挙ニアルト言フ可シ、容易ニ論弁ス可キニ非サルナリ○又云、此地ヨリ二里斗東ニ石炭ノ多シト云フ、已ニ先日五六千貫箱箱工廻スト云、之レ反射炉ノ焚炭

ノ為ト云フ、且「アツケシ」ニモ石炭多シ、「ネモロ」ニハ鉄砂多シト喜多野ノ話ナリ○今日行程近キ着早ク、晡時会所元ヲ出テテ「イカリ」ノ岬ヲ歩ス、会処元ノ南側ニ些シ斗出タル岬ナリ、向フ遙カニ西南ニ突出スル者ヲ「トカチ」ノ山トス、其次ニ出ル岬ヲ「シヤクベツ」トス、其次ノ出岬ヲ「シラヌカ」トス、此ノ「シラヌカ」ノ出岬ト「イカリ」ノ岬ト南北参差シテ一灣ヲ為ス、然レトモ其間二三里モアル可シ、約スルニ「イカリ」ノ根脚ノ一凹処一小灣ヲ為ス処、即チ会所元ノ灣ト云フ可シ、此灣西北ニ向フ、故ニ会処元ハ多分北面ト云テ可ナリ、板藏弁天祠頗ル美麗ニシテ、夷屋左右ニ六七十家アリ、大村落トモ云フ可シ、会所前ノ入海へ「クスリ」川流ル、会処ヨリ北行一丁斗ニ海ト川トノ隔トモ云フ可キ平原ノ出岬アリ、其名ヲ知ラス、此川上流「アカン」岳ヨリ落ルト云、会処元ノ南ニ煩台アリ、百目玉位ノ筒三挺ヲ備フ、二挺ハ鉄製、一挺ハ銅製ナリ、此煩台高サ十余間モアル可シ、船ノ帆檣ヲ觀フニ妙ナラン、此処ヨリ北ニ当リテ「シレコト」諸峰ヲ見ルト思ハ

ル、山容甚タ似タリ、西北ニ当リテ男「アカン」ヲ望ミ、
 差西ニ女「アカン」ヲ望ム、其他ハ多分平地ノ如ク見ユル
 ナリ、定メテ平山ハ多カル可シ、入海ハ遠浅ニシテ大船ヲ
 碇ス可キ処ニ非ス、且岩石少ナク海底大半白砂ナラン、故
 ニ異船ノ恐れハ先ツナシト思ハル、其故カ詰合モ下役一人、
 同心・足輕各一人宛ナリ○会所元ノ盛ナルコトハ「アツケ
 シ」ノ及フ所ニ非スト思ハル、近年漁獵モ多キ由、「又十」
 持場ノ一二ヲ出スト云フ○詰合モ新ニ鎗劍ノ稽古場ヲ開
 キ、土人抔集メ日夜稽古スト云フ、同心小田井蔵太ハ中々
 有志ノ者ト思ハル、喜多野抔ト同腹随分有用ノ人トモ思ハ
 ル○「クスリ」ノ川ノコトハ明日遡リテ後其顛巔末ヲ記ス
 可キ、先ツ概略ヲ述ルナリ

○初三、「クスリ」会処元ハ西差北ニ海面ヲ受ク、背後ヨ
 リ平山ノ(ヤマ)南方ニ突出シ一岬ヲ為ス、之ヲ「シレエト」ト
 云、此「シレエト」ノ根脚ノ処夷屋二十余軒斗アル処ヲ「イ
 カリ」ト云、此レ通行ノ官道ニシテ会処元ノ南側ニ出ツ、

且又前日好譽ノ如ク思ヒシニ、畢竟些ノ灣入ニシテ岳石少
 ナク砂石ニシテ大船ヲ碇ス可キ地ニ非スト思ハル、其大形
 勢ヲ云ハハ、此地ヨリ遙ニ西南ニ「エリモ」岬波間ニ突出
 シ、其次ニ「トカチ」川ノ一出岬続キ、又其次ニ「シラヌ
 カ」ノ出岬見エテ、其ヨリ西方ニ平山陸離トシテ女「アカ
 ン」・男「アカン」ト西北ニ相連ナリ、終ニ東北ニ到リテ
 「ニシヘツ」山・「カンチウシ」(西別)「メナシ」(養老牛カ)ノ諸山連綿トシ
 テ、恰モ遙海中ノ波濤ヲ望ムカ如、東岸ハ平山近クシテ会
 所裏ヨリ北方ニ蜿蜒タリ、此「オシヨフ」岬ト、遠クハ「エ
 リモ」岬、近クハ「シラヌカ」岬ト、一大灣ヲ為シテ、其
 東北ノ一隅処即チ「クスリ」川落チ口ナリ、此川(ヤマ)東岸入
 海ノ処即チ会処ナリ、此会所元ヲ出立シテ東岸ヲ行クコト
 二三丁斗ニシテ「オダイト」ノ岬トテ、砂浜西方ニ突出ス
 ルコト一丁斗、之レヲ川ト入海トノ隔トモ云フ可シ、之レ
 ヨリ一丁斗ニシテ渡シアリ、此ノ処ヨリ乗船ス、此「クス
 リ」川源ヲ兩流ニ資ルト云フ、一ハ「クツチヤロ」沼ト云
 フ、此地ヨリ四十里斗ト云フ、此ノ「クツチヤロ」ヨリ十

四五里斗ニシテ「シビチャロ」ト云フ、此ノ「シビチャロ」
 迄「クスリ」ヨリ二十六七里、舟行四日路ニシテ達スト云
 フ、之レヨリ山路ニ入り「ニシベツ」ノ山ヲ左方ニ見テ、
 「シヤリ」山道「チャシコシ」ノ午餉処ニ到ルト云フ、一
 ハ「クスリ」川ノ上流ニシテ男「アカン」岳ニ源ヲ資スル
 ト云フ、「クスリ」ヨリ半里斗ニシテ合流ス、然レトモ此
 川小ニシテ二三里ノ外小舟ト雖トモ登ル可カラスト云フ、
 此ノ渡シ場ヨリ丑或ハ寅ノ上頭ニ向ツテ針路ニ遡ルコト
 十丁斗ニシテ、東岸山麓ニ「メンカクシ」、即チ今時夷人
 ノ長乙名ヲ勤ムル者ノ先祖ノ館跡アリ、高サ一丈有余斗ニ
 シテ方六七間ノ土台アリ、「チャシコツ」夷語家墟ノ義ノ
 由ト云フ、之レヨリ五六丁斗リ上リテ「シビチャロ」川・
 「アカン」^(阿寒)川合流ス、此処ヲ「アカンブト」ト云、「ブト」
 ハ口ノ義ノ由、「アカン」川ハ西方ヨリ来リ「シビチャロ」
 川ハ東方ヨリ来ル、此ノ川ヲ大ナリトス、即チ「シビチャ
 ロ」川ニ遡ル、惣テ是迄東岸ハ平山近ク山麓ノ平原ハ纔ニ
 一丁或ハ半丁斗ニシテ、西岸ハ山麓迄平原ノミニシテ近キ

モ十里或ハ二十里、西北ノ一隅ニ当ツテ茅原天ト接シテ殆
 ント極目ス可カラス、之レヨリ楊柳岸ヲ夾ミ、東方ノ平山
 緑樹・紅葉相半シテ風光甚々佳ナリ、又「アカン」川ノ上
 流ハ六七里ヨリシテ山路ニ入り又十二三里ニシテ「アカ
 ン」岳ニ到ルト云、此「シビチャロ」川ニ遡リテヨリ七八
 丁ニシテ東方ノ平山南方ニ開キ、長サ南北十丁斗ニシテ東
 方ニ入ルコト三四丁ヨリ七八丁モアル可キ平原トナル、此
 原中央ヨリ些シ以北ニ「ベツホウフト」流出ス、此川幅七
 八間位、西岸柳樹多ク、此川ノ三里モ奥ヨリ材木ヲ截リ出
 シ此川流ニ落スト云フ、尚ホ源流ニ遡ルコト一二丁ニシテ
 東方ノ平山又近ツク、又漸次ニ遠カリ或ハ深く或ハ浅ク或
 ハ広ク或ハ狭ク、凡テ山麓ノ曠原ニシテ素ヨリ西岸ノ如キ
 極目ス可カラサル原ニ比ス可キニハ非サレトモ、之レヲ一
 処ニ約スレハ頗ル大原トモ云フ可シ、此間菰・菖蒲叢生ス、
 凡二里斗ニシテ「ベチリ」川合流ス、此処ヲ「ヘチリブト」
 ト云、此処ニ網ヲ張り鱒魚ノ上流ヲ遮ルナリ、聞、去年迄
 此処ニ網ヲ張ルコト山夷聴カサリシカ、御領トナリカク御

介抱ニ預リナバ素ヨリ苦シカラストテ当年初メテ張ルト
 カヤ、定メテ今年魚獵多カラント云フ、之レヨリ西河ヲ「ヘ
 チルサ」ト云フ、尚ホ源流東河ニ遡リテ十丁斗ノ間ハ東方
 ノ平山尽キテ些ノ間ハ眼目ノ及ハサル平原トナリ、又終ニ
 平山近クナル、此間ニ於テハ両「アカン」岳茅原上出没ス
 ルヲ見ルノミ、之レヨリ兩岸ノ楊柳甚タ多ク、又東岸ノ二
 平原ヲ經過シテ東方ノ平山迸出シテ殆ント水源トモ思ハ
 ルル処ニ来ル、此山端流レニ望ム処ヲ「トコタ」(床丹カ)ト云フ、
 此地雜樹流レニ枕シテ風景絶妙ナリ、茲ニ午餉シ終ニ流レ
 ニ從ツテ元ノ会処元ニ着ス、行程三里斗〇「アカンブト」
 ニ夷屋三軒アリ、「トコタ」ニ夷屋三軒アリ、「トコタ」
 ニ夷屋三軒アリ、炭焼ヲ以テ業トスル由〇途中梟・鴨ヲ見
 ル〇川畔菖蒲ヲ見ル、此地ニ入り初メテノコト也〇「クス
 リ」川ハ幅五六十間、水甚タ深シ、遡ルニ從ツテ次第第二狭
 クナリ終ニ二十四間位トナルナリ〇男「アカン」夷ノ名「ヒ
 シニシリ」夷語「ヒシ」ニ男ノ義、女「アカン」夷名「マチニシリ」夷語「マ
 チ」ハ女
 ノ由〇「セタン」樹名、葉ハ「カバ」ノ如クシテ秋赤実ヲ

結ブ、南天ノ如シ、莖ニ大刺アリ、大木ナリ、惣テ此地ノ
 樹木ハ実ヲ結フモノ甚タ多シ

〇初四、「クスリ」出立、会処元ヲ出テ一昨日ノ渡シ場ヨ
 リ舟ニテ「クスリ」川ヲ渡ル、平原ニ沿ヒテ海浜ヲ行クコ
 ト纔ニ里斗ニシテ平原上ニ上ル、左方海浜ヲ去ルコト一二
 丁位ニテ、右ハ昨日記スル処ノ「アカン」岳迄ノ平原ニシ
 テ、絶而一樹ノ眼目ヲ遮ルヲ見サル也、此平原一里ニシテ
 「ホンペトマイ」ノ墩木アリ、之レヨリ十丁斗モ行キテ一
 板橋ヲ渡ル、「フレナイ」ト云川ナリ、五六丁モ行キテ「ペ
 トマイ」憩所アリ、之レヨリ四五丁ニシテ土橋アリ、「ヘ
 トマイマフ」ト云川ナリ此川名番人ノ説、
 正実ト言ヒ難シ、之レヨリ暫クシ墩木
 アリ、「ベトマイ」ト云フ、此辺海ヲ去ルコト稍遠クシテ
 濤声ノ耳ニ轟ヲ憂トスルニ足ラス、又暫ク行キテ「オタノ
 シケマフ」ノ墩木アリ、尚ホ行クコト半里斗ニシテ
 「オタノシケ」(大楽毛)ノ憩処ナリ、今日ハ「シラヌカ」(白糠)止宿故ニ
 爰ニ午餉ス、此辺ニナリテ右辺平山始メテ近ツキ、路モ頗

ル蜿蜒屈曲シテ小阜多ク高低昇降スルコト多、行クコト半里許「タンネン」ノ墩木アリ、尚ホ行クコト一里ニシテ「コエトイ」^(コイトイ)ノ墩木ニ到ル、憩所ナリ、此ヲ出テテ纔ニ行キテ平林中トナリ板橋アリ、「コエトイ」川ト云フ、之レヲ渡リ一丁斗ニシテ夷屋三両家アリ、「シヨロロ」^(庶路)川ノ東岸ナリ、此処ニ標柱アリ、「シヤリ」山越新道入口里法四十里ト書ス、此ノ川岸ニ沿ヒテ右折スルナリ、此ノ「シヨロロ」川幅三十間斗甚タ深シ、船渡シナリ、水ハ清冽ナリ、之レヲ渡リテ蜜林中ヲ行クコト二三丁ニシテ終ニ又平原ニ出テテ、行コト半里余ニシテ已ニ海ニ近ツクコト二三丁ニシテ「チカユツプ」ノ墩木アリ、之レヨリ海浜ニ出ツ、山道新道入口ト書スル標柱アリ、之レヨリ一岬ヲ廻リ「サスウス」ト云地アリ、海浜ニシテ小灣ヲ為ス処住夷七八軒漁場二箇ヲ設ク、之レヨリ又一岬ヲ廻リテ海浜少シ上ル処ニ「シラヌカ」^(白糠)番屋アリ、之レニ宿ス、行程七里○「シラヌカ」番屋ハ多分午餉処ヲ常トス、然レトモ頗ル大廈故五人ノ官人ニハ窮セサルナリ、故ニ短日殊ニ雨天模様ナレ

ハ爰ニ宿ス、番屋ノ方向ハ南向ニシ東西ニ些シノ出岬アリテ一小灣ヲ為ス、其出岬西方ノ岬南ニ出ルコト十丁モアル可シ、東方ノ岬ハ到ツテ些子ナリ、其灣底溪間ノ平処ニアリ、二三十軒^(間方)東側ニ一溪流アリ、細流ナリ、此溪流ニ木ノ葉石ヲ産ス、且ツ又此山上ニ石炭アリト見ユ、溪流間ニ石炭ノ碎片往々流出スルヲ見ル、全体「アツケシ」領中平山多シ、必ス石炭多カラン、且ツ海浜ノ山ハ^(禿方)梵山ニシテ樹木少ナシ、必ス其徴ナラン○今日「クスリ」ヲ発シ鴻雁ノ海浜ニ家鳧ノ如ク歩スルヲ見ル、右ノ外草木ニ奇品アルヲ知ラス○此ノ番屋左右ニ夷屋三十八軒ト云、甚タ多シ、又今日途中往々漁場ヲ見レトモ尽ク其名ヲ知ラス、故ニ之レヲ洩ラス○鹿皮三枚ヲ買フ、冬皮二枚・夏皮一枚、各四百五十文宛ト云フ、外ニ小鹿皮一枚、之レハ其価ヲ云ハサルナリ、都合四枚ナリ

○初五、「シラヌカ」^(尺別)出立、「シヤクヘツ」^(尺別)止宿、行宿行程四里八丁、「シラヌカ」番屋ハ南向ニシテ少シノ平灣ナリ、

且屋後ハ些子ノ平山ニシテ「クスリ」以来始メテノ平山ナリ、之ヲ登シテ西行三四十間斗ニシテ細流アリ、之レニ木ノ葉石ヲ産ス、之レヨリ一ツノ出岬ヲ廻リ十斗ニシテ（茶路）「チャロ」川船渡ナリ、幅三十間余モアル可シ、之レヨリ一小高阜下ヲ経ルコト一斗ニシテ又一小川アリ、（和天別）「ハツテベツ」ト名ク、幅五六間徒渡ナリ、之レヨリ山崖ノ海浜ヲ行クコト半里余ニシテ此間細流アリ、渡リテ塚木アリ、「オシヨロコツ」ト云フ、又山崖ノ海浜ヲ行クコト元ノ如クニシテ、細流ヲ渡リ終ニ一山岬ヲ廻リ（バシクル馬主來）「ハシクロ」ノ憩処ニ到ル、此所塚木アリ、此地一平原ニシテ頗ル大ナル湖アリ、上流北方ヨリ来リ兩岐トナル、人字形ト云フモ可ナリ、幅ハ二三十間位ニシテ長サハ二三丁宛モアル可シ、其間各平原ニシテ之レヲ合算スレハ方十丁余ノ原トナル可シ、此前浜ヲ「マシヤリ」ト云フ由、此原ヲ行キ尽ル処又平山ニシテ「タツコウ」ト云フ由、五七丁モ来リ、山崖中自ラ平坦ナル処アリ、方半丁斗モアル可シ、「シシヤモコタン」トカ云フ由、昔シ松前ヨリ支配スル時始メテ運上屋ヲ建シ跡ト云ヒ

伝フル由「シヤモ」ハ和ノコト、「コタン」ハ処ナリ、一ノ「シ」ハ解セス、尚山崖草叢中ヲ行ク、替ルコトナクシテ塚木アリ、「チノミ」ト云、又元ノ如ク山崖下ニシテ二細流ヲ渡リ、平山尽テ一平原ニ出ツ、川アリ、板橋アリテ南ノ砂浜ヨリ北ノ草原中ニ渡ル、川幅十四五間位、水溜瀦シテ沼ノ如シ、下流ヲ知ラス、此原頗ル広シト雖トモ凹凸アリ、平坦ナラス、之レヨリ又一山端ヲ廻リ平原ニ出ツ、（音別）「オンベツ」ト名ク此川凡十余間ノ川ナレトモ甚々深シ、船渡シナリ、水ハ清冽ニシテ飲ム可キ者トス、原ハ方三丁モアル可シ、又一山端ヲ廻リテ小川ヲ渡ル、水浅シ、之レヲ（尺別）「シヤクベツ」ト名ク、此ノ川ノ北岸ニ番屋ヲ建ツ、「シヤクベツ」ハ西ヨリ東ニ流レ「オンベツ」ニ合ス、故ニ「オンベツ」ヲ渡リシ以来「シヤクベツ」ノ南崖ニ沿ヒテ上ルナリ、川幅砂浜ニシテ定メ難シト雖モ凡ソ四五間モアル可シ、徒渡リナリ○番屋ハ些シノ平山ノ麓ニテ未ノ方ニ向フテ平原ノ東南ニアリ、夷屋モ左右ニ九軒アル由、又（チャロカ）「ジャロ」川畔・「オンベツ」ニモ各夷屋兩三家ヲ見受タリ○馬モ「シラヌカ」番屋并ニ此処ニテモ繼立

ス、余程沢山ナリト思ハル○今日通行ノ山上小樹アルノミニシテ老大樹ヲ見ス、恐ラクハ海浜生茂シ難キナラン、然レトモ「クスリ」以西ハ原野悉ク南ヲ受ケ水便モ甚々難シトセス、田畑ト為サハ大利アル可シト思ハル、且ツ寒氣モ「アツケシ」辺トハ余程ノ違アリト知ラルルナリ○奇樹異草ヲ見ス○「シヤクベツ」ノ原ハ凡テ已ヲ正面トス、原ノ広サ五六丁モアル可シ、川ハ西山ノ方ニ寄りテ北方ヨリ流れ来リ、終ニ海浜ニ出テテ浜破(砂)ニ障ヘラレテ東方ニ流れ、番屋下ヲ過キ又山崖下モ過キテ十丁斗モシテ「オンベツ」ト合スルナリ

○初六、「シヤクヘツ」番屋元出立、「オホツナイ(大津)」止宿、行程八里七丁○番屋ヲ出テテ直ニ西行シ平原ヲ行クコト二三十間ニシテ「シヤクベツ」川ヲ渡リ、其ヨリ五六丁斗海浜ヲ行キ、「シヤクベツ」ヲ右ニシテ原ノ中央東寄り位ニシテ「シヤクベツ」北ヨリ南ニ流れ、此レヨリ東流スルナリ、尚ホ行クコト四五丁ニシテ原尽キテ山崖トナル、之

レヨリ山崖絶壁下ヲ行クコト半里斗ニシテ又一平原ヲ得ル、此ノ東西十丁斗北ニ入ルコト一里モアル可シ、其中央ニ塚木ヲ立ツ、「ベシエケ」ト云フ、又山崖ヲ行キテ又纒ニシテ打開ケタル平原方四五丁ノ者アリ、此原ノ尽頭即チ「チヨクベツ(直別)」ナリ、此処「クスリ」(鉤路)「ヒロウ」(広尾)ノ境ナリ、川以東ハ「クスリ」領トス、之レヨリ「シヤクベツ」迄一里十三丁四十五間ト書ス、之レヨリ凡ソ十丁斗ニシテ一標柱アリ、之レヨ(り脱)以東海濤高節海岸不可通、西側ニ山道入口「ベサンネキ」ト書ス、尚ホ元ノ如ク山崖ニシテ「ココイ」ト云フ塚木アル可キニ終ニ之レヲ見ス、蓋シ海岸ハ真道ニ非スシテ捷経(徑)山道中ニ建ツルナル可シ、之レヨリ山崖間些子ノ平原三ツアリ、各溪流アリ、終リノ溪流海浜ニ沿フテ纒ニ東流ス、皆其名ヲ知ラス、一塚木ニ到ル、「オトンベ」ト云フ、尚ホ山崖ナレトモ此辺ハ海浜モ少シク広クシテ平夷、山麓モ少シ斗ノ平原アリテ「ココイ」辺ノ如キ波濤ノ恐レ少ナキモノニ似タリ、之レヨリ纒ニシテ「アブナヒ」(厚内川カ)川ヲ渡リ又纒ノ平原ニ出ツ、又小川ヲ渡ル、少シ斗ニシテ

「オニオフ」ト喉木アリ、是レヨリ又以西ノ山道入口ニシテ之レヨリ山路ニ入ル、頗ル峻嶮ニシテ上下十丁斗蜜林中ヲ行キテ終ニ海浜ニ出ツ、往時七月七日ニハ一ノ出岬ヲ廻リテ行、危嶮言フ可カラサル岩石間ヲ過ク、之レ捷経ニシテ今日過クル処ヲ官道ト云フ可シ、之レヨリ海浜十丁斗「オコツヘ」ニ午餉ス、「オコツヘ」海浜ハ海ヲ辰巳ニ受ク、是又些ノ平原ナリ、之レヨリ岩岬ヲ過ルコト兩三回ニシテ終ニ「コブカルシ」岬(此処危岩怪石多シ)ヲ経テ、又山崖ヲ行キ五六丁ニシテ滝アア、「シヨコベ」ト名ク、之レヨリ尚ホ断崖ヲ行キ「クマネビラ」ノ喉木アリ、海浜暫クシテ終ニ又山道ニ入り、上下蜜樹中十丁斗ニシテ山下ニ憩ス、「トカチ」川ノ東岸ニシテ夷屋モ数軒アリ、其地名ヲ失ス、之レヨリ「トカチ」川ヲ渡ル、船渡シナリ、頗ル大河ニシテ幅一丁位深サ丈余アル可シ、些子ノ中洲アリ、北ヨリ南ニ流ル、之レヨリ右ニ一ツノ小沼ヲ見テ左ニ海波ヲ望ミテ、砂原ヲ行クコト六七丁斗ニシテ「トイトコ」ノ喉木アリ、之レヨリ又平原纒ニシテ「オホツナイ」ノ一支沼トナリテ、

東ニ迸出スル者ヲ右ニシ大海ヲ左ニシテ砂原不毛ノ地ヲ行クコト凡三十丁ニシテ「オホツナイ」湖ノ渡シ場ニ来リ、之レヨリ湖中五六丁斗船ニテ「オホツナイ」番屋ニ着ス○「オホツナイ」上流ハ船路三日廿一里斗ニシテ「サツナイブト」ト名ツク、之レヨリ陸行二日路十二里斗ニシテ「ミムロノボリ」ト云フ、爰到リテ初メテ此ノ海浜ノ山形杯明亮ナリト云フ、其迄ハ平原ニシテ更ニ替ルコトナシト云フ、此川北ヨリ南ニ流ル、番屋ハ其西岸ナリ、番屋元ヨリ東流シ凡三十丁斗即チ今日過クル処ナリ、番屋元ヨリ東五六丁ノ間尤モ広シ、之レヲ沼ノ尤モ大ナル処ト云、幅二丁斗モアル可シ、此ノ広キ処ノ中央ヨリ些シ東寄りニ海ニ入ル口アリ、凡二十間斗(此口水ノ多少二因リテ同カラスト云)、番屋ノ向フ東岸ハ「マサリ」トテ一ツノ小島ナリ、之レ「ヲホツナイ」川半里斗北ニテ一支流ヲナシ、一二丁斗東ニテ沼中ニ入ルナリ、「マサリ」ハ玫瑰ノコトニテ、平坦ノ地ニ玫瑰アレハ之レヲ「マサリ」ト云フ、故ニ実ハ地名ニ非ス、仮リニ呼フ名ナリ○全体「トカチ」ト「オホツナイ」川ハ一川ニシテ、北行二里斗ニシテ岐シ

テ両川トナルト云フ、故ニ此ノ両間ニアル地ハ惣テ島ナリト云、然レトモ「マサリ」ノ東ニ又一ノ島ノ如ク見ユル地アリ、住夷モアリ、之レハ「オホツナイ」ノ一支ト其東側ニ沼ノ東ノ一支北ニ入ル者トニテ島ノ如ク見ユル者ニシテ、東ノ沼ノ一支ハ行泊リニシテ島ニハ非スト云フ、然レトモ惣テ言ヘハ「トカチ」川ト「オホツナイ」川トノ中間ノ島ノ一端タルコトハ言ハスシテ可ナリ、(ママ)「トカチ」(ママ)「オホツナイ」川幅此節市川十郎松平右京大夫殿家来軍学者、五六日以前此地測量スト云フ、全体目賀田帯刀殿・榊原圭藏・市川十郎三人ノ者、測量シテ各百四十五間ヲ狭キ処ト蝦夷地凶御用ニ而惣シテ測量ス、暁スト言フ、番人ノ話ナリ、サモアル可シ、サレトモ「トカチ」川ハサハアルマシト見ユルナリ、如何アラン乎○「ペロツナイ」(歴舟)ノ川上ニ「サツナイノボリ」(サツナイ岳)ト云フ山アリ、此ノ辺ノ高山ト云フ○「ヘロツナイ」一名「ビロブネ」○「オホツナイ」川一里斗上リテ夷屋十二三軒アリ、二里半斗ノ間折節一二軒宛アリ、二日路斗ニシテ「チャウタ」ト云夷屋尤モ多シト云フ○「オホツナイ」番屋ハ海浜ニ沿ヒテ建ツ故ニ辰巳ヨリ海面ヲ受ク、「オホツナイ」川ノ西岸ニシテ之レヨリ

平原続キナリ

○七日、番屋元ヲ発シ西行ス、海浜ノ原野中ニシテ纔十四丁ノ処ニ塚木アリ、之レ番屋元迄ノ丁数ヲ記ス、「トシケシ」ト云フ、今日行程「トウフキ」(当緑)番屋元迄六里十四丁ト云フ、此ノ塚木ノ左右ニ小沼二ツアリ、其名ヲ知ラス、之レ原中七八丁ニシテ山崖下トナル、半里斗ノ間ニ小原三ツアリ、各細流アリ、之レヲ渡ル、一原ヲ得ル、「チヨウフシ」(長節)ノ「トウ」アリ、大サハ来時ノ記ニアリ、此南岸ノ原上ヲ行クコト十四五丁斗ニシテ「チヨウフシ」ノ塚木アリ、又纔ニ行キテ山崖トナリ「ブラフシト」ノ塚木アリ、尚又山崖ヲ行キ一平原トナル、此原浅ク中央ニ一二丁斗ニ山アリ、其山麓ヲ繞リ離島ノ如ク見ユル湖アリ、其状川ノ如クシテ只々流レサルノミ、此原ヲ行クコト十丁斗ニシテ又山崖下トナル、半里足ラスシテ一平原ヲ得ル、「ユウト」(ユウトウ勇洞)ノ湖レナリ、此湖山字形ヲ為シテ頗ル大ナリ、今日湖ノ第二ト云フ可シ、此湖崖ヲ行クコト凡三十丁斗ニシテ又山崖トナ

ル、二三丁斗ニシテ「ユウト」ノ喉木アリ、之レヲ午歇処トス、之レヨリ海浜山麓ヲ行クコト一里、「ココキ」ノ喉木ヲ過キ尚ホ山崖下ヲ行クコト暫ニシテ大原トナル、
（オйкаマナイニ生花田）
 「オンネナイ」ノ「トウ」ナリ、此湖四辺平原広クシテ湖モ亦甚タ大ナリ、周廻二三里モアル可シ、其岸上ノ平原ヲ行クコト殆ント一里斗、原尽キテ又山崖下トナル、纒ニシテ喉木アリ、「オンネナイ」ト云憩所ナリ、之レヨリ山崖下ヲ行クコト暫クシニシテ一平原ニ出ツ、方四五丁ノ湖アリ、「ホルカヤシ」ト云フ、之レヨリ又山崖下ヲ行クコト暫ニシテ終ニ平原大ナル処ニ出ツ、又一湖アリ、「トウフイ」ノ湖ト云フ、之レヲ右ニシテ海浜ノ砂堤ヲ行クコト十四五丁ニシテ一岡阜上ニ上ル、即チ「トウフイ」ノ番屋ナリ、此ノ砂堤波高キ節ハ波濤打越シテ通行ス可カラス、其節ハ湖中ヲ船ニテ渡ス由ナリ○「トウフイ」番屋ハ海浜ニ沿ヒテ建ツ、巳ヲ正面トス、故ニ「クスリ」ノ出岬ト「エリモ」岬トノ湾底トモ云フ可キカ、且ツ番屋ハ「トウフイ」湖ノ西岸ニシテ背後左右トモニ平沢ナリ、番屋ノ岡ハ南北一二丁

余東西二三里モ続キタル海岸ノ阜ト思ハル、其他ノ平沢ハ池沼多ク其儘田ト為ス可キ者ト思ハル、然レトモ多分北ニ山少ナク且ツ低山ニシテ海風寒キ故カ、此節雜艸多分枯萎ス、殖物杯如何アランカ、今日杯ノ氣候十月中旬ヨリ寒シト思ハル、木葉ノ枯ルルモ又此ノ如シ、大根杯モ此節ヲ限トスル者ノ如シ○今日過クル処ノ湖上風景甚タ妙ナリ、尤モ「オンネトウ」ヲ佳景トス、東西低山ニシテ北ハ蜜林ヲ遙ニ見テ山ヲ見ス、南ハ大東海ノ天ト接スルヲ見ル、一目大千世界睥睨スル者ノ如シ、壯觀ト云フ可シ

○八日、「トウフイ」発足「ヒロウ」一名「トカチ」 止宿、行程七里八丁、昨日ノ続キノ高阜上ヲ行クコト八丁ニシテ喉木アリ、「セキ」ト云フ、之レヨリ卅丁ハカリニシテ憩所アリ、
（アイボシマ）
 「アエホシマ」ト云、此辺榎ノ実生二三尺ノ者多シ、此憩ノ所前後ニ蝦夷松ノ小ナル者二三株アリ、之レヨリ六丁斗ニシテ「アエホシマ」ト云フ喉木アリ、尚ホ高阜上稍榎ノ大ナル中ヲ行甘丁余ニシテ一川ニ下ル、之レヲ「ヘロツナ

イ「河ト云フ、此川源ハ「サツナイ岳」^(サツナイ岳)ヨリ来リテ凡二十五里斗流レ来ル由、頗ル大河ニシテ川幅凡五六丁モアル可シ、然レトモ平常ハ洲渚ノ如クナリテ老樹大木抔生ヒ茂リテ三流ニ分レタリ、西岸ノ流レ尤モ急ニシテ深シ、殆ント馬腹ニ及フ、此ノ西岸ハ些シノ平山ニシテ些上ル、老樹多シ、一丁斗ニシテ下ル、平原ニ出ツ、東西凡十丁斗中央頃ニ「ベロブネ」^(歴舟)ノ墩木アリ、之レヨリ檣ノ老樹ノ高阜ニ上ル、之レヨリ阜ノ高サ五六丈ニ到ル、此ノ阜上ヲ行クコト五六丁ニシテ又「モンベツ」^(紋別)河ヲ渡ル、此河モ細流ニハ非サルナリ、然レトモ幅七八間ノ浅流ナリ、之レヨリ又高阜上ニ登リ暫クシテ「アイホシマム」ノ午餉処アリ、之レヨリ三四丁ニシテ「アイホシマム」^(小紋別カ)ノ川ヲ渡ル、川幅凡二丁斗、又岡ニ上ル処「アイホシマム」ノ墩木アリ、此高阜上ヲ行クコト半里余老樹林中ヲ行キ「トヨキ」^(豊似)川ニ下ル、此川大河ニシテ幅十丁余、川中洲渚多ク数多二分流ス、又岸阜ニ上一丁斗ニシテ「トヨキ」ノ墩木アリ、又尚ホ高阜上ヲ行クコト半里斗細流アリ、「シマウチ」^(シマウチ)

トト云、之レヨリ高阜頗高低上下或ハ林中或ハ開豁ノ地ニシテ脚底ニ波濤ヲ聞キ「ノツカ」^(野塚)ノ墩木ニ到ル、又暫クシテ大河アリ、「ノツカ」川ト云、川中二三丁位、又高阜上ニ登リ一里斗ニシテ憩処アリ、「ノツカ」ト云フ、之レヨリ四五丁ニシテ墩木アリ、之レヲ「ノツカ」ト云、尚ホ行クコト暫クシテ「ラツコヘツ」^(楽古川)アリ、此川頗ル大河ニシテ川底丸石水深クシテ尤渡リ難シ、川中三丁斗モアル可シ、今日モ水馬腹ニ及ブ、之レヨリ高阜上ヲ行クコト林中林外開鬱同シカラスシテ、行クコト三十丁余ニシテ○「ラツコ」^(楽古)ノ墩木アリ、憩所トス、之レヨリ少シ斗ニシテ下ル処即チ「ヒロウ」^(広尾)一名「トカチ」^(十勝)ノ会処元ニ着ス、今日ノ行程ハ多分巳午ノ間ニ向フト思ハル、故ニ午餉処「アイホシマム」ノ海滨・憩処共ニ東南ニ面スト云テ可ナリ、思フニ此辺ノ大湾曲ハ「トカチ」川ノ処ヲ湾底トモ云フ可キカト思ハル、其故地面昨日迄ニ異ナル者ト思フナリ○会処元ハ東南ニ面ス、海滨ハ正南ニ面スル者ノ如シ、且ツ背後ニ二三丁ノ湾アリ、東側岸下ニ少シノ岬アリ、漁場アリ、其前ニ四

ツノ大岩海中ニ突出セリ、碇泊ノ佳港トハ言ヒ難カル可シ、西北風ニハ繋ク可ク、東西風ニハ繋ク可カラサル者トス
 ○「ヒロウ」領、馬百五十匹、人口千人余ト云○「ベルフネ」川一名「ヘルツナイ」川、源ハ「ベルフネ」山トス、
 「ベルフネ」山トス、「ベルフネ」山ニ大湖アリ、未申ノ風強キ時ハ晴天ト雖トモ「ヘルツナイ」洪水、川留トナルト云フ、此河源ニ平生波濤ノ声アリト云フ、住夷モ少シ斗アル由、此源ヨリ「サツナイ」川ト合シテ「ベルツナイ」ニ出ル由、又一川原ハ「ソラチ」山ヨリ来ルト云フ、此ノ「ソラチ」山ハ石狩川へ流出スル由、此ノ山ノ西ニ「トカチ」山アリ、此ノ「トカチ」山ノ川、「ソラチ」ノ川ト合シテ「トカチ」川・「オホツナイ」川ニ落ル由、此ノ「トカチ」川へ「ベルツナイ」ノ一支分流スル由、「ソラチ」山ハ「ヒロウ」ヨリ四十里位アリテ此頂ヲ東西ノ境トス、此地ヨリハ見ヘ難シト云フ、「トカチ」川ノ水源ニ住夷尤モ多シト云フ○支配人云フ、「ヒロウ」領夷家貳百余、人口千人余ト云、会処元夷屋四十軒斗ト云フ、見受ル家十軒ニ過キス

○今日過クル処ノ地墾田難カル可シ、高阜平原ハ高クシテ水利ナシ、且ツ風ヲ障フル山ナシト思フ、卑キ地ハ皆大川ノミニシテ暴漲如何ントモシ難キ者ノ如シ、只々「トウフイ」番屋ノ背後ノ平沢ノミハ開墾モス可キカ、会処元ノ畑ニハ大豆・大根・瓜ノ類、惣テ雑穀ハ熟スル者ト見ユ、サスレハ人煙多クシテ畑ト為サハ可成ニハ生育モス可キカ、熟練ノ人ニ尋ネサレハ知レ難シ、已ニ高原ノ木艸大半萎枯ス、之レ風ノ為ニ然ルカ、且ツ雑艸迄他ノ原ノ如ク生茂セス、纔一尺位ニ過キス

蝦夷紀行

三冊之内

下

蝦夷紀行

下

印(維新史料編纂会図書之印)

蝦夷紀行卷之下

九月九日至十一月十日帰着

西備 福山 寺地強平著

印(維新史料編纂会図書之印)

重九、会処元ヲ出テテ西南ニ行キ、一二丁斗ニシテ「ピロウ」(広尾)
 川ヲ渡ル、半丁斗中ノ洲アリテ又川トナル、洲中モ老樹多
 シ、之レヨリ一山ヲ越ユ、密林中ヲ高低屈曲ス、下阪シテ
 「ピボロ」(美幌)ノ喉木アリ、此所憩所前ニ川アリ、「ピボロ」
 川ト名ツク、之レヨリ海浜ニ出テテ千尋ノ断崖下ヲ経テ十
 丁斗ニシテ一溪間ニ入ル、此溪流ヲ「ホンオナウンベツ」

ト云フ、此溪流ヲ数回渡リ一嶺ヲ越エ、又溪間ノ林中ヲ行
 キ「ホンオナウンベツ」ト「オリコマナイ」ノ間ノ出岬ト
 ナリタル一山ヲ左ニシ、廻リテ「オリコマナイ」ノ喉木ニ
 到ル、之レヨリ密林中ヲ蜿蜒トシテ行クコト暫クニシテ
 「オツシラベツ」(音調別)ヲ涉リ、終ニ又少シ上リトナリ少シノ平
 坦ナル所ニ出ツ、之レヲ「オツシラベツ」ノ午餉所トス、
 又直ニ山路ニ上リ羊腸屈曲頗ル峻急ニシテ上頂ノ所ニ到
 ル、「オクチシ」ノ喉木アリ、之レヨリ棧道險峻ナル坂ヲ
 下リ一溪間ニ入り、又漸次ニ一山ヲ上リ又下阪ニ趣ク所
 「ヒナキ」(ヒナイ)ノ喉木アリ、前嶺ノ如ク急ナラスト雖トモ路甚
 タ長シ、之レヨリ溪間トナリ溪流ヲ或右ニシ或ハ左ニシ数
 回之レヲ涉リ、之ニ沿ヒ之ヲ遠サカリ、終ニ「ヒタタンヌンゲ」(ヒタタンヌンケ)
 ノ喉木ニ出ツ、此処ニ標木アリ、以北「ピロウ」領以南
 「ホロイツミ」(幌泉)領ト書ス、之レヨリ少シ斗ニシテ海浜ニ出
 ツ、「オキタルシヘ」ノ憩所アリ、此憩所ノ正面ニ「ヒタ
 タヌンゲ」ノ出岬アリ、之レヨリ海浜嶮悪恐ルヘキ断崖岩
 石間波濤避クヘカラサルノ処十余丁ヲ過キ、其ヨリ平砂ニ

シテ始メテ虎口ヲ逃レ辛フシテ二十町斗行キ、右折シテ原中二十丁斗ニシテ「サルル」^(猿留)番屋ニ着ス○今日經過スルノ地総テ山道富林中ニシテ絶テ弁論スヘキ地ニ非サルナリ○番屋ハ未ニ面シテ方三四丁斗ノ山麓ナリ、西南一ノ出岬アリ、地面ハ東南ニ向フ○「ヒロウ」^(広尾)会所元ヨリ「サルル」番屋迄行程六里○「オキタルシヘ」ヨリ海岸尤モ危フキ所以ハ、七月念三ノ地震海嘯ニテ岸上危岩大ニ崩潰シ、且ツ先月念六ノ山焼灰雨以來波濤高クシテ退潮ノ時モ通シ難キナリ、故ニ來時ノ記ニ異ナリトス○山道中ニテ「ハケシ」ト云フ鳥ヲ見タリ、ハ昨雨少ナク其故発行スト云、然レトモ「ビタタヌンゲ」ノ海浜ハ波高ニシテ通行ナラスシテ、終ニ非常ノ山道ヲ越シ大ニ勞スト云ヘリ、然レトモ江魚ノ腹中ニ葬ラレンヨリハ辱シト云フ○又聞、堀田侯臣窪田勘藏ナル者、前日「オホツナイ」^(大津)出立ノ日「ベロツナイ」川渡ノ時番人ノ行ク方深シ、カク行ケト云フ、番人云フ、只今ノ処ハ浅ケレトモ岸下深く通行難カラント云フ、聞スシテ行ク、崖下果タシテ深シ、勘藏云フ、川此ノ如ク深シ、

如何ンソ船ヲ出ササルヤト云フ、番人云、船ハ此地ニ非ス、且ツ召連レノ夷人モ水主ニ非ス、サアラハ爰ニテ暫時休息成サルレハ急ニ手筈致スヘシト云フ、勘藏大ニ怒リ番人ヲ手搏ス、其後如何シタリケン、又番人ノ横腹ヲ抜打ニス、番人ハ霜刃ニテ肋骨ノ辺ヲ切ラレ終ニ絶氣ス、其ヨリ色々シテ蘇シ其後佐沼岱次郎^{是モ堀田侯ノ臣}始一同色々介抱シ、種々ト慰メラレ漸クニシテ「ビロウ」ニ達スト云フ、其後支配人ヨリ詰合ニ内々届ケタレハ、詰合ヨリ窪田ニ掛合ニナリタリ、サレトモ窪田ハ切りハ不致、過言致ス故只鞭ツノミト云フコトニテ表向濟タリ、其後箱田^(箱館方)へハ御届ニ内々ナカラナリシ由、「ビロウ」ノ帳役話シタリト云フ、サレトモ番人ハ「ビロウ」ニテ養生治療致シ居ル由帳役ノ者話スト云フ、且又仙台ノ臣モ菅野ト同行故、重陽ノコトナレハ一酌スル折故一同聞シトカヤ、理非ハ知ラス、綿入着用ノ番人肌迄疵付ケラレシハ明了ナリト菅野語リキ

十一日、「サルル」^(猿留)番屋出立、直ニ西南行溪間ニ入三四丁

ニシテ「サルル」ノ墩木アリ、其ヨリ密林中ニ入り溪水ヲ左ニシ行クコト五七町、終ニ溪流ヲ渡ルコト三四度ニシテ「サルル」川ト云墩木アリ、直ニ「サルル」川ヲ渡ル、幅一丁半斗甚々深シ、サレトモ馬ニテ渡ル、之レヨリ又小川二ツ斗渡リ、終ニ殆ント南行シテ又一溪間ニ入ラントスル処ニ憩所アリ、「サルル」川ノ憩所ト云フ、西北ニ向フ、之ヨリ終ニ細溪中ニ入ルコト四五町流水中ヲ行キ羊腸ノ山路ニ上ル、峻急東蝦夷第一ノ処ト云フ、殆ント三十丁斗ニシテ所謂「サルル」嶺ニ上ル、上リ極ル処ニ「トヨニ」(豊似)ノ墩木アリ、此辺ヨリ「カムイトウ」(豊似湖)神池ヲ目下ニ見テ、行クコト五六丁斗ニシテ馬脊上ノ如キ処ニ到ル、此「トヨニ」ノ墩木辺、又此処ヨリシテ左方ニ遙ニ東海ノ渺茫タル波濤ヲ望ミ、右眼下ニ神池ノ碧色ヲ見ル、背後ニ「サルル」ノ諸山突兀タルアリ、仰テ「トヨニ」岳ヲ望ム、緑樹紅葉相交ツテ光景絶妙ト云フ可シ、以前ノ記ニ「アブチ」山ト書スルハ全ク誤リニテ、爰ニ「トヨニ」岳ト云フ是トス、之レヨリ「トヨニ」岳東北ノ山腹ヲ繞リ、其支山両三脚ヲ

高低上下シテ「シトマヘツ」ノ墩木ニ出ツ、之レヨリ又両支山ヲ上下シテ二十丁斗ニシテ「アブチ」ノ午餉処アリ、此ノ午餉処ノ十丁斗モ前ヨリ左方ニ「エリモ」(襟裳)岬眼下ニ了然タリ、午餉処ハ「アブチ」ノ上流故「アフチ」ト云、全体「アブチ」ハ「エリモ」ノ海岸ノ名ナリ、「トヨニ」ノ一支山「アブチ」川ノ水源ノ山麓故此処モ亦「アブチ」ト云フ、此午餉処ハ正南ニ面シ「エリモ」ヲ眼下ニ見ルナリ、四里余アリト云フ、直行一里余モアル可キカ、又此ノ処ヨリ「アブチ」川ヘノ路モアリト云フ、之レヨリ檜山麓ノ蜜林中ヲ行キ十丁斗ニシテ「アフチ」ト云フ墩木アリ、蓋シ「アフチ」ノ水源ナランカ、之レヨリ溪流ヲ数度渡リ上下シテ「オタバツ」(歌別)ノ墩木アリ、此間林樹稀ナリ、其ヨリ「オタバツ」川ヲ渡リ又細流ヲ渡ルコト兩度、蜜林中ヲ行クコト十丁斗ニシテ一溪間平坦ノ地ニ出ツ、長短斷補方七八丁モアル可シ、之レヨリ又山道ニ入り行クコト十丁余ニシテ又一溪流ニ下ル、之レヨリ溪流ニ沿ヒ終ニ一ノ平岡ニ出ツ、「モセウシナイ」ト云憩処アリ、之レヨリ平岡上ヲ行クコ

ト十丁斗ニシテ喉木アリ、「ケレフシ」ト云フ、此辺夷屋二十軒斗アリト云フ、之レヨリ十丁余ニシ海浜ニ出ツ、之レヲ「コルフル」ト云フ、此レヨリ砂浜二十余丁ニシテ「ホロイツミ」(帆泉) 会処ニ着ス、「コルフル」ヨリ左折シ海ヲ右ニス故ニ西北行スルナリ、此処地(マ) 等来時ノ記ニアリ
 ○此処ヨリ「エリモ」岬へ三里半ト云フ、一里斗ハ平山多ク其出岬ハ平地ニシテ水沢多シト云フ、行カサレハ其字ヲ精詳ニ記セス○「ホロイツミ」会処元ハ申酉ノ正中ニ面シ、灣モ又此ノ如シ、且ツ灣モ甚々大井ニシテ、会処元ノ処ハ少シノ穹隆ニシテ港トハ言ヒ難カラシ、其徴ハ海中ニ大杭十二三本斗立テ、今日モ五六百石位ノ船ヲ繫ケリ、恐ラクハ海底錠(錠)ノ掛ルモノ少ナク且東北風尤モ凌キ難キ故ニ、已ムコトヲ得スシテ杭ヲ打ツナラン、蓋シ此辺好譽ナキ故ニ此地ニ会処ヲ建ルナラン

○十二日、「ホロイツミ」発足、「シヤマニ」(様似) 止宿、行程六里卅一丁余、会処元ヲ出テテ平岡ニ上ル、六丁廿七間ニシ

テ喉木アリ、「エンルモ」ト云フ、之レヨリ「ホンガニ」ノ沢ニ出ツ、又平岡ニ上ル、南部地ト云フ、此地先年御公料ノ節南部ノ陣アリシ跡ト云フ、之レヨリ「アシアキ」ノ沢アリ、夷家五六軒アリ、之レヨリ尚ホ平岡ヲ行キテ遙ニ「ウラカハ」(浦河) 岬ヲ見、前ニ当リテ高ク見ユルハ「ホロマンヘツ」ノ山、近キ出岬ハ「シヤマニ」ナリ、之レヨリシテ「ホンウエンコタン」ノ憩処アリ、尚ホ平岡少シニシテ同名ノ喉木アリ、ソレヨ山崖(リ脱) 此ノ山崖石炭多シト思ハル 下ノ悪路ヲ行キテ一平原ニ出ツ、「ニカンベツ」ノ喉木アリ、此原二三丁斗行キ尽ル処川アリ、「ニカンベツ」ト云フ、川幅一丁余、東岸ニ「ホロイツミ」領、西岸ニ「シヤマニ」領ト書ス、何レモ水野正太夫持ナリ、又山崖下ヲ行キ終ニ海浜ニ出ツ、之レヨリ纔ニシテ「ホロマンベツ」(帆満別) 昆布番屋ニ午餉ス、此ノ番屋ハ西南ニ面ス、之レヨリ川崖ヲ行クコト二三丁ニシテ三嶺ヲ経、皆九折羊腸ニシテ甚々峻嶮ナリ、此ノ終リノ嶺ヲ下リ將ニ一嶺ニ上ラントスル処ニ「オホナイ」ノ喉木アリ、一溪流ナリ、又二嶺越元テ平岡上ニ出ツ、此間尽ク

蜜樹中ニシテ從前經過スル処ト大ニ異ナリ、然レトモ來時
ノ魚腹ニ葬ラルルノ時ヨリハ平坦陵夷ト云フテ可ナリ、平
岡纒ニシテ「コトニ」ニ憩ス、此憩処ハ申西ニ面ス、此処
ニテハ「ウラカハ」「シヤマニ」戌ニ当ルナリ、之レヨリ
海岸山崖下ニ出テテ「フユニ」ノ塚木ニ出ツ、猶ホ山崖海
岸ヲ行キテ「モンベツ」^(門別)ノ塚木ニ出ツ、之レヨリ「モンベ
ツ」ノ川ヲ渡リ幅一丁余モアリ、終ニ海浜ニ沿ヒテ行ク、
「ヒラウトリ」^(平宇)ノ昆布小屋アリ、之レヨリ終ニ平原上ヲ行
クコト二十丁斗ニシテ「シヤマニ」川ニ至ル、川幅二三丁
モアル可シ、此川ヲ渡リ一山崖ニ上ル、之レヲ行クコト二
三丁ニシテ少シ斗下ル処即チ会処ナリ○今日經過スル処
悉ク嶮阪ニシテ、殊ニ海浜ハ悉皆大転石ニシテ甚々^(ママ)惡、
恐ラクハ東蝦夷第一ノ惡路ト云フ可シ○山道中ニ於テ五
葉松ヲ見ル、來路曾テ見サルナリ○昨日ハ一里斗時雨ニ逢
ヒ着服皆濡ル、今日着後時雨幸ニ濡レス、晴天此ノ如シ、
蝦夷ノ光景乎○「シヤマニ」会処元ハ西ニ面ス、会処ノ背
後ノ平山西南ニ突出シ一島ノ形ノ如ク西方出岬トナル、其

中間別ニ小ニシ^(ママ)ク、之レヲ望メハ糸ノ如シト云フモ可ナ
リ、此ノ出岬ヲ「シヤマニ」岬トモ云フ可キ、周匝凡三百
間斗ト云フ、其ヨリ又先ニ大岩ノ海中ニ突出スル二ツアリ、
「イマニチ」ト名ク、「イマニチ」ハ串ノ夷語ノ由、其形
チニ寄りテ名クト云フ、会処ヨリ海浜ニ沿ヒテテ^(ママ)三丁斗行
キテ等持院ト云フ寺アリ、其西ニ一ツノ出岬アリ、「ウン
ビ」ト云フ、蝦夷三ヶ寺ノ一也、此地調役並水野正太夫詰
処、「ホロイツミ」「クスリ」ハ同人ノ持場ナリ、此地誠ニ
小灣ニシテ船繋リ宜シトハ云ヒ難シ、大岩下杭ヲ打チ之レ
ヲ船繋リトス、之レ碇泊ス可カラサル^(微力)ノ徴乎、西方二一ツ
ノ出岬アリ、其名ヲ知ラス、其東岬ニ一大岩アリ、之レヲ
蠟燭岩ト云フト日記ニ出ツ、却而会処ノ背後一灣港ヲ為シ
テ碇泊ス可キ地トモ思ハル、然レトモ海底ノ深淺ハ知ラサ
ルナリ

○十三日、昨夜大雨、前川漲溢已ムコトヲ得スシテ滯行ス、
午後等樹院原沢寺^(等樹院厚沢寺)ヘ行ク、寺ハ已ニ面ス、本尊藥師如來ト

聞ク、護摩堂アリ、鎮守神アリ、前面灣底ニシテ頗ル光景佳ナリト云フ可シ、昨日以来海湾浮石ノ如キ焼石多シ、之レ先月^(ママ)六ノ山焼内浦岳ト云フ風説アリ、今日ノ海浜尚ホ焼石多シ、大サ大ナル者ハ拳大ノ如シ、尚ホ大ナルモノアリ、之レ其時降ルニ非ス、其後海波ノ為漂サレ来ルト云フ、風説ノ如ク内浦ナレハ此地ヨリ五十里外也、此先如何ノ大石降ナラン、恐ル可キナリ○今夜薄暮ヨリ清光、実ニ近來珍敷事也、且ツ此辺地ニテ此ノ清光ヲ見ル、奇ト云フ可シ、只々恨ム、酒ナク寒氣甚シク久シク堪ユルコト能ハサルナリ、午夜ニ暮ニ入ル

○十四日、「シヤマニ」出立三石止宿、行程八里○「シヤマニ」会処元ハ西差南ニ面ス、「シヤマニ」ノ出岬ト「フンヘ」ノ出岬ト其間十斗モ隔リ些ノ灣ヲ為ス、其中間ニ大岩三ツ海中ニ突立ス、其尤モ東ニアル岩ノ脇ニ繫杭四五本ヲ立テテ之レヲ船繫リトス、之レニ因テ考フレハ良全ノ灣港トハ言ヒ難カル可シ、然レトモ其形勢ハ小ナル箱館ト

モ云フ可キ様ニ似タリ○会処元ヲ発シ海湾ヲ行キ三斗ニシテ等持院^(等持院)厚沢寺ナリ、其ヨリ十斗モ行キテ「フンベ」ノ岬ヲ廻ル、其岬満潮ノ時ハ曾テ往来スル能ハス、故ニ來時ニハ些シノ山越ヲ為シタルナリ、今日ハ幸ヒ退潮ノ折故千仞ノ大岩絶壁下ヲ過クルナリ、左方ニモ蠟燭状ヲ為セシ大岩アリ、其間平盤ノ如キ岩石上ヲ行ク、凡三四十間斗ニシテ砂浜ニ出ツ、一斗ニシテ昆布小屋アリ、其名ヲ知ラス、此ノ山岡アタリヲ「オタフンベ」「ソフヒラ」杯云フ由、「オタフンベ」ハ古戰場ノ由、「オタ」ハ砂ノコト、「フンベ」ハ鯨ノコト、昔シ砂ニテ鯨ヲ造リ之レヲ以テ敵ヲ驚ス由、之ニ由テ其名ヲ得タリト、其日月・姓名ヲ知ラスト云、之レヨリ海浜・山麓ヲ行クコト半里余ニシテ溪間三ツアリ、溪流三ツヲ渡ル、其ヨリ又一溪間頗ル大ナル処ニ出ツ、「ウトマンベツ」ト云フ一溪流ナリ、此処「シヤマニ」「ウラカハ」ノ境ナリ、皆水野正太夫持ナリ、尚ホ山崖ヲ行キテ溪原ニ出ツ、少シ斗原ヲ行キテ喉木アリ、少シ行キテ同名ノ川アリ、川幅一丁余徒渡リテ憩処アリ、此処大原ニテ

東西卅丁斗南北半里斗、又山崖ヲ行キ一溪間ニ出ツ、夷屋六七軒林中ニアルヲ見ル、一山麓ヲ廻リ些シ斗ニシテ「ホロシユマ」ノ墩木アリ、此処草木生茂リタ山腹ナリ、而シテ夷屋モアリ、之レヨリ又平原ニシテ暫ク行キテ一岬ヲ廻リ些シ斗ニシテ「ウラカハ」^(浦河)ノ会所ナリ、会処元ハ申酉ニ面ス、而シテ灣モ又小灣ニシテ南ニ面ス、之レ又佳港トハ言ヒ難シ、之レヨリ二丁ニシテ墩木アリ、「ムコツキ」ト云フ、之レヨリ少シ斗リニシテ「ムコベツ」^(向別)川アリ、徒渡リ川幅二三丁モアリ、之レヨリ平原トナル、「ヒラトワ」ト名ク、終ニ又山麓ニ当リ山腹ヲ上下高低シテ「イカンタイ」^(井寒台)墩木アリ、漁場夷屋多シ、終ニ其岬ニ到ル、之レヨリ回顧スレハ「エリモ」^(襟裳)東方ニ見エ、「ウラカワ」岬ハ少シ短ク見ユルナリ、此岬ヲ廻リ尽キテ些シノ平岡アリ、「チャシコシ」ト云、之レヨリ平原ヲ行クコト半里斗、「ルブイ」川ヲ渡ル三四十間斗、甚タ深シ、雨後故ナラン、之レヨリ又一岬アリ、「シレイト」ト云フ、之レヲ廻リテ平原ニ出ツ、纔ニシテ「トヤイ」ノ墩木アリ、方七八丁位ノ平原也、

此原ヨリ東北ニ「カムキノホリ」見ユ、「ウラカハ」ノ山ト云フ、此処ニ憩処アリ、之レヨリ原続ニシテ十丁斗「モトウラカハ」^(元浦河)ト云、漁場アリ、川アリ、一丁余モアル可シ、此原行キ尽キテ又一山ヲ廻リ細流ニ出ツ、「オニウシ」^(荻伏カ)ト云フ、「ウラカハ」・三石境ナリ、些シ斗山崖ヲ行キ「ケリマフ」^(覺舞)ノ墩木アリ、之レヨリ山道ニ入り高低上下スルコト七八丁ニシテ海浜ニ出ツ、蓋シ「シルイト」ノ岬ハ退潮ノ折ニ非サレハ通行難キナリ、來時ニハ「ヒレト」ノ出岬ヲ廻ルト云フハ退潮ノ折ナラン、此海浜些シ斗ニシテ山崖断岩下ニ「ヲラリ」ノ墩木アリ、尚ホ断崖ヲ行クコト十丁斗ニシテ平原ニ入り、五六丁ニシテ「ベセハキ」ノ漁場・番屋ヲ過キ、其ヨリ十丁余ニシテ三石川ヲ渡ル、此川一丁余モアル可シ、之レヨリ平岡上五六丁ニシテ三石会処元ニ薄暮ニ宿ス

○望、大雨滯行○三石会処元申ヲ正面トス、戌亥ニ当ツテ一平山小一丁斗モ突出ス、又会所元ノ処ハ砂浜ナレ共些ノ

出岬ニシテ、一平山ノ出岬ト纔ノ穹隆ヲナシテ会処元ヨリ
 亥ノ方ニ小灣ヲ為ス、サレ共誠ノ小穹隆ニシテ碇泊ス可キ
 地トハ思ハレサルナリ、然レトモ荷役等ノ折ハ風波ナケレ
 ハ随分繫ク可キナリ、東北風ニハ凌キ難カル可シ、且ツ戌
 亥ノ平山モ低ク西風モ暴ナレハ繫ク可カラス、此事土人其
 外番人杯ニ聞タルニモ非ス、予臆測ナリ○三石ト云フコト
 蝦夷語ニ非サルニ似タリ、日記ニハ三ツ石アリ、ヨリテ「シ
 ヤモ」ヨリ名クト云フ、不審シ番人ニ聞クニ夷人ハ「ミト
 シ」ト云フ由、「ミトシ」ハ桶ノコト、樺ノ皮ニテ桶ヲ造
 リ会処ノ東ノ三石川ニテ水ヲ汲ミテ運フ故「ミトシ」ト云
 フ由、三石ト書スルハ内分、表向ハ「ミツイシ」ト仮名書ニ
 スル由、且ツ又海中其外近辺ニ石アルヲ見サルナリ、海底
 ニ一ツ暗礁ハアレトモ是又三石ノ原ニ非スト云フ、此説正
 シキ方ト思ハル故ニ○菅野生ノ話ニ、先頃藤堂侯ノ家臣十
 八人蝦夷地一見ノ為ニ「シヤマニ」(様似)迄来リシ由、之レハ藤
 堂侯開墾ノ所存アリテ来リシトカヤ○又聞、先月念六ノ山
 焼ハ内浦岳(駒ヶ岳)ノ由、砂原ハ悉皆焼失、然シ死亡ハナシト云

○又聞、七月念三、南部地大地震ノ時「ウラカハ」海嘯ニ
 テ大船二隻破損シ死亡スル者一人アリト云フ、又先月ノ山
 焼ニモ高潮ニテ大船二隻破壊スト云フ、既ニ一昨日破船ノ
 材木并船底破壊ノ者ヲ見タリ、且ツ此三石ハ別テ海嘯ナト
 恐レ多キ地ト見ユル也、曾テナシト云フ、地勢分ケ難キ者
 ト思ハル○「ネモロ」(根室)「シヤリ」(斜里)「アツケシ」(厚岸)其他「クナシリ」(国後)
 ニテモ大根・葱ノ類ハ能ク生長ス、又豆・緑豆杯モ能ク出
 来ルナリ、「ネモロ」以来ハ栗・稗ノ類、胡瓜・蕎麦モ出
 来ルナリ、「クスリ」(釧路)アタリヨリ以来ハ余程瓜杯ハ大キニ
 出来タリ、「シヘツ」(標津)「ノツケ」(野付)番屋ニハ色々ノモノ能ク出
 来ルナリ、「ヒロウ」(広尾)ヨリ以西ハ大ニ暖氣ニ成リ、「シヤマニ」(様似)
 辺ヨリハ何モ出来ルナリ、既ニ「ウラカハ」(浦河)ニハ西瓜出来
 ル由、先日「サルル」(猿留)ニテ始テ南瓜ヲ食シ故尋ネシニ、「シ
 ヤモ」地ヨリ来ルト云フ、三石ニ来リテハ茄子・瓜ノ類沢
 山ナリ、大根杯別テ大ナリ、此地ヨリ以西ハ百穀熟セサル
 者ナシト思ハル、何様「エリモ」(襟裳)以北ハ麦作杯難カル可シ、
 「ノツケ」ノ番屋守当年始テ麦ヲ種ヘ試ムトテ四五疊敷小

麦ヲ種エタルヲ見シ、明年如何アランカ、番人杯ニハ右様ノ人物ハ甚タ稀ナリト思フナリ、只ニ土夷ニ此ノ如キコトヲ教エスシテ生涯種芸ノ利ヲ知ラス、可嘆ノ甚タシキナリ、有志ノ人アリテ其地其地ニ到リテ種芸ノ道ヲ教エサレハ、中々十年ヤ二十年ニハ開ケサル可シト思フ、是漁獵ノ利大ナルカ故ニ別シテシカ有ント思フナリ、且ツ三十里五十里ノ間ニ人口千人ニ足ル地ハ東蝦夷中ニケ所ニ過キス、其他ハ百人二百人甚タシキ到ツテハ「クナシリ」ノ如キ五十里ノ島ニシテ九十六人ト云、其中用役ノ者ハ三十人ニ足ラスト云フ、如何ントモス可カラサルナリ、之レ考フ可キノ第一ナリ

○十六日、大風大濤昨夜ヨリ劇ニシテ砂石ヲ吹き揚ケ往来通セス、殊ニ西風劇シキ故ニ已ムコト得ス滯行ス○菅野ノ話ニ、箱館奉行英夷碇泊ノ折陣太鼓ニ達シタル夷人ヲ呼ヒ其拍子ヲ聞レシニ、中々容易ニ学フ可キ者ニ非サル由、鎮台公ノ話アリシトナン、誠ニ其調子音声ノ如キ実ニ今軍陣

ニ臨ム者ノ如シト、且ツ急ナル調子杯甚タシク急迫ニシテ尚更習ヒ難キ由トキク、其折リナレハ家来ノ中ニ下曾根江川流ノ太鼓ヲ打ツ者アリシ故ニ、之レヲ敲カセ聞セラレシニ、英夷耳ヲ傾ケテ更ニ右様ノ調子ハ知ラスト云ヒシ由、何レノ国力覚エサレトモ葬式ノ折右ノ拍子ノ如キ太鼓ヲ聞シコトアリト云トキ、此英夷ハ太鼓打ニテ鉄砲モ船ノコトモ知ラス、十三年太鼓ノミ修行スル由、西洋ニハ何事ニ依ラス只々一事ニ修身務ムル故ニ万事精熟スト鎮台公申サレシ由○又聞、近年「フランス」人大ニ繫劍(撃)ヲ修行スル由、其二付日本ノ如キ刀ヲ作り為スト云フ、其劍法ハ鎮台公ノ臣船ニ行キ見(ヤ)ニ、我邦ノ神影流ノ如キ花ヤカナル法ト云ヒシ由、彼邦ニ鍛冶セシ刀ヲ所持シ見セテ其上本邦ノ刀無心頻リニ云ヒシ由、例ノ国禁故強テ辞セラレシニ、英船ニ定海ニテ逢ヒシニ、本邦ノ刀十二三本出シ日本ニテ買來ルト云ヒキ、彼ニハ売り我ニハ許サヌ所以如何ニト逆鱗ナセシ、サレトモ本邦ヨリ売ルコトハ絶テナシ、ソレハ漂泊(ヤ)ヨリ求メタルナラントテ辞セラレシ由、刀ハ何様鈍

力ニテ用ニ供セサル者ノ如シト話サレシ由、サレトモ出藍ノ功ナシトモ言ヒ難シ、且ツ接戦ニハ撃劍ハ必用ナリト思ハルルナリ、本邦ニハ從來ノ名刀アリ、且ツ劍法數百年ノ鍛鍊故異邦ニハ劣ラヌコトハ元ヨリナレトモ、此上炮劍相交エテ異邦ノ上頭タランコト、有志ノ人伸々書ス可キノ第一ト云フモ可ナランカ、聞ク儘記シ置クナリ○又聞、箱^(箱館)「夕チマチ」ノ煩台ニ古キ鑄造ノ炮アリ、千三百四十年ノ製ノ由、英人ニ之^(モ)レヲ称美スル由、古ヲ見ルニ足ルト云シ由、人心ノ同シキ事ハ華夷地ヲ替ユルト雖トモ替ラサルコト知ル可キ也○今朝些シ斗雹降シ由、其後風益暴ナリ、日晚^(雨方)テ後兩大雹降り来リ、其音屋宇ヲ破ルカ如シ、纔ニシ忽チ晴ル、風尚穩ナラス二更頃寝ニ就ク

○十七日、三石会処元ヲ発シ、小川ヲ渡リ平岡上六丁ニシテ「カシユシラリ」^(新冠) 塚木アリ、之レヨリ「ニイカツプ」迄行程六里三十丁、其岬ヲ廻リ山麓ヲ行キ細流ヲ數度渡リ「プツシ」^(布辻)ノ塚木アリ、此川頗ル大川ナリ、然レトモ徒渡

リナリ、之レヲ三石「シツナイ」^(静内)ノ境トス、「クスリ」ヨリ之レ迄水野正太夫持、此処ヨリ「モロラン」^(室蘭)詰石場齊宮持、此原頗ル北ニ深く見ユ、之レヨリ又山脚平原ヲ行キ、波際ヲ去ルコト一丁或ハ二丁位モアル可キ茅原ナリ、此原尽キテ岬ヲ廻ル、即チ「シツナイ」ノ会所ナリ、会所ハ西南ニ面スト思ハル、針ヲハ見サルナリ、此地ハ会所ナレ共詰合調下糸鑑次郎・同心中村貞次郎兩人坐敷住居ニテ、宿泊ハ暫ノ中辞スルナリ、此ニ憩ス、是レヨリ六丁斗ニシテ「シツナイ」ノ塚木アリ、此原余程ノ原ニシテ是又北方ノ深淺知ル可カラス、東西ハ六七丁モアル可シ、又山麓ヲ行キ一平原ニ出ツ、「モンベツ」ノ塚木アリ、此川幅一丁半モアル可シ、船渡シナリ、渡リ上リテ平原ナリ、東西十丁余、南北ハ遙ニ山ヲ見ルナリ、之レヨリ又山麓ヲ行キテ平原トナル、此原方二三丁斗、小川ヲ流リ一岬ヲ廻リ平岡ニ出ツ、「ウセナイ」ト云フ番屋アリ、午餉処トス、番屋ハ南面ト思フ、之レヨリ暫クシ「ウセナイ」ノ塚木ナリ、又平原山崖行クコト稍暫クニシテ又大平原トナル、之レヲ

「シピチャリ」ト云墩木アリ、原甚々広ク十四五丁ト思ハル、南北ハ知ラレサルナリ、且ツ海浜ニハ堤ノ如キ岡アリテ、風波ノ患ヲ防クニ宜シカラント思ハル、川モ頗ル大川ニシテ原ノ西岸ニアリ、幅二丁斗モアル可シ、上リテ憩所アリ、又断岸或ハ砂際ヲ行キテ終ニ一溪流ニ出ツ、之レヲ「シンヌツ」ト云墩木ナリ、「シツナイ」「ニイカツ」境ナリ、尚ホ山麓ノ原野或ハ断岸又ハ砂浜ヲ行キテ一平原ニ出ツ、此原即チ「ニイカツ」川ナリ、川幅凡十丁余ニシテ平日ハ原ノ如ク見ユレ共大雨ノ節ハ皆漲溢スル由、今日渡ル処モ三流アリテ西岸下尤モ深シ、船渡シナリ、来時ハ会所元ヨリ海浜ヲ行キシニ、此度ハ川中ノ原ヲ右折シ三四丁モ遡リ渡リ、流ニ沿ヒテ下ルコト二丁斗ニシテ右折シ山道ニ入ル、頗ル峻嶮ナルコト二三丁ニシテ頂トナリ、蜿蜒出没シテ行クコト七八丁ニシテ溪間ニ下ル、登坂ノ如ク峻ナラス、其ヨリ南行二三丁海浜ニ出テテ本道トナリ、来路ヲ行クコト三丁斗東行シテ会所元ヲ止宿ス、蓋シ来時ハ会所元ノ後ノ岬ヲ廻リシニ、一昨日ノ大風雨ニテ砂浜崩レ通

行ナラサル故ニ、已ムコトヲ得ス山道ノ迂路ヲ過クルナリ、凡ソ半里余モ遠カルベシ○「ニイカツ」会所元ハ申二面ス、而シテ巳ノ方ニ少シノ出岬アリテ湾入到ツ浅シ、佳港トハ云ヒ難カラシ、背後ハ山崖絶壁ニシテ海嘯ノ時杯ハ恐レ多キ地ト思ハル、魚獵モ少ナキヤヲ会所モ寂寞ト見ユルナリ、且ツ「クスリ」以来ハ魚獵ヨリハ昆布ヲ第一トスル、ナレトモ此辺ニ到リテハ昆布モ頗ル少ナキヲ覺フ、見ル儘記シ置ク○当地詰合足輕樋口栄次郎ナル者来リ、酒ヲ酌ム、談甚々諧雑奇ト云フ可シ、江戸以来ノ散鬱ナリ、此人本千住宿ノ駅長ニシテ、已ニ千住宿ノ馬繼ノ向ヒノ料理屋中屋某ト云フ者ノ第十由、近来江戸ニ出テ隠屋シタリシニ向山源太夫ト懇意ニテ此度箱館ニ来リ、終ニ御雇足輕トナリ此地ニ詰ルト云フ、此人ノ話ニ当年色々種芸ヲ試ミシニ、米ハ二度坊ト云フ早稲ナラテハ熟セスト云フ、豆・粟・稗杯モ随分熟スルナレ共、内地ノ半方位ナラデハ取レスト云フ、然ル可キナリ、殊ニ川杯ノ趣一雨一浪ニ大ニ転変スル由、既ニ「ニイカツ」川杯一昨日海浜ノ砂堤崩潰シ四流トナ

リ、且ツ深キ故ニ今日ハ通行替リ山道トナル由、何レノ川モ皆此ノ如シト云フ、故ニ原野モ亦原野ト定メ難シト云フ、其故久住セサレハ地勢モ知レ難シト云フ、宜ナルコトト思ハル、今日ノ通行場多分手近キ処ニハ樹木ナシ、山道中ニハ樹木多シ、楢・「カバ」ノ類尤モ多ク見ユ、今日ハ西風強ク午前ハ雨モ少々宛降り殆ント大寒トモ云フ可シ、中々内地ニテハ何様ノ不時候ハ十月ニテモアルコトナシ、今夜モ風劇シク明朝ノ清和ヲ祈ルノミ○原野開発トナス可キ地多シト思ハル、然レトモ樋口ノ話ノ如ク常住シ種々試ミサレハ実功ノ功ハ知レ難シ○又曰、当年瓜ノ類ヲ種ユルニ屎尿ヲ以テ作ル、瓜出来シ後ニ夷人ニ与フルニ絶而食セスト云フ、其故ヲ尋ヌルニ屎汁ヲ以テ作りシ物故穢ルト云フ由、右ノ如キ夷人故頭髮ヲ剃ラシ髭ヲ落サシムルトモ容易ニ与シ難シ、何分之レヲ開クニハ、内地ノ女郎ヲ場所場所エ移シ沐蔬紅粉ノ美ヲ見セ、之レヨリ嚮導セハ瞬間ニ開ク可シ、且ツ番人杯ノ「メノコ」ヲ取ノ患ナシト言ヒキ、此者千住駅ノ問屋ヲ久シクシタル人物ノ由、中々目ノ附処ア

リト思ハル、元来立派ナ上下議論ニテハ万事成就シ難キ者ナリ、サナクハ莫大ノ金ヲ出シ「シヤモ」ニナラハ自ラ食エル様ニナササレハ諾フマジト云フ、是又正議論ナリト思ハル、元来人ヲ導クニハ身命ニ替エテノ好物ナラテハ難シト云フ、衆人ノ論ト天地懸隔ス、サスレハ金モ自ラ此地ニ融通スト云フ、是レ又然ル可キナラン、只々大体ニ心無シ、惜ム可シ

○十八日、会所元出立、「(新冠)ニイカツプ」(沙流)発足サル止宿、行程六里、平原ヲ行クコト暫ニシテ山崖トナリ「オコマサラ」(マ)「ヌツカ」等ノ処ヲ経、一喉木ノ処ツ、「ホンセツプ」ト云フ、溪間也、之レヨリ尚山崖ニシテ「ホロセツプ」(節婦)「カキノシマ」(マ)「ヲシユツキウシ」ヲ経、「ヌツト」ノ喉木アリ、之レヨリ八丁ニシテ「(厚別)アツベツ」ノ憩所アリ、午餉ス、下リノ節ハ「フクモミ」ニテ午餉シ、上リノ節ハ「アツヘツ」ニ午餉スル由、蓋シ会所元ヨリノ仕出シ故其便ニ従フナル可シ、此処些ノ原ニシテ一丁斗行キテ「(厚別)アツヘツ」川ナリ、

頗ル大河ニシテ殊ニ深シ、船渡シナリ、幅一丁余モアル可シ、此処「ニイカツプ」「サル」ノ境トス、之レヨリ些シ斗ノ山麓平原トナリ「クマツトエ」「カハリ」杯ノ地ヲ過キ「フクモミ」ノ塚木アリ、之レヨリ八丁ニシテ憩所トス、今日ハ之レニハ憩セサルナリ、之レヨリ平原漸次ニ広クナリ一二丁斗ノ処モアルナリ、「ガハリ」川板橋アリテ尚ホ元ノ如キ地ヲ行キ「ケノマイ」ノ塚木アリ、暫クシ「ケノマイ」川ヲ渡リ、尚ホ元ノ如キ原野ニシテ頗ル広キ処ニ来ル、「ケノマイ」ノ漁屋アリ、頗ル大村落アリ、然レトモ常住人ナシ、故ニ此節ハ無人ノ地ナリ、行クコト暫ニシテ原野又狭クナリ一丁斗モアル可シ、此処「チャラセナイ」ノ憩処アリ、又憩セスシテ行クコト半里許ニシテ「ハエ」ノ塚木アリ、此処漁場アリ、此地ニハ常住ノ夷人アアリト見エテ両三家人有ルヲ見受タリ、此処又原野少シク広ク「ハエ」川ノ板橋ヲ渡リ、「イヲツケウ」「ホロナイ」等ノ地ヲ過ク、此辺海浜ノ方ニハ少シノ堤ノ如キモノアリ、然レトモ風寒ヲ防ク程ノコトハナキナリ、之レヨリ尚ホ初ノ

如キ地ヲ行キテ「モンベツ」ノ塚木アリ、之レヲ過キテ纔ニシテ「サル」ノ会所元ニ止宿ス、今日通行スル間海浜ノ波際ニ非スシテ山麓ト海浜間ノ草原ナリ、此原随分開墾ス可キ地ト思ハル、然レトモ昨夜石坂與次郎「ニイカツ、今夜「サル」詰同心黒沢伝之丞ノ話ニ、茄子杯漸ク出来テ一本二三ツ四ツ位ノ外ハ実ラス、其中ニ已ニ枯ルト、又大豆杯モ地ノ三分ノ一位ナラテハ実ラスト云フ、然レトモ先年ヨリ「サル」ノ夷人ハ粟・稗・大豆杯作り居リ、歉年タリトモ饑エスト、尤モ能ク熟スト云フ、人別モ「サル」領ハ纔七里間二千有幾十人ト云フ、土地ニ合スレハ蝦夷中第一人ノ人別トモ云フ可キカ○今日着後調下大西栄之介ヲ訪ヒ、又帰掛ニ黒沢伝之丞ヲ訪フ、奇話ナシ、伝之丞木七ヲ贈ル○サル会処元ハ平山下ニシテ西ニ面ス、前海灣ニ非ス、故ニ弁才杯一二丁モ沖ニ繋ケリ、已ニ今日モ二艘来リ居ル、佳港ニ非サルナリ、七月廿三日ノ地震ニモ一艘破船スル由元ヨリ海嘯ノ為ニ碎クルナリ、之レ好畧佳港ニ非サル故ナラン、「エイカツプ」ト「サル」会処元ハ茅屋ニシテ小ナ

り、頗ル内地ノ家屋ニ類シテ蝦夷地一般ノ風ニ非ス、玄閑杯ノ作りモ他ニ異ナリ珍敷故記シ置ク、殊ニ濤声モ少シ遠シ、勿論風モ昨夜ノ如ク非サル故カ、然シ寒氣ハ殊ニ甚シキヲ覺フ、今日着後迄ハ近日ノ暖氣ナリ

○十九日、「サル」発足「ユウブツ」^(勇私)止宿、行程九里之処

「ヒラカ」^(平賀)村エ廻リ迂路一里余斗〇「サル」会処元出立、

原岡纒ニシテ「モンヘツ」^(門別)ノ橋ヲ渡リ、其ヨリ六七丁ニシ

テ山道ニ入り少シ宛ノ平山ヲ高低上下スルナリ、常途ヲ行

ケハ左折ス可キヲ「ビラカ」^(平賀)行故ニ右折スルナリ、行クコ

ト十丁斗ニシテ又右折シ細径糸ノ如キ山路ニ入ル、又思フ

ニ山道途広キ処迄ハ常道ニシテ、却而來時通行ノ海浜ハ捷

径ト思ハル、此ノ細径糸ノ如キ路真ニ「ヒラカ」ノ路ト云

フ可キナリ、之レヨリ櫛ノ幽樹僵木中ヲ行キ又平山打開キ

樹木ナキ処ニモ出テ、約スルニ北方ニ向フテ行クコト登降

出沒一里余ニシテ終ニ「ビラカ」村ニ到ル、此「ビラカ」

邸ハ「サルフト」^(沙流川)ノ上流東岸ニシテ夷屋廿八軒^{今日番人云フ所、二十四軒ト云}

人口百六十八人ト云フ、此処蝦夷中ノ夷人中ニテハ余程顔役ニテ、東西蝦夷中ニテ別シテ面皮アルト云ヘリ、此処ニ総乙名・総小遣・総乙名代、外ニ乙名兩人アリ、総乙名ハ老人ニテ不快ノ由ニテ総乙名代ノ家ニ行ク、其名ヲ「シクフカト」ト云フ、処謂夷人ノ宝什ナル者、古キ真太刀作ノ鞘共一尺七八寸、柄ハ金物ニテ右京柄ノ如キモノ或ハ鮫ヲ張りタルモアリ、多分真鍮・銀細工多シ、甚タ古キ品トハ見ユルナリ、身ハ悉ク平身ニシテ皆不細工ナル彫刻アリ、殊ニ夷人自分ニ研キテ居ル故、仮令名作ト雖モ功能ハナキ様ニ見ユ、其他総小遣「セベンケレ」、乙名「イタキチクコロ」ノ家ニ到ル、宝什ハ皆此ノ如シ、只一本モ中心ニ在名ノ物ナシ、鞘ニ一本三ツ巴ノ紋散シノ蒔絵様ノ者ヲ見タリ、何人ノ所持ナルヤ通辭ニ聞カシムルニ夷人モ知ラスト云フ、其外ハ行器・耳盥ノ類ノミナリ、総乙名、名ハ「バフラ」ト云フ、乙名一人ハ「イコランクル」ト云フ、此兩家エハ行サルナリ、家ノ広サハ凡十四五疊敷モアル可シ、床ナク菰・蒲筵ヲ敷ク、赤黒ニ染メ甚タ奇麗ナリ、皆此ノ

如シ、之レハ今日別段我輩ノ為ニ座ヲ設クルナリ、此処ヲ
 出立シテ十丁斗ニシテ「トンニカ」ト云地ニ出ツ、夷屋四
 五家宛ニケ所アリ、是レ又平山ナリ、之レヨリ纔ニシテ常
 道ニ出ツ、^(ママ)トモ「トンニカ」ノ喉木ヨリ^(ママ)出ツ
 ルナリ、之レヨリ平岡ヲ行クコト半余ニシテ「サルフツ」^(里脱)
 ト云フ頗ル大河ナリ、船渡シ、幅ニ丁斗モアル可シ、河源
 二十四五里ニシテ夷人多ク川畔ニ居住スル由、此ノ川ノ西
 岸ニ憩所アリ、東北ニ面ス、之レヨリ平岡上ヲ行クコト十
 余丁ニシテ「フユンチシ」ト云フ喉木アリ、尚ホ前ノ如キ
 岡ヲ行キ楢ノ老大樹中ヲ行キテ「ファイハフ」ノ喉木アリ、
 一丁斗ニシテ憩処アリ、之レヨリ八丁ニシテ一平原ニシテ
 「サル」^(沙流)「ユウブツ」^(勇私)ノ境ナリ、之レヨリ又楢ノ大林中ニ
 行キテ「トンニトイ」ノ喉木アリ、之レヨリ林尽キ岡漸次
 ニ低クナリ十丁余ニシテ川アリ、「ムカハ」^(鶴川)ト名ク、幅一
 丁余、船渡シナリ、少シ斗行キテ「ムカハ」ノ午餉処ナリ、
 夷屋数軒アリ、此処ヲ出テテ模様大ニ異ナリ終ニ平原トナ
 ル、之レヨリ西北ノ方ニ当リテハ平原天ト接シテ極目ス可

カラサル地トナル、「コノ口」「イルシヘツ」各喉木ナリ、
 之レヨリ半里斗行キテ右ニ小川ヲ見テ行クコト十丁斗ニ
 シテ右折シテ板橋ヲ渡リ、十丁余ニシテ「アツマ」^(厚真)ノ喉木
 アリ、之レヨリ四五丁ニシテ「アツマ」ノ憩所アリ、西向
 トス、夷屋両三家アリ、直ニ「アツマ」川ヲ渡ル、船渡シ
 ナリ、其ヨリ尚ホ平原ヲ行キテ喉木アリ、「トユウブツ」
 ト名ク、此処右方ニ小沼アリ、之レヨリ尚ホ平原ヲ行キテ
 三十丁余ニシテ板橋ヲ渡ル、長サ四五十間斗、即チ
 「ユウブツ」^(勇私)川ナ、之レヨリ二三丁ニシテ会所元ニ止宿ス、
 此処ニ喉木アルナリ○「サル」^(恵山)アタリヨリ江山・砂原岳・
 「エトモ」^(絵鞆)南方西方ニ見ユル、江山ハ少シ東南ト云フテ可
 ナリ、会処元ノ弁天ヨリ秋天日暮ニハ南部地モ見ユルト云
 フ、且又弁天社ニハ義経明神ヲ合殿トス、元来義経此地ニ
 来リ、「サル」川ノ上五里斗地ニ住セラレシト云ヒ伝フ、
 其後近藤重藏寛政年中ニ北海道ニ一社ヲ設ケ之レヲ祭ル
 ト云フ、其処近來通行止ミシ故ニ今ハ会処元ノ西側ニ弁天
 ト相殿ニスト云フ、之レモ已ニ四十年前ノ事ノ由、其木像

ヲ拝スルニ高サ一尺斗ニシテ甲冑ヲ着シ矢ヲ負ヒテ胸板
ニ「笹リンドウ」ノ紋ヲ付ル、彩色甚タ立派ニシテ六十年
位ノ物ト見ユル、蓋シ近藤氏ノ造立ナラン、台ハ三寸斗モ
アル可シ○「ユウブツ」会処元ハ至極大屋ニシテ南ニ面ス、
諸建物甚タ饒山ナリ、此辺第一トス、夷屋モ多キ由、此処
ヲ「エリモ」^(襟裳)「エトモ」ノ灣ノ底極トスルナリ

○廿日、「ユウブツ」^(勇私)会処元ヲ発シ、尚ホ昨日ノ続キノ平
原ヲ行クコト十丁斗、此処蓋シ「エリモ」^(惠山)「エトモ」ノ大

穹灣ノ底隅ト云フ可シ、左方海上遥ニ西南ニ江山ヲ見、西
ニ駒ヶ岳・「エトモ」^(地球岬カ)岬ヲ見ル、其右ニ「シラオイ」^(白老)

「タルマイ」^(樽前)ノ諸山ヲ見ル、平原ヲ行クコト一里ニシテ「サ
ツタフ」ノ墩木アリ、尚ホ行キテ「コマトイ」ノ墩木ナリ、
爰ニ憩処アリ、之レヨリ海浜漁場出稼場多シ、行クコト半
里斗ニシテ右山少シク近ツキテ「トマコマイ」^(苦小牧)ノ墩木アリ、
此辺出稼漁場尤モ多ク、之レヨリ三十丁斗ニシテ一橋ヲ渡
ル、「ココエトエ」^(小糸魚カ)ノ墩木アリ、其ヨリ少シ斗ニシテ午餉処

アリ、又元ノ如キ地ヲ行キテ「ニシタフ」^(錦多峰)ノ墩木アリ、此
アタリモ亦往々漁小屋アリ、之レヨリ尚ホ元ノ如キ平原ヲ
行キテ「ヲホフ」^(覚生)ノ墩木アリ、之レヨリ次第二漁屋多クナ
リテ終ニ「タルマイ」ノ墩木ニ出ツ、此処ヨリ海浜押シ並
ヒテ漁場続キニシテ殆ント市中ノ如キトモ云フ可シ、蓋シ
蝦夷中漁屋多キコト最第一ノ地トモ言フ可シ、此ノ家続キ
半里余ニシテ「ベツベツ」^(別々)川アリ、「ユウブツ」^(シラオイ)ノ境ナリ、

川ハ二十間位ノ幅ナリ、一丁斗ニシテ又一川アリ、幅三十
間位、両川下流ニテ合ス故「ベツベツ」ト云フカ、終ニ又

一板橋ヲ渡リ「シヤタイ」^(社台)ト云フ憩処アリ、夷屋モアリ、
之レヨリ些シ斗ニシテ「オモツナイ」ノ墩木アリ、之レヨ
リ小川ヲ渡リ終ニ又「ヌマジリ」ノ地ニ来ル、此処右方ニ
小沼アリ、終ニ又原上ヲ行キテ右山尤モ近ツキ一憩間トモ
言フ可^(マ)地ニ来ル、即チ「シラオイ」^(白老)会処ナリ、然レトモ
原ハ尚ホ前ノ原続キニシテ別原ニハ非サルナリ○会所ハ
南差東ニ面ス、海浜モ亦然リ、故ニ今日ハ「ユウブツ」ヲ
出レリ、漸次ニ西南ニ来ル、爰ニ到リテ始テ頗ル南ニ出ツ

ルナリ○此辺先月ノ念六、内浦焼ノ節ハ余程大ナル石降ル、大抵金米糖ノ如ク大ナル者ハ大平糖位ノ物往々之レアリ、却而灰状ノ物ハ少ナシ、且ツ其節ノ様「クスリ」辺ト違ヒ闇ノ如クハナラス、天氣ハ宜シト云フ、雨モナク大雷三ツ四ツ鳴動スト笠原源吾ノ語也○今夜笠原源吾鹿肉ヲ贈ル、甚々妙、大ニ貪リ食フ、其後又取り立ノ鹿ヲ持帰り忽チ屠リ来ル、又大ニ食フ、笠原モ来リ食ス、徹宵足ノ冷ナルヲ覚エス、一昨夜以前ハ甚々寒冷、既ニ「サル」ニテハ始テ手水鉢氷ル、中国辺ノ極寒ノ如シ、又昨日ハ終日晴天、少シ温暖ニモアリシ、今日ハ南へ出ル故カ別ニ和暖ナリ

○念一、「シラオイ」出立(幌別)「ホロベツ」止宿、行程七里七丁、会処元ヲ出テ少斗西北二川ニ沿ヒテ登リ「シラオイ」川ヲ渡ル、船渡シナリ、頗ル大河ニシテ幅一丁余モアル可シ、其ヨリ平原上ヲ行クコト昨日ノ如シ、一川アリ、板橋ヲ架ス、少シ斗ニシテ墩木アリ、「フウベツ」ト云フ、尚ホ平原ヲ行キテ「トンケシ」ト名クル地アリ、之レヲ過キ

「シギウ」(敷生)ノ川アリ、川幅頗ル大河ナリ、兩岸ニ夷屋甚々多シ、三十八軒アリト云フ、珍敷大邸ナリ、西岸ニ墩木アリ、「シキウ」ト云憩処ナリ、之レヨリ平原ヲ行クコト暫クニシテ平林中ニ入り終ニ鬱林蜜樹ノ平岡トナル、五六丁斗ニシテ一溪ニ出ツ、「ホロナイ」(幌内)ノ墩木トス、之レヨリ又樹木ナキ平原トナリ、左方ハ往々東海ヲ望ミ右方ハ「シギウ」山ヲ見ル、之レヨリ東北ニ「シラオイ」山・「シコツ」(支笏)山・「シキウ」、西ニ「ノホリベツ」(登別)山、此山ハ温泉アル由、西南ニ「タソイハノホリ」ヲ見テ行クコト一里ニシテ些シノ平岡海面ニ望ム処「オモンベツ」ト云フ、午餉処也、之レヨリ直ニ山道ニ入り一平山ヲ越エ小川アリ、此処ヲ「アイロ」(アヨロ)ト云、些シノ溪間平沢アリ、又一山ヲ過キテ又平沢頗ル広キ処ニ出ツ、「フシコヘツ」ト云墩木ナリ、此処「シラオイ」(幌別)「ホロヘツ」(幌別)境ナリ、石場齊宮持「モロラフ」(モロラン)詰調役ナリ、之レヨリ平原暫ク行キテ「ノホリベツ」(登別)川アリ、此ノ東岸ヨリ右折シ川流ニ遡リ「ノボリヘツ」岳ニ二里ニシテ温泉アル由、然レトモ九月ニナレハ秋味ノ璋(障)リア

リトテ浴場ハ禁スル由、水ニ人賦ノ混スルヲ嫌フナラン、此川幅二十間位、温泉ノ下流ト云フ、温泉ノ処風景甚々佳ニシテ温泉ノ瀑布アル由、板橋ヲ架ス、甚々高ク危フシ、之レヨリ又山中ニ入り平山樹中ヲ行キ往々海ヲ望ミ

「ランボケ」ノ墩木アリ、憩所アリ、此処風景頗ル佳ナリ、(蘭法華)

之レヲ出デテ些ノ急坂ヲ下リ終ニ又平原ニ出ツ、波際モ一二丁位モ隔ツレハ前日ノ海浜ノ如キニ非スシテ、天氣清和ニシテ午後眠ヲ催シツツ「オカンベツ」ノ墩木ニ出ツ、之

レヨリ七丁ニシテ「ホロボツ」(幌別)會処ニ着○會処元ハ南二面ス、海面モ甚々近カラスシテ左右ニ夷屋三四十軒モアリ、

人口ハ二百余人ト云フ、此地モ又大邸落也、且ツ万事「シヤモ」地ノ形勢アリ○今日過クル処林樹ハ「カバ」・榎多シ、會処ノ庭ニ「オヌコ」ノ木ヲ種ユ○途中降ル処ノ焼石「ランボケ」以来ハ大サ一寸位ノ石ヲ見ル、恐ル可キノ甚シキナリ

○念二、「ホロボツ」出立(室蘭)「モロラン」止宿、行程五里、

會処元ヲ出テテ「ホロボツ」川ヲ渡ル、川幅凡一丁余、馬

ニテ渡リ矢張昨日ノ如キ平原ヲ行キ、半里斗ニシテ

「トンケシ」ト云フ墩木アリ、之レヨリ十丁斗ニシテ追分(富岸)

アリ、右方「モロ」少々宛上リテ山道ニ入ル、然レトモ尚

ホ半里斗ノ間ハ山間ノ平原ナリ、其後終ニ蜿蜒タル山路ト

ナル、行クコト稍久クシテ「オカヌカルベ」ノ墩木アリ、

之レヨリ一山ヲ越エ溪間ニ下ル、「ワシベツ」ノ細流アリ、(鶯別)

此ヲ「ホロボツ」「モロラン」ノ境トス、是レヨリ西六丁

間「チリベツ」ノ板橋迄南部美濃守秣場ト云立杭アリ、之レ

ヨリ山路六丁ノ間一山嶺上ニ登ル、左方ニ始テ「エトモ」(室蘭湾)灣

ヲ望ム、風景極メテ妙ナリ、坂路ヲ下リ將ニ溪流ニ出ント

スル処即チ「チリベツ」ノ墩木ニシテ午餉処アリ、南二面

ス、夷屋一軒アリ、些シノ平原ニシテ夷人粟・稗ヲ種ユ、

之レヨリ直ニ一溪水ヲ渡リ三嶺ヲ越ユ、此間紅葉満山光景

甚々妙ニシテ終ニ「ワクニシ」ノ憩所アリ、休セズシテ溪

流ヲ渡リ又一嶺ニ登ル、頗ル峻急ニシテ遠シ、且ツ下坂モ

亦急ニシテ終ニ海浜ニ出ツ、此処右方ノ山麓ニ南部ノ陣營

アリ、殆ント出来ヌル者ノ如シ、此処ヲ「ホンベケレウタ」ト云フ、海浜百五十間ノ処南部美濃守陣場ト書スル標柱ヲ立ツ、海浜四五丁ニシ少シノ出岬ヲ廻リ尽キテ將ニ山ニ上ラントスル処ニ塚木アリ、「ベケレウタ」ト云、此辺左方(ベケリウタ)ノ海ハ即チ「エトモ」(絵鞆)ノ灣内ナリ、之レヨリ又一山嶺ヲ上(マ)スルナリ、此下坂ニテ凹嶺ヲ下リテ海岸ニ出ツル処「モロラン」会所元ナリ、此地ハ甚タ狭小ナル地ナレ共、左右山麓ニ夷屋多クシテ始メテ内地ノ形勢アリ、会所ハ西南ニ面ス、内浦嶺ヲ正面ニ見ル、海船五六艘モ繫キタルヲ見ル、始メテ郷里近ツク情アリ、且又海モ一ツノ入海ニシテ広シト雖トモ前日ノ波濤ノ比ニ非ス、「エトモ」ノ灣ハ入海中ノ一小湾ニシテ真ニ名譽ト云フ可シ、「エトモ」ト江山ト(惠山)ノ大湾トス「レブンケ」(礼文華)・臼杯ヲ湾底トス、深サ二十里モアル可シ、広サ砂原迄十里余ト云フ、実ニ大湾ナリ、蝦夷地中第一ノ湾ト云フ可シ○今日ニ中過余程地震アリ、皆起騒キタリ、薄暮ヨリ風雨尤甚シ、夜曉而後風雨止ミタレトモ波濤甚シ

○念三、今朝雨漸止ミ將ニ「エトモ」一見ント斗リシニ、石場齋宮調役ニテ当所詰合ノ人ナリ、菅野狷介エ伝言アリテ「オサルベツ」(尾去別)ニテ兩三日以前駒取始メシ故、小金原杯トハ大相違牧司モ相違、殊ニ夷人ノ手伝アリテ尋常ナラス、何卒見物致ス方可然トノコト故ニ、急ニ方向ヲ替エ駒取りニ趣ク、会処元ヲ出テ忽チ西北ノ山ニ登ル、即白海道ニシテ本道ナリ、頗ル急坂ニシテ五六丁斗、其ヨリ又蜿蜒タル山上ヲ行クコト十丁斗ニシテ終ニ又急坂ヲ下ルコト五七丁斗、之レヨリ些シノ平地ヲ行キテ一川アリ、板橋ヲ架ス、「チマエベツ」ノ塚木アリ、之レヨリ山根ト海岸トノ間ニ二三丁斗ノ玫瑰・艾・茅ノ平原ヲ行クコト半里許ニシテ一山岬トナル、之レヲ「シレット」ト云フ、此ノ「シレット」ヲ廻リ小池ヲ左ニシ山麓ニ沿ヒテ行ク、是又平原ナリ、細流ヲ二ツ渡ル、皆板橋ヲ架ス、之レヨリ又左右四五丁モ有ル可キ茅原中ヲ行クコト十丁斗ニシテ「オコンホシヘ」(オコンシベカ)ノ塚木アリ、此所ヨリ一細流ヲ渡リ些シ小高キ岡トモ云フ可

ラサルノ原トナル、此原上ヲ行クコト暫クニシテ一憩所アリ、其名ヲ知ラス、夷屋モアリ、尚ホ行クコト二十位(丁)ニシテ「フレヒラクシナイ」ノ塚木アリ、之レヲ過キ纔ニ行キテ一岡上ニ登ル、此所夷家十余軒モアル可キ一邨落トス、岡上暫クニシテ又平原ニ下リ山崖下ヲ行ク、此崖上平坦ノ地ナリ、「エマレマレフ」(稀府)ト名ク、白山焼焚後昨年迄白ノ会処此地ニアリト云フ、昨年白ノ旧地ニ歸ス由、此処夷家十数軒モアル可シ、之レヨリ海岸砂路ヲ行キ川三ツ渡り終ニ又平原トナル、此処ヲ「シヤミチセ」ト云、夷家・漁場等アリ、之レヨリ尚ホ又平原上ニシテ十丁斗行キテ「オサルベツ」ノ午餉処ニ到ル、此処夷家モ数軒アリテ牧馬ヲ取ルノ柵ヲ設ク、牧司今朝ヨリ牧中ノ馬ヲ驅セリ来リ此柵中ニ追ヒ入レ、数十匹中ニテ三歳ノ馬ヲ見掛ケ、之レニ細引ヲ打掛ケ馬ノ首ヲシメ、呼吸將ニ絶セントスル勢ニ垂シテ綱ヲ掛ル也、柵ハ方十間位牧司七人アリ、夷家モ(ママ)人ノ由、行程三里半、日暮而後歸

○念四、風雨大時化、石場・前田等ヲ訪ヒ、午後風尚烈、晚一酌而臥、前田・高橋ノ送りモノ也

○念五、風雨尚ホ時化甚シ、寸歩不能故ニ「エトモ」行モ廢セリ、晚二一酌而臥

○念六、風雨少緩ナリ、然レトモ波甚シク渡海甚タ難シ、依テ巳刻頃ヨリ石川・山本「エトモ」岬一見ニ出ツ、予ハ前日ヨリ痔痛、殊ニ時刻遅ク八里ノ行程馬上ニテ駿走スルコト甚タ難シ、依テ今日ハ行カサルナリ、終日菅野生ト閑話ス、未刻頃雹降寒氣頗ル甚タシ、其爾来風ハアレ共雨ナシ、石川ノ大(ママ)ナリ、薄暮飯ヲ喫ス、石川・山本帰鞍ヲ待ツ、波濤尚ホ甚タシ、明日ノ陰晴如何○今朝前田ヨリ鹿股一枝ヲ贈ル、日夜ノ贈リ物故之レヲ返ス、午後又之レヲ料理シテ贈ル、兩人留主ナレハ其儘予リ置ク、故ニ飲酒ハセサルナリ、兩人帰鞍ヲ期シテ一杯ヲ傾ケント思フナリ、初更後歸来ル、然レトモ疲労甚タシ、只々膳先ニテ一杯ヲ傾

ケ雜談蓐ニ入ル

○念七、風雨止ミ天晴ルルト雖トモ風送ニシテ渡船難シ、午前ヨリ前田氏ノ贈物鹿肉ニテ酒ヲ酌ム、未刻頃飲ヲ止メ食シ終リテ菅野生ト海浜ニ出テテ歩行シ、岸ニ上リテ自生ノ午房(午)ヲ掘ル、其葉狭少ナレトモ其根甚タ太ク且ツ長シ、一尺七八寸モアリテ丸サ大ナル者ハ五六寸モアリ、其味ハ曾テ知ラサル処ナリ、甚タ美ナリ、内地ノ品ニ比スレハ到テ軟ナリ、若シ之レヲ耕耘セハ恐ラクハ内地ニテハ曾テナキ品ト云フ可シ、款冬モ此節已ニ葉ヲ出セリ、華モ定メテ美ナル可シ、然レトモ未タ見サルナリ

○念八、風尚順ナラサレトモ晴天美日故已時項「モロラン」出帆、砂原止宿、舟行七里、「モロラン」会所ハ南向ニシテ少シノ灣ニシテ舟澗ト云フ程ノ処ニモ非ス、只々荷積ノ時少々掛ルナリ、二里半程東南ニ「エトモ」灣アリ、之レハ灣ハ西南ヲ受ケテ東・北・南三方ハ全ク塞ケリ、灣内モ

大ニシテ立四里斗、幅一里斗ニシテ、中ニ又一岬出テ中幅ヲ為ス、灣口ニ大黒島・胡島(恵比寿島)アリテ余程ノ佳港ナリ、已ニ西洋船モ此灣ヲ以テ好譽ト称スル由、且つ甚タ深シ、浪モ「エトモ」岬ト砂原岬ノ間ノ入海ヲ受ケテ甚タ穩ナリ、何故ニ会処元ヲ「モロラン」ノ地ニ移スヤ、其所以ヲ知ラス、先「モロラン」・砂原ノ入海ハ西方へ入ルコト十四五里、南北八十里位、「モロラン」・砂原ノ処一番狭ク囊口ノ如キ処ナリ、此ノ灣内ノ地名ヲ挙レハ「モロラン」ヨリ「ウス」(虻田)「アフタ」(長万部)「オシヤマンベ」(鷲之木)山越内・鷲木・尾白内・掛り澗等ナリ、「モロラン」ヲ出テテ少シノ間ハ白山ヨリ東方ニ後方羊蹄岳ヲ見ル、漸ク遠サカレハ白山ヨリ西方ニ見ルナリ、白山ハ兩峰ニ分ル、東方ニ見ユル方ハ高シ、此山四五年前ヨリ出来タル新山ト云フ、兩峰頂ヨリ煙燃ルナリ、東方新山ノ方尤モ甚シキナリ、之レヨリ諸山蜿蜒トシテ織眉ノ如シ、南方ニ當ツテハ砂原岳即チ内浦岳内表ニ突出ス、遠リ之ヲ望メハ小芙蓉トモ云フ可シ、六月下リノ時迄ハ煙モ立タザリシカ、先月念六焚燒山拔ノ後ハ煙焰天ヲ衝キ其

形状尤モ恐ル可シ、且ツ四山雪ヲ頂キテ来路ト其觀ヲ異ニス、真ニ異觀ト云フテ可ナリ○異聞、江戸大風ニテ八月念五、永代橋・浅草觀音・其外御城内・諸邸悉皆吹飛シ破損スル由ノ風説ナリ

○念九、砂原出立大野止宿、行程九里半、砂原ハ北ニ向ヒテ東方ニ一ノ出岬アリテ西北ニ些ノ灣ヲ為ス、後面ニ内浦岳天辺ニ突出ス、焰煙天ニ衝キテ甚タ恐ル可キノ勢アリ、此レヲ左ニ見テ海辺ヲ行クコト半里、之レヲ掛リ潤ト云フ、小村落ナリ、此間漁業多ク畑モ余程見ユ、豆・大根・蕎麦杯ヲ作ルナリ、之レヨリ一里ニシテ尾白内村ト云フ、人家モ余程アリテ一村落ヲ為ス、此地ヨリ山路ニ入ル、官道ナリ、此地ヨリ直ニ行ケハ森村エ三丁斗ト云フ、夷屋モ十二三軒アル由、此地ヨリ左折シテ一里ニシテ破原ト(砂)鷲木トノ追分ニ出ツ、此間ハ悉ク山路ニシテ終始平岡ナリ、細流ヲ渡ルコト三度ニシテ終一高阜ニ上ル、一丁斗ニシテ追分ナリ、只々一軒アリ、此地ニ到リテ已ニ午ナリ、漸ク飯ヲ無

心シテ馬ノ束ルヲ待チテ未上刻頃爰ヲ出テテ二里半山路ヲ行キテ宿野辺ノ午餉処ナリ、今日ハ已ニ薄暮ニナリテ爰ニ来レハ、立寄モセズ直ニ過キテ一橋ヲ渡ル、此所大沼・小沼ノ続キノ川ト見ユルナリ、之レヨリ小沼(葦葉沼)ヲ右方ニ見ル、広サ十四五丁モアリト覺ユ、中ニ小島アリテ兩岸林樾中ニ兩三軒ノ夷屋・漁場アルヲ見ル、民屋カモ知ラサレ共屋造リハ夷屋ノ如ク見ユ、之レヨリ小沼畔ヲ登ル、強テノ坂ニモ非サレ共上下十丁斗アル可シ、爰ニ一茅屋アリ、之レヨリ平地トモ溪間トモ言フ可キ処ヲ二三丁行キテ始テ左方(小沼)ニ大沼ヲ見ル、周廻ニ里斗モアル可ケレトモ、東岸ハ見ル可カラサレハ五七里トモ言フ説アルモ真否知ラレサルナリ、之ノ沼ニ沿ヒテ山麓ノ林間ヲ行クコト十丁余ニシテ、終ニ大沼畔即チ茅部畔ヲ打越ス、此畔ハ頗ル峻急ニシテ十丁斗モ登ルナリ、頂上ノ平坦ノ処ハ些シニシテ終ニ又下リトナル、来時ハ夏日故路泥乾キテ平坦ト思ヒシニ、此節ハ泥濘深キ五六寸、其上此畔ヨリ日暮ヌレハ中々容易ニ歩ス可カラス、処ニ寄レハ瀦水多ク尺余ニモ到ルナリ、漢人ナ

レハ泥濘深キ三尺トモ言フ可シ、之レヨリ日暮レテ真咫尺
 フ弁セス、尤モ困難ト言フ可シ、漸ク山坂ヲ下リ行クコト
 十余丁ニシテ終ニ山下ニ到ル、此ノ処ヲ峠下ト云、商家・
 民屋・旅籠屋等モアリテ始メテ世界中ニ出ル心地スルナリ、
 之レヨリ山麓ニ沿ヒテ左方ニ少シノ開ケタル地ヲ見テ、行
 クコト一里斗ニシテ終ニ山ヲ離レ打開ケタル平原ニ出ツ、
 此処ヲ一ノ渡村ト云フ、此山麓ニモ人家両三軒アリ、田畑
 モ余程アリ、一ノ渡リ邸ヨリ家続キニテ本郷邸、之ヲ過キ
 テ大野邸ナリ、即チ止宿繼立処ナリ、且ツ田畑モ余程沢山
 ニシテ人家モ内地ノ如シ、蓋シ蝦夷島中第一ノ田畑ト云フ
 可シ○今日砂原ニテ始メテ内地ノ如キ松ヲ種ルヲ見ル、且
 ツ路上ニ於テ行人ヲ見ルコト珍敷事ナリ

○晦日、大野邸出立箱館止宿、程五里、大野邸ハ南北ノ町
 ニシテ余程ノ大村落ナリ、東方ニ内浦岳アリテ南方ニ些シ
 東ノ方ニ箱館ノ山ヲ見ル、矢張昨日ノ続キ平原ニシテ人家
 ノ間々ニハ田畑アリテ、此節ハ已ニ稲ヲ刈リ干シ居ルナリ、

殆ント其様内地ノ如シ、千代田邸ニ到ル、此村落モ人家余
 程アリテ左右田間ノ路ヲ過クコト余程ニシ一本木邸ニ出
 ツ、比レヨリ有川ノ上流ヲ左ニシテ流レニ従ツテ下ル、十
 丁斗ニシテ又川ニ遠カリ、暫クシテ一橋ヲ渡ル、此処茶店
 二軒アリ、有川邸ノ村端ナリ、之レヨリ東行シテ五六丁ニ
 シテ有川路ト合シテ、海岸ニ沿ヒテ行キ亀田邸ノ七重浜ト
 云処ニ到ル、此処茶店五六軒アリテ万事都城ノ風アリ、之
 レヨリ漸次ニ南行シ二橋ヲ渡リ箱館升形外ノ茶店トナル、
 之レヨリ人家陸続シテ三四丁斗モシテ即チ升形ナリ、升形
 外ノ茶店ハ来時ト異ニシテ、七月念三ノ海嘯ニテ路上モ
 往々崩潰シ、茶店モ小屋掛ニナリタルヲ見受タリ、然シ格
 別ナル事ニモ非ス、途中ニテ聞シトハ大ニ異ナリ、定メテ
 其時ハ大騒動シタル可シ、此ノ升形ヨリ地藏町ト云、三四
 丁程行キテ一小橋ヲ渡リ来時泊セシ川崎屋其ノ家ニ宿ス
 ○有川路上ヨリ往々海面ヲ見ル、魯船二艘アリ、一艘ハ商
 舶ト思ハル、一艘ハ「スクーネル」船ナリ、万牆（橋）輻湊中ニ
 掛ルナリ、近時ノ有様慨嘆ス可キナリ○着後直ニ用人平田

錠之進ヲ訪ヒ先ツ江戸ノ事ヲ聞ク、昨八月念五、大風雨ニテ処々大破損、永代橋落千築地本願寺皆潰レ御城内其他余程大破ノ由、已ニ遠藤公杯ハ皆潰レノ趣、色々読売モ之レアル由、惟々其写シ一本ヲ見ルノミ○着後早速小林屋重吉来ル、江戸ノ変ヲ聞キ万事後事ヲ托ス

○十月朔、万里ノ客トナリ郷里ニ帰ルノ心地実ニ憐ム可キノ甚タシキナリ、午後矢立・煙管杯途中ノ紛失モノヲ買ニ出テテ小林重吉ヲ訪ヒ薄暮帰ル、昨夜大野ニテ菅野狷介ニ別ル、今日帰り掛ケ宿ニ来リ居ル、雑談暫時ニシテ鎮台邸へ帰ル、晩飯ヲ喫シ酒ヲ飲ム○砂原辺ヨリ痘流行シ山本未タ痘ヲ免ル、大ニ恐ル、箱館モ大ニ流行、隣家合壁病サル者ナシ、其故ニ武田菱三郎ヲ訪ヒ牛痘ノコトヲ聞キ、今朝松前ノ藩医多田某来リ、茄(番)ヲ持チ来リ水ニテ解キ兩臂ニ種ウ、然レトモ已ニ三十四五日モ隔テシ苗ノ由、良痘ヲ発スルコト難カル可シ、山本ト生ハ箱館越年明年西地廻浦唐太迄行ク可キ命アレトモ、已ムコトヲ得ス痘ノ為ニ一同帰

府卜定ム、其事モ決シヌレハ今夜書状ヲ認メ明日ノ御用便ニ頼ムナリ

○初二、早天ヨリ石川ハ御奉行始め処々へ訪フ、我輩ハ帰路ノ行季(季)ヲ整フルナリ、途中ノ鹿皮・アツシ杯ヲ分配ス○午後小林重吉来ル、石川帰来リ渡船ノコトヲ談シテ雑談シテ帰ル、僕ハ市中へ熊皮ヲ求メニ行ク、行騰・雪帽ヲ買帰ル、皮類更ニナシ、留主中又官邸ヨリ石川ヲ呼ヒニ来ル由ニテ留主ナリ、薄暮小林重吉ヨリ酒肴ヲ贈リ来ル

○初三陰、今早天佐井船出帆、同宿ノ旅人大半乗船、鶏頃ヨリ大ニ騷擾ス、日出前出幕、大廻シ物并ニ陸行ノ行季(ママ)ヲ整フ、大攪擾ス、午前菅野狷介来訪、煉羊羹持来、旅窓ヲ慰ス、午飯ノ報ニヨリテ出ツ、未下刻頃髪結来リ、結髪シ浴湯シ薄暮漸ク支度ヲ仕舞ヒ晩飯ヲ喫ス○平田錠之進ヨリ佐井・青森兩処ノ船便ナキ由ヲ告ケ来ル、何レニテモ早便ヲ頼ムト申シ遣スナリ○種痘医来訪、種々ノ雑談ヲ為ス、

羊羹ヲ喫セシム、此ノ医生ノ話ニ、是迄唐太島越年ハナカリシニ、当年始メテ西洋ノ温炉「カツヒユール」ヲ製シ、之レヲ用ヒ穴居セスシテ凌ク積リノ由、如何アランカトノ話ナリ、又話ニ「エトロツフ」ト両処越年ノ人ハ翌春多分腫氣ヲ発スト、多血家多キ由、案スルニ秋味ノ如キ油氣強キ魚類ヲ過食シ、遊惰ニシテ運動セサル故ニ悪液分利ナクシテ春陽秋熟ニ誘ハレ粘液ノ分泌ヲ促シ、静脈ノ吸収力足ラスシテ終ニ水腫トナル者ノ如シ、番人杯日々労働スル者ハ断シテ此病ニ罹ルコトナシト云フ、蓋シ血液粘稠シテ漸次ニ悪液ヲ醸シ来リ、蒸氣ノ發出少ナク体力之レカ為ニ衰廢スルヨリ起因スルコト明ナリ、元来夷人ノ體質ヲ見ルニ、纖維強剛血液過多ニシテ平素刺絡清涼ノ劑ヲ用フ可キ症多カラン、聞ク、疫疾痘瘡ニ罹リ兩三日四五日ノ中二十中八九ハ死亡スト、之レ多血ノ質多キ力故ニ熱症ニ耐ヘサルコト知ル可シ、只々憐ム可キハ蘭科ナク漢家而已多クシテ論弁ス可カラサルナリ、従来荒蕪ノ地ニシテ医薬乏シク、假令之レ有ルモ三五十里間ニ漢家ノ庸医一人位ノコトニ

テ、藥治セスシテ死失スルコト実ニ憐ム可キノ甚シキ者ト云フ可シ、思フニ滿世界中ノ大不幸人ト云フテ可ナリ、有志ノ輩ハ涕泣セサル者ナカル可シ、内地ニ於テハ死罪無用ノ者ト雖トモ此ノ如キ困苦ニ罹ル者ナシ、況乎淳朴ノ良夷ヲヤ、窃ニ思フニ天下ノ中此ノ如キ窮民アルコトナシ、執政ノ君子爰ニ意ナク、只々垂拱シテ無益ノ談論ニ日ヲ送り更ニ此等ノ事宜ニ関セス、良官吏アリテ爰ニ意アル人ナシ、只々人民蕃息ヲ唱フハ笑フ可キノ甚シキニ非スヤ、一以テ十ヲ押ス可シ、此ノ如キ荒政何時ニ改ラン乎、無用ノ濡生本ヲ忘レ末ヲ務ムル、口弁实用ニ闇シ、取ル可カラス、慷慨、实用ニ達スルノ士ヲシテ過經セシムレハ此ノ弊終ニ改ラタムル可キナリ、別ニ議ス可シ、爰ニ略ス

○初四晴、早天種痘医来リ、「カツゲール」ノ図ヲ出ス、借リテ写ス、直チ蝦夷掛リ調役並ニ下役十二人ノ所ニ行キテ謝ス、只ニ名刺ヲ通スルノミ、其レヨリ石川ノ識人石狩在住ノ命アリテ弁天町ニ逗留セル表御番医師塩田順菴翁

ヲ訪ヒ、午前旅宿ニ帰り午餉シ、小林重吉ノ弟ヲ嚮導トシ
 亀田村御陣屋ノ繩張ヲ拜見ニ出行ク○箱館ヨリ亀田村万
 年橋迄箱館灣ノ海浜ニ沿ヒテ來時ノ如ク行キテ、万年橋ヲ
 渡ラズシテ右折シ行クコト半里許、此間兩側ノ曠原路傍ノ
 目撃ス可キ程ハ畑地ニシテ多分野菜ヲ種ウ、殊ニ亀田大根
 トテ名物ノ由、民屋モ余程アル一村落ナリ、而シテ一川畔
 二行当ル、此川(亀田川)下流ニ万年橋ヲ架スルナリ、此川ノ左方ニ
 散在セル民屋ノ処ヲ亀田ノ「タヤ」(田家)ト名ク、此川ノ右側ニ
 凡ソ五六丁四方ノ標柱ヲ建ツルアリ、之レ即チ御陣屋ノ繩
 張ナリ、路ヨリ左方新タニ造築ノ長屋ヲ設ク、東西ヲ(堅)ト
 シ南北ヲ横トシ一棟ヲ五家ニ分ツ、十棟ヲ建ツ、同心之レ
 ニ居ル由、御陣屋ノ処梶村ノ境ナリ、此繩張ノ東辺ノ民屋
 ハ已梶邨ノ「タヤ」ト云フ地ナリ、一民居ニ憩ス、此辺ノ
 郊原海浜ヲ去ルコト東西共殆ント半里、北ノ山麓ヲ去ルコ
 ト二里余ト云フ、箱館ノ如キ狹隘恐ル可キ地ニハ非サルナ
 リ、余程ノ良地ト云フ可シ、東西ヨリ盆便ヲ擊ツトモ恐レ
 非サル者ノ如シ、今ノ箱館瀕海ノ陣屋盆便ノ恐レアル処ト

ハ霄壤ノ隔アル者ノ如シ○老嫗ノ話ニ、此地ノ畑ハ粟・
 稗・野蔬類・胡蘿蔔・牛房・葱・韭・茄子・南瓜類・大小
 豆ノ類、熟セサルハ無シト云フ、只ニ米種エスト云フ、麦
 作モ亦然リト云フ、凡ソ此原ハ大野・一(市渡)ノ渡ヲ始メ有川・
 矢不來以東湯川・錢龜・沢辺迄七八里四方、目力ノ及ザル
 程ノ曠原ナリ、水モナキニ非サルナリ、日受モ宜シケレハ
 田ト作サハ五七万石モアル可シ、老嫗ニ租税ノコトヲ尋ヌ
 ルニ絶テナシト云フ、素ヨリ今日迄畑トナリシ処実ニ万々
 分ノ一トモ云フ可シ、惜ム可キノ甚タシキナリ、民モ只々
 役目ニ出ルノミト云フ、然レトモ役目銀アル由、サスレハ
 井ヲ掘ツテ吞ミ耕シテ食フ太古ノ民ト云フ可シ、然レトモ
 家壁ナク坐スルニ床ナク屋中ニ家財ト云フ程ノ器ヲ見ス、
 真ノ貧民ト云フ可シ、居屋ノ製造モ略夷屋ニ異ナルコトナ
 シ、蓋シ心閑ナルノミナラン、此辺ハ山遠クシテ樹木少ナ
 シ故ニ薪ニ乏シト云フ、帰路モ元ノ如クナレハ敢テ録セス、
 薄暮箱館ニ帰り來リ、直チニ高田屋島即チ築地島ニ立寄り
 「スクーネル」船ノ製造ヲ見ル、未タ其骨幹ヲナスノミ、

船長サ十五間四尺、幅二丈三尺、高サ一丈五尺、石數千石ト云フ、^(戸田)豆州「へた」村製ノ「スクーネル」船来リ居ル、長サ十二間余幅ト云フ、石數四百石ニ足ラスト云フ、此地ノ制ト大小大ニ異リ、且ツ材ハ檜・「フナ」「カツラ」ノ木ヲ以テ制ス、且ツ制作ノ器械モ日本船制作ノ器械ト大ニ異ナリト云フ、何分恰好日本船ト大ニ異ナリ国家ノ大利用トナル可シ○此築地島ヲ台場ニ為サンノ議ナル由、此上築地ヲ為セハ随分良地ナラン、然シ御陣屋ノ地ヲ新地ニ改メテ始メテ妙ナラン、今日ノ陣屋ニテハ無用ト云フ可シ○二更頃地震アリ、長シ、然レトモ輕微ナリ

○初五晏起、食前庵原菡齋尋ネ来ル、雜談刻ヲ移シ帰後飯ヲ喫シ、小林重次郎ヲ嚮導トシ弁天ノ岬エ行キ煩台ヲ見ル、弁天ノ右方ニ煩台アリテ廿四□ノ鉄煩ニ挺ヲ置ク、一ハ覆屋アリテ見エス、一門ハ暴露ス、旧年江戸ヨリ来ルト云フ、柵アリテ近ツク可カラス、此煩台ハ平地故海面ヲ出ルコト纔ニシテ少シク低キニ過クルニ似タリ、然レトモ其処ハ矢

不来ト相對シテ頗ル要害ト思ハル、海上直行一里余ト云フ、且ツ箱館ノ灣口ナリ、之レヨリ箱館山ヲ左ニシ行コト三丁斗ニシテ山脊泊リノ煩台アリ、此地ハ直西ニ煩門ヲ架シテ尚ホ灣ノ入口ナレ共、海面甚タ広クシテ少シク斜ニ矢不来ト相對スル故ニ尚更直線遠シ、之レヨリ四五丁行キテ「オシツケ」ノ煩台アリ、是又尤遠シ、且ツ「オシツケ」ノ台場ハ三十間斗ノ高キ岸上ニシテ多分其用ヲ為シ難カラン、炮門ハ鉄製ノ物ニシ到ツテ古製ノ者ニシテ、廿四□位ノ江府ヨリ廻リシ筒ナリ、三百四十年前ノ舶来ノ品ト云フ、之レヨリ箱館山ノ岩洞エハ少シ斗ナレトモ陸行ス可カラス、故ニ跡歸リシニ柵子町・花子町カヨリ山腹ヲ行キテ二三丁斗ニシテ大石忠左衛門ノ松ヲ見ル、之レヲ大石ノ松ト云フ、此松ハ住吉難波屋ノ松ノ如ク笠状ニナリテ高キ処モ一丈斗ニ過キス、且ツ四方四五間斗延垂シテ周廻三十間モアル可シ、松ハ矢張内地ノ松ニ異ナルコトナシ、元來尋常ノ松ハ蝦夷中ニハ絶テナシ、六ヶ場処ヨリ以來初テ見ルナリ、箱館中ニハ戸々之レヲ種ウルナリ、之レヨリ弘宗寺ト云ヘ

ル禪寺ニ到ル、築山箱館第一ト云フ、寺モ一番古キ由、又
 浄玄寺ニ行キテ庭前ノ落葉松ヲ見ル、周リ一囲位、高サ五
 六間モアル可シ、葉ハ已黄葉ス、之レヨリ公庁前ヲ過キテ
 小林重吉ノ宅ニ行ク、已ニ午ナリ、佐井渡リノ船アリトテ
 此ノコトヲ官エ届ントテ石川ハ行ケレハ、我ハ尻ヤ岬ノ
 煩台ヲ見ント約シテ午餉シテ別ルルナリ、從來山本ハ痘ニ
 恐レテ一同帰府スル位ノコトナレハ終始旅館ヲ出ルコト
 ナシ○午後小林重吉ヲ出テテ尚ホ山麓ヲ東行シ南部ノ陣
 屋前ヲ過ク、此ノ陣屋ハ方一町半斗ニシテ山ノ下腹ニアリ
 テ望観甚タ奇麗ナリ、本門ヲ正東トス、之レヨリ十丁斗行
 キテ尻沢目村^(尻沢辺カ)アリ、此処海岸ノ一村落ニシテ人家二十軒
 余モアル可シ、此地一平原ニシテ村落中ニ一細流アリ、飲
 料トナス由、清冽ナリ、此岬高サ三十間斗、幅六七間、長
 サ半丁斗ニシテ南方ニ突出ス、之レヲ箱館山東南ノ端鼻ト
 ス、^(沙首)塩首ト相對シテ一大湾ヲ為ス、直線三里斗モアル可シ、
 錢亀沢・湯川村ハ此ノ湾ノ中ナリ、湾底ハ即チ箱館升形外
 ニアル町家ノ裏浜ニシテ森ト云漁場ナリ、此処霜月頃ヨリ

鱒漁多キ由ナリ、此湾ハ東南ヲ受ケテ一湾トモ言フ可キニ
 似タレトモ尻沢月^(ママ)ノ前ヨリ尻ヤ岬^(立待岬カ)迄海底一面ニ岩ニシ碇
 泊ス可カラスト云フ、此ノ尻ヤ岬ノ煩台ニモ古鉄製ノ廿四
 □ノ煩二挺ヲ架ス、炮口正南ニ向フ、且ツ台上高キ故其功
 少ナク其上向キモ湾内ニ向ケハ可ナランカ、此処ヨリ箱館
 山ノ裏手海岸ヲ行ケハ十丁斗ニシテ「オシツケ」ノ台場ト
 云フ、然レトモ陸行ス可カラス、故ニ前路ヲ帰リ三四丁ニ
 シテ左折シ細路ニ入り八ツ頭^(谷地頭)ト云フ地ニ到ル、此八ツ頭ハ
 尻沢目村ノ三丁斗ノ奥ニシテ尻沢目川ノ源ナリ、山根ヨリ
 清水流出ス、此流レニ「サルカン」アリ、即チ「オクリカ
 ンキリ」、之レヲ求ムルニ得スシテ一茶店ヲ憩フ、此店ハ
 料理屋ニシテ箱館市人ノ遊山場ノ由、山麓ノ樹間ニシテ南
 方ニ海面ヲ見テ頗ル佳景ト云フ可シ、其名ヲ知ラス、此ノ
 八ツ頭ヨリ尻沢目迄ハ平原ニシテ方三町斗モアル可シ、東
 北ノ一隅ヲ開墾スル人アリトテ、頻リニ枯草ヲ刈リトリ新
 溝ヲ開キ田・畦・畑ヲ作ルヲ見ル、之レヨリ山麓ヲ沿ヒテ
 終ニ南部陣屋前ニ帰り旅館ニ帰ル、已ニ薄暮、石川モ届濟

已ニ帰館、之レヨリ終宵帰装ヲ營ミ行季(李)ヲ装フ○箱館山
 「オシツケ」煩台ノ脇ニ岩洞アリテ海潮之レニ灌ク由、船
 ニテ入ル由、甚々恐ルヘキ処ト云フ、見ルヲ得ス恨トス

○初六早天、舟已ニ艤ストテ日出前飯ヲ喫ス、旅宿ヲ辞シ
 出シニ雨天トナリ、少シ見合スベシトテ又小林重吉迄帰ル、
 午飯ヲ喫ス、又出帆ト告ク、急々伝馬ニ乗シテ元船ニ乘リ
 シテ暫クシテ又雨アリ、渡ル可カラストテ又重吉ノ宅ニ帰
 リ宿ス、然レトモ山本ハ痘ノ恐レ多シトテ舟ニ宿スルナリ、
 余ハ此ヨリ武田菱三郎ヲ訪ヒ蝦夷談ニ刻ヲ移シ、雨傍(傍)沓中
 ニ小林ニ帰り晩食ヲ喫シ宿ス、終宵雨甚シク暁ニ到リテ雨
 止ム

○初七、夜明テ出尊、辰刻天気出帆ヲ告ケ来ル、俄ニ仕度
 シ辰半刻頃乗船、少シク盪シ出シ風ナシトテ弁天岬ニ繫ク
 ○初七、早天ヨリ船頭来リ、順風故早く渡ル可シトテ来リ
 ケレトモ、石川先生認物有之、且晏起ニテ朝飯モ済サル故

色々トスル中遅クナリテ巳時前船ニ行クナリ、今日ハ重吉
 公用トテ海浜迄来リケレトモ船迄ハ送ラス、手代ヲ代リニ
 送ラルナリ、之レヨリ船ハ槽(漕)キ出シ、送リノ船ハ帰り去リ
 又、只々四五丁斗行キテ風無シトテ又掛リヌ、未刻頃ヨリ
 西風劇クナリ申中刻次第ニ強クナリ、此処ニテハ凌キ難キ
 トテ又元ノ処ニ八帆カケテ帰りヌ、風次第ニ劇シナリ、午
 夜ニ到リテハ梶(舵)オレ繋リ船ナリニ居ルニ其勢堪ヘ難キ者
 ノ如シ、実ニ天下ノ大危嶮ト云フ可シ、午時頃ヨリ大風雪
 トナリ篷窓ヨリ吹入ルル雪片凌キ難ク、殊ニ両三日ノ温暖
 故衣服減シ居リ、寒氣徹骨少シモ眠ルコト能ハス、火桶ヲ
 囲ミテ暁ヲ待ノミ、舟中酔ハサル者ナシ、石川ト予トノミ、
 舟子モ兩人漸ク

○八日、夜明後飯ヲ喫ス、尚ホ此ノ如キノ時化ニテ午後尤
 モ暴ニシテ上陸ス可カラス、薄暮漸ク風少シク緩ニシテ舟
 師モ少シク安シ、茶ヲ煮飯ヲ喫セシム、上陸ヲ促スレ共舟
 子兩人酔フ故伝馬ヲ卸スコト能ハス、已ムヲ得スシテ種々

衣服ヲ出シ舟子ノ皆包ヲ借り舟中ニ臥ス、然レトモ昨夜ノ如クナラス、舟モ余程平穩ニシテ且温暖ナレハ、前日ノ疲レニ半夜斗ハ能ク寐ネタリ、夜曉ニナラントスル時眠リ醒舟師ニ上陸ヲ促スレ共尚ホ能ハス

○九日、日出後ニ他ノ端船ノ水取ヲ借り漸ク上陸スルコトヲ得タリ、雪後ノ泥濘ヲ衝キテ直チニ小林重吉ニ宿リヲ定メタリ、巳時頃朝飯ヲ喫ス、大根汁・皿鯛味噌漬ナリ、結髪シ湯ニ浴シ午飯ヲ喫ス、香料柚油子汁・猪口煮豆・瓜奈良漬ナリ、午後熊ノ皮ヲ買ヒ帰り晚飯ヲ喫ス、平「トド」肉淮南葱・平鱒塩焼・沢庵・酒・淮南水拔糖ヲ入レ、竹輪・香茸ノ下物ナリ、今日ハ終日火焰ニテ上菓子ヲ喫シ名茶ヲ呑ミ、一昨日ノ辛苦ハ洗濯シタルナリ

○十日、昨夜徹宵雪雨降りテ、夜衾杯ハ十分ナレトモ寒氣強内地ノ酷寒ヨリモ甚タシ、曉ニ到ツテハ眠リ難シ、夜明テ後蓐ヲ出ツ、辰牌後飯ヲ喫ス、蕨汁・平淮南薯蕷摺大根

ニテ尤モ妙ナリ、昨日ノ汁杯柚ノ香料甚ダ珍シ、内地ニ帰ル情アリ、昨日船ノ梶モ修理整ヒテ、今日ハ天氣次第ニ乗船ス可シト云ヒ来レトモ、風モ劇シク曇天ニテ迎モ出帆ハ難シ、且ツ舟師モ甚タ愚人故、又青盛船ノ仕度整ヒタルアレハ此方ニ移リテハ如何ト宿主ノ言ヒケレハ、船モ大ニシテ万勝手ヨシトノコト故ニ、ナルコトナレハ其方ニ致ス方宜シカラント、公辺ノ所万端宿主ニ頼ミ置ヌ、程ナク午前ニナリヌ可シ○午餉、平鶏肉・百合・栗・鶏卵・比目魚作身・新漬大根、申時頃始メテ青盛船ノ方約成リテ荷物ヲ積ミ更ント欲スレトモ、今日ハ波濤高ク小船行キ難キトテ約成リタル斗ナリケリ、晚飯ヲ喫ス、平油子薄片少シ油ニ傷ムル者潮煮芹ヲ加フ、皿比目魚酒煮附、味妙(ママ)、已ニ火ヲ点シテ食フ、之レヨリ外史楠氏ノ卷半卷ヲ讀ム、已ニ二更トモ思ハル、今朝ハ半日石川先生ハ諸方ヨリノ囑書ヲ認メラル、只々傍觀スルノミ

○十一日、風尚悪シク、卯下刻出蓐辰上刻朝餉ス、淮南汁・

平蕪菁風呂吹・沢庵、之レヨリ外史半卷ヲ読ミ午飯ヲ喫ス、
 平鯉昆布卷・梅干糖掛・沢庵、午後無聊、饅頭ヲ買ヒ食フ、
 申上刻汁子餅ヲ製シ出ス、味美ナリ、二碗ヲ喫ス、恨ム、
 以前饅頭ヲ食フルコトヲ、今日ハ雨雪ハナク只々風アルノ
 ミ、波高ク端船ニテハ元船ニ行キ難シト云、薄暮ニ到リ風
 静ニナリタリ、明朝ノ風波如何ヲ待而已、晚餐日晩テ食ス、
 平鴨・芹・午房、猪口烏賊塩辛味妙也、鞠ヲ入ルル者ノ如
 シ、中国ニテモ製シテ可ナラン乎、試ミテ可ナリ

○十二日朝、日出^(タカ)ニ葷朝餉ス、昆布汁・平湯淮南番枳摺^(椒)大
 根・沢庵、外史ヲ読ム、条左衛門・藤吉船荷物積換ニ行ク、
 午飯ナリ、菓子・椀羽二重玉子姜・皿章魚桜煮・新漬大根、
 午後条左衛門へ渡シノ辻勘定ヲ為シ各々取換物勘定相済
 メテ後小倉野菓子六夥ヲ出ス、忽チ各一粒ヲ食フ、只赤小
 豆硬クシテ都下ノ品ニ譲ル、糖ハ頗ル美ナリ、山本痘ノ為
 ニ先ツ船ニ乗ント促ス、今日ハ風モ悪シク且ツ船子・妓ヲ
 迎ヘテ離宴ヲ設クルトテ辞ス、已ムヲ得スシテ止マル、今

朝ヨリハ風モ穩カニ折節日光モ見ユレトモ順風ナラズシ
 テ尚ホ滯泊ス、肅然ニ堪ヘサルナリ、此地ノ渡海尤モ難シ、
 容易ナラサルナリ、十日ヤ五日ハ掛ルトシテ大船ノ丈夫ナ
 ル船ヲ待チテ乗ル可キコトヲ第一ノ策ト定ム可シ、必ス粗
 忽ニ急キテ小船ノ古船ニ乗ル可カラス、初メニ約シタル船
 モ今ニ出帆セサルナリ、何レ出帆ハ同時トナル可シ、前後
 ニ拘ラス風ノ順逆ニ寄レハナリ、晚餐平油子潮煮山椒・皿
 比目魚煮付姜・沢庵、外ニ酒・瓜塩漬

○十三日朝少陰、朝餉甘味噌枳汁・平焼淮南芥子・沢庵、
 飯後雪積ルコト寸許、午時マテ止マス、午飯平大根比目
 魚甘煮・皿烏賊酢味噌アヘ・浅漬大根、午後ヨリ雪止ミ又
 大風トナル、今日モ乗船ス可カラス、其期ヲ知ラサル者ノ
 如シ、午前昨日ノ小倉野以前与ヘタル芳野饅頭トニテ茗ヲ
 喫ス、日々ノ馳走我宿ノ粗食ニ較スレハ霄壤ノ隔アリ、然
 レトモ只々寒冷如何トモシ難シ、其上終身此地ニ留ル可キ
 ニモ非ス、渡海シ難キヲ苦シムノミ、薄暮松浦竹四郎石川^(武)

ヲ来訪ス、此人勢州雲津ノ住人、蝦夷地曾テ煉熟人故ニ此度ハ内山源太夫ニ從ヒ雇ヒ同心ニテ從行スル由、西浦ヲ廻リ北蝦夷地ニ到リ曾耶ヨリ(宗倉)「シヤリ」(斜里)東海岸ヲ帰り、今ハツ時箱館着スト云、種々蝦夷ノ話ヲ聞ク、頗ル卓識アル人ノ如シ、其著蝦夷紀行・蝦夷日記・再航蝦夷日記・之航蝦夷日誌・蝦夷土産等アリ、已而帰ル、晚餐菓子・椀ハンペン葱・皿比目魚美煮姜・瓜漬・酒・比目魚作身・摺大根、未刻頃茶菓子春日庭卵饅頭十斗、其宿主ノ勉ムル尤甚タシ、凡テ調理ハ都下ニ劣ラス、中国ノ比ニ非ス、尤モ箱館ノ風俗ハ知ラス、蓋宿主器什ニ到ルマテ奇品ヲ集ムルヲ見ルニ、点茶或ハ煎茶ナラン、之レニ因テ然ルモ知レサルナリ、且又經濟ニ心ヲ用ユルコト世ノ常ニ非ス、年若シト雖トモ中々及フ可キ者ニ非ス○此地ニ魚油ノ紙摺(摺)ナル物ヲ製スル由、其法魚油ノ渣脚ヲ煮、其熱ニ乗シテ之レヲ「センカ」(泉貨)紙ノ袋ニ入レ搾木ニ掛ケ清油ヲ取り其滓ヲ以テ魚蠟ヲ製スト、此ノ如クスルトキハ魚油臭気ナク且ツ凝固セス、夜中滅セスト云フ、案スルニ脂肪多キ油夜冷ノ為ニ凝粘シ之

レカ為ニ消滅スト思ハル、之レニ因テ考フレハ我邦ノ綿実油畢竟脂肪過多故凝固シ冬日用ヲ為ササルコト知ル可シ、故ニ其脂ヲ取り蠟ヲ製スレハ油ハ妙トナリ蠟ヲ取りテ其利ヲ得可シ、聞クニ魚油毛鱗(マコ)マスノ油・鯛ノ油ハ凝固セス、油殊ニ清潔ナリト云フ、之レ蓋シ脂肪ノ少ナキ所以ナラン、兎モ角モ帰國ノ上製シ試ム可シ、故ニ記シ置ク○蝦夷地ニ山漆ト称スル者多シ、葉ハ全ク漆ノ如ク其實到ツテ少ナリ、胡椒(椒)ノ小ナル者ノ如シ、其外皮ニ油氣アリ、之レヲ以テ蠟ヲ制シ試ミント云ヘリ、実ハ外皮白シ、内地ノ漆ノ実トハ大ニ異ナリ如何アランカ、内地ニモ此ノ如キ木アリヤ否ヤ知ラサルナリ

○十四日、風尚悪シク出帆ス可カラス、然レトモ猛ナラス、日出テ起飯ヲ喫ス、平切昆布碎淮南・猪口梅干糖・沢庵、辰下刻雪降風甚シ、午餉ス、摘入汁椀・皿比目魚塩焼、午後雪晴山本漸ク船ニ来ル期ヲ得タリ、然レトモ湯ヲ焼クトテ湯ニ浴シ未刻頃藤吉ヲ連レ乗船ス、斜陽窓ヲ射ル、近況

見サル所也、已ニシテ火ヲ点シ食ヲ喫ス、「アンカウ」汁・
皿油子美煮・沢庵・酒、飯後松浦竹四郎来ル、蝦夷談ヲ聞
ク、初夜頃帰ル、其後同人ノ北蝦夷地ノ上書ヲ写ス用意ヲ
為ス○午後宿主懷炉ノ炭(ママ)シ具ルルナリ、此レハ腐木炭ノ由、
箱館ニテハ日常火口ノ換リニ用キル由、火ノ付クコト甚タ
妙ナリ

○望、晴天トテ乗船ヲ告ケ来ル、朝飯干蕨汁・平淮南松魚・
皿油子煮付・茄子古漬、已刻頃小林ノ小船二艘ニテ武
(神奈川)
州金川竜善丸定八船へ乗ル、表向石数四百五十石、実ハ七
百五十石位積ム由、惣テ当地ハ運上ニ拘ハリ表高半減位ニ
申立ル由、送リ来ル者宿主重吉・手代一人、五人前弁当ニ
飯・章魚・「サツコ」・昆布巻・油子煮付・煮豆・沢庵・瓜
漬・外二菓子二重、午飯後辞シ帰ル、風尚悪シク船ヲ繫ク、
雪降ル、夜殊ニ甚タシ

○十六日、風益悪シク雪甚タシク出帆ス可カラス、薄暮松

浦竹四郎・小林手代来ル、又弁当持参ス、飯五人前・鰯ノ
「ハンペイ」・厚焼一重、直ニ帰ル、夜分晴ル

○十七日、曉天ヨリ風少シク順ナルト碇ヲ揚ケ端船ヲ揚
ケ夜明テ帆ヲ揚ケ行ク、尚ホ雪風ニテ晴レス、然レトモ風
近日ノ如ク甚シカラス、雪モ又少ナシ、天幸ヲ祈ルナリ
○昨日兩度船頭酒ヲ出ス、未時頃知内ノ沖ニ掛ル、爰ニテ
風待ス○午前酒ヲ出シ又初夜頃酒ヲ出ス、夜明ル頃ヨリ出
帆シ山ニ從ツテ行ク

○十八日、日出暮ヲ出ツ、山崖ニ從ツテ船ヲ艇ラス、矢越
ノ崎ヲ廻リ未刻頃福島ノ沖ニ掛ル、初更ニ又酒ヲ出ス

○十九日、丑刻頃出帆シ曉天迄順風ニテ殆ント外南部近ツ
ク到リ、夜明テ風止ミ船進マス、潮ニ從ツテ下流ストテ
種々狼狽シ、又知内ハ帰帆スト甚タ心配ノ体ミュ、サレト
モ天氣清和殊ニ白昼ノ事故、難船スル程ノコトハアルマジ

トテ心ヲ落付居タリシニ、巳時頃ヨリ又々風出テテ午半刻頃終ニ内南部ト津輕平館ノ湾口ニ進ミ、所謂箱館ノ片汐ト称スル大難浪ヲ免レ甘ク午餐ス、先ツ之レニテ無難ニ江府帰着ヲ預メスルナリ、此旅行中「エトロップ」渡リ・両度松前渡リ・箱館渡リ、凡テ四度ノ大風波ナルニ容易ニ渡ルハ実ニ君恩ノ難有キニ非ス乎、其他蝦夷ノ渡海甚々多シ、悉ク容易ニシテ風波穩静ナルハ是全ク君德乎、神護乎、忽ニス可カラス○薄暮平館ノ浦ニ碇泊シテ夜半頃又出帆シテ、徹宵微風ニテ船行遅ク暁天ニ漸ク三里斗行クナリ

○廿日、尚ホ風微ニシテ青森ヲ去ルコト二里斗、之レヨリ槽(漕)キ杯シテ漸ク未晴頃青森ニ達ス、上陸シテ馬繼問屋ニ止宿ス、到テ小屋ナリ、然レトモ先觸万端ノ都合宜シトテ宿スルナリ、此々テ行李ヲ整フルナリ、結髮後已ニ日晚トナルナリ、明朝発足ノ仕度故到ツテ忙ハシ○箱館ノ地勢ハ西北ヨリ東南ニ流レテ市ヲ為ス、西北ノ頭ヲ弁天岬トス、此ノ弁天岬ヲ出帆シテ有川・矢不來ノ浦ヲ廻リ知内沖ニ泊

ス、此処ニ到リテハ箱館山ノ裏ヲ東ニ見、西南ノ端ヲ矢越岬トシ、東南ノ端ヲ塩首(汐首)トス、内地ニ於テハ遙ニ南東ノ端ヲ大畑(大間丸)トシ、南西ノ端ヲ龍飛岬トス、大畑ハ外南部ナリ、龍飛ハ津輕領也、其中間ニ大海門アリ、之レ青森・野辺地等ニ到ル大湾口ナリ、此ノ知内浦ヲ発シ四五里ニシテ福島浦ニ到ル、爰ニ到リテハ西南ノ端ヲ白神岬トス、此ノ白神ト龍飛ト蝦夷ト内地トノ上ノ海門ヲ為ス、塩首ト大畑ト下ノ海門ヲ為ス、此ノ処ヨリ中流ニ艇ルニ從ツテ下流ノ海門ハ大畑ト江山(恵山)トナリ、而テ波濤尤峻急ニシテ渡リ難シト云、之レヨリ青森・野辺地等ニ入ル海門口ノ西岸ニ在ルヲ平館ト云フ、東岸ハ外南部ノ西端ナリ、之レヲ入ルコト一二里ニシテ一大湾ヲ為ス、此ノ処囊口トモ云フ可シ、直經三里ト云フ、平館ニ津輕ノ台場アリ、七門ヲ架ス、之レ西湾ニ沿ヒテ青森ノ湾ニ到ル、之レ大湾中ノ底隅トモ云フ可シ、此地ニモ亦煩台アリ、五門ヲ架ス、馭ノ西端ニアリ、青森ハ東西ノ市井ニシテ戸口三千ト云フ、弘前ヲ除クノ外津輕第一ノ市井ト云フ、頗ル繁花ノ地ナリ、市井將ニ尽ントス

ル処西ノ端ニ善知鳥明神ノ祠アリ、華表ニツアリテ社地ハ
 広シ、然レトモ社ハ到ツテ小ナリ、二間ニ三間斗ノ拜殿ニ
 引続キテ一間ニ九尺斗ノ本社アリ、茅葺ニシテ至極質素ノ
 社ナリ、古地ナル哉、既ニ夜ニ入レハ万事匆々トシテ由來
 モ聞サルナリ○箱館ヨリ知内ヘ七里、福島ヘ五里、平館ヘ
 七里、青森ヘ六里ト云フ、又一説ニ箱館ヨリ矢越岬ヘ七里、
 平館ヘ七里、青森ヘ七里又二十五里ト云ヒ、又青森ニテハ
 三十二里ト云フ、何レ正説ナル哉知ラス、何レニシテ二十
 里余ハアリト思ハル、然レトモ嶮渡ハ平館ヨリ箱館ニ到ル
 ノ間ナリ、其外ハ平坦ノ渡リナリ○渡海船ハ武州金川駅船
 龍善丸定八船ナリ、表向石数四百八十石、内数七百五十石
 ト云フ、箱館大町小林重吉懇意ノ船ニテ終始手船同様ト云
 フ、船中モ種々ニ心ヲ用ヒ至極懇ニシテ毎夜酒杯出シタリ、
 一形ナラス仕打ナリケリ

○念一、青森発足野辺地止宿、行程十里、青森ヨリ野内ヘ
 二里、小漆^(湊)ヘ四里、野辺地ヘ四里、惣テ南部地ハ四十二丁

ヲ一里トスル故ニ二里程甚々遠シ、小漆ハ津輕領分ナルニ四
 里廿丁余アリト云フ○青森ヲ発シ湾中ノ海岸ヲ行ク、此辺
 田畑多ク麦ヲ種ウ、山近シト雖トモ小麓ハ皆田ナリ、野内
 村ニ出ツ、一村落ナリ、津輕ノ番所アリ、行人ヲ改ム、此
 ヲ出テテ海湍ヲ行クコト暫クニシテ又土屋番処アリ、此又
 行人ヲ改ム、之レヨリ一里余ニシテ「アサク」ノ番所アリ、
 麻生ノ邨落アリ、又一里斗ニシテ山口村アリ、此レヨリ一
 里ニシテ午食処小湊ナリ、此ノ山口ト小湊ノ間ノ田間白鳥
 ト称スル大鳥甚々多シ、大サハ鴻ノ三倍位アル由、其形容
 ハ全ク鵝ニ異ナラス、首頸ヲ蛇ノ如ク曲ゲテ餌ヲ食フナリ、
 羽色ハ白色ト灰色トノ二種アリ、雄雌ト言フ、全ク水鳥ニ
 シテ雁ノ如ク秋彼岸ヨリ此地ニ來リ、春ハ帰ルト云フ、此
 ノ地ノ氏神ノ使ハシメトテ此処ニテハ取ルサル由、他地ニ
 テハ食フト云フ、其名ヲ知ラス、識者ヲ待ツ、小湊ヨリ三
 里斗ニシテ「カリバ」^(狩場)沢ノ番所アリ、之レヨリ四五丁ニシ
 テ之レヨリ西北津輕領、東南南部領ト云フ、境柱アリ、之
 レヨリ十丁位ニ馬門ノ番処アリ、之レヲ南部ノ入り口トス、

之レヨリ三十丁斗ニシテ野辺地駅ナリ、惣テ小湊迄ハ同シ
海岸ナレ共人家モ多ク田畑モ甚タ多シ、小湊ヨリ南部領ト
ナリテハ只々茫々タル原野ノミニシテ絶テ田畑ヲ見サル
ナリ○青森八千家モアリテ繁花ナル港ナリ、野辺地ハ年々
人家減シ當時ハ三百軒位ト云フ、其盛衰知ル可シ、南部ノ
政宜シカラサルコト見聞スルニ足レリ、其故曠原無人ノ地
多シ、惜ム可キナリ、且又山モ樹木甚タ少ナシ、津輕領ト
大二異ナリ、此ノ野辺地ニテ外南部ノ道路合スルナリ、此
ノ外南部佐井迄五六十里、厚狭ハ知ラサレ共大抵二三十万
石モアル可シト思ハルニ纔ニ五千石ノ地ト云フ、之レヲ以
テ南部ノ不毛ヲ知ルベシ○野辺地ハ津輕南部ノ大湾ノ底
隅ナリ、此地ヨリ津輕龍飛ヲ内地ノ北岸ト云フテ可ナリ、
外南部ハ又其岬ナリ○今朝寅刻発足、短日故日晚而野辺地
ニ宿ス

○念二、野辺地ヲ発シ五ノ戸止宿、^(五戸)行程九里、然レ共三六
道十二里斗ト云フ、甚タ遠シ○野辺地ヨリ直ニ平山ニ登ル、

未夕夜モ明ケサリケレハ燈ヲ点シテ行クコト半里余、此地
ヨリ初テ南行スルナリ、昨夕ヨリ雪降りケレハ路上大二凍
リ、雪花霏々トシテ寒氣甚シ、一里余ニシテ一村落ヲ得ル、
之レヲ石文村ト云フ、所謂田將軍ノ日本中央ノ字ヲ書シ立
玉フ地ト云フ、当夏ハ捷徑ヲ通りテ壺邨^(坪)ヲ径タリ、冬日ハ
捷徑ノ方道悪クシテ通り難シトナン、又一里斗ニシテ中山
ト云村落アリ、我ハ「フンコン」トカ聞シ、恐クハ該ナラ
ン、之レヨリ又一里斗ニシテ捷徑ト合スル由、此ノ合スル
処ヨリ一里ニシテ七ノ戸^(七戸)宿ナリ、此石文村ヨリ往々低所ニ
ハ田畑アリ、中山ニハ尤モ多シ、七ノ戸近クハ田地半トモ
云フ可シ、然レ共此ノ四里間多クハ平野曠野ニシテ樹木モ
ナク惜ム可キ地ナリ、七ノ戸ヨリ又曠原多ケレトモ折々人
家アリテ田畑往々アルナリ、二里余ニシテ三本木邨アリ、
此処繼立所ニ非ス、農民ナリ、之レヨリ一里半余ニシテ
^(奥入瀬川)
六ノ戸川船渡、大川ナリ、藤島宿繼立処ナリ、之レヨリ少
シニシテ伝方寺宿アリ、此兩宿ハ小駅ニシテ上弦下弦ニテ
繼立ヲ異スル由、元ヨリ止宿処ハナキナリ、之レヨリ一里

ニシテ五ノ戸宿ナリ、此間夜行ニシテ前後知ル可カラザルナリ、初更漸ク宿ニ入ル、路ノ遠キコト知ルベシ、七ノ戸ヲ午餉処トス○野辺地ヨリ七ノ戸迄ノ路甚々悪シク泥濘深キコト尺余、実ニ馬足モ難キ処ナリ、其故通行ノ人々野辺地ヨリ七ノ戸宿リ、七ノ戸ヨリ五ノ戸宿リヲ常トス、中々春秋冬ハ今日ノ如キ通行ハ為スカラサルナリ、此故已ニ今日箱館奉行村垣公モ七ノ戸ヨリ野辺地止宿、目賀田君モ野辺地発足七ノ戸止宿、之レ地利ヲ能ク知ル故ナリ、後人ノ為ニ記シ置クナリ

○念三、五ノ戸駅出立福岡止宿、行程七里半六丁○五ノ戸(浅水)ヨリ麻水(三戸)へ一里半、三ノ戸(金田)へ三里、金田市(マ)へ二里六丁、福岡(マ)へ一里○五ノ戸ヲ発シ平地ヲ行キテ麻水駅十里、之レヨリ直ニ山路ニシテ凡ソ一里余ノ坂路ヲ登ル、甚々峻峻トハ言ヒ難シ、山嶺ニ至リテ休憩アリ、高山嶺ト云フ、前日ノ記ニ詳ナリ、北海ヲ遙ニ望ミテ向フニ外南部ノ山圍擁シテ湾海ヲ為ス、北海ヲ見ル此処ヲ終リトス、之レヨリ頗ル急

ニ下坂シテ又一嶺ニ上リ、之レヲ下リ尽キテ一村落ニ出ツ、下和田村ト云フ、之レヨリ平地ニシテ三ノ戸宿ニ到リ午餉ス、之レヨリ又山路ヲ上リ所謂簀坂ノ風景ナリ、又一嶺ヲ超ユ、日金坂ト云フ、高低上下数遍ニシテ金田宿ニ到ル、此間里程遠シ、之レヨリ一上下シテ平坦路ヲ行クコト一里、福岡ニ宿ス○三ノ戸駅中ノ川ヲ熊原川ト云フ、頗ル大河ナリ、金田市ト福岡ノ間ニ一川アリ、馬別川ト云フ、橋アリ、長サ四十間位、此川廻流シテ簀坂(義ヶ坂)ノ下ニ流ルルナリ○明朝末ノ松山アリ、波打嶺(浪打)ト云フ、此ノ処ヨリ石中貝ヲ挟ミ化石スルヲ出ス、今夜硯石二面ヲ求ム、奇品ナレ共直段高価可恐ナリ、十分ノ一位ニ求メテモ尚ホ高シ、後悔先タス、後人ノ為ニ記シ置ク○金田市ト福岡ノ間ニ堀(堀野)ノ村アリ、武内宿禰ノ社アリト云フ、土人ノ説ニ宿禰此地ニ葬シ玉フト、然ルヤ否乎ヲ知ラス

○念四、福岡出立沼宮内止宿、行程九里○福岡ヨリ一ノ戸(小沢方)へ三里近シ、一ノ戸ヨリ小駅(小繁)へ二里、小ツナキへ二里、中

山へ一里、沼宮内へ三里、此間八里、山路尤遠シ○福岡ヲ
 卯時発足一里余、浪打嶺ニ到リテ已ニ日出也、其来由ハ此
 処山崖ニ浪痕アリテ貝殻土中ニアリ、^(ママ)ヨリ石中ニ貝殻
 ヲ雜ル者ヲ出ス、土人取リテ硯石杯ニ製シ鬻クナリ、所謂
 末ノ松山ト云名ナリト云フ、此嶺小ナレ共頗ル峻ナリ、之
 レヨリ一ノ戸駅ニ着シ飯ヲ命ス、今日此処ヨリ沼宮内迄山
 道八里、尤遠ク且ツ飯食ス可カラス、故ニ朝先飯ヲ喫スル
 ナリ、一ノ戸ヨリ山道ニ入ル、道路泥濘殆ント行歩ス可カ
 ラス、二里ニシテ小沢邨アリ、茶店一軒アリ、干物・淮南
 杯ノ汁ヲ売ル、梨子・柿杯モアリ、弁当ヲ持スル人多ク此
 処ニ食ス、且ツ人馬ヲ此処ニ内分継ヲ為ス、乙名ノ家ニテ
 為ス、甚タ遅シ、催促ス可シ、公辺ノ分ハ継カヌナリ、此
 レヨリ小ツナキ村へ二里、一村落后ナリ、然レ共茶店ナシ、
 官人ノ分ハ此処ニ別ニ宿ヲ命シ食ス、今日ハ目賀田・柳
 原・市川杯数輩混雜故我輩ハ寄ラサルナリ、之レヨリ一里
 ニシテ中山ト云フ邨落アリ、茶店一軒アリ、又此処ニテ人
 馬ヲ継ク、是又内分継ナリ、之レヨリ沼宮内へ三里□、山

路ニシテ泥濘殊ニ深シ、容易ニ行歩ス可カラス、秋冬ハ乾
 クコトナクシテ通路尤難シ、已ニ今日モ中山ヲ出テテ半里
 許ニシテ日没シ、路ハ悪シク夜半頃漸ク沼宮内ニ宿ス、山
 ヲ下リ尽キテ村落ニ出レハ村人松明ヲ持出テテ輿ヲ照シ
 次ノ村落ニ送ル、甚タ大双ノコトナリ、必ス一ノ戸限りニ
 宿スベシ、今日ノ如キ長途ハス可カラサルコトトス

○念五、沼宮内出立盛岡止宿、行程八里○沼宮内ヨリ泷民
 宿へ四里、盛岡へ四里○今曉ハ早く出立シテ駅ヲ出テテ半
 里許、火ヲ点シ一山嶺ヲ越ユル頃漸ク日出トナリ四里ノ山
 路ヲ泷民宿ニ到ル、巳時頃ナリ、此処医家ニ入り午餉ス、
 人馬ヲ継ク、茶店ナシ、今日モ私行ニテハ食スルコト難カ
 ル可シ、之レヨリ四里ニシテ盛岡城下ナリ、今日初テ人界
 へ出ル心地スルナリ、今日午前迄ノ路ト違ヒ、山嶺ハアリ
 ナカラ往々人家モアリ田畑モアルナリ○沼宮内ヨリ一里
 許ニシテ雪浦ノ垂松アリ○重からす千年久しく枝堂れて
 名もいろしろき雪浦の松○嶺ハ数多ケレ共悉ク其名ヲ知

ラス、渋民前後ノ平地ニテハ右ニ岩木山アリ、左ニ突出ス
ルハ美志免嶺ト云フアリ、其他平山ハ惣テ知ラサルナリ
(岩手山)
(姫神山カ)

○念六、盛岡出立花巻止宿、行程十里、盛岡ヨリ郡山へ四里、石守へ二里、花巻へ四里○今日モ晴天、寅上刻宿ヲ出テテ市中十丁斗ニシテ板橋ヲ渡ル、長サ十間斗モアルベシ、之レヨリ又市中ニシテ凡ソ十丁モ行キテ北上川ノ舟橋ヲ渡ル、未タ夜明ケサレハ四望分明ナラス、之レヨリ市外トナリ松樹路ヲ挟ミテ官道甚タ広キ路トナル、郡山迄一山ナク左右モ大ニ開ケテ南部領中ノ大曠野ニシテ殊ニ田畑ノミナリ、今日ハ郡山下町ト云処ニテ繼ク、之レハ郡山宿ヨリハ八丁手前ナリ、之レヨリ郡山ニ到ル、郡山ハ人家モ多キ駅ナリ、茶店モアルナリ、下町ハ人家モ少ナク茶店モナシ、飲食スルコト熊ハス、甚タ困ミタリ、直ニ「石トヤ」(石鳥谷)駅ニ到リ此地ニテ人馬ヲ繼キ、漸ク茶店一軒ヲ求メ飯ヲ喫シタリ、此辺モ平坦地ニシテ路甚タ坦夷ナリ、「石トヤ」宿ニ入ル以前ニ一川ヲ渡ル、川流三流トナル、悉ク小ナル

板橋ヲ架ス、頗ル大川ナリ、其名ヲ失ス、之レヨリ尚ホ坦地元ノ如クニシテ一二ノ村落ヲ過キテ花巻駅宿ス、此駅廢駅ナレ共中間ニ古城アリテ駅中甚タ長シ、殆ント廿丁モアル可シ、入口ニハ足輕体ノ家住多シ、古城ニハ城代モ来リ居ル由○凡テ渋民ヨリ此地迄ハ多分平夷ノ路ニシテ南部家ノ良田ト云フベシ、然レトモ仙台ノ曠野トハ同日ノ論ニ非ス、十ノ一分トモ云フ可シ○盛岡モ大都城ナレトモ万事不自由ニ見ユルナリ、昨夕菓子ヲ買ヒ食ヒシニ羊甘杯頗ル美ナリ、随分奢侈ハ為ル者ノ如シ

○念七、寅上刻花巻駅出立前沢止宿、行程十里四丁、小路七十里ト云フ○花巻ヨ(リ脱)鬼柳へ三リ、是迄南部鬼柳ヨリ八丁、北ニ黒沢ト云フ処アリ、此処間ノ宿ナシ共官人止宿スルナリ、人足ハ鬼柳ヨリ出ルナ、頗ル好キ地ナリ、金ヶ崎へ二里五丁、水沢へ二里五丁、前沢へ二里卅丁、其中金ヶ崎迄小路四十里、前沢迄小道三十里ト云フ、今日ノ行程近カラス、南部領ハ四十八丁ナリ○花巻ヲ発シ一里半斗ニシテ夜

明ケ灯ヲ消ス、黒沢ニ到レハ巳ニ辰上刻ナリ、之レヨリ暫クシテ和川(和賀川)ノ舟渡リアリ、二三丁ニシテ南部ノ番所アリ、即鬼柳駅トス、之レニテ人馬ヲ続換、又暫ク斗ニシテ黒川村ト云フ、仙台ノ番所アリ、之レヨリ金ケ崎(沢)ヘ到リ人馬ヲ繼午餉ス、之レヨリ水沢駅ヲ過キ薄暮前深駅ニ宿ス、今日道路山路ナク大抵平夷ノ路ニシテ、仙台領トナリテハ人家モ多ク、田畑モ大ニ開ケ麦作杯モ大半種エ藺田モ所々ニ多シ、寒暖モ南部領トハ大ニ異アルコト覚フ、婦人モ眉ヲ払ヒテ語言モ少シハ分リ易シ、人界ニ出ル心地ス、道路モ織ルカ如ノ忙シク、来時ノ寂寥ヲ覚ユルト大ニ異ナリ

○念八、前沢出立月立止宿、行程十三里半ト云○前沢駅ヨリ山(山目)ノ目駅ニテ継カス、一ノ関宿ニテ継ク、殆ント四里、上下ニテ継立ヲ異ニスル由、有壁駅二里三丁継、金成へ二里六丁継、沢辺駅へ十八丁継カス、宮野へ一里卅四丁継換、月立へ廿二丁、此間表向ノ里程トハ大ニ異ナリ○寅上刻前沢ヲ発シ一里半斗、未タ夜明ケス、平泉村ニ到リ茶店ニ休

シ曉ヲ待チテ中尊寺ニ到ル、弁慶堂ヲ見ル、弁慶ノ立像アリ、高サ六尺余、甲冑ヲ着シ七ツ道具ヲ負フ、其制到ツテ新シ、近時ノ作ナラン、鐘樓ニ古鏡アリ、之レハ到ツテ古シ、蒼鏽ヲ生シ五六百年前ノ者ナラン、光堂ヲ見ル、之レハ基衡・秀衡・清衡三人ノ魂屋ナリ、其骸骨上ニ金仏数体ヲ安シ屋舎ヲ造営シタル者、之レヲ金粉ヲ以テ屋瓦迄塗りタル故ニ光堂ト名ツクルナリ、其外覆ハ鎌倉ノ惟康百八十年雨露ニ暴シシ後造営スト云フ、況ン乎数百年ヲ経ル故ニ今ハ金箔ハ削ケテ黒色ノミナリ、蕉翁ノ碑アリ、五月雨(マヤマ)ニ打残したるひかり堂ト云句アリ、其外経堂ニ絹紙金泥ノ一切経二部、宋板ノ一切経一部アリ、皆三衡ノ寄附ト云フ、其外蛇ノ牙・水玉杯アレ共取ルニ足ラス、且又古キ負荷ニツアリ、表ハ皆関東彫ニ到ツテ古物ナリ、然レ共甚々大ナリ、一ハ高サ三尺幅三尺奥行二尺位アリ、一ハ高サ幅同前奥行一尺五寸位アリ、強力ト雖トモ容易ニ負フ可キ品トモ見ヘス、怪ム可キ、然レトモ義経奥州落ノ節家臣ノ負荷トハ云フナリ、如何アランカ、此処衣ノ関・衣川判官ノ館

杯種々ノ旧跡アリテ山ノ目駅ニ到ル、之レヨリ一川ヲ渡ル、土橋ナリ、之レヲ北上川ト云フ、長サ一丁位ナリ、直二ノ関駅ニ出テテ人馬ヲ継ク、又平坦ノ道ヲ行キテ有壁ニテ人馬ヲ継ク、之レヨリ金成迄大半山路ナリ、然レモ嶮ナラス蜿蜒タルノミナリ、金成ヨリ又平地ニシテ沢辺駅・宮野宿ヲ経テ月立宿ニ止宿ス

○念九、月立宿出立吉岡止宿、行程十里半ト云フ、月立ヨリ清水へ二里半、^(荒谷)荒屋へ一里廿丁、古川へ一里十三丁、三本木へ一里廿丁、吉岡へ三里廿丁○寅刻月立出立、直ニ山路ニ入り高低蜿蜒一里余ニシテ漸ク夜ノ明クルニ到ル、今朝朗晴朝旭ノ紅霞尤モ花麗ナリ、清水ニ到リ日初テ三竿ナリ、基ヨリ平野又山路ヲ経テ荒屋宿ニ到ル、之レヨリ平野トナリ永川アリ、土橋ニシテ大川ナリ、之レヲ過キ三本木宿ニ到ル、今日ハ此宿ニ宿ス可キ先触ナレ共、道モ近ク日モ高ケレハ吉岡駅迄来ルナリ、三本木以来暴北風強ク行歩シ難ク覺フナリ、吉岡ニ近ツキテハ雪花霏々寒風耐ユ

可カラス覺フ、薄暮漸ク宿ス、三本木アタリハ平地ニシテ所謂仙台領中一目四十万石ト云フ地ナリ、三本木ヨリ又山路トナリテ吉岡ハ一山間ノ荒駅ナリ、昨日宮野宿アタリヨリハ路傍ノ並木松ニ非スシテ、平地ノ分ハ悉皆大楊柳樹ナリ、此節ハ枯葉ニシテ枯木ノミナリ○古川駅ニ午餉ス、三本木ヲ出テテ山路ヲ経テ吉岡半途ニ一茶店アリ、之レニ憩フ、淮南汁ヲ喫ス、又山路ヲ経テ吉岡ニ近ク頃一茅茨ニ憩フ、玉虫ノ糸ヲ続クヲ見ル、聞クニ櫛ノ灰汁ニテ煮テ之レヲ手ニテ引ホツシ次第第二綿ノ如クナシテ糸ニ続クナリ、順序ハナケレ共凡ソ真綿位ノ糸ニハナリタリ、随分織リ用ユ可キ程ニ為スナリ、帰国ノ上試ム可キナリ○玉虫ハ栗ノ虫即チ「ツンツクロウ」ノコトナリ、備忘ニ録ス○今日ハ寒氣甚タシキ故鯽魚ノ作身ヲ為サシメ一杯ヲ傾ク、然レ共酒甘ク作身骨多クシテ食フ可カラス、田舎ノ光景面白シ

○晦、吉岡出立中田止宿、行程八里、吉岡ヨリ新町へ一里十二丁、七喜田へ二里十九丁、仙台へ二里十丁、長町へ一

里、中田へ卅二丁○今朝夜明テ後上程、山路蜿蜒トシテ新町駅ニ到リ人馬ヲ繼、之レヨリ又山路ヲ高低シテ七喜田ニ到リ人馬ヲ繼ク、此処ニテ午餉ス、此レヨリ平地ニシテ一里斗ニシテ終ニ仙台町ノ木口ナリ、町ニ入り一里斗ニシテ国分町、即チ馬駅・旅籠屋ノ多ク有ル処仙台中第一繁花ノ地ナリ、此処東側ニ所謂養賢堂アリ、方二町ト云フ、大ニ学校ナリ、旅人ノ出入ヲ許サス、故ニ行カサルナリ、之レヨリ又一里斗市井ノ端ニ川有、広瀬川ト云フ、土橋ヲ架ス、一町余モアル可シ、之レヲ渡ル、直ニ長町ノ継場ナリ、之レヨリ半里斗行キテ名取川ナリ、大川ナリ、此節ハ官人通行多キ故力大ナル仮橋ヲ二箇所ニ架ス、川幅二丁位ト思ハル、之レヨリ平地少シ斗ニシテ中田宿ニ宿ス、此駅ハ甚タ荒駅ニシテ纔ニ宿ス可キ家兩三家ノミナリ、七ツ頃到着、結髮ス○昨日吉岡ハ雪降風甚タシ、新町以南ハ絶テ雪ナシ、路程能ク乾キタリ

○霜月朔、中田駅出立白石止宿、行程十里半ト云フ、増田

駅卅一丁余、岩沼へ一里卅丁、槻木へ一里廿六丁、「舟ハサマ」へ一里八丁、此地繼立セス、大河原へ一里半、「金ヶ瀬」へ卅丁、葛田宮へ一里十二丁、志呂石へ廿三丁○寅上刻上程、平地ヲ増田ニ到ル、未タ夜明ケス、増田ヲ発シ花町ニ到リ番椒粉ヲ買ント思フニ未タ戸ヲ開カス、之レヨリ半里斗ニシテ漸ク曉ニナル、岩沼ニ到ル、初テ日出也、尚ホ平地ニシテ槻木ニ到リ西北風ヲ衝キテ舟ハサマニ行ク、此間堤ニシテ左方ニ阿武隈川流ル、此地ニハ白鳥甚タ多シ、聞ク、此郡中白鳥ヲ神トス、故ニ取ラスト云フ、之レヨリ山道蜿蜒トシテ大河原ニ到ル、此間「ニラカミ」山・「ハハカリ」ノ^(マ)杯有由、輿丁ニ聞クニ知ラスト云、又平地トナリテ金ヶ瀬ニ到ル、此間大高社アリト云フ、謁セス、之レ白鳥ヲ祭ルト云フ、之レヨリ又山路ヲ行キテ宮川アリ、土橋ヲ架ス、三十間斗ト思フ、暫クシテ宮宿ニ到ル、之レヨリ白鳥明神アリ、是又謁セス、「コステ」^(見捨)川ヲ渡ル、土橋ヲ架ス、二十間斗又暫クシテ白石川ヲ渡ル、此川頗ル大川ナリ、二流トナル、新タニ土橋ヲ設ク、蓋シ官人通行多キ力故ニ

便利ニ為スナラン、之レヨリ纔ニシテ白石駅ニ宿ス、此間平地ナリ○白石駅ハ片倉小十郎知行所ニシテ一都城ナリ、町家半里斗モアリテ頗ル繁花ナリ、仙台以後ノ一都城ト云フベシ○今日槻木以来田畑中多分桑ヲ植エ蚕糸ヲ業トス、白石紙布ノ名物ナリ、色々ノ紙布ヲ求ム、絹系経ニテ紙撚糸ヲ織ルナリ、頗ル奇麗ナリ、其物ヲ見テ知ル可シ

○霜月二日、白石出立福島止宿、行程九里、齊川へ一里十六丁、越河へ一里一六丁、貝田へ十八丁、貝田ヨリ藤田・桑折ヲ継カス三里廿六丁瀬上駅ニテ継ク、之レヨリ福島へ二里八丁、下リノ節ハ瀬ノ上ヨリ越河ニテ継立ヲスル由、四里八丁ナリ、藤田・桑折へ止宿ノ人アルトキハ人馬モ其地ニ止宿スル由○今朝寅刻上程、齊川ニ到リ未タ夜モ明ケス、之レヨリ越河エ超ユ、山路ナリ、田村將軍ノ廟アリ、越河ハ仙台ノ領地ノ端ニシテ仙台ノ番所アリ、之ヨリ貝田ニテ継ク、之レヨリ国見領ヲ超ユ、伊達ノ大木戸アリ、其外義経ノ腰掛松・弁慶ノ硯石杯アリ、之レヨリ藤田・桑折

ヲ経テ瀬ノ上駅ニテ継飯ヲ喫ス、終ニ福島ニ到リ宿ス、小布袋屋ト云○越河迄ハ山路蜿蜒タリ、之レヨリ瀬ノ上迄山路ニシテ之レヨリ平地ナリ、貝田ヨリ桑折迄ハ公領ニシテ瀬ノ上ハ木下石見守領分ナリ、備中足守侯ノ領地ニシテ陣屋モアル由ナレ共見エサルナリ、福島ハ板倉内膳正殿ノ城下ナリ、此辺紬ノ名物ナリ、今夜忒両三步斗ノ品ヲ求メタリ○異聞、天狗ニ獲マレシ児昨夕以来逗留スト云フ、此児武州川越藩用人ヲ務ムル加藤左衛門行年五十
歳斗ト云ト云フ人ノ倅常二郎行年十三歳、七才ノ時近郷一里半斗ノ地ニ諏訪明神アリ、其祭礼ニ行キ天狗ニ獲マレ日光山ニ久シ居リ、其ヨリ出羽ノ秋田へ行キ此節風渡奥州藤田駅ノ檢断奥山多左衛門ニ宿スト云フ○母ハ栗橋在庄屋ノ娘ノ由、叔父ハ古河領子袋村新井瀧之進ト云フテ名主ヲ務ムト云フ由○此児別段奇術モ為サレトモ、人々ノ為ニ患所ニ祝文ヲ唱ヘテ何共分ラヌ事ヲ筆スルニ其効尤多シト云フ、且ツ家根ニ登リ樹上ニ登ル杯尤モ妙一丈位ハ飛上ルト云フ、且ツ無筆ナレ共筆ヲ執リテ筆勢妙ナリト云フ、其他色々ノ奇談怪話ヲ聞

ケ共只々概略スルノミ

○初三、福島出立郡山止宿、行程十一里ト云○根子町^(清水町)へ一里廿五丁、八丁目へ一里十三丁、二本松へ二里、杉田へ一里十丁、本宮へ一里半、高倉へ一里十丁、日和田へ一里一丁、郡山へ一里十二丁○今寅下刻頃上程、十丁斗ニシテ已ニ東方白シ、行クコト五六丁斗ニシテ山路トナル、又二三丁ニシテ頗ル急ナル処アリ、此処馬上ハ免サスト云フ、石路ニシテ暫時ノ羊腸ハ路頗ル悪シ、然レ共元来小山ヲ越ユルナレハ強テノコトニモ非ス、伏拝山ト云フ、此阪ヲ下リテ又山路蜿蜒行クコト暫クニシテ一平地ニ出テテ根子町駅ニ至ル、之レヨリ又纔ニ行キテ若宮町アリ、駅ニ至ル、又山路ヲ高低上下シテ八丁目駅到ル、此駅場ニテ蕎麦ヲ喫ス、卅一丁行キテ二本柳ニ到ル、是又駅ニ非ス、之レヨリ一里五丁二本松駅ナリ、丹羽左京太夫ノ城下ナリ、市井ニ入りテ一嶺ヲ越ユ、頗ル大ナリ、市井中ニ阪路アリハ甚タ珍シ、町長サ屈曲一里斗ト云フ、又城下ノ出口ニ大檀坂ア

リ、急ナレ共小ナリ、郊外ニ出テテ西方ニ二本松嶺^(安達太良嶺)ユ、東方ニ安達原見ユ、大檀坂ノ側ニ一文字石アリト云フ、見サルナリ、之レヨリ杉田駅ニ到ル、尚ホ山路ナリ、之レヨリ本宮ニ到ル、此間モ亦些ノ山越多シ、本宮ヨリ高倉ニ到ル、尚ホ小山多シ、之レヨリ日和田駅ニ到ル、又福原ニ出ヌ、駅ニ非ス、之レヨリ浅香山^(安積山)・浅香沼ヲ見テ郡山ニ宿ス○八丁目少シ前ヨリ丹羽領ニシテ笹川迄ト云フ○二本松ニ午餉ス

初四、郡山出立白川止宿、行程九里ト云、郡山ヨリ十五丁^(小原田)小田原ニテ繼、日出ノ山・笹川等ヲ過キ二里半須賀川ニテ繼、一里半笠石ニテ繼、之レヨリ久来石ヲ過キ矢吹ニテ繼、又新田・大和久ヲ過キテ一里九丁ニシテ踏瀨^(踏瀨)ニテ繼、又大田川^(太田川)・小田川ヲ過キテ一里廿四丁ニシテ根田宿ニテ繼、又一里白川駅ニ宿○今曉寅下刻上程、小原田ニ到リ未タ夜明ケス、之レヨリ日出ノ山ニ到ルノ間ニ夜ハ明ケタリ、少々宛ノ山路ヲ行キ笹川ニ到リ、之レヨリ廿八丁ニシテ途

中ニ憩シ、輿ヲ下リ一里ニシテ須賀川駅ナリ、之レヨリ山路ヲ過キテ笠石駅ニ到リ、終二十三丁ニシテ久来石ノ駅端ノ石川清水名物泥鰯ヲ喫シ保命酒ヲ飲ム、此茶店奥洲中第一ノ憩処ト云フ可シ、之レヨリ輿ニ乘リ矢吹ニ到ル、之レヨリ新田・大和久ヲ経テ踏瀬駅ニ継ギ、又大田川・小田川(中知新田)ヲ経テ根田ニテ継ク、之レヨリ一里城下ニ入り阿武隈川渡リ大ナル土橋ナリ、白川柳屋ニ宿ス○白川駅ハ御同姓播摩(播磨)様ノ御城下ニシテ家数二千軒アリト云フ、旅籠屋モ四十二軒アリテ頗ル繁花ノ地ナリ、二本松ト兄弟トモ云フ可キ乎、娼婦モ甚タ多シ○白川近辺ハ土地甚タ錯雜シテ丹羽領・高田領・水戸ノ御分家棚倉領、種々混雜シテ中々就テ白川領・棚倉領尤モ惡シト云フ、通行中一見スルニ平曠ノ原野茅・薄杯生ヒ茂リタル地白川領ニ尤モ多シ、定メテ薄田ノ地ト云フ可キ乎、其故領地境モ甚タ混雜シタリ、故ニ詳録セサルナリ○宿柳屋ハ脇本陣ニシテ頗ル大屋ナリ、然レトモ娼娼多此地ノ弊風ト云フ可シ、国政ノ宜シカラサコト是(ル脱)ヲ以知ル可キ乎、且ツ娼娼ナクテハ駅費達セサル乎

○初五、白川出立鍋掛止宿、行程八里十丁、白坂へ一里廿八丁、葦野(音野)へ三里十丁、越堀へ三里、鍋掛へ六丁、越堀ニテハ継カス○白川曉天発足、足纒ニ郭ヲ出レハ夜已曝タリ、之レヨリ山路ヲ経テ白坂駅ニ到ル、之レヨリ八丁ニシテ奥・野兩國ノ境アリ、明神トテ両方ニ同シ造リノ社アリ、茶店モアリ、名物トテ豆粉餅ヲ鬻ク、之レ迄奥州ハ白川領、野州ハ黒羽領即チ大関ノ領地ナリ、之レヨリ山路纒ノ溪間中ノ田隴ニテ葦屋宿ニ到ル、即チ那須家葦野民部ノ領地ナリ、山駅ノ荒駅ナリ、之レヨリ越堀ニ到ル、半途ニ富見坂アリ、然レ共浮雲アリテ見ルコト能ハス、一川アリ、土橋アリ、越堀ヲ出ルヤ忽チ川アリ、中川ト云フ、俄ニ溢流スル由、故ニ上リノ人ハ鍋掛ニ宿シ下リノ人ハ越堀ニ宿スル由、此間只々六丁ヲ隔ツルノミ、且ツ登リニハ越堀ニテ継キ下リニハ鍋掛ニテ継ク由、然シ何レニテモ止宿ナレハ其儘継カスシテ行ク由、今日ハ葦野ヨリ直ニ鍋掛ニ到リテ宿ス、葦野宿ニテ午餉ス○葦野モ荒野ナレ共鍋掛ハ素ヨリ荒

駅ニシテ纒二四五軒ノ旅舎アルノミ

○初六、鍋掛出立氏家止宿、行程九里十六丁○大田原へ二里卅丁、(佐久山)作山へ一里半、喜連川へ三里、氏家へ二里四丁○今朝寅刻上程、山路高低シテ半里斗寄り堀ニ到リ初テ平地トナル、之レヨリ(市野沢)一ノ沢・(練貫)「ネリヌキ」・堀来等ノ村落ヲ経テ大田原ニ到ル、大田原ハ那須家ノ一家ニシテ一城下ナリ、飛驒守ト云フ、家並モ頗ル立派ナリ、之レヨリ一里半作山宿ニ到ル、福原内匠ノ陣処ナリ、此地モ亦市井甚々立派ナリ、此ニ午餉シ之レヨリ種々ノ村落ヲ経テ銹川ヲ渡リ喜連川ニ到ル、銹川此節ハ仮橋アリ、喜連川ハ佐兵衛督ノ陣処ナリ、作山ト喜連川トノ半途ヨリ少シ西南ニ福原ノ境木アリ、之レヨリ五六丁隔テ喜連川境ノ柱アリ、此市井ハ福原ニハ及ハサルナリ、喜連川駅ヲ出レハ直ニ荒川アリ、是又仮橋アリ、纒斗行キテ羽五郎坂・弥五郎坂トテ二坂アリ、急坂ニ非サレ共昨日以来ノ大坂ナリ、之レヲ過キテ喜連川ノ境木アリ、又宇都宮ノ境石アリ、此処ニ御代官ノ支

配処モアリ、喜連川以来ハ多ク平原ニシテ田畑ナシ、宇都宮領トナリテ凡半里斗モ過キテ田畑多ク人家モ往々アリテ終ニ氏家宿ニ宿ス、此処モ荒駅ナレ共随分宿ス可キ駅トス○今日ハ始メテ今朝ヨリ宿々ノ送迎休ミテ心能キ旅行トナルナリ、昨日モ送迎ナカリシニ越堀ニテ送迎シタリ、今日ハ更ニナシ、尤モ妙ナリ、明日ハ別シテ愈快ノ旅行ナラン、薄暮宿ニ着シ点火後飯ヲ喫シ湯ニ沐シ、初更後日記シ終リ尊ニ入ル

○初七、氏家出立小金井止宿、行程九里五丁○氏家ヨリ白沢へ一里半、(都脱)宇宮へ二里半、遠雀ノ宮へ二里三丁、石橋へ一里廿丁、小金井へ一里半○今曉寅上刻上程、一里余ニシテ(阿久津)「アクツ」ニテ憩ス、之レヨリ四五丁ニシテ「アクツ」川即チ絹川ノ一支流ヲ渡ル、舟渡シナリ、水勢甚々強シ、之レヨリ中島六七丁行キテ一茶店アリ、三本杉ト云フ、之レニ憩ス、且ツ氏家駅ヲ出テテ少シ斗行キテ少シ小坂ヲ上ル処、右方ニ氏家彈正ノ城墟アリト云フ、其ヨリ十丁斗ニ

シテ「オヒソ」ノ森アリト云フ、夜中通行故詳ニスルコト能ハサルナリ、此ノ絹川ニ到リテ夜全ク明ク、之レヨリ又(西鬼怒川)白沢川ヲ渡ル、此又絹川ノ一支流ニシテ舟渡シナリ、之レヲ渡リ上レハ即チ白沢駅ナリ、之レヨリ並松ノ間ヲ行クコト半里斗ニシテ正面ニ富士山ヲ見ル、右方ニ二荒山諸山、左方ニ筑波山・足尾山・今一山ヲ見ル、此ノ如クシテ平地ヲ行クコト二里半ニシテ宇都宮ニ到ル、之レ余程ノ大駅ニシテ此途中ノ最第一トモ云フ可シ、此地ハ元来宝曆年中迄○長松君ノ御領地故甚以故郷ノ思ヒアルナリ、其上昨夜氏家宿ニテ止宿所塩屋某ナル者ノ話ニ、新居大夫・三好一学杯ノ旧墳ノ世話致シ兼而出入スル由、此者元来福山在ノ出生ニテ已二十四五丁(年九)此地ニ住スル由、宇都宮ヲ去ルコト四里余ニシテ宇都宮ノ旧墳ヲ祭ルト云フ、奇ナル縁ト云フ可キ乎、且ツ妙蹟寺ト云フ寺ニ山本彦左衛門ノ先墳アリテ于今香花ヲ手回クル(向カ)ニ山本ヨリ何ノ音信モナシ、何卒其事ヲ通シ呉レト頼ミケル、先一応ハ甘シ受ケテ出テタリ、一珍事ト云フベシ、三好一学モ在番ナル故ニ伝言アルナリ、席

手故記シ置ク○宇都宮ニテ班鳩鍋(班鳩カ)ニテ午餉シ其ヨリ平坦如砥路ヲ萑ノ宮ニ出ツ、此間八月廿六日ノ大風ニテ路傍松・杉倒ルルコト夥シ、之レヨリ石橋駅ニ出ツ、此駅ハ小駅ナレ共可成ニ止宿ス可キ程ノ宿ナリ、之レヨリ尚ホ里半ニシテ小金井駅ニ宿ス、此駅ハ余程ノ駅ナレ共今夜ノ旅宿ハ粗ニシテ飲食器物甚々悪シ、先ツ此行帰路ノ粗悪ト云フテ可ナリ、明日ノ光景如何アラン乎、只々今日ハ晴天ヲ喜フ、午後只々風甚シキヲ患フノミ、未中刻着ス

○初八、小金井出立幸手止宿、行程十里余ト云フ○芋カラ(芋柄)ヘ廿九丁、小山ヘ一里十一丁、儘田(間々田)ヘ一里廿四丁、野木ヘ二里、古河ヘ廿六丁、中里(中田)ヘ一里半、此間甚々近シト云フ栗橋(上)ヘ一里、只々刀禰川(利根川)ヲ隔ツルノミ、甚々近シ、幸手ヘ二里六丁、此又近ク覚フ○今晚寅上頭上程、芋ガラヘ到ル、尚ホ暗シ、之レヨリ小山駅ニ到リ漸ク卯ノ半刻トナル、此地小山判官ノ古城墟ナリ、石川ハ曾テ知ル地トテ先ニ行ク、山本ト我ト案内者ヲ頼ミ駅ノ東端ヨリ北脊後ニ入り城墟

ニ到ル、方四五丁モアル可シ、皆田隴トナル、乾堀數処アリ、七ツ石ト云フ石アリ、之レ城中ノ庭石ノ由、曾テ他処ニ移シタレハ山ニ帰ルト云フテ終霄泣クト土人ノ口碑ニ残ル由、鎮守八幡社アリ、又稻荷社アリ、其側ニ銀杏樹アリ、大サ數圍ナリ、之レヨリ山下ニアル思ヒ川ナル者、東方ヨリ西方ニ流レテ一ツノ外堀トモ云フ可キ有様ナリ、川幅三四十間モアル可シ、其他土人モ知ラサルナリ、之レヨリ川岸ニ沿ヒテ西行シ二三丁ニシテ南行シ終ニ駅ノ中央ニ出ツ、已ニ日出ニシテ今朝ノ寒氣ニ換リ漸ク身ノ温暖ヲ覺ヘ聯行シテ儘田ニ到ル、之レヨリ一里ニシテ「(友沼)トム」沼ト云フ憩処ニ到リ麦飯・薯嶺汁(薯)ヲ喫ス、此茶店到ツテ清潔ニシテ大樹將軍モ日光御下向ノトキハ爰ニ憩シ玉フト云フ、麦飯ノ名物也、之レヨリ一里ニシテ野木駅ナリ、此処ヨリ輿ニ乗り纒ニシテ下毛・下総ノ境アリ、半里斗ニシテ古河ニ到ル、之レヨリ並松間ヲ中田駅ニ到ル、此処ハ人馬ヲ継カス、刀禰川舟渡シナリ、直ニ中田御関所アリ、(房川・利根川)「ボウ」川ノ御関処トモ云フ、古河持ナリ、此関ハ御切手ハ入ラス、

名乗リテ過クルナリ、之レヲ過クレハ直ニ栗橋アリ、又飯ヲ喫ス、今日ハ此地ニ宿スル先触ナレ共前途遠キ故ニ之レヨリ二里余幸手宿ニ宿ス、此間並松ナリ、一里斗ハ刀禰川ノ川岸ニシテ往々人家アリ、此辺ノ人家八月ノ大風雨ニテ倒ルル家甚タ多シ、後ノ一里ハ田中ニシテ多分(様)ノ木ヲ植ウ、之レヲ薪ニナス由、路傍モ又大半榛ナリ、幸手宿ハ大駅ニシテ市井モ広シ、栗橋ヨリ以來ハ武州也、古河領ハ到ツテ荒廢シテ幸手宿ニ及ハサルコト遠シ、古河ハ八万石ノ城下トハ云ヒ難ク覺フ○刀禰一名坂東太郎川ト云フ、今日ハ晴天ニテ到ツテ暖氣、輿丁ノ話ニ一兩日ハ晴天ナレ共甚タ寒シト、我輩ハ蝦夷地以來ノ暖日ト覺フ、蝦夷ノ地寒冷知ル可キナリ○宇都宮以來八月ノ風雨ノ損シ日々甚タシ、江都ノ大損破元ヨリ知ル可シ、明日ノ路程如何(ママ) ■ン乎、近來ノ天變地妖実ニ歎息ニ余リアリ

○初九、幸手宿出立千住止宿、行程十里、杉戸へ一里半、(春日部)粕壁へ一里半、越谷へ二里廿八丁実ハ三里五丁アリト

云フ、草加へ一里卅丁、千住二里八丁、是又遠シト云フ○今
 暁卯上刻発程、杉戸ニ到ル路傍並樹榛ト楊柳也、早天ヨリ
 往来織ルガ如シ、近況ノ光景ニ非サルナリ、之レヨリ陸行、
 粕壁ニ到リ午餉ス、此地大駅ニシテ売店悉皆江府ニ異ナラ
 ス、之レヨリ又輿ニ乗シ越ケ谷ニ到ル、此駅モ亦大駅益花
 麗ナリ、又草加ニ到ル、草加万事都府ニ異ナラス、此ヲ出
 テテ暫クシテ左方ニ綾瀬川ニ沿ヒテ終ニ千住駅問屋前藤
 屋ト云大旅籠屋ニ宿ス、此家水戸家ノ常宿ノ由ニテ娼婦ナ
 ク極メテ妙ナリ、草加ヨリ雨降り来リ、輿ヲ速メテ未下刻
 ニ漸ク宿ス、明日ハ江戸着故茶碗・作身杯ヲ命シ共ニ一酌
 シ西下刻頃蓐ニ入ル、只恨今宵湯ナシ、浴セスシテ臥ス、
 明朝ヲ期スルナリ○今日ハ路程モ遠ク短日ナレハトテ、条
 左衛門ヲ急カゼ先^(マ)ニ着セシメテ先ツ丸山へ告知スルノ人
 ヲ雇ハシム、飯後丸山行ノ人返事ヲ取り帰ル、明日何人来
 ル乎、定メテ来人アラン

○霜月十日、今暁寅下刻未夕蓐中ニ在ルニ、丸山ヨリ塩瀬

八重蔵及ヒ藤吉親佐七同伴ニテ来ル、之レニヨリテ我輩モ
 蓐ヲ出テ彼是スル中ニ夜モ既ニ明ケタリ、杉純道・渡辺国
 太郎兩人来ル、続キテ井上橋次来リ、八木ヨリ御長屋拝借
 ノ事相済且又蹈込借シ具持参ス、外ニ三田島原侯ノ邸ヨリ
 山本麓ノ家来ト島原ノ藩柳沢千蔵ノ僕ト兩人迎ニ来ル、山
 本麓ハ橋^(次)二郎ノ養父○見総院様之御所也、見総院様ハ君公
 之姉様也、柳沢千蔵ハ石川ノ妻君ノ弟、蛭川ノ次男塩瀬八
 重蔵ハ山本・森戸ノ出入ノ由、蝦夷地モロラン話ノ前田昌
 三郎ハ塩瀬ノ兄ニシテ我輩ニ頻リニ勉メタルハ全ク山本
 ニ勉メタルナラン、早天ナレトモ杉純道来ル故酒肴ヲ出シ
 一酌シ各飯ヲ喫シ、辰時頃藤屋ヲ発シ、久シ振りニ大橋ヲ
 渡リ江戸繁花ニ驚キ、渡辺国太郎・井上橋二郎ニハ輿ヲ纏
 ハセ馬ニ附キ直ニ丸山へ帰ラシメ、山下ヲ越エ御成街道ニ
 出テ筋違ニ向ヒ、其ヨリ本町ニ出テ鎌倉河岸ヲ過キ、具服
 橋ニ到リ茶店ニ入り午餉シテ、正午ニ服ヲ改メ辰ノ口上邸
 ニ着ス、直ニ小^(小柴)此木伴七ヲ訪ヒ着ノ達シヲ頼ム、石川・山
 本ハ直ニ公用方ニ行キ輿勤故御逢モ有シ由、予ハ其後公用

方ニ出テテ石川ト会シテ共ニ廻勤シテ、申下刻邸ヲ発シ薄
暮点灯後ニ番長屋ニ着ス、八木登三郎万事引受世話致シ呉
レ、早速貰ヒ合セノ下物ニテ一酌シ、益之助モ共ニ居リ此
夜ハ八木ヘ止宿シテ、留主ハ益之助・橘ニ兩人也

惣家数四千四百五十二軒 惣人数貳万四千三百九十三人

東蝦夷地場所 二十ヶ所

運上金九千五百六十九両

家数二千三百二十三軒

男五千五百五人

女五千四百十三人

〆一万九千八十八人^(九百十八)

東西場所四十九ヶ処

運上金高二万七百七十両二分

家数四千二百六十一軒

人別男壹万二百四十四人

女九千九百六十一人

〆五万二千四百四十一人^(二五)

箱館町

家数千七百三十九軒

人 九千四百拾九人

内男四千五百六十人

女四千八百五十九人

在邨

家数 千八百二十六軒

人 一万百二十七人^(十七)

内 男五千五百六人

女四千六百十一人

六ヶ場

家 七百四十八軒

人 三千九百六十九人

男二千百四十一人

女千八百二十八人

跋

是故舟里寺地先生安政中奉阿部正弘君命跋涉東西蝦夷探
權太扨捉諸島時之紀行也、先生易簣前數日取稿本遺言參改
写之、參受命以來校務之暇援筆今始卒功以返令嗣焉、因思
此行往返僅百有余日、而所經過之地理人情至氣候物產目所
視耳所聞難至微不至細之事悉記載而無遺、使人如直遊其境接
其事此可以備北海道地誌之考案也、余閱人紀行多矣徒吟歌
其地之勝而不記可記之事、大抵屬虛設假構与先生此行大有
徑庭、且方今文運日進地学大開雖、辺陬僻境入学之童誦北
海地誌者先生此篇為之嚆矢矣、嗚呼此冊雖小乎足以見乎先
生之風裁矣、明治十一年十二月

門人 禾雨平川參拜識

印

東京阿部家資料 文書編(10)

発行日 二〇二〇年(令和二年)二月二十八日

編集

福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課
歴史資料室

福山市霞町一丁目一〇番一号

〒七二〇・〇八一二

☎〇八四・九三二・七二六四

発行

福山市教育委員会

印刷・製本

株式会社小山オフセット印刷所